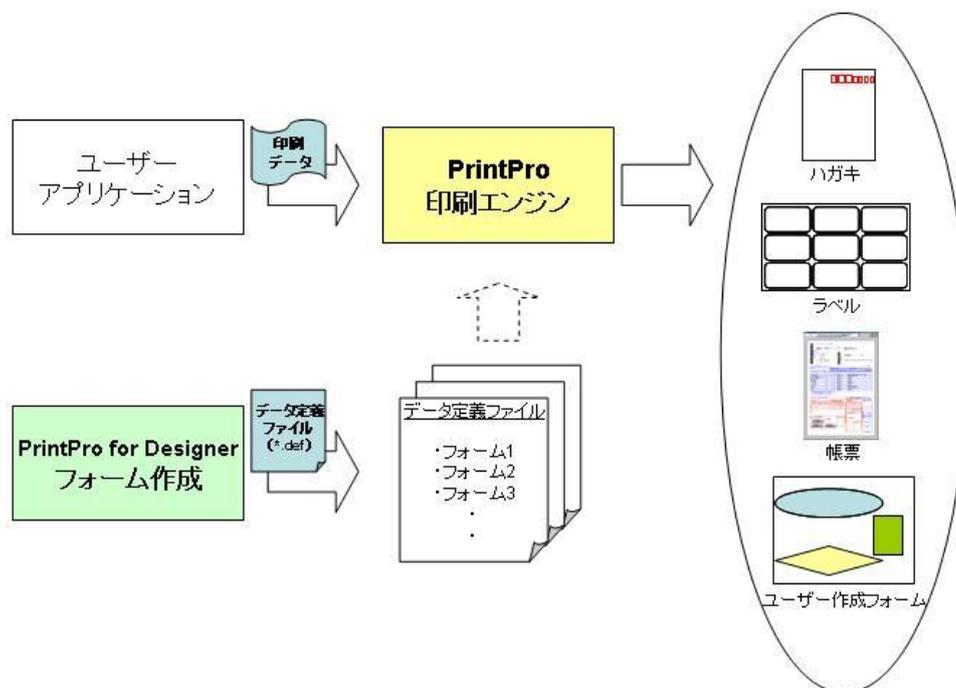


第1章 PrintProの構成

1.1 PrintProの構成

PrintProの構成は、次のようになっています。



PrintProで印刷を行うのに必要な情報は、すべてデータ定義ファイル(ファイル名.def)に保存されています。ユーザーアプリケーションは、PrintPro印刷DLLを呼び出す時に、印刷データ、データ定義ファイル名、フォーム番号を指定します。PrintPro印刷DLLは、指定されたデータ定義ファイルと、フォームデータを読み込み、印刷データをフォームに差し込んで印刷します。

1.2 データ定義

データ定義とは、データファイルからPrintProに渡すデータが、どのような内容か定義したものです。データ定義の最大項目数は500です。

※ Excelアドインをご利用の場合は、255項目、32000行まで使用できます。

項目番号	項目名称	データ型	桁数
1	得意先名	文字	20
2	商品名	文字	20
3	数量	数値	5

1.4 印刷データ形式

印刷データでは、TAB区切り形式、またはCSV形式の文字列データが使用できます。印刷データの文字コードは、「Shift JIS」にのみ対応しています。

例) 項目数4、レコード数2でTAB区切り形式の場合

RecordData1-1 = [1レコード目・データ定義項目1のデータ]
RecordData1-2 = [1レコード目・データ定義項目2のデータ]
RecordData1-3 = [1レコード目・データ定義項目3のデータ]
RecordData1-4 = [1レコード目・データ定義項目4のデータ]

RecordData2-1 = [2レコード目・データ定義項目1のデータ]
RecordData2-2 = [2レコード目・データ定義項目2のデータ]
RecordData2-3 = [2レコード目・データ定義項目3のデータ]
RecordData2-4 = [2レコード目・データ定義項目4のデータ]

TAB = "¥t" //データの区切り
RE = "¥r¥n" //レコードの区切り

[印刷データ] = RecordData1-1 + TAB + RecordData1-2 + TAB + RecordData1-3 + TAB + RecordData1-4 +
TAB + RE + RecordData2-1 + TAB + RecordData2-2 + TAB + RecordData2-3 + TAB + RecordData2-4 +
TAB + RE;

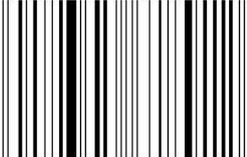
データ定義項目1のデータは、フォーム作成時にデータ定義[項目番号1]を配置した場所に、データ定義項目2のデータは、データ定義項目[項目番号2]を配置した場所に印刷されます。

- ※ 印刷データの文字コードは「Shift JIS」にのみ対応しております。その他の文字コードは使用しないようにしてください。
- ※ 印刷に使用するデータのレコードは、それがデータ内の最後のレコードであっても、必ず改行コードで終わるようにしてください。改行コードには、¥r(0x0d)と¥n(0x0a)の両方が必要です。
- ※ 印刷データは、文字列とします。数値データは、文字列に変換してから使用してください。
- ※ 印刷データには、データとしてTAB(0x09)を含めることはできません。
- ※ NULL(0x00)は、データとして処理できません。

1.5 バーコード

バーコード型に指定されている項目のデータの内容により、下記のバーコードを印刷します。固定のデータにより、バーコードを印刷することもできます。

●1次元バーコード

JAN 13/EAN 13	 0 123456 789012
JAN 8/EAN 8	 0123 4565
NW 7	 *01234567891*
CODE 39	 *012345678*
ITF物流コード(標準)	 012 34567 89012 8
CODE 128	 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
EAN 128	 (01)2345
INTERLEAVED 2 OF 5	 0 1 2 3 4 5 6 5
INDUSTRIAL 2 OF 5	 0 1 2 3 4 5 6 5
郵便カスタマバーコード	
UPC A	 0 12345 67891 2

UPC E	 0 012345 7
-------	---

●2次元コード

QR CODE	
PDF 417	

1.6 イメージデータ

イメージ型に定義されている項目データの内容(イメージファイル名)により、指定されたイメージデータ(ビットマップ、TIFF CCITT G3、TIFF CCITT G4、JPEG、PNG、GIF)を印刷します。

1.7 PrintProの使用するファイル

システムファイル		インストール時に指定したフォルダにコピーされます。
	FMEDIT32.exe	PrintPro for Designer
	DEFPAPER.pro	用紙定義ファイル
	FMIMP.EXE	フォームインポート用コンソールプログラム
	FMCTRL.EXE	データ割り当てテーブルファイル作成、印刷実行時パラメータのデータ定義ファイルへの書き込み用プログラム

DLL		インストール時にWindowsの『SYSTEM』フォルダにコピーされます。
	FORMPR32.dll	印刷DLL
	PRNSUP32.dll	プリンタ設定DLL
	BARPRN32.dll	バーコード印刷DLL
	PDFPRN32.dll	バーコード印刷DLL
	PDFE32.dll	バーコード印刷DLL
	QRPRN32.dll	バーコード印刷DLL
	FORMAD32.dll	ExcelアドインツールDLL
	JBCCPPTA.ocx	PrintPro for Designer ActiveXコントロール
	LTKRN12N.dll	イメージ処理DLL
	LFCMP12n.dll	イメージ処理DLL
	LFFAX12N.dll	イメージ処理DLL
	Lfpng12n.dll	イメージ処理DLL
	LFTIF12N.dll	イメージ処理DLL
	LTDIS12n.dll	イメージ処理DLL
	LTFIL12N.dll	イメージ処理DLL
	LTIMG12N.dll	イメージ処理DLL
	LFBMP12N.dll	イメージ処理DLL
	LFGIF12N.DLL	イメージ処理DLL

フォント		インストール時にWindowsの『FONTS』フォルダにコピーされます。
	JBCCOCR-B.ttf	OCR-Bフォント

データ定義ファイル	*.def	PrintPro for Designer で作成したフォームと、データ定義が保存されています。データ定義ファイルは、どの場所のフォルダにでも保存することができます。
------------------	-------	---

台紙イメージファイル	*.bmp *.jpg *.tif *.png *.gif	イメージファイルは、フォーム作成時に指定したフォルダか、そのイメージファイルを使用するフォームを含むデータ定義ファイルと同一のフォルダ内にならなければいけません。
-------------------	----------------------------------	---

イメージファイル	*.bmp *.jpg *.tif *.png *.gif	イメージ型に定義されている項目データの内容(イメージファイル名)により指定されたフォルダか、データ定義ファイルと同一のフォルダにならなければいけません。
-----------------	----------------------------------	--

データ割り当てテーブルファイル	*.tbl	PrintPro Form Controllによって作成され、印刷に使用するデータと、データ定義ファイルで定義されているデータ項目との割り当てを変更します。データ定義ファイルと同一のフォルダにならなければいけません。
------------------------	-------	--

第2章 基本操作

2. 1 基本操作

2. 1. 1 メニュー

PrintPro for Designer は、下記のメニューで構成されています。これらのメニューを使用して、データ定義の作成や、フォームの作成を行います。

【ファイル(F)]メニュー

ファイル(F)	編集(E)	オブジェクト(O)	レイアウト(L)
データ定義新規作成(N)...			
データ定義を開く(O)...			
Ctrl+O			
データ定義を編集(Q)...			
データ定義 集計指定(T)...			
データ定義に名前を付けて保存(V)...			
ダウンロードファイル作成(W)...			
XML変換テーブル作成(L)...			
フォームを新規作成(C)...			
フォームを開く(H)...			
フォームを上書き保存(S)			
フォームに名前を付けて保存(A)...			
フォームを削除(D)			
フォーム名変更(F)...			
フォーム インポート(B)...			
ページ設定(U)...			
印刷位置微調整(M)...			
テスト印刷(P)...			
フォーム情報出力(R)...			
1 住所練習.def			
2 住所サフ°.def			
3 納品書.def			
4 siire.def			
5 納品サフ°.def			
6 注文書.def			
7 売上明細.def			
8 売上.def			
9 仕入伝票.def			
0 C.*仕入伝票*仕入伝票.def			
終了(X)			

【データ定義新規作成(N)】

新しいデータ定義を作成します。

【データ定義を開く(O)】

データ定義ファイルを開きます。

【データ定義を編集(Q)】

データ定義ファイルを編集します。

【データ定義 集計指定(T)】

《データ定義 集計指定》ダイアログボックスが表示されます。データ定義の集計の指定を行います。(集計指定については、「2. 3. 14 レポート設定」を参照してください。)

【データ定義に名前を付けて保存(V)】

《名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されます。作成/修正中のデータ定義ファイルに名前を付けて保存します。

【ダウンロードファイル作成(W)】

《ダウンロードファイル作成》ダイアログボックスが表示されます。PrintPro for Designerだけをご利用の場合は、使用しません。

【XML変換テーブル作成(L)】

《XML変換テーブル作成》ダイアログボックスが表示されます。PrintPro for Designer だけをご利用の場合は、使用しません。

【フォームを新規作成(C)】

新しいフォームを作成します。

【フォームを開く(H)】

《フォームを開く》ダイアログボックスが表示されます。データ定義ファイル(*.def)に登録されているフォームを読み込み、変更を行います。

《フォームを開く》ダイアログボックス

データ定義ファイル名 住所サンプ.def

フォーム名(N)

コード(C)

フォーム一覧(L)

- 浮賀
- ラベル
- ヤマト航空便
- 特急アロー便
- 丸全昭和運輸(株)

OK

キャンセル

【フォームを上書き保存(S)】

作業中のフォームを、データ定義ファイルに保存します。元のファイルは、上書きされます。

【フォームに名前を付けて保存(A)】

《名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されます。作成/修正中のフォームに名前を付けてデータ定義ファイルに保存します。

【フォームを削除(D)】

編集中のフォームを削除します。

【フォーム名変更(F)】

編集中のフォームのフォーム名、フォームコードを変更します。

【フォームインポート(B)】

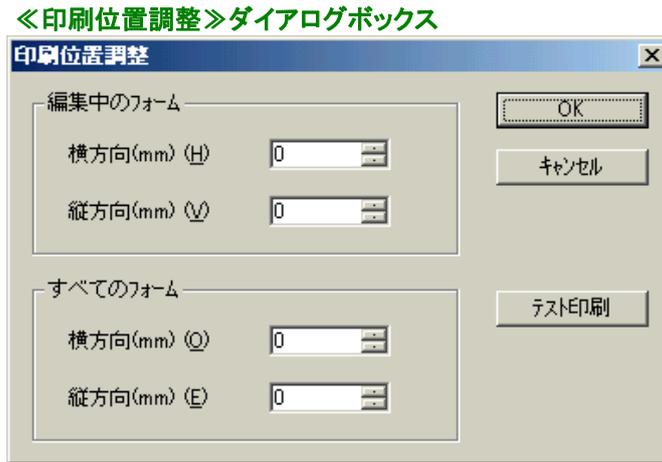
開いているデータ定義ファイルに対して、PrintPro Form Creatorで作成したPPIファイル、もしくは別のデータ定義ファイルのフォーム情報を読み込み、フォームとして追加します。詳細については、「2. 3. 21 フォームインポート」を参照してください。

【ページ設定(U)】

《ページ設定》ダイアログボックスが表示されます。用紙の種類や、原稿に使用するイメージファイルなどの設定を行います。

【印刷位置微調整(M)】

印刷位置の微調整を行います。ご使用のプリンタで調整を行ってください。



【編集中のフォーム】

<横方向(mm) (H)>、<縦方向(mm) (V)>

編集中のフォームの横方向、縦方向の調整値を入力します。正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

【すべてのフォーム】

<横方向(mm) (H)>、<縦方向(mm) (V)>

同じデータ定義ファイルに保存されているすべてのフォームの横方向、縦方向の調整値を入力します。正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

【OK】

調整値を変更して、印刷位置の微調整を終了します。

【キャンセル】

調整値を破棄して、印刷位置の微調整を終了します。

【テスト印刷】

クリックすると、1ページの印刷が行われます。印刷結果により、横方向、縦方向の調整値を入力します。固定項目データは("HHHHH")、明細項目データは("XXXXX")が印刷されます。イメージ型の項目データは、枠のみが印刷されます。

【テスト印刷(P)】

テスト印刷を行います。

【フォーム情報出力(R)】

「フォーム情報出力」ダイアログボックスが表示されます。(「2. 3. 19 フォーム情報出力」を参照してください。)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

最近使ったデータ定義ファイルが、表示されます。クリックすると、そのデータ定義ファイルが開きます。
0から上に向かって順番に最近使ったファイルが表示されます。

【終了(X)】

PrintPro for Designer を終了します。

【編集(E)]メニュー

編集(E)	オブジェクト(B)	レイアウト(L)	表示
元に戻す(U)		Ctrl+Z	
やり直し(R)		Ctrl+Y	
コピー(C)		Ctrl+C	
貼り付け(P)		Ctrl+V	
右方へコピー(T)			
下方へコピー(U)			
削除(D)		Del	
すべて選択(S)			
すべて非選択(E)			
ロック(L)			
すべてをロック(Q)			
ロック解除(R)			
すべてのロックを解除(A)			
水平線を接続する(H)			
垂直線を接続する(V)			
水平 垂直線を接続する(N)			
線接続設定... (I)			

【元に戻す(U)]

手順を1つ前に戻します。

【やり直し(R)]

戻した手順を1つやり直します。

【コピー(C)]

固定文字、ビットマップやJPEG、TIF、PNG、GIFなどのイメージをクリップボードにコピーします。

※ 明細項目、明細範囲、固定項目は、コピーすることはできません。

【貼り付け(P)]

クリップボードのコピーされたテキスト、ビットマップやJPEG、TIF、PNG、GIFなどのイメージをフォームに貼り付けます。

【右方へコピー(T)]

選択されているオブジェクトを、右方向にグリッドで指定されている間隔でコピーします。グリッド間隔よりもオブジェクトの幅が広い時は、幅よりも広いグリッド間隔の整数倍の間隔でコピーされます。

【下方へコピー(U)]

選択されているオブジェクトを、下方向にグリッドで指定されている間隔でコピーします。グリッド間隔よりもオブジェクトの高さが高い時は、幅よりも高いグリッド間隔の整数倍の間隔でコピーされます。

【削除(D)]

選択されているオブジェクトを削除します。

【すべて選択(S)]

すべてのオブジェクトを選択状態にします。

【すべて非選択(E)]

すべてのオブジェクトの選択状態を解除します。

【ロック(L)]

選択されているオブジェクトをロックします。ロックされたオブジェクトの移動、サイズ変更、削除はでき

ません。

【すべてをロック(O)】

すべてのオブジェクトをロックします。

【ロック解除(R)】

選択されているオブジェクトのロックを解除します。

【すべてのロックを解除(A)】

すべてのオブジェクトのロックを解除します。

【水平線を接続する(H)】

選択された水平線(表罫線は除く)を、垂直線、矩形と接続します。

【垂直線を接続する(V)】

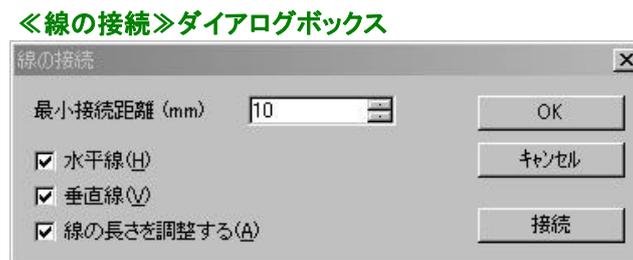
選択された垂直線(表罫線は除く)を、水平線矩形と接続します。

【水平 垂直線を接続する(N)】

選択された水平線、垂直線(表罫線は除く)を、水平線、垂直線、矩形と接続します。

【線接続設定(I)】

《線の接続》ダイアログボックスが表示されます。



<最小接続距離(mm)>

この距離以内にある選択された水平線、垂直線、矩形と接続します。

<水平線(H)>

<接続> ボタンをクリックした際に、水平線の接続を行います。

<垂直線(V)>

<接続> ボタンをクリックした際に、垂直線の接続を行います。

<線の長さを調整する(A)>

線の太さを考慮して接続します。

<OK>

設定の変更を保存をし、ダイアログボックスを閉じます。

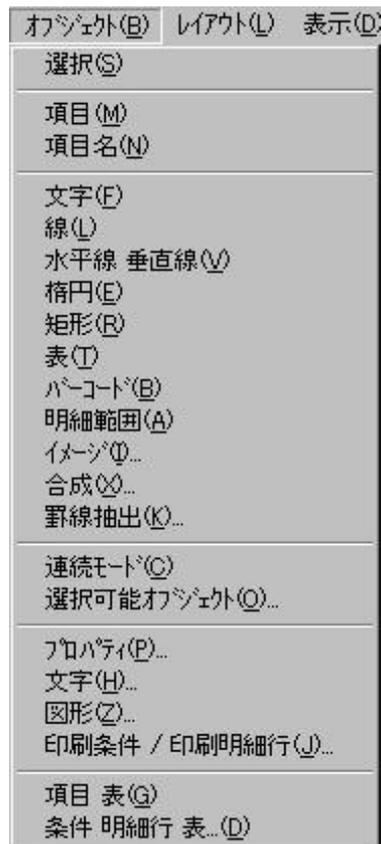
<キャンセル>

設定の変更を保存せず、ダイアログボックスを閉じます。

<接続>

チェックがついている方向の線の接続を行います。

【オブジェクト(B)]メニュー



【選択(S)]

マウスポインタをオブジェクトの選択状態にします。

【項目(M)]

データ定義の項目をフォーム上に配置する場合に、項目として配置します。

【項目名(N)]

データ定義の項目をフォーム上に配置する場合に、項目の名称を固定文字列として配置します。

【文字(F)]

固定文字オブジェクトの作成状態にします。

【線(L)]

線オブジェクトの作成状態にします。

【水平線 垂直線(V)]

水平線/垂直線オブジェクトの作成状態にします。

【楕円(E)]

楕円オブジェクトの作成状態にします。

【矩形(R)]

矩形オブジェクトの作成状態にします。

【表(T)]

表オブジェクトの作成状態にします。

【バーコード(B)】

バーコードオブジェクトの作成状態にします。

【明細範囲(A)】

明細範囲の作成状態にします。

【イメージ(I)】

イメージオブジェクトの作成状態にします。

【合成(X)】

合成オブジェクトの作成状態にします。

【罫線抽出(K)】

《罫線抽出設定》ダイアログボックスで、罫線抽出時の設定を行い、フォームイメージから罫線の抽出を行います。

【連続モード(C)】

オブジェクトの作成を連続的に行う状態にします。

【選択可能オブジェクト(O)】

《選択可能オブジェクト》ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、選択できるオブジェクトを指定します。指定されていないオブジェクトは選択することはできません。

《選択可能オブジェクト》ダイアログボックス



【プロパティ(P)】

選択しているオブジェクトのダイアログボックスを開きます。

【文字(H)】

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトの《文字プロパティ》ダイアログボックスが開きます。

※ オブジェクトを複数選択し、同じ設定に変えることも可能ですが、その場合、表示/印刷される文字列の変更は同時にはできません。

《文字プロパティ》ダイアログボックス

文字オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号: 4 文字列桁数: 20

項目名: 商品名

フィールド型: 文字型

区分: 固定項目 明細番号: 1

文字の切出し(U) 切出し開始桁: 1

文字配置(O)

左詰 中央 右詰 均等 両端揃え

文字サイズ調整

固定ピッチ 桁数: 20

文字間隔(体以外単位): 0.0

行配置(L)

複行印刷

上 中 下 均等 両端揃え

行 間隔(体以外単位): 0.0

禁則処理 ワードラップ 新 で配行する

箇条書き

フォント(F)

名前: MS ゴシック

高さ: 100 ポイント

幅(%): 100

太字 斜体 下線 取消線

縦書き 文字列方向: 0 度

色: [黒色] [色指定]

オプション(O)

漢数字変換: なし

OK キャンセル

【図形(Z)】

選択している図形オブジェクトと、表オブジェクトの《図形プロパティ》ダイアログボックスが開きます。

- ※ オブジェクトを複数選択し、同じ設定に変えることも可能ですが、その場合、共通項目以外の変更は同時にはできません。
- ※ 選択したオブジェクトの中に表オブジェクトがある場合、【塗りつぶし】を設定しても、表の塗りつぶしは行われません。

《図形プロパティ》ダイアログボックス



【印刷条件 / 印刷明細行(J)】

選択しているオブジェクトの《条件/明細行プロパティ》ダイアログボックスが開きます。

※ オブジェクトを複数選択し、同じ設定に変えることも可能ですが、その場合、共通項目以外の変更は同時にはできません。

《条件/明細行プロパティ》ダイアログボックス

条件/明細行プロパティ

条件/明細行

条件

条件 無条件印刷

項目 数値型テスト

判定値 0 (-32768~32767)

条件式

明細行

明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)

OK キャンセル

【項目 表(H)】

《項目オブジェクト》表を表示します。フォーム上に配置されている項目オブジェクトの設定が、表形式で表示されます。修正、追加、削除を行うことができます。

《項目オブジェクト》表

No	項目		型	長さ	区分	明 番号	位置				印刷						
	番号	名称					左	下	幅	高さ	文字	切出し 使	開始	文字配置 配置	固	固定	文字
1	1	タイトル	文字	20	固定項目		46.0	35.7	35.6	4.2	20	<input type="checkbox"/>	0	左詰	<input type="checkbox"/>	20	0.0
2	7	ページ	連番	5	固定項目		150.0	19.7	12.9	4.2	5	<input type="checkbox"/>	0	右詰	<input type="checkbox"/>	5	0.0
3	8	総ページ	連番	5	固定項目		167.9	20.2	18.1	4.2	5	<input type="checkbox"/>	0	左詰	<input type="checkbox"/>	5	0.0
4	2	得意先コード	文字	5	明細項目	1	24.0	63.2	28.0	4.2	5	<input type="checkbox"/>	0	左詰	<input type="checkbox"/>	5	0.0
5	3	売上日	文字	10	明細項目	1	62.5	63.2	21.2	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	左詰	<input type="checkbox"/>	10	0.0
6	4	商品名	文字	20	明細項目	1	92.0	63.2	36.0	4.2	20	<input type="checkbox"/>	0	左詰	<input type="checkbox"/>	20	0.0
7	5	数量	数値	7	明細項目	1	137.0	63.2	14.8	4.2	7	<input type="checkbox"/>	0	右詰	<input type="checkbox"/>	7	0.0
8	6	金額	数値	10	明細項目	1	160.5	63.2	24.5	4.2	10	<input type="checkbox"/>	0	右詰	<input type="checkbox"/>	10	0.0

<追加>

フォーム上に、項目オブジェクトを追加します。<追加>ボタンをクリックすると、1番下の行に項目番号1の項目が追加されますので、それぞれの属性をクリックし、追加したいオブジェクトの設定に変更してください。設定変更後、<閉じる>ボタンをクリックし、変更を反映すると、<位置>で設定されている座標にオブジェクトが配置されます。

<削除>

削除したい項目オブジェクトの行を選択し、<削除>ボタンをクリックすると、表からその項目オブジェクトの情報が削除されます。<閉じる>ボタンをクリックし、変更を反映すると、フォーム上からも削除されます。

<閉じる>

《項目オブジェクト》表を閉じます。

<位置>/<設定>/<数値>/<条件>

情報の表示を、クリックしたボタンに該当するものに変更します。

※ 灰色、黄色になっている個所は、修正することができません。

※ データ定義に存在する項目でも、実際にフォーム上に配置されていない場合、表には表示されません。

【条件 明細行 表(D)】

≪印刷条件/印刷明細行≫表を表示します。フォーム上に配置されているオブジェクトの印刷条件が、表形式で表示されます。印刷条件を変更することができます。

≪印刷条件/印刷明細行≫表

印刷条件 / 印刷明細行										
閉じる										
No	オブジェクト		型	区分	明細 番号	位置		条件	項目	値
	種類	項目名称/...				左	下			
1	項目	タイトル	文字	固定項目		46.0	35.7	無条件印刷		
2	項目	ページ	連番	固定項目		150.0	19.7	無条件印刷		
3	項目	総ページ	連番	固定項目		167.9	20.2	無条件印刷		
4	項目	得意先コード	文字	明細項目	1	24.0	63.2	対象項目の文字列が前し...	[2] 得...	0
5	項目	売上日	文字	明細項目	1	62.5	63.2	対象項目の文字列が前し...	[3] 売...	0
6	項目	商品名	文字	明細項目	1	92.0	63.2	対象項目の文字列が前し...	[4] 商...	0
7	項目	数量	数値	明細項目	1	137.0	63.2	無条件印刷		
8	項目	金額	数値	明細項目	1	160.5	63.2	無条件印刷		
9	固定文字	売上明細書				21.5	23.5	無条件印刷		
10	固定文字	部門				31.5	35.7	無条件印刷		
11	固定文字	得意先コード				25.0	51.2	無条件印刷		
12	固定文字	売上日				65.5	51.2	無条件印刷		
13	固定文字	商品名				102.5	51.2	無条件印刷		
14	固定文字	数量				139.0	51.2	無条件印刷		
15	固定文字	金額				170.0	51.2	無条件印刷		
16	固定文字	小計				114.5	81.1	無条件印刷		
17	固定文字	合計				114.5	94.1	無条件印刷		
18	表枠線				1	20.0	54.5	無条件印刷		
19	表罫線				1	57.5	54.2	無条件印刷		
20	表罫線				1	88.0	54.2	無条件印刷		
21	表罫線				1	130.3	54.2	無条件印刷		
22	表罫線				1	156.0	54.2	無条件印刷		
23	線					163.5	15.5	無条件印刷		
24	線					20.5	65.9	無条件印刷		
25	線					57.5	65.9	無条件印刷		
26	線					156.0	65.7	無条件印刷		
27	線					130.5	65.7	無条件印刷		
28	線					88.5	65.8	無条件印刷		
29	線					189.5	65.7	無条件印刷		
30	線					20.9	55.6	対象項目の文字列が前し...	[2] 得...	0
31	線					57.5	55.6	対象項目の文字列が前し...	[3] 売...	0
32	線					88.5	55.6	対象項目の文字列が前し...	[4] 商...	0

<閉じる>

≪印刷条件/印刷明細行≫表を閉じます。

※ 印刷条件以外の設定を変更することはできません。

【レイアウト(L)]メニュー



【幅を揃える(W)]

選択している複数のオブジェクトの幅を、基準となるオブジェクトの幅に揃えます。

【高さを揃える(H)]

選択している複数のオブジェクトの高さを、基準となるオブジェクトの高さに揃えます。

※ 複行印刷になっていない固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトは、高さを揃えることはできません。

【上端を揃える(T)]

選択している複数のオブジェクトの上端を、基準となるオブジェクトの上端に揃えます。

【左端を揃える(L)]

選択している複数のオブジェクトの左端を、基準となるオブジェクトの左端に揃えます。

【下端を揃える(O)]

選択している複数のオブジェクトの下端を、基準となるオブジェクトの下端に揃えます。

【右端を揃える(R)]

選択している複数のオブジェクトの右端を、基準となるオブジェクトの右端に揃えます。

【前面へ(F)]

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番上に配置します。

【背面へ(B)]

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番下に配置します。

【表示(D)]メニュー

表示(D)	ヘルプ(H)
全体(A)	
横固定(X)	
縦固定(Y)	
50%(1)	
75%(2)	
100%(3)	
125%(4)	
150%(5)	
200%(6)	
400%(7)	
任意サイズ(S)	
任意サイズ設定(E)...	
メインバー(T)	
フォントバー(F)	
文字オブジェクトバー(O)	
オブジェクトバー(Q)	
レイアウトバー(L)	
ステータスバー(S)	
ルーラー(R)	
フォームイメージ(B)	
データ定義(D)	
項目枠線(K)	
高速(H)	
オブジェクト情報(M)	
左下座標表示(Z)	
グリッド表示(G)	
グリッドに位置合わせする(J)	
グリッド設定(O)...	

【全体(A)]

フォーム全体が表示されます。

【横固定(X)]

フォームの横のサイズに合わせて表示されます。

【縦固定(Y)]

フォームの縦のサイズに合わせて表示されます。

【50%(1)]

フォームを50%サイズで表示します。

【75%(2)]

フォームを75%サイズで表示します。

【100%(3)]

フォームを標準サイズで表示します。

【125%(4)]

フォームを125%サイズで表示します。

【150%(5)】

フォームを150%サイズで表示します。

【200%(6)】

フォームを200%サイズで表示します。

【400%(7)】

フォームを400%サイズで表示します。

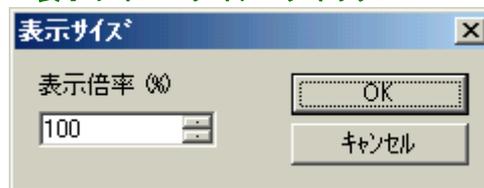
【任意サイズ(8)】

フォームを【任意サイズ設定(E)】で設定したサイズで表示します。

【任意サイズ設定(E)】

《表示サイズ》ダイアログボックスが表示されます。任意サイズ表示の時のサイズを設定します。

《表示サイズ》ダイアログボックス



【メンバー(T)】

メンバーの表示/非表示を切り替えます。

【フォントバー(F)】

フォントバーの表示/非表示を切り替えます。

【文字オブジェクトバー(C)】

文字オブジェクトバーの表示/非表示を切り替えます。

【オブジェクトバー(O)】

オブジェクトバーの表示/非表示を切り替えます。

【レイアウトバー(L)】

レイアウトバーの表示/非表示を切り替えます。

【ステータスバー(S)】

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

【ルーラー(R)】

ルーラーの表示/非表示を切り替えます。

【フォームイメージ(I)】

台紙イメージの表示/非表示を切り替えます。台紙イメージを表示するには、表示中のフォームの【ページ設定(P)】でフォームイメージが指定されていなければいけません。

【データ定義(D)】

《データ定義》ウィンドウの表示/非表示を切り替えます。

【項目枠線(K)】

配置された固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトの枠線の表示/非表示を切り替えます。

【高速(H)】

文字オブジェクトの属性を無視して、高速に表示します。

【オブジェクト情報(M)】

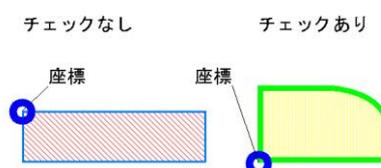
選択されているオブジェクトに対して、マウスのポインタが置かれている時、そのオブジェクトの情報を表示します。



【左下座標表示(Z)】

デフォルトで各オブジェクトは、左上に座標を持ちますが、左下に座標を持つように切り替えます。

左下座標表示

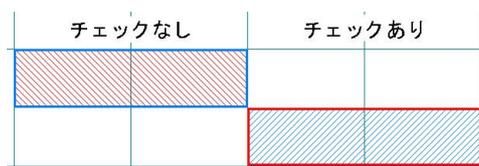


【グリッド表示(G)】

グリッド線の表示/非表示を切り替えます。

【グリッドに位置合わせをする(J)】

オブジェクトを移動する時に、グリッドに一致させる/一致させないを切り替えます。【左下座標表示】にチェックがついていない場合は、グリッドに対して、下から一致します。チェックがついている場合は、グリッドに対して、上から一致します。



【グリッド設定(1)】

≪グリッド設定≫ダイアログボックスが表示されます。グリッドの間隔(横、縦)、グリッドの表示、グリッドの色、グリッドにオブジェクトを位置合わせするかを指定します。

≪グリッド設定≫ダイアログボックス

グリッド設定

横(mm) (H)

0.1 0.5 1 5 10

任意

縦(mm) (V)

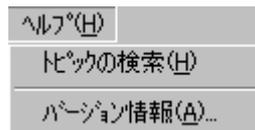
0.1 0.5 1 5 10

任意

グリッド表示(D)

グリッドに位置合わせする(A)

【ヘルプ(H)]メニュー



【トピックの検索(H)]

PrintPro for Designerのユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。

※ ユーザーズマニュアルの表示にはインターネット接続可能環境が必要となります。

【バージョン情報 (A)]

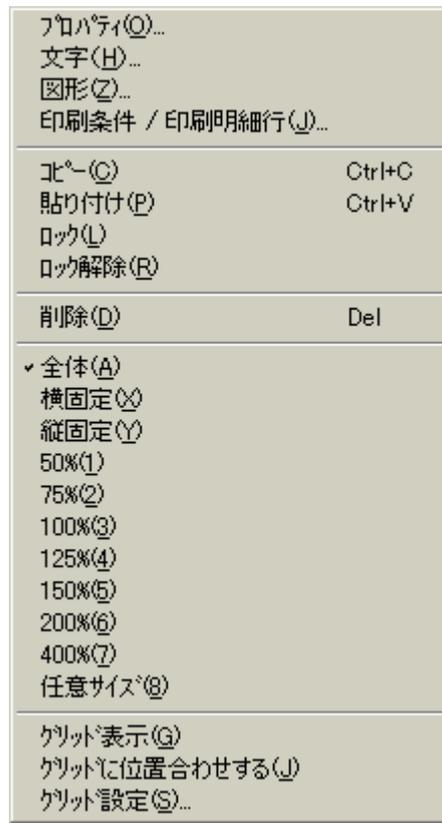
PrintPro for Designer のバージョン情報が書かれた<<バージョン情報>>ダイアログボックスが表示されます。

<<バージョン情報>>ダイアログボックス



右クリックメニュー

フォーム上で右クリックを行うと、下図のようなメニューが表示されます。



【プロパティ(O)】

選択しているオブジェクトのダイアログボックスを表示します。オブジェクトを複数選択している場合は、使用することができません。

【文字(H)】

選択している文字オブジェクト(固定文字オブジェクト、明細項目オブジェクト、固定項目オブジェクト、合成オブジェクト)の、《文字プロパティ》ダイアログボックスを表示します。オブジェクトを複数選択している場合は、共通の部分だけが設定できます。

【図形(Z)】

選択している図形オブジェクト(線オブジェクト、水平線/垂直線オブジェクト、楕円オブジェクト、矩形オブジェクト)の、《図形プロパティ》ダイアログボックスを表示します。オブジェクトを複数選択している場合は、共通の部分だけが設定できます。

【印刷条件 / 印刷明細行(J)】

選択しているオブジェクトの、《条件/明細行プロパティ》ダイアログボックスを表示します。オブジェクトを複数選択している場合は、共通の部分だけが設定できます。

【コピー(C)】

固定文字、ビットマップやJPEG、TIF、PNG、GIFなどのイメージをクリップボードにコピーします。

【貼り付け(P)】

クリップボードのコピーされたテキスト、ビットマップやJPEG、TIF、PNG、GIFなどのイメージをフォームに貼り付けます。

【ロック(L)】

選択されているオブジェクトをロックします。ロックされたオブジェクトの移動、サイズ変更、削除はできません。

【ロック解除(R)】

選択しているオブジェクトのロックを解除します。

【削除(D)】

選択しているオブジェクトを削除します。

【全体(A)】

フォーム全体が表示されます。

【横固定(X)】

フォームの横のサイズに合わせて表示されます。

【縦固定(Y)】

フォームの縦のサイズに合わせて表示されます。

【50%(1)】

フォームを50%サイズで表示します。

【75%(2)】

フォームを75%サイズで表示します。

【100%(3)】

フォームを標準サイズで表示します。

【125%(4)】

フォームを125%サイズで表示します。

【150%(5)】

フォームを150%サイズで表示します。

【200%(6)】

フォームを200%サイズで表示します。

【400%(7)】

フォームを400%サイズで表示します。

【任意サイズ(8)】

フォームを【任意サイズ設定(E)】で設定したサイズで表示します。

【グリッド表示(G)】

グリッド線の表示/非表示を切り替えます。

【グリッドに位置合わせする(J)】

オブジェクトを移動する時に、グリッドに一致させる/一致させないを切り替えます。

【グリッド設定(S)】

《グリッド設定》ダイアログボックスが表示されます。グリッドの間隔(横、縦)、グリッドの表示、グリッドの色、グリッドにオブジェクトを位置合わせするかを指定します。

2. 1. 2 ツールバー

それぞれのツールバーは、【表示(D)】メニューで表示するか、非表示にするかを指定することができます。また、デフォルトでは固定されていますが、マウスでツールバーの一部を掴み、ドラッグすることによって、自由に位置を変えることもできます。

《メイン》バー



①開くボタン

既存のデータ定義ファイルを開きます。

②新規フォームボタン

開いているデータ定義ファイルに、フォームを新規作成して追加します。データ定義ファイルが開いていない場合は、フォームを追加するデータ定義ファイルを選択して開き、新規作成して追加します。

③フォーム名表示コンボボックス

作業中のフォーム番号とフォームの名前([フォーム番号]フォーム名)を表示します。フォームを切り替えることもできます。



④保存ボタン

フォームとデータ定義を、データ定義ファイルに上書き保存します。

⑤テスト印刷ボタン

作成中のフォームをテスト印刷します。

⑥コピーボタン

選択しているオブジェクトを、クリップボードにコピーします。

※ 明細範囲は、コピーすることはできません。

⑦貼り付けボタン

クリップボードにコピーされたデータを貼り付けます。

⑧元に戻すボタン

手順を1つ前に戻します。

⑨やり直しボタン

戻した手順を1つやり直します。

⑩右方にコピーボタン

選択しているオブジェクトを、右方にコピーします。

⑪下方にコピーボタン

選択しているオブジェクトを、下方にコピーします。

⑫ロックボタン

選択しているオブジェクトをロックします。

⑬ズームボタン

クリックするたびに、フォームの表示倍率が切り替わります。右の▼ボタンをクリックし、メニューを開いて、表示倍率を選択することもできます。

⑭フォームイメージの表示/非表示ボタン

フォームイメージの表示/非表示を切り替えます。

⑮グリッドの表示/非表示ボタン

グリッドの表示/非表示を切り替えます。

⑯ヘルプボタン

PrintPro for Designerのユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。

※ ユーザーズマニュアルの表示にはインターネット接続可能環境が必要となります。

《フォント》バー



①フォント名コンボボックス

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォント名を表示、または変更します。

②フォントサイズコンボボックス

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォントのサイズを表示、または変更します。

③フォントボールドボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォントをボールドにする/しないを切り替えます。

④フォントイタリックボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトのフォントをイタリックにする/しないを切り替えます。

⑤フォント下線ボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトに下線を引く/引かないを切り替えます。

⑥フォント取り消し線ボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトに取り消し線を引く/引かないを切り替えます。

⑦縦書きボタン

選択している固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトを縦書きにする/横書きにするを切り替えます。

《オブジェクト》バー



①オブジェクト選択ボタン

オブジェクトを選択します。

②固定文字オブジェクト作成ボタン

固定文字オブジェクトを作成します。

③線オブジェクト作成ボタン

線オブジェクトを作成します。

④水平線/垂直線オブジェクト作成ボタン

水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

⑤楕円オブジェクト作成ボタン

楕円オブジェクトを作成します。

⑥矩形オブジェクト作成ボタン

矩形オブジェクトを作成します。

⑦表オブジェクト作成ボタン

表オブジェクトを作成します。

⑧バーコードオブジェクト作成ボタン

バーコードオブジェクトを作成します。

⑨明細範囲作成ボタン

明細範囲を作成します。

⑩イメージオブジェクト作成ボタン

イメージオブジェクトを作成します。

⑪合成オブジェクト作成ボタン

合成オブジェクトを作成します。

⑫罫線抽出ボタン

フォームイメージの罫線を抽出します。

《レイアウト》バー



①幅を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの幅を、基準となるオブジェクトの幅に揃えます。

②高さを揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの高さを、基準となるオブジェクトの高さに揃えます。

※ 複行印刷になっていない固定文字オブジェクト、項目オブジェクト、合成オブジェクトは、高さを揃えることはできません。

③上端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの上端を、基準となるオブジェクトの上端に揃えます。

④左端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの左端を、基準となるオブジェクトの左端に揃えます。

⑤下端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの下端を、基準となるオブジェクトの下端に揃えます。

⑥右端を揃えるボタン

選択している複数のオブジェクトの右端を、基準となるオブジェクトの右端に揃えます。

⑦重なりを前面に変更ボタン

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番上に配置します。

⑧重なりを背面に変更ボタン

選択されているオブジェクトを、重なり合うオブジェクトの一番下に配置します。

⑨水平線接続ボタン

選択されている複数のオブジェクトの中で、水平の線を垂直の線に接続します。(接続に使用できる線は、水平線、垂直線、矩形の枠線です。)

⑩垂直線接続ボタン

選択されている複数のオブジェクトの中で、垂直の線を垂直の線に接続します。(接続に使用できる線は、水平線、垂直線、矩形の枠線です。)

《文字オブジェクト》バー



①固定文字列(表示/入力)

選択しているオブジェクトに入力されている文字列を表示/入力します。

②左詰めボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で左詰めで表示する/しないを切り替えます。

③中央ボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲の中央を中心に表示する/しないを切り替えます。

④右詰めボタン(文字列)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で右詰めで表示する/しないを切り替えます。

⑤均等ボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で均等に表示する/しないを切り替えます。

⑥両端揃えボタン(文字列方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で両端揃えで表示する/しないを切り替えます。

⑦固定ピッチボタン

選択しているオブジェクトの枠内に、枠の幅を<桁数>で指定されている文字列桁数で分割した位置に、文字列を1文字ずつ配置する/しないを切り替えます。

⑧複行指定ボタン

選択しているオブジェクトの複行表示する/しないを切り替えます。

⑨上詰めボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で上詰めで表示する/しないを切り替えます。

⑩中央ボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲の中央を中心に表示する/しないを切り替えます。

⑪下詰めボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で下詰めで表示する/しないを切り替えます。

⑫均等ボタン(複行方向)

選択している複行表示のオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で均等に表示する/しないを切り替えます。

⑬両端揃えボタン(複行方向)

選択しているオブジェクトの文字列を、オブジェクトの範囲で両端揃えで表示する/しないを切り替えます。

《ステータス》バー



①説明表示

選択しているメニューの説明を表示します。

②マウスポインタ座標

マウスポインタの座標を表示します。

③オブジェクト種類、座標、大きさ

選択しているオブジェクトの種類、座標、大きさを表示します。

④表示倍率

フォームの現在の表示倍率を表示します。

⑤CAP

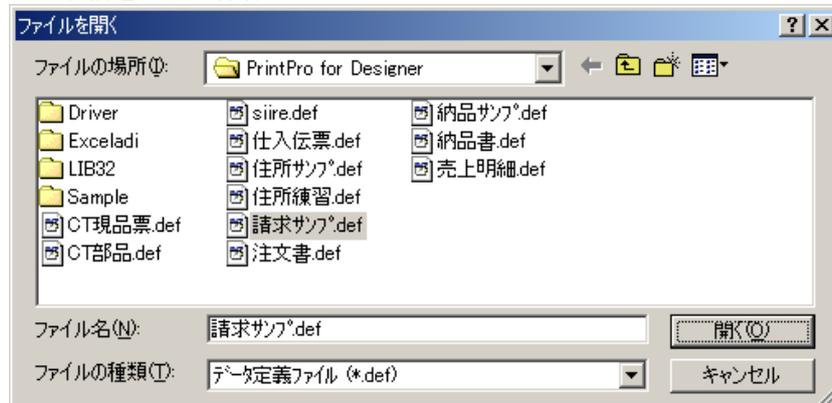
CAPS LOCKが押されていると表示されます。

⑥NUM

NUMが押されていると表示されます。

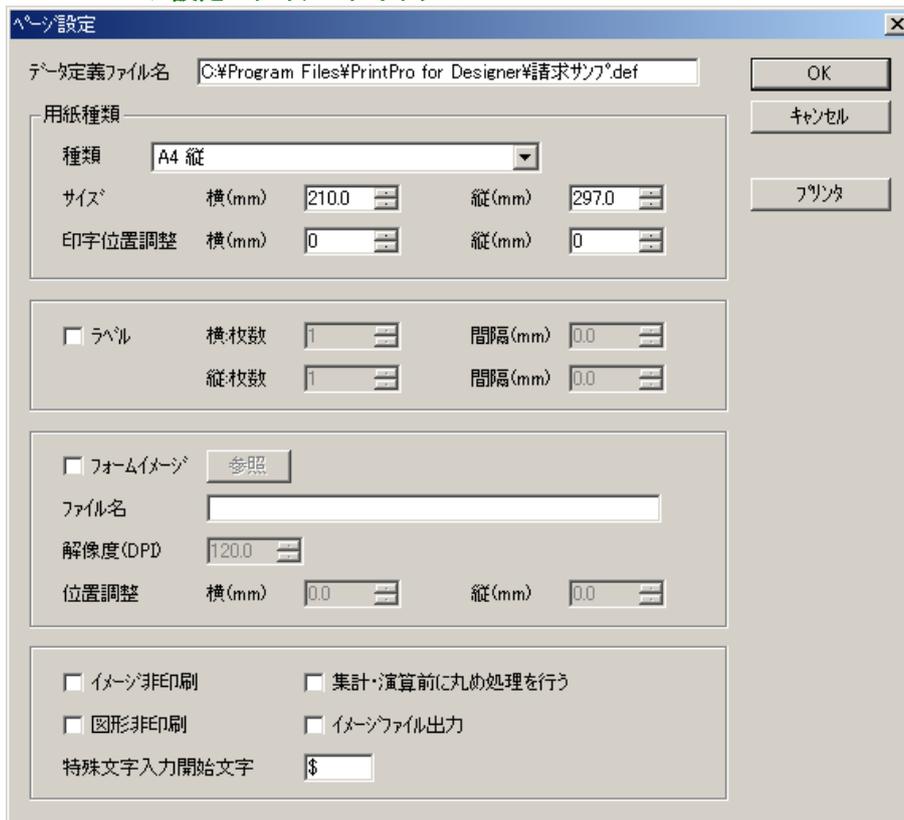
- ④「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、【ファイル名(N)】にファイル名を入力し、【保存(S)】をクリックすると、データ定義ファイルが作成されます。

「名前を付けて保存」ダイアログボックス



- ⑤「ページ設定」ダイアログボックスが開き、フォームのページ設定状態になります。

「ページ設定」ダイアログボックス



2. 2. 2 データ定義ダイアログボックスの操作

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字/演算式
1	発行年	数値	2	
2	発行月	数値	2	
3	発行日	数値	2	
4	支店名	文字	30	
5	〒	郵便番号	10	
6	住所1	文字	30	
7	住所2	文字	30	
8	住所3	文字	30	
9	TEL	電話番号	15	
10	FAX	電話番号	15	
11	バーコード左	バーコード	10	
12	バーコード右	バーコード	5	
13	お客様〒	郵便番号	10	
14	お客様住所1	文字	30	
15	お客様住所2	文字	30	
16	お客様住所3	文字	30	
17	お客様名	文字	30	
18	カスタマーバーコード	バーコード	50	
19	ご請求年	文字	2	
20	ご請求月	文字	2	
21	お支払年	文字	2	
22	お支払月	文字	2	
23	お支払日	文字	2	
24	ご請求の内訳	文字	20	
25	数量	数値	10	
26	単価	数値	10	
27	金額	数値	10	
28	モジュール	文字	20	

【項目名称(N)】

項目の名称を表示、または名称の入力を行います。項目名称は、20桁以内とします。(全角文字は2桁、半角文字は1桁になります。)

【データ型(D)】

項目のデータ型を表示します。また、データ型を選択します。PrintPro for Designer では、印刷データファイルから受け取る印刷データは、すべて文字列として受け取ります。受け取った印刷データは、指定された型により加工が行われ、表示/印刷されます。数値型では、データを一度数値に変換してから必要な計算を行います。各型は、次のような意味を持ちます。

●文字型

データをそのまま表示/印刷します。

●数値型

データを数値として表示/印刷します。

- ※ 整数値のみを扱う場合、有効桁は15桁です。
- ※ 小数値を扱う場合、有効桁は整数部、小数部の両方を合わせて10桁です。
有効桁を超える数値は保障できません。ご注意ください。
例) 小数第三位まである値を扱うと、整数部には7桁まで使用することができます。
- ※ 数値のデータを必ず渡すようにしてください。文字、文字列、または空白がデータとして渡された場合、正常に動作しません。
- ※ データを表示/印刷する時に、全桁(先頭のマークを除く)印刷できない時には、項目オブジェクトに、その項目オブジェクトに指定されている桁数の『#』が表示/印刷されます。また、演算エラーが発生した時には、『*』が表示/印刷されます。

●日付型

データを日付けデータとして扱います。データを年、月、日に分解し、それぞれを指定された位置に表示/印刷します。データは、次のように分解されます。

13/11/9	⇒	13 11 9
13年11月9日	⇒	13 11 9

●郵便番号型

データを郵便番号データとして扱います。データを各桁に分解し、それぞれを指定された位置に表示/印刷します。

●電話番号型

データを電話番号データとして扱います。データを、市街局番、局番、番号に分解し、それぞれを指定された位置に表示/印刷します。データは、次のように分解されます。

045-543-9999	⇒	045 543 9999
045(543)9999	⇒	045 543 9999

●集計型

指定された項目のデータを集計(合計を計算)して表示/印刷します。集計を行う項目は、数値型か演算型、時間型でなければいけません。【テキスト固定文字・演算式(T)】に、次のように集計を行う項目を記述します。

例)項目番号3を集計する時 ⇒ 『[3]』と記述

テキスト固定文字・演算式(T) [3]

※ 集計は、その同一フォーム内での合計です。

先頭ページや、最終ページに総計を表示/印刷することもできます。

例)項目番号10を総計する時 ⇒ 『[10]総計』と記述

テキスト固定文字・演算式(T) [10]総計

例)項目番号10を集計4で改ページが行われるまでを総計する時

⇒ 『[10]総計4』と記述

(総計4は、<集計機能を使用する>場合に利用可能です。)

※ 集計4フッターに「後改ページ」が指定されていない場合、総計4が正しく計算されない場合があります。

条件付集計指定

集計型の【テキスト固定文字・演算式(T)】に集計を行う条件を指定します。条件判断の結果が真、または条件指定が無い場合に集計を行います。『:』以降に条件判断の式を指定してください。(条件指定を行わない場合、『:』および『:』以降の部分も記述しないでください。)

※ 条件判断の記述内容は、「2. 3. 8 印刷条件を指定する」の【条件式】の印刷条件と同様です。

例) [5]:[17]<20

17番目の項目の内容が20未満の場合の5番目の項目の内容を集計に使用します。

: [17]<20

17番目の項目の内容が20未満の場合に1を集計に加算していきます。

[5]総計:[17]<20	17番目の項目の内容が20未満の場合の5番目の項目の内容を総計に使用します。
総計:[17]<20	17番目の項目の内容が20未満の場合に1を総計に加算していきます。
[5]	5番目の項目を集計します。

※ 集計型の項目は明細行に印刷することはできません。

印刷条件を指定することにより、総計を先頭ページに印刷するか、最終ページに印刷するかを指定できます。(印刷条件の指定については、「2. 3. 8 印刷条件を指定する」を参照してください。)

※ 総計は、使用するフォームが複数ある場合(2ページ目を異なるフォームで印刷する場合)の、その複数のページの合計です。

●演算型

指定された項目、数値の演算を行い表示/印刷します。演算に項目を指定する場合、項目は、数値型、演算型、集計型でなければいけません。演算子は+(加算)、-(減算)、*(乗算)、/(除算)が使用できます。式には、次のように記述し、演算式を指定します。

例) 項目番号2と項目番号5の演算をする時 ⇒ [2] + [5]
 項目番号8と数値の演算をする時 ⇒ [8] * 1.05

集計行演算機能

「集計機能を使用する」場合の集計行で、集計値に対して演算を行い、印刷します。この指定がない場合、集計行では、明細での演算結果の合計が印刷されます。

例) 演算式の最後に『:集』を付けると、集計行演算になる。

[12]/[13]:集

- ※ 整数値のみを扱う場合、有効桁は15桁です。
- ※ 小数値を扱う場合、有効桁は整数部、小数部の両方を合わせて10桁です。
 有効桁を超える数値は保障できません。ご注意ください。
 例) 小数第三位まである値を扱うと、整数部には7桁まで使用することができます。
- ※ 数値のデータを必ず渡すようにしてください。文字、文字列、または空白がデータとして渡された場合、正常に動作しません。
- ※ 演算型の項目を式に含める場合、その演算項目の計算が終了している必要があります。演算はデータ定義の項目番号の小さい方から実行されます。

●イメージ型

データにより指定されたイメージデータを表示/印刷します。

●バーコード型

データを、フォーム作成時に指定したバーコードで表示/印刷します。

●部数型

データを、そのページの印刷部数として使用します。ラベル帳票の場合は、ラベルの印刷部数として使用します。

- ※ 明細項目としては使用できません。
- ※ データ定義に部数型の項目がある場合、部数指定は無効です。
- ※ 複写紙モードとの併用できません。併用されないようご注意ください。
- ※ 部数型は、1つのフォームに対し、1つのみ作成してください。

●連番型

連番型項目で受け取った数値データを連番の開始番号として、連番を印刷します。また、数値データが指定されていない場合は、初期値として1が与えられ、一部毎に1ずつカウントが増加します。一部とは、部数型で指定された複写を指します。そのため、部数型が適切に使用されていない場合、使用することができません。なお、改ページ条件が成立した場合の最初のページでは、そのページの先頭レコードの連番型項目で受け取った数値データが連番印刷の開始番号となります。

※ 明細項目としては使用することができません。

※ 以降で説明する予約語が指定されていない場合は、複数の項目定義はできません。

増減値の指定について

ラベルの設定がされている場合にのみ、連番型として出力される値に対して、通常は1ずつ増加していきますが、増減値を指定することもできます。増減値を指定する場合、【テキスト固定文字・演算式(T)】に“P[増減させたい値]”の形式で記述します。増減値は、±42900000000の範囲内で指定可能です。

※ ラベルの設定がされていない場合、使用することはできません。

例) 初期値1に4ずつ値を増やしたものを3枚印刷する

⇒ 『P4』と記述

テキスト固定文字・演算式(T) P4

初期値=1

部数 =3

増減値=4

⇒

1	+4	5	+4	9
---	----	---	----	---

結果は、1から始まり、値を4増やしていったものを全部で3部印刷します。

以下の予約語を使用することで、ページ番号、総ページ数を表示/印刷することもできます。【テキスト固定文字・演算式(T)】から、それぞれ次のように選択します。

例) ページ番号 ⇒ 『ページ』を選択

印刷開始ページから1ページ毎に1カウント増えます。

テキスト固定文字・演算式(T) ページ

例) 総ページ ⇒ 『総ページ』を選択

指定データをすべて印刷した場合の総ページ数をカウントして印刷します。

テキスト固定文字・演算式(T) 総ページ

例) 総ページ4 ⇒ 『総ページ4』を選択

＜集計機能を使用する＞時に使用します。集計4で改ページが行われるまでの総ページ数を印刷します。

※ 集計4フッターに「後改ページ」が指定されていない場合、総ページ4が正しく計算されない場合があります。

※ 集計5フッターを使用する場合、集計4フッターと集計5フッターが同一ページに印刷されないと、総ページ4が正しく計算されません。「フッターを明細と同一ページに印刷する」を指定してください。

※ 集計4以上のヘッダー(集計5ヘッダー、総計ヘッダー)の指定がある場合で、これらが同一ページに印刷されない場合、総ページ4が正しく計算されません。

例) ページ0 ⇒ 『ページ0』を選択

＜集計機能を使用しない＞時に使用します。1ページ毎に1カウント増えます。改ページ指定(KeyBreak)により、改ページが行われるとカウントが1に戻ります。

テキスト固定文字・演算式(T)

例) ページn ⇒ 『ページn』を選択

＜集計機能を使用する＞時に使用します。1ページ毎に1カウント増えます。集計nのフッターによる後改ページが行われると、ページnのカウントが1に戻ります。

テキスト固定文字・演算式(T)

●時間型

データを時間データとして扱います。データを『時:分』の形で指定された位置に表示/印刷します。データの中に『:』が含まれない時は、データを『分』として扱います。

16:44 ⇒ 16:44
1644 ⇒ 27:24

●固定型

【テキスト固定文字・演算式(T)】で、指定された文字列を印刷します。指定された文字列は、データ定義内の各フォームで使用することができます。

※ データファイルから受け取るデータは無視されます。

【桁数(C)】

項目オブジェクトをフォームに配置する際に目安となる、項目オブジェクトの大きさを表示/入力します。印刷は、配置した個々のオブジェクトの文字列桁数で行われます。

※ 桁数が『0』の場合、15桁の時の大きさでオブジェクトがフォームに配置されます。

【テキスト固定文字・演算式(T)】

データ型が集計型の時には、集計項目を指定します。また、データ型が演算型の時には、演算式を入力します。データ型が固定型の時には、表示したい文字列を入力します。

※ 【テキスト固定文字・演算式(T)】に、演算子(カッコなども含む)を入力する時は、半角で入力してください。

【項目一覧】

作成/変更中のデータ定義に登録されている項目の一覧を表示します。また、この一覧から、変更を行いたい項目の行をクリックして選択することにより、変更を行う項目を指定することができます。番号は、PrintPro for Designer が印刷データファイルから受け取るデータの順番に対応します。

【OK】

設定を変更して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定の変更をせずに、ダイアログボックスを閉じます。

【挿入】

選択されている項目の前に、新しい項目を挿入します。【項目名称(N)】には、『<<挿入>>』と、記述されています。項目は、印刷データの順番と対応しているため、挿入を行った場合には、印刷データに挿入した項目に対応するデータ項目を追加する必要があります。

【クリア】

選択されている項目の設定をクリアします。

【削除】

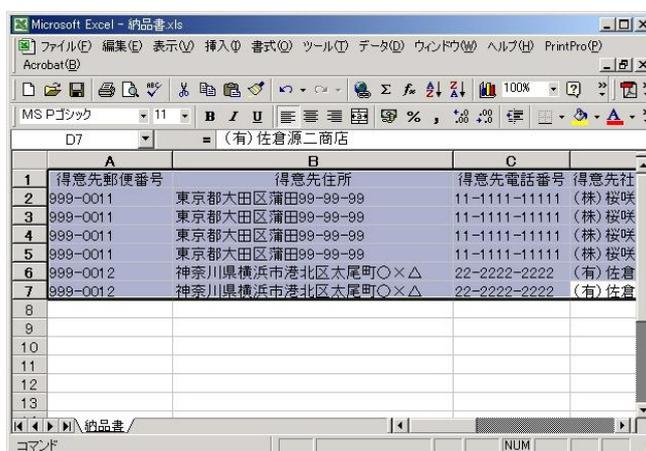
選択されている項目を削除します。項目は、データの順番と対応しているため、削除を行った場合には、印刷データの削除する項目に対応するデータ項目も削除する必要があります。

2. 2. 3 Excelのデータからデータ定義の作成

Microsoft Excelのワークシートから、その項目名称、データの最大桁数を取得して、データ定義ファイルを作成することができます。

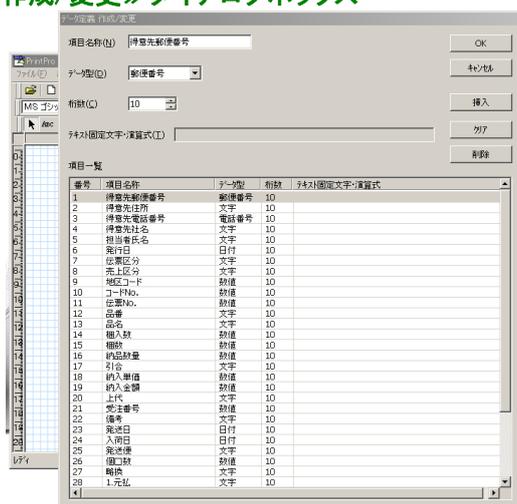
- ①Microsoft ExcelのPrintProで使用するデータ範囲を反転表示し、【編集(E)】メニューの【コピー(C)】により、クリップボードにデータをコピーします。

- ※ データ範囲の1行目は、項目のタイトルでなければいけません。
- ※ レコードの行は32000行までです。
- ※ レコードの総文字数は32000行までです。
- ※ Excelアドインをご利用の場合は、255項目、32000行まで使用できます。



- ②Excelの【PrintPro(P)】メニューの【新規作成(D)】を選択すると、PrintPro for Designer が起動し、その上に「データ定義 作成/変更」ダイアログボックスが表示されます。

「データ定義 作成/変更」ダイアログボックス



- ③データ範囲1行目の各項目が【項目名称(N)】として登録されます。また、データ範囲2行目から最後の行までのデータのうち、1番桁数の大きいものが、その項目の【桁数(C)】として登録されます。この桁数は、あくまでも現在入力されているデータの最大桁数なので、この桁数よりも長いデータが入力される可能性がある場合には、あらかじめ桁数を大きくしておきます。【データ型(D)】、【テキスト固定文字・演算式(T)】を指定する必要がある場合は、指定してから【OK】をクリックします。

-
- ④「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、【ファイル名(N)】にファイル名を入力し、【保存(S)】をクリックすると、データ定義ファイルが作成されます。

「名前を付けて保存」ダイアログボックス



- ⑤「ページ設定」ダイアログボックスが開き、フォームのページ設定状態になります。

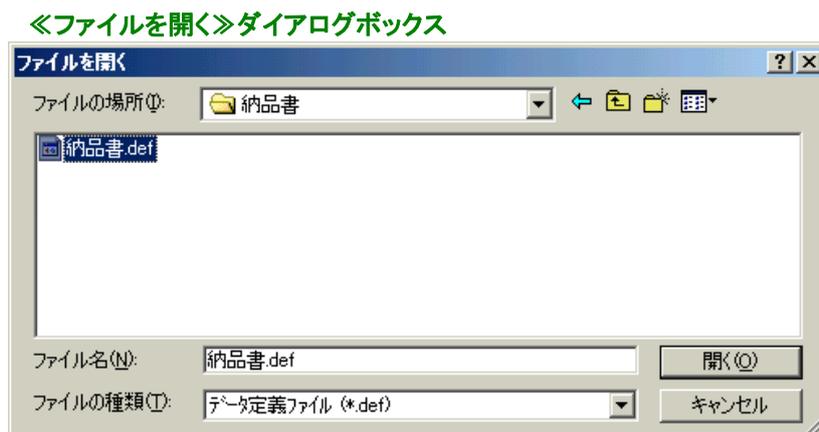
2. 2. 4 データ定義の変更

データ定義ファイルの変更は、PrintPro for Designer で行います。

- ①PrintPro for Designer を起動します。
- ②【ファイル(F)]メニューの【データ定義を開く(O)]を選択します。



- ③「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。変更を行うデータ定義ファイルを選択し、【開く(O)]をクリックして、データ定義ファイルを開きます。



- ④【ファイル(F)]メニューの【データ定義を編集(I)]を選択します。

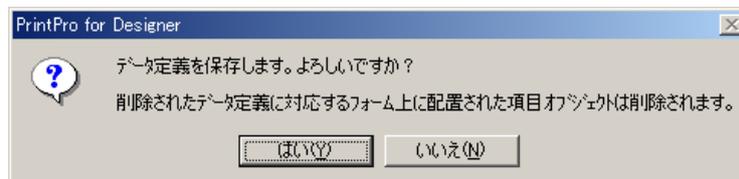


- ⑤開いているデータ定義ファイルの《データ定義 作成/変更》ダイアログボックスが表示されます。変更、確認が終わったら、【OK】をクリックします。

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	発行年	数値	2	
2	発行月	数値	2	
3	発行日	数値	2	
4	支店名	文字	30	
5	〒	郵便番号	10	
6	住所1	文字	30	
7	住所2	文字	30	
8	住所3	文字	30	
9	TEL	電話番号	15	
10	FAX	電話番号	15	
11	バーコード左	バーコード	10	
12	バーコード右	バーコード	5	
13	お客様〒	郵便番号	10	
14	お客様住所1	文字	30	
15	お客様住所2	文字	30	
16	お客様住所3	文字	30	
17	お客様名	文字	30	
18	カスタマーバーコード	バーコード	50	
19	ご請求年	文字	2	
20	ご請求月	文字	2	
21	お支払年	文字	2	
22	お支払月	文字	2	
23	お支払日	文字	2	
24	ご請求の内訳	文字	20	
25	数量	数値	10	
26	単価	数値	10	
27	金額	数値	10	
28	お知らせ	文字	30	

- ⑥下図のようなデータ定義の保存を確認するメッセージが表示されますので、【はい(Y)】をクリックします。変更されたデータ定義ファイルが上書き保存されます。



2. 2. 5 データ定義ファイルへの書き込み、テーブルファイル作成

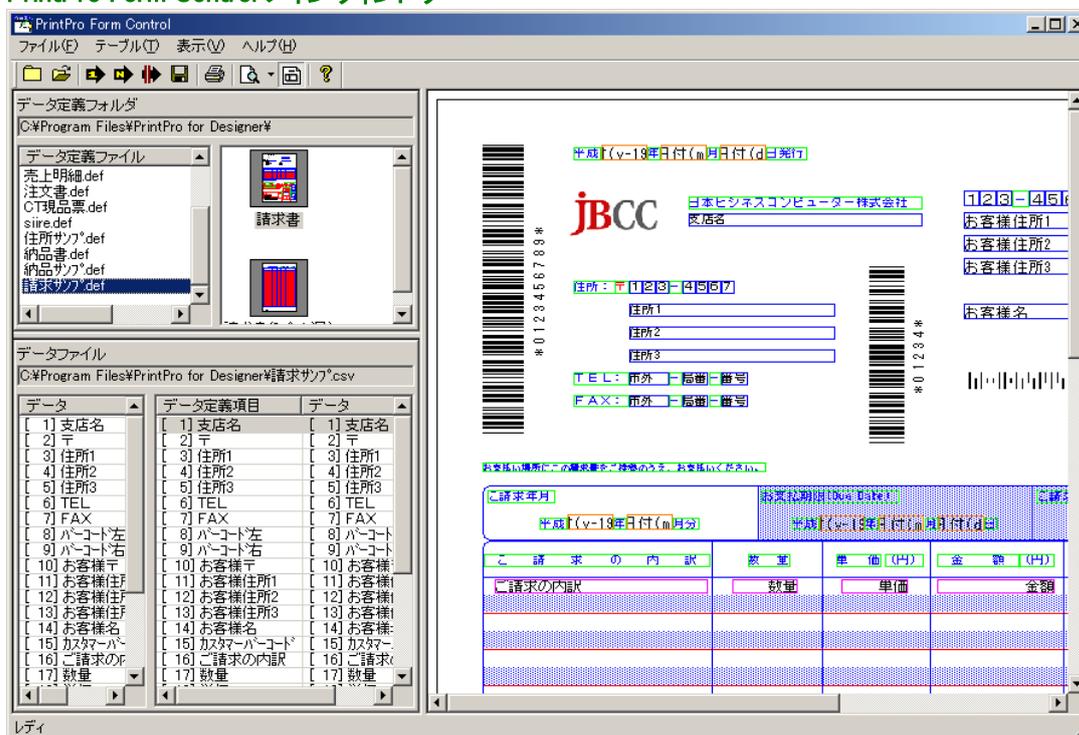
PrintPro Form Control プログラムを使用すると、印刷実行時パラメータを、指定されたデータ定義ファイルに書き込んだり、印刷に使用するデータと、データ定義ファイルで定義されているデータ項目との割り当てを変更したりすることができます。変更された割り当て内容は、データ割り当てテーブルファイル(*.TBL)として、データ定義ファイルと同じフォルダに保存され、印刷・プレビューを行う際に使用されます。

※ PrintPro Form Creatorプログラムを使用して、書き込まれた印刷実行時パラメータと、作成されるデータ割り当てテーブルファイルは、PrintPro for Webでのみ使用できます。

※ データ割り当てテーブルファイルを使用して印刷、プレビューを行う場合は、データ定義ファイルと同じフォルダにある必要があります。

PrintPro Form Control 画面構成

PrintPro Form Control メインウィンドウ



データ定義ファイル、フォーム選択表示領域



- **データ定義フォルダ**

【フォルダ設定】で指定された、データ定義ファイルを保持しているフォルダ名を表示します。

- **データ定義ファイル**

<データ定義フォルダ>で指定されたフォルダに存在するデータ定義ファイルが列挙されていますので、使用したいデータ定義ファイルを選択します。

- **フォーム選択表示領域**

<データ定義ファイル>で選択されたデータ定義ファイルの保持するフォームが列挙されていますので、使用したいフォームを選択します。フォームの表示方法は、フォーム名、もしくは、縮小されたフォームイメージのいずれかを【表示(V)】メニューの“フォーム名”もしくは“縮小”を選び、指定します。

また、フォーム名 / 縮小イメージをダブルクリックすると、PrintPro for Designer を起動することができます。

データ割り当て変換テーブル 作成表示領域

データ	データ定義項目	データ
[1] 支店名	[1] 支店名	[1] 支店名
[2] 〒	[2] 〒	[2] 〒
[3] 住所1	[3] 住所1	[3] 住所1
[4] 住所2	[4] 住所2	[4] 住所2
[5] 住所3	[5] 住所3	[5] 住所3
[6] TEL	[6] TEL	[6] TEL
[7] FAX	[7] FAX	[7] FAX
[8] バーコード左	[8] バーコード左	[8] バーコード左
[9] バーコード右	[9] バーコード右	[9] バーコード右
[10] お客様〒	[10] お客様〒	[10] お客様〒
[11] お客様住所1	[11] お客様住所1	[11] お客様住所1
[12] お客様住所2	[12] お客様住所2	[12] お客様住所2
[13] お客様住所3	[13] お客様住所3	[13] お客様住所3
[14] お客様名	[14] お客様名	[14] お客様名
[15] カスタマーバーコード	[15] カスタマーバーコード	[15] カスタマーバーコード...
[16] ご請求年	[16] ご請求年	[16] ご請求年
[17] ご請求月	[17] ご請求月	[17] ご請求月
[18] お支払年	[18] お支払年	[18] お支払年
[19] お支払月	[19] お支払月	[19] お支払月

- **データファイル**

【データファイルを開く】で指定された、データファイル名を表示します。

- **データ(左)**

<データファイル>で指定されたデータファイルの、1行目のフィールド名を表示します。

- **データ定義項目**

<データ定義ファイル>で選択されたデータ定義ファイルの保持するデータ定義項目を表示します。

- **データ(右)**

左側の<データ>に表示されているデータを、右側の<データ>の項目にドラッグアンドドロップすると、データを<データ定義項目>のデータ項目に割り当てることができます。

割り当てを解除するには、【テーブル(T)】メニューの【割り当て解除(R)】を選択するか、右側の<データ>の項目をダブルクリックします。

フォーム表示領域

平成13年12月10日(日)発行

JBCC 日本ビジネスコンピュータ株式会社

住所1
住所2
住所3

TEL: 東京 福岡 札幌
FAX: 東京 福岡 札幌

請求の内訳	数量	単価 (円)	金額 (円)

<フォーム選択表示領域>で選択されたフォームを表示します。

メニュー

・【ファイル(F)]メニュー



【フォルダ設定(F)]

使用するデータ定義ファイルの存在するフォルダを指定します。

【データファイルを開く(O)]

データファイルを指定します。拡張子が“csv”でないファイルは、TAB区切りのファイルとして開きます。

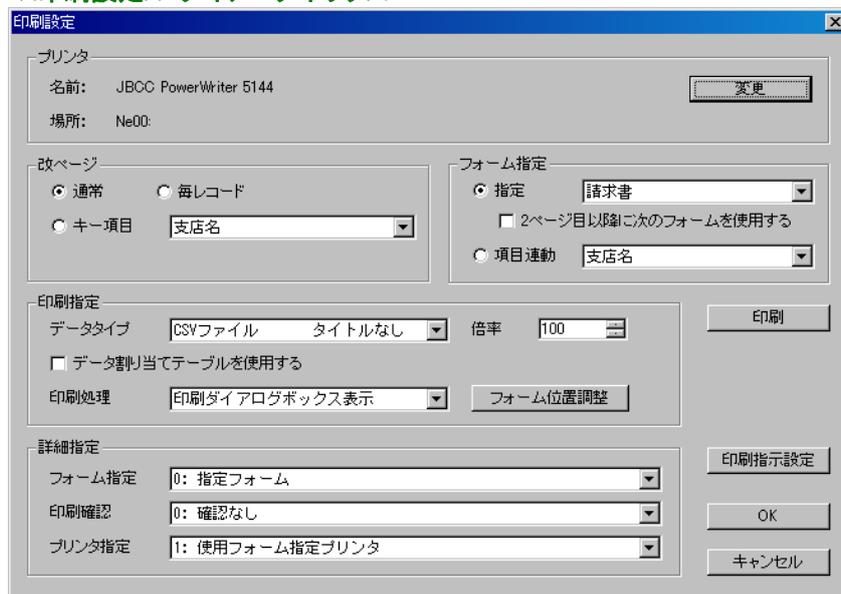
【データ定義ファイルを開じる(C)]

データ定義ファイルを閉じます。

【印刷設定(P)]

印刷設定ダイアログボックスが開きます。

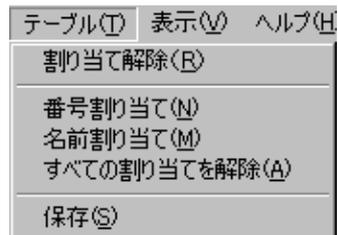
<<印刷設定>> ダイアログボックス



【終了(X)]

PrintPro Form Control プログラムを終了します。

・【テーブル(T)]メニュー



【割り当て解除(R)]

選択項目の割り当てを解除します。

【番号割り当て(N)]

現在の割り当てを解除して、同一番号を割り当てます。

【名前割り当て(M)]

現在の割り当てを解除して、同一名称を割り当てます。

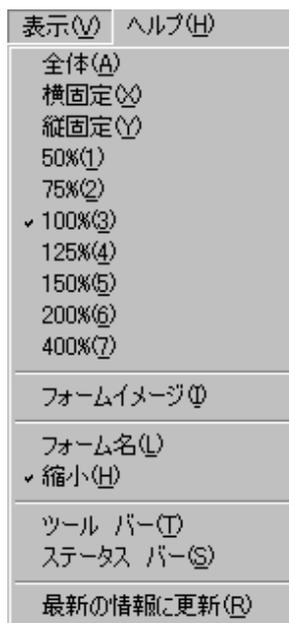
【すべての割り当てを解除(A)]

現在の割り当てをすべて解除します。

【保存(S)]

現在の割り当てテーブルを、データ定義ファイル名と同一の名称、拡張子“TBL”で保存します。

・【表示(V)]メニュー



【全体(A)]

フォーム全体が表示されます。

【横固定(X)]

フォームの横のサイズに合わせて表示されます。

【縦固定(Y)]

フォームの縦のサイズに合わせて表示されます。

【50%(1)]

フォームを50%サイズで表示します。

【75%(2)]

フォームを75%サイズで表示します。

【100%(3)]

フォームを標準サイズで表示します。

【125%(4)]

フォームを125%サイズで表示します。

【150%(5)]

フォームを150%サイズで表示します。

【200%(6)]

フォームを200%サイズで表示します。

【400%(7)]

フォームを400%サイズで表示します。

【フォームイメージ(I)】

台紙イメージの表示/非表示を切り替えます。台紙イメージを表示するには、表示しているフォームの【ページ設定(P)】(PrintPro for Designer)でフォームイメージが指定されていなければいけません。

【フォーム名(L)】

<データ定義ファイル>リストボックス右隣に表示されているフォーム選択表示領域に、指定データ定義ファイルのフォーム名が列挙されます。

**【縮小(H)】**

<データ定義ファイル>リストボックス右隣に表示されているフォーム選択表示領域に、指定データ定義ファイルのフォームの縮小イメージが列挙されます。

**【ツールバー(T)】**

ツールバーの表示/非表示を切り替えます。

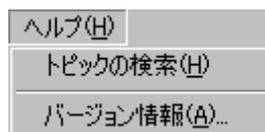
【ステータスバー(S)】

ステータスバーの表示/非表示を切り替えます。

【最新の情報に更新(R)】

データ定義ファイルの設定情報を、保存されている最新の状態に更新します。

・【ヘルプ(H)]メニュー



【トピックの検索(H)]

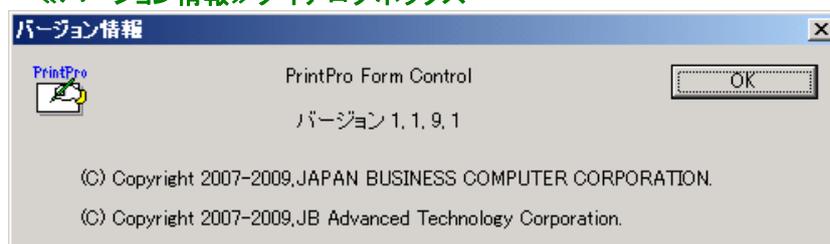
PrintPro for Designerのユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。

※ ユーザーズマニュアルの表示にはインターネット接続可能環境が必要となります。

【バージョン情報(A)]

PrintPro Form Controlのバージョン情報が書かれた《バージョン情報》ダイアログボックスが表示されます。

《バージョン情報》ダイアログボックス



ツールバー



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

①フォルダ設定ボタン

使用するデータ定義ファイルの存在するフォルダを指定します。

②開くボタン

データファイルを指定します。拡張子が“csv”でないファイルは、TAB区切りのファイルとして開きます。

③番号割り当てボタン

現在の割り当てを解除して、同一番号を割り当てます。

④名前割り当てボタン

現在の割り当てを解除して、同一名称を割り当てます。

⑤割り当て解除ボタン

現在の割り当てをすべて解除します。

⑥保存ボタン

現在の割り当てテーブルを、データ定義ファイルと同一の名称、拡張子“TBL”で保存します。

⑦印刷設定ボタン

印刷設定ダイアログボックスが開きます。

<<印刷設定>> ダイアログボックス

印刷設定

プリンタ
名前: JBCC PowerWriter 5144 [変更]
場所: Ne00:

改ページ
 通常 毎レコード
 キー項目 支店名

フォーム指定
 指定 請求書
 2ページ目以降に次のフォームを使用する
 項目連動 支店名

印刷指定
データタイプ CSVファイル タイトルなし 倍率 100 [印刷]
 データ割当てテーブルを使用する
印刷処理 印刷ダイアログボックス表示 [フォーム位置調整]

詳細指定
フォーム指定 0: 指定フォーム [印刷指示設定]
印刷確認 0: 確認なし [OK]
プリンタ指定 1: 使用フォーム指定プリンタ [キャンセル]

⑧表示サイズボタン

クリックするたびに、フォームの表示倍率が切り替ります。右の▼ボタンをクリックし、メニューを開いて、表示倍率を選択することもできます。

⑨フォームイメージボタン

台紙イメージの表示/非表示を切り替えます。台紙イメージを表示するには、表示しているフォームの【ページ設定(P)】(PrintPro for Designer)でフォームイメージが指定されていなければいけません。

⑩ヘルプボタン

PrintPro for Designerのユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。

※ ユーザーズマニュアルの表示にはインターネット接続可能環境が必要となります。

ステータスバー



レディ

①

①説明表示

選択しているメニューの説明を表示します。

ダイアログボックス

・<<印刷設定>> ダイアログボックス

プリンタ

【名前】

印刷に使用するプリンタ名を表示します。

【場所】

指定された、印刷に使用するプリンタの接続先を表示します。

【変更】ボタン

<<プリンタ>>ダイアログボックスが表示され、フォームに設定されているプリンタ、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きが変更できます。

変更されたプリンタ情報は、データ定義ファイルに書き込まれます。

改ページ

【通常】

明細行数を超えた場合に、改ページが行われます。(明細行がない場合には、1レコードを1ページに印刷します。)

【毎レコード】

毎レコード、改ページを行います。ハガキやラベルのように、1レコードを1ページに印刷する場合に使用します。

【キー項目】

コンボボックスで指定した項目の内容が、前のレコードの内容と異なる場合に改ページを行います。伝票のように、複数の明細行を1ページに印刷するときに使用します。

フォーム指定

【指定】

コンボボックスで指定されているフォームに印刷します。

【2ページ目以降に次のフォームを使用する】

1ページ目はコンボボックスで指定されたフォームで印刷し、1ページ目以降は、指定されたフォームの次のフォームで印刷されます。改ページにより、改ページが行われると、再び1ページ目から印刷を行います。連番は、改ページ指定による改ページ後、1に戻ります。

【項目連動】

Excelから受け取ったデータのうち、コンボボックスで指定された項目の内容を使用して、印刷するフォームを自動的に選択します。PrintPro for Designer でフォーム保存時、または<<フォーム名変更>>ダイアログボックス(【ファイル(F)】メニューの【フォーム変更(F)】を選択すると表示される)で指定するコードの内容と一致するフォームが選択されます。

印刷指定

【データタイプ】

使用するデータファイルのタイプを選択します。

【倍率】

印刷倍率を指定します。(10~400)

【データ割り当てテーブルを使用する】

データ割り当てテーブルファイルの内容を使用して印刷を行う場合、チェックボックスをオンにします。

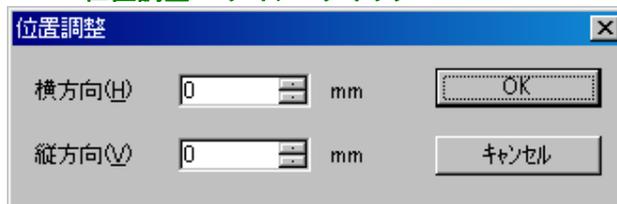
【印刷処理】

- 印刷ダイアログボックス表示
【印刷】ボタンを押すと、印刷ダイアログボックスを表示します。
- プレビュー
【印刷】ボタンを押すと、プレビューを表示します。
- 印刷
【印刷】ボタンを押すと、印刷を行います。

【フォーム位置調整】

<<位置調整>>ダイアログボックスが表示されます。<横方向(H)>、<縦方向(V)>に値を入力して、印刷位置を微調整します。正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

<<位置調整>>ダイアログボックス



詳細指定

【フォーム指定】

コンボボックスで指定されているフォームに印刷します。
(設定内容は<<印刷指示設定>>ダイアログボックスの【FormSetMode】と同じ)

【印刷確認】

印刷前のフォーム確認の有無を指定します。
(設定内容は<<印刷指示設定>>ダイアログボックスの【FormCheck】と同じ)

【プリンタ指定】

印刷に使用するプリンタを指定します。
(設定内容は<<印刷指示設定>>ダイアログボックスの【DefPrinter】と同じ)

【印刷】ボタン

データ定義ファイル、データファイル、データ割り当てテーブルファイル、印刷指示設定を使用して、
【印刷処理】で指示された処理を実行します。

【印刷指示設定】ボタン

<<指示設定>> ダイアログボックスを開きます。

【OK】ボタン

データ定義ファイルに設定を保存します。

※ 印刷指示設定ダイアログボックスの設定を含むすべての項目が保存されます。単一項目のみの保存はできません。

【キャンセル】ボタン

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

・<<印刷指示設定>> ダイアログボックス

※ この画面で設定できる値は、全ての製品で共通して使用できるものではありません。
一部、製品によっては動作しない値、機能がありますのでご注意ください。
詳しくは、各製品のユーザーズガイドをご確認ください。

改ページ

【KeyBreak】

改ページの指定をします。

値	動作
1	1レコードを1ページに印刷します。
0	改ページ処理を行わない。明細行数を超えると改ページが行なわれます。
(キー項目)+1	キー項目(1～)の内容が前のレコードの内容と不一致になると改ページが行われます。

フォーム指定

【FormSetMode】

フォームの自動切り替えを指定します。

値	動作
0	印刷時、フォームの切り替えは行いません。 常に指定したフォームで印刷されます。
1	印刷時、フォームの切り替えを行います。 使用するフォームを実データで指定します。FormLinkItemプロパティで指定された項目の内容をフォームのコードとみなして指定されたフォームで印刷します。
2	印刷時、フォームの切り替えを行います。 最初にSelectFormプロパティで指定されたフォームを使用して印刷を開始します。以降、KeyBreak条件以外での改ページが発生したタイミングでフォームが切り替わり、このページには、SelectFormプロパティで指定したフォームの次に定義されたフォームが使用されます。KeyBreak条件による改ページが発生した場合には、SelectFormで指定されたフォームが使用されます。

	本設定において、【テキスト固定文字・演算式】に増減値が指定されているか、または何も指定されていない連番型のデータは、KeyBreakが発生するとリセットされます。また、本設定は、印刷に使用するプリンタの制御も行います。印刷時には、SelectFormプロパティ指定されたフォームで定義されたプリンタが使用されます。以降、フォームの切り替えが発生しても、同じプリンタが使用されます。このプリンタの制御は、DefPrinterプロパティでの指定よりも優先しますが、スプール方法/設定画面の表示方法の制御には、DefPrinterでの指定が有効です。
3	2の場合と同様ですが、連番型データの扱いのみ異なります。本設定では、【テキスト固定文字・演算式】に増減値が指定されているか、または何も指定されていない連番型のデータは、KeyBreakが発生してもリセットされません。
5	印刷時、複写紙モード(※後述)でのフォームの切り替えを行います。また、本設定は、印刷に使用するプリンタの制御も行います。印刷時には、SelectFormプロパティで指定されたフォームで定義されたプリンタが使用されます。以降、フォームの切り替えが発生しても、同じプリンタが使用されます。なお、この値を指定する場合、DefPrinterプロパティには1を指定してください。
11	印刷時、フォームの切り替えを行います。1の場合と同様の動作をします。ただし、指定されたフォームが存在しない場合、SelectFormプロパティで指定されたフォームを使用します。
12	印刷時、フォームの切り替えを行います。2の場合と同様の動作をします。ただし、2の場合と印刷に使用するプリンタの制御が異なり、プリンタの制御は、DefPrinterプロパティに従います。
13	印刷時、フォームの切り替えを行います。3の場合と同様の動作をします。ただし、2の場合と印刷に使用するプリンタの制御が異なり、プリンタの制御は、DefPrinterプロパティに従います。
15	印刷時、複写紙モード(※後述)でのフォーム切り替えを行います。5の場合と同様の動作をします。ただし、5の場合と印刷に使用するプリンタの制御が異なります。フォームの切り替りに応じてそのフォームで定義されたプリンタが印刷に使用されます。なお、この値を指定する場合、DefPrinterプロパティには1を指定してください。

■複写紙モードについて

NumPageでは、ある印刷ジョブのコピー数を指定し、指定された数分、そのジョブのコピーが出力されます。これらのコピーには、当然、同じフォームが使われています。しかし、本モードを使用することによって、このコピー毎に異なるフォームを適用することができます。

各コピーに適用されるフォームは、1コピー目(オリジナルの印刷ジョブ)で使用するフォームと、フォーム定義ファイル(.defファイル)内のフォームの定義順序により決まります。1コピー目で使用するフォームは、SelectFormプロパティにより決定します。以降、1コピー目で使用されたフォームをA₁、とすると、2コピー目には.defファイル内でそのフォームの次に定義されたフォームA₂が、3コピー目にはその次に定義されたフォームA₃が、4コピー目には...、という形でフォームが切り替わります。

●通常の部数指定モード



●複写紙モード



◇複写紙モードの制限

- 1. 与えられたデータに対して、各フォーム間での印刷の結果、ページ構成が変わらないこと**
たとえば、1枚目と2枚目で用いられるフォームで明細範囲オブジェクトの行数が異なっていて、1枚目のフォームより、2枚目のフォームの行数が少ない場合、通常であれば2枚目のフォームで、明細範囲へのデータあふれにより、1コピー目には存在しないページが生成されることとなりますが、このような状況での出力は、正常に出力されません。
- 2. 集計機能を使用しないこと**
集計機能の使用が定義されたフォームを使用した場合、正常に出力されません。
- 3. 複写紙モードで使用するフォームは、100以下にすること**
複写紙モードでは、1枚目を含め、100を超えるフォームは使用することができません。
- 4. プレビュー表示はできません**
プレビューでは、各データの1枚目のプレビューしか表示できません。
- 5. 定義されているフォーム数を超えるコピー数の指定をしないこと**
実際のフォーム数を超えた指定をされた場合、正常に出力されません。また、指定可能なコピー数の範囲は、DEFファイルで定義されたフォーム数から1コピー目の出力に使用されるフォームの定義番号の数を引いた数となります。
- 6. ラベル印刷では使用できません**
ラベル印刷の指定がある場合、本モードは使用することができません。

【SelectForm】

印刷するフォーム番号を指定します。(0～フォーム数-1)

※ FormSetMode=1の場合、SelectFormプロパティは無視されます。

【FormLinkItem】

自動フォーム指定項目番号(0～n)を指定します。

FormSetMode=1の場合に、自動フォーム選択を行うための判定に使用する項目を指定します。

※ ラベルでは、使用することができません。

【FormCheck】

印刷前のフォーム確認方法を指定します。

値	動作
0	印刷前に、確認ダイアログボックスを表示しません。
1	印刷前に、ページが切り替わる毎に確認ダイアログボックスを表示します。
2	印刷前に、フォームが切り替わる毎に確認ダイアログボックスを表示します。
3	印刷前の確認ダイアログボックス、印刷中ダイアログボックスを表示しません。

プリンタ設定

【DefPrinter】

プリンタを指定します。

値	動作
0	通常使うプリンタを使用します。
1	フォームで指定されたプリンタを使用します。
2	SelectFormで指定されたフォームのプリンタで印刷します。プリンタの切り替えは行

	いません。(FormSetMode=1の時に使用するプリンタを固定します。)
3	SelectFormで指定されたフォームのプリンタで印刷します。プリンタの切り替えは行いません。1スプールファイルで印刷します。
4, 5, 6	プリンタのプロパティ設定が行えます。機能は、DefPrinter=1、2、3を指定した時と同様です。《PrintPro for Web 印刷》ダイアログボックスの、【プリンタ】の<変更>をクリックし、【使用するプリンタ】で《その他のプリンタ》を選択すると、<プロパティ>ボタンが表示され、プリンタのプロパティの設定が行えます。設定内容は、保存されます。《その他のプリンタ》を変更した場合、保存されている設定内容は、無効となりますので、再度、設定を変更する必要があります。
7	SelectFormプロパティで指定されたフォームのプリンタで印刷します。プリンタの切替は行いません。FormSetModeプロパティには、1、2、3のパラメータのみが使用できます。スプール分割機能(※後述)を使用して、スプールを分割して印刷しますが、スプール分割のタイミングは、集計機能の使用状態によって異なります。 ●集計機能あり 集計4のフッター後改ページのタイミングでスプールが分割されます。 ●集計機能なし KeyBreakプロパティで指定された項目の内容が、前のレコードの内容と異なるタイミングでスプールが分割されます。KeyBreakプロパティには(キー項目+1)を指定します。

※ 設定画面でプリンタの変更を行う場合は1を指定します。

スプール分割機能について

印刷時、スプールを特定のタイミングで分割して印刷を行います。両面印刷時に使用します。スプール分割のタイミングは、集計機能の使用状態により、異なります。

●集計機能使用あり

集計4のフッター後改ページのタイミングでスプールが分割されていきます。

●集計機能使用なし

KeyBreakプロパティで指定された項目の内容が、前のレコードの内容と異なるタイミングでスプール分割されていきます。KeyBreakプロパティには(キー項目)+1を指定します。

※ 両面印刷に対応していないプリンタでは、両面印刷はできません。

印刷

【Adjustx】

印刷位置微調整値・横方向を-99.9～99.9(mm)の範囲で指定します。

【Adjusty】

印刷位置微調整値・縦方向を-99.9～99.9(mm)の範囲で指定します。

【NumPage】

印刷部数を指定します。(1～)

【StartLabel】

ラベルスタート位置(1～n枚目)を指定します。

ラベルフォームの場合に、1ページ内のどのラベルから、印刷を開始するかを指定します。左上のラベルを1として、左から右、上から下に数えます。

【Magnification】

印刷の倍率を10～400%の範囲で指定します。

データ

【DataType】

印刷データのファイルの形式を指定します。

値	動作	タイトル行	圧縮
0	サーバー上のTAB区切り形式のデータを印刷します。	なし	なし※1
10		なし	なし※1
20		なし	GZIP
30		なし	CAB
1	サーバー上のCSVファイルのデータを印刷します。	あり	なし
2		なし	なし※2
11		なし	なし※2
21		なし	GZIP
31		なし	CAB
12	サーバー上のXMLファイルのデータを印刷します。	なし	なし
22		なし	GZIP
32		なし	CAB

※1 DataType=0 ではデータを直接メモリからアクセスしますが、DataType=10 ではデータを一時ファイルとしてクライアントにダウンロードしてから、印刷に使用します。

※2 DataType=2 ではデータは直接メモリからアクセスされますが、DataType=11 ではデータを一時ファイルとしてクライアントにダウンロードしてから、印刷に使用します。

【DataFileName】

データファイル名を指定します。(半角128文字以内)

DataTypeの値	動作
0	サーバー上のデータファイル(TAB区切り形式)を指定します。(3. 3 印刷データ(TAB区切り) 参照してください。)
1,2	サーバー上のデータファイル(CSVファイル)を指定します。
10, 11, 12	サーバー上の圧縮データファイル(TAB区切り、CSVファイル、XMLファイル)を指定します。(上記の表を参照してください。)
20, 21, 22 30, 31, 32	サーバー上の圧縮データファイルを指定します。圧縮形式は、CAB圧縮(*.CAB)、GZIP圧縮(*.gz)が使用できます。(上記の表を参照してください。)

※ 印刷に使用するデータのレコードは、それがデータ内の最後のレコードであっても、必ず、改行(/r/n)で終わるようにしてください。

【FieldConversion】

データ割り当てテーブルファイルの内容を使用して印刷を行う場合、チェックボックスをオンにします。

その他

【Title】

タイトルを設定します。(半角31文字以内)

【PreviewMode】

1の位: Webプレビュー表示の時に、印刷ボタンを追加します。

10の位: プレビューの初期サイズを指定します。

1の位	動作
0	印刷ボタンを表示しません。
1	印刷ボタンをクリックすると、表示しているページのみを印刷します。
2	印刷ボタンをクリックすると、全ページを印刷します。

10の位	動作
1	全体表示します。
2	横固定表示します。
3	縦固定表示します。
4	50%表示します。
5	75%表示します。
6	100%表示します。
7	125%表示します。
8	150%表示します。

※ 200% / 400% / 任意倍率の指定はできません。

例) PreviewMode = 21

プレビュー初期サイズ 横固定

印刷ボタン表示(ページ印刷)

【MethodMode】

実行メソッドを指定します。

PrintPro for Web の Execute メソッドで使用します。

値	動作
0	PrintForm()
1	PreviewForm()
2	PrintPreviewForm()
3	PrintPreviewFormEx(0)
4	PrintPreviewFormEx(1)
5	PrintPreviewFormEx(2)

【ImageMode】

ImageMode = 1 を指定すると、サーバー上のプログラムがブラウザに直接出力したイメージデータを印刷することができます。イメージ型に設定されている項目のデータとして、イメージを出力するサーバー上のプログラム(imgServlet)を直接指定します。

※ 詳細につきましては、PrintPro for Webのユーザーズガイドをご参照ください。

【OK】ボタン

設定を保存して、ウィンドウを閉じます。

【キャンセル】ボタン

設定を破棄して、ウィンドウを閉じます。

データ定義ファイルへの書き込み、テーブルファイル作成 基本手順

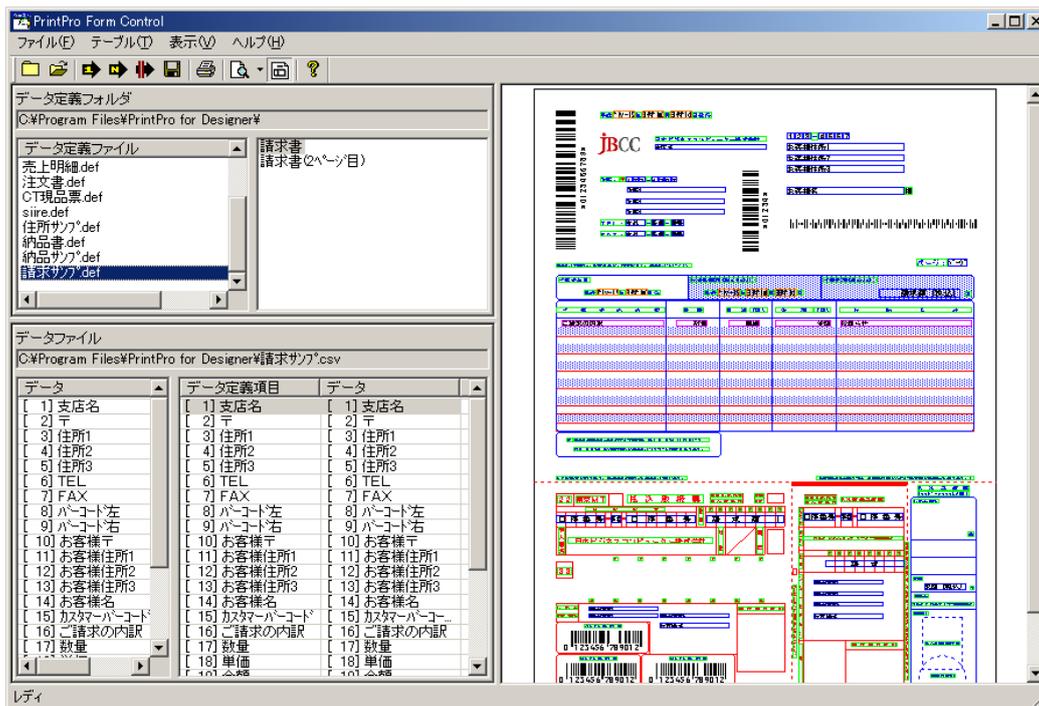
1. PrintPro Form Controlプログラムを起動します。
2. 【ファイル(F)】メニューの【フォルダ作成(F)】から、使用するデータ定義ファイルの存在するフォルダを指定します。



3. 指定したフォルダに存在するデータ定義ファイルが“データ定義ファイル”リストボックスに列挙されますので、使用するデータ定義ファイルを選択します。



4. データ定義ファイルを選択すると、右側の“フォーム選択表示領域”に指定したデータ定義ファイルの保持するフォームがすべて列挙されますので、使用するフォームを選択します。フォームを選択すると、さらに右の“フォーム表示領域”に選択したフォームが表示されます。



5. データ定義ファイルに、印刷実行時のパラメータを書き込む場合、【ファイル(F)】メニューの【印刷設定(P)】から設定を行います。もしくは、【印刷指示設定】ボタンをクリックすると表示される<<印刷指示設定>>ダイアログボックスから、パラメータ値を設定することもできます。一方の方法で設定された値は、他方にも反映されます。(設定内容が同じものに限りです。)

<<印刷設定>>ダイアログボックス

<<印刷指示設定>> ダイアログボックス

印刷指示設定

改ページ
KeyBreak 0: 通常 (改ページ処理なし, 明細行数で改ページ)

フォーム指定
FormSetMode 0: 指定フォーム
SelectForm 0: 請求書
FormLinkItem 0: 支店名
FormCheck 0: 確認なし

プリンタ指定
DefPrinter 1: 使用フォーム指定プリンタ

印刷
Adjustx 0 NumPage 1 Magnification 100
Adjusty 0 StartLabel 1

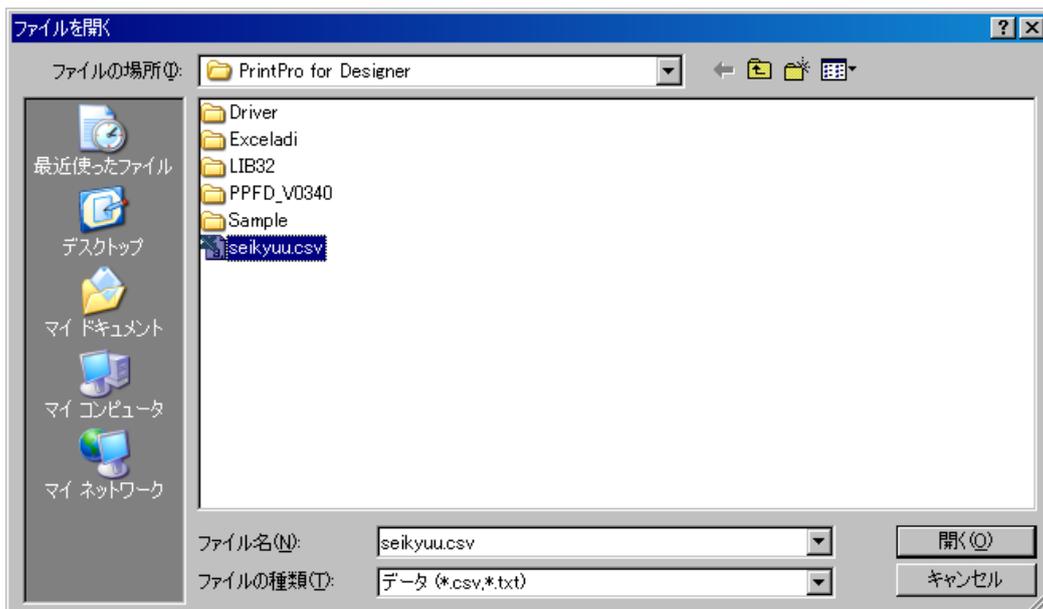
データ
DataType 2: CSVファイル タイトル行なし 圧縮なし
DataFileName
 FieldConversion

その他
Title
PreviewMode 0
MethodMode 0: PrintForm
ImageMode 0

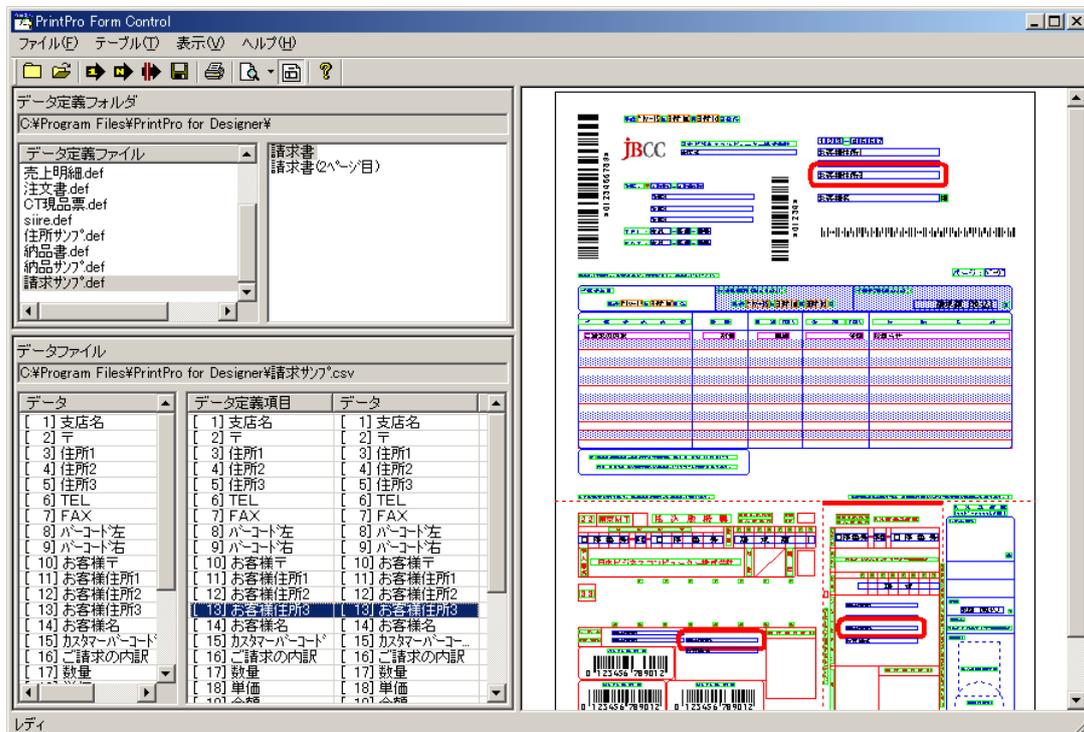
OK
キャンセル

6. 【OK】ボタンをクリックすると、データ定義ファイルに設定が保存されます。

7. データ割り当てテーブルファイルを作成する場合、【ファイル(F)】メニューの【データファイルを開く(O)】から使用するデータファイルを開きます。



8. 指定したデータファイルの1行目のフィールド名が、左側の“データ”リストビューに列挙されますので、【テーブル(T)]メニューの【番号割り当て(N)]や【名前割り当て(M)]からデータをデータ定義に割り当てるか、もしくは、“データ”リストビューの各項目を、割り当てを行いたいデータ定義項目の右側にある“データ”リストビューにドラッグアンドドロップすることによって、データとデータ定義項目の割り当てを行います。



9. 【テーブル(T)]メニューの【保存(S)]をクリックすると、現在の割り当て内容が、データ定義ファイル名と同一の名称のデータ割り当てテーブルファイル(拡張子“TBL”)として、データ定義ファイルと同じフォルダに保存されます。

※ 作成したデータ割り当てテーブルファイルを使用して印刷・プレビューを行うには、【ファイル(F)]メニューの【印刷設定(P)]から、<<印刷設定>>ダイアログボックスで【データ割り当てテーブルを使用する】チェックボックスをオンにするか、もしくは、【印刷指示設定】ボタンをクリックすると表示される<<印刷指示設定>>ダイアログボックスで、【FieldConversion】チェックボックスをオンにする必要があります。

2.3 フォームの作成

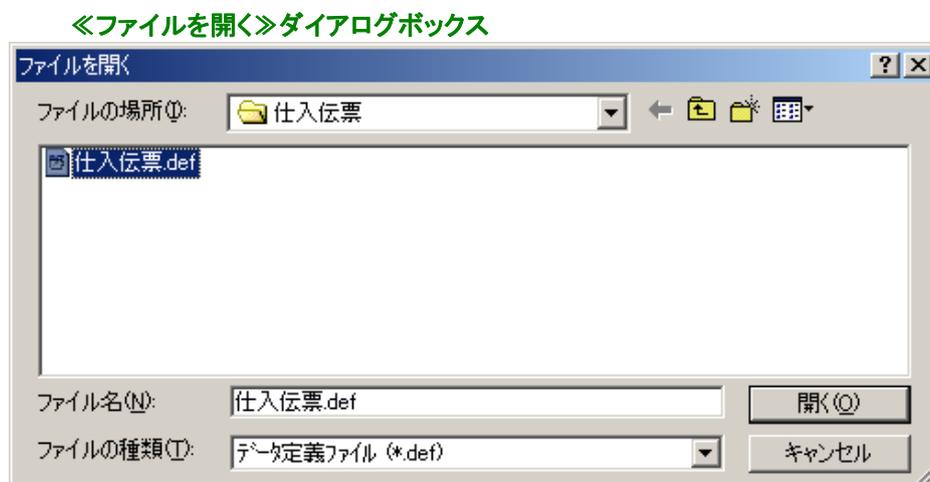
2.3.1 フォーム作成手順

フォームは、データ定義で定義された項目を、どのように印刷するかを指定します。フォームは、データ定義ファイルの中に作成します。フォーム上には、表、図形、固定文字、バーコード、イメージなどを配置することができます。

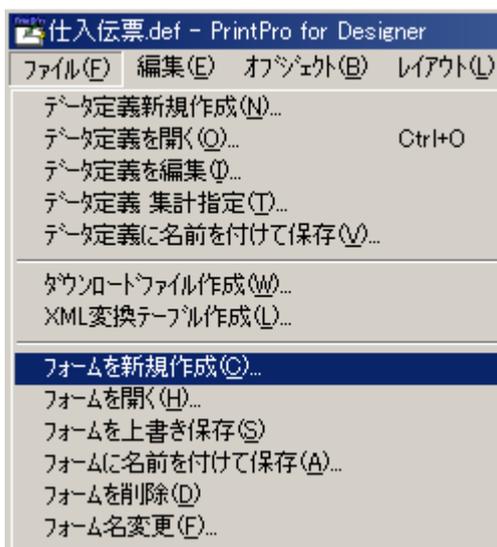
- ①PrintPro for Designer を起動します。
- ②【ファイル(F)】メニューの【データ定義を開く(O)】を選択します。



- ③「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。フォームを作成するデータ定義ファイルを選択して、【開く(O)】をクリックします。

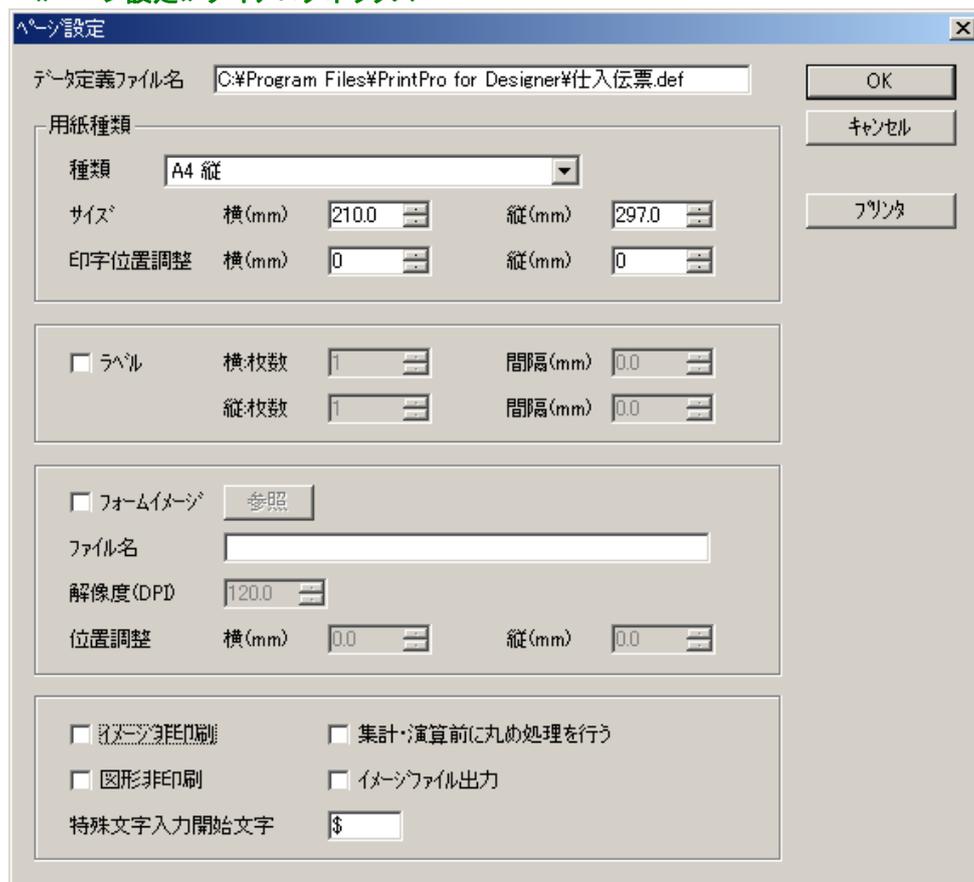


④【ファイル(F)]メニューの【フォーム新規作成(C)]を選択します。

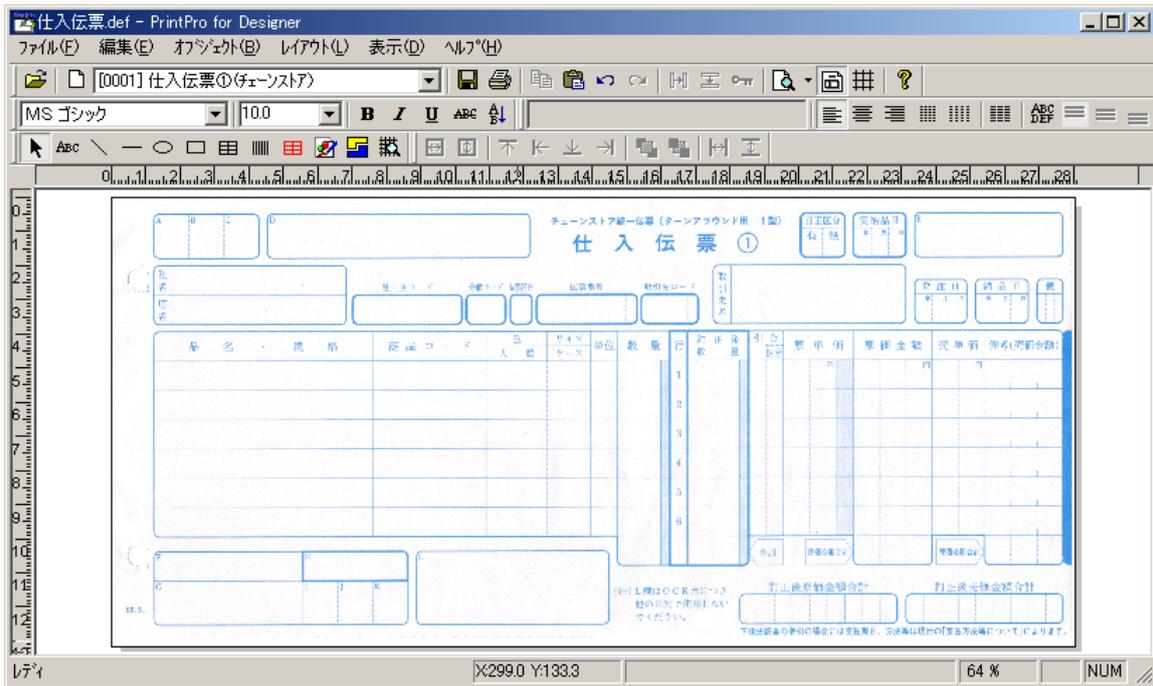


⑤「ページ設定」ダイアログボックスが表示されます。

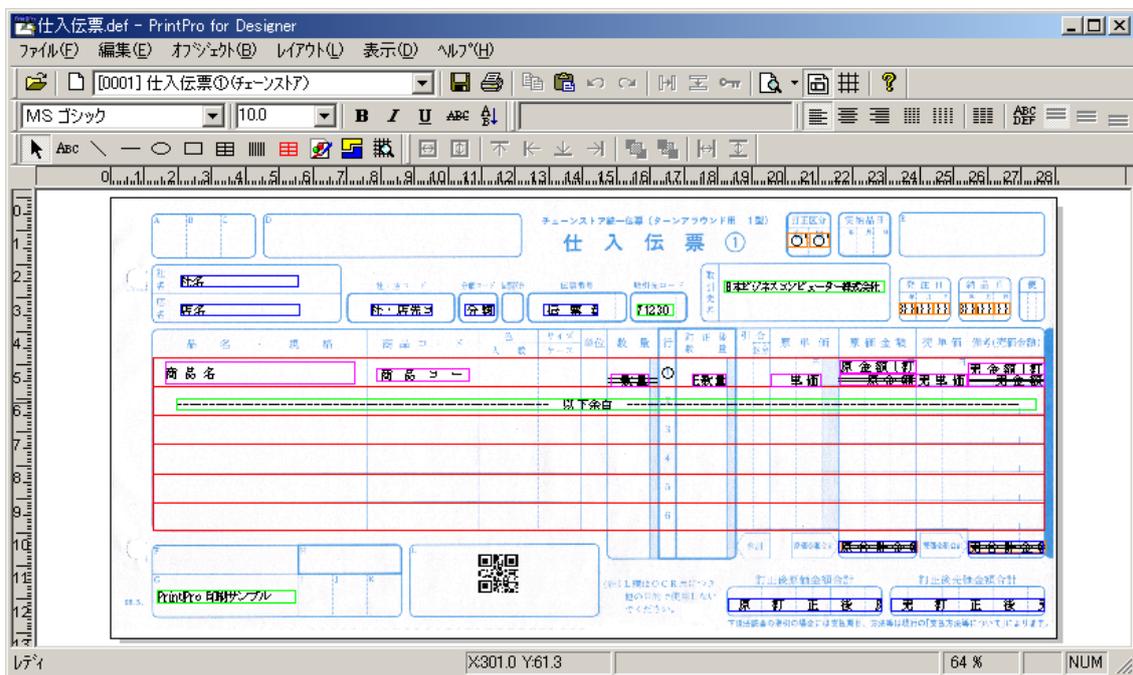
「ページ設定」ダイアログボックス



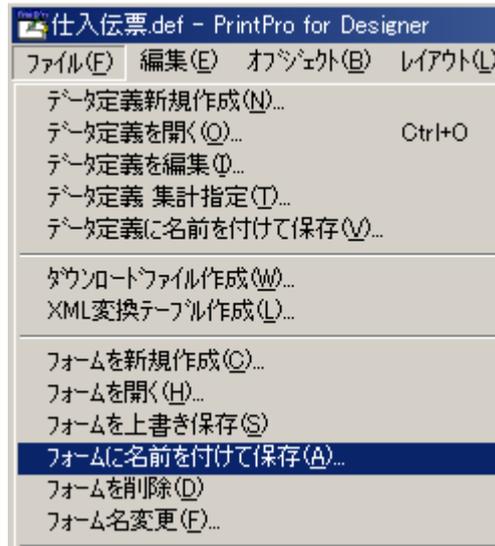
- ⑥ ≪ページ設定≫ダイアログボックスで、用紙種類、ラベル指定、フォームイメージなどを指定し、【OK】をクリックすると、フォーム編集状態になります。



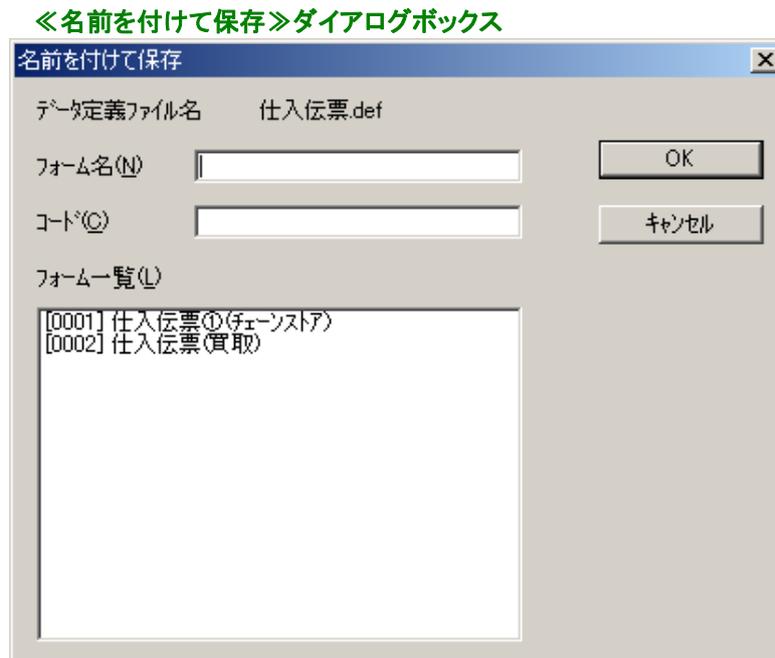
- ⑦ フォーム上にオブジェクトを作成し、配置していきます。



- ⑧オブジェクトの作成が終わったら、フォームを保存します。【ファイル(F)]メニューの【フォームに名前を付けて保存(A)]を選択します。

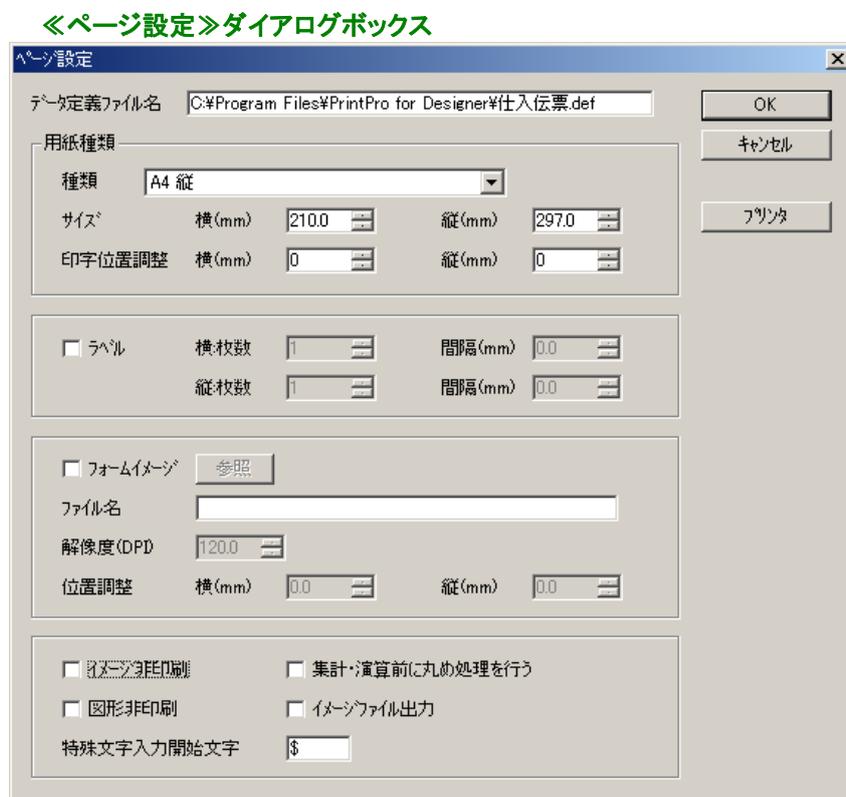


- ⑨<<名前を付けて保存>>ダイアログボックスが表示されます。フォーム名を入力し、【OK】をクリックすると、データ定義ファイル(*.def)にフォームが追加されます。これで、Visual Basic、Excelアドインツールなどにより、フォームを使った伝票や、帳票の印刷ができるようになります。



2.3.2 ページ設定

PrintPro for Designer の【ファイル(F)]メニューの【フォームを新規作成(C)]か、【ファイル(F)]メニューの【ページ設定(P)]を選択すると、《ページ設定》ダイアログボックスが表示されます。



【データ定義ファイル名】

フォームの追加を行うデータ定義ファイル名が表示されます。

【用紙種類】

<種類>

フォームの用紙種類を選択します。

<サイズ>

コンボボックスにフォームの用紙がない時には、コンボボックスから『任意サイズ』を選択し、<横(mm)>、<縦(mm)>にフォームのサイズを入力してください。また、ラベルを指定する場合も、用紙種類は『任意サイズ』を指定し、1枚のラベルの大きさを<横(mm)>、<縦(mm)>に入力します。

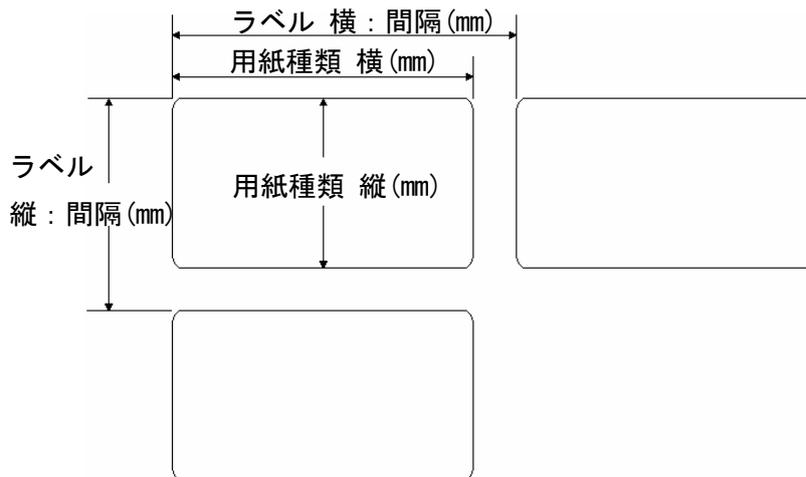
<印字位置調整>

編集集中のフォームの印刷位置の調整を行う場合、<横(mm)>、<縦(mm)>に入力します。

【ラベル】

フォームがラベルの場合にチェックします。1枚の用紙に複数枚のラベルを印刷する時は、<横:枚数>、<縦:枚数>と、ラベルの左端から次のラベルの左端までの間隔を横の<間隔(mm)>に、ラベルの上部から次のラベルの上部までの間隔を縦の<間隔(mm)>に入力します。

※ ラベル指定のあるフォームには、明細範囲、データ型が集計型、または演算型の固定項目オブジェクトは指定できません。



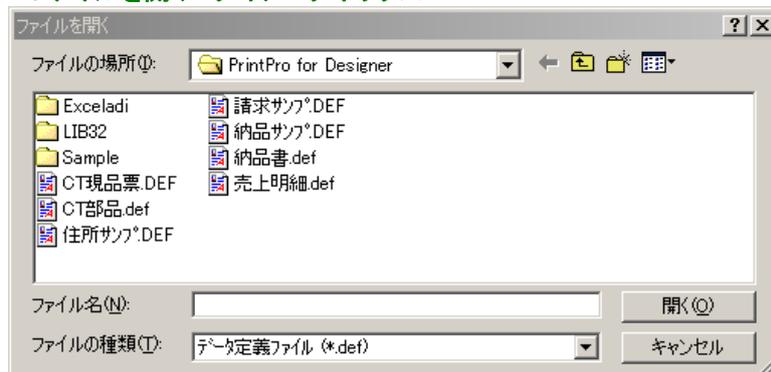
【フォームイメージ】

フォームの台紙として、ビットマップか、JPEG、TIF、PNG、GIFを指定し、フォーム上に表示できるようにします。フォームイメージの指定は、<参照>をクリックして行います。

<参照>

クリックすると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。台紙として使用する(イメージファイル)ビットマップか、JPEG、TIF、PNG、GIFを選択し、【開く(O)】をクリックすると指定できます。

「ファイルを開く」ダイアログボックス



<ファイル名>

指定したフォームイメージのファイル名が表示されます。

<解像度(DPI)>

フォームイメージに指定したイメージファイル(ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF)の解像度を入力します。スキャナで画像を取り込み、フォームイメージとして使用する場合は、スキャン時の解像度は、10DPIから1200DPIの範囲としてください。解像度が低いと、イメージが荒くなりますが、表示速度は速くなります。また、解像度が高いと、イメージはきれいですが、表示速度は遅くなります。位置決め精度と表示速度から、プリンタの解像度を使用することを推奨します。

<位置調整>

フォームイメージを表示する位置を指定します。<横(mm)>、<縦(mm)>にフォームの左上からの位置を入力してください。

【イメージ非印刷】

フォームに貼り付けられたイメージオブジェクト(ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF)は表示はされますが、印刷はされません。

【図形非印刷】

フォーム上に作成された図形オブジェクトは表示はされますが、印刷はされません。

【特殊文字入力開始文字】

バーコード(CODE 128、PDF 417、QR CODE)で、バーコードのデータに特殊文字を指定する場合の先頭文字を指定します。英数字以外の半角1文字で指定します。

【集計・演算前に丸め処理を行う】

演算、集計は、項目データを指定小数部桁数に丸め処理した後に行われます。小数部桁数、丸め処理方法は、フォーム上に配置した項目オブジェクトに指定します。

※ この機能を使用する場合、同一項目のデータをフォーム上に複数配置する場合、小数部桁数、丸め処理方法を同じにしてください。同じでない場合、正しく計算されないことがあります。

【イメージファイル出力】

PrintPro for PDFのために使用する機能です。PrintPro for PDFを使用しない場合は、使用しないでください。

【OK】

ページ設定内容に従って、フォームの作成を開始します。

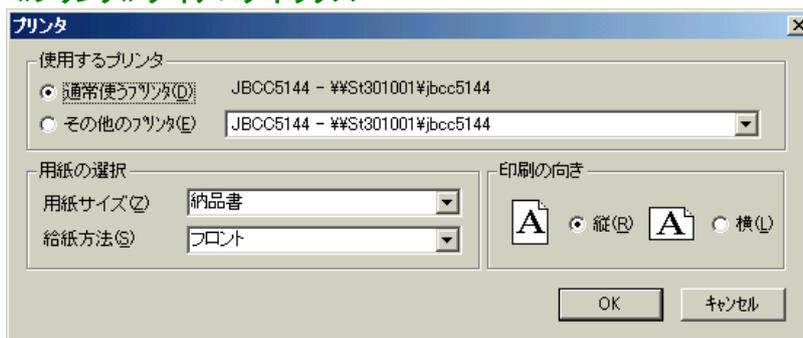
【キャンセル】

設定の変更をせずに、《ページ設定》ダイアログボックスを閉じます。

【プリンタ】

クリックすると、《プリンタ》ダイアログボックスが表示され、フォームを印刷する時のプリンタの設定を行うことができます。

《プリンタ》ダイアログボックス



【使用するプリンタ】

<通常使うプリンタ(D)>

フォーム印刷時に、Windowsで設定されている【通常使うプリンタ】を使用し、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きを、このダイアログボックスで指定されたものに設定することができます。

<その他のプリンタ(E)>

フォーム印刷時に使用するプリンタ、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きを、このダイアログボックスで指定されたものに設定することができます。

【用紙の選択】

<用紙サイズ(Z)>

コンボボックスの中から、使用するプリンタの用紙サイズを選択することができます。

<給紙方法(S)>

コンボボックスの中から、使用するプリンタの給紙方法を選択することができます。

【印刷の向き】

<縦(R)>

使用するプリンタの印刷の向きを縦方向に指定します。

<横(L)>

使用するプリンタの印刷の向きを横方向に指定します。

【OK】

設定を変更して、《プリンタ》ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定の変更をせずに、《プリンタ》ダイアログボックスを閉じます。

2.3.3 オブジェクトの作成

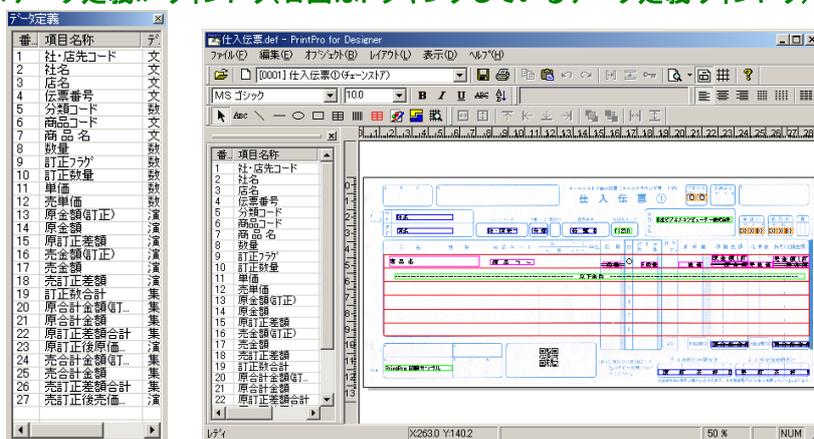
【項目オブジェクト】

項目オブジェクトには、明細項目オブジェクトと固定項目オブジェクトの2種類あります。

明細項目オブジェクトの作成方法

1. 所属させたい明細範囲の1行目に、新しく項目オブジェクトを作成すると、その明細範囲に所属する明細項目オブジェクトを作成することができます。
2. 既にフォーム上に固定項目オブジェクトとして配置したオブジェクトを、所属させたい明細範囲の1行目に移動し、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを開き、区分を明細項目に変更し、所属させる明細範囲の明細番号を選択すると、その明細範囲に所属する明細項目オブジェクトを作成することができます。

《データ定義》ウィンドウ(右図はドッキングしているデータ定義ウィンドウ)



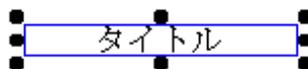
まず、《データ定義》ウィンドウ内に表示されている配置したい項目の行をクリックします。(《データ定義》ウィンドウは、ウィンドウのタイトル部分をつかみドラッグすることによって、自由に位置を変えることもできます。)次に、項目オブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に項目オブジェクトが作成されます。

※ 明細項目に指定されている項目は、必ずそのオブジェクトが所属する明細範囲の1行目に置いてください。

※ PrintPro for Designer の【オブジェクト(B)]メニューの【項目名(N)]がチェックされている場合は、明細項目か、固定項目のどちらでもあっても、固定文字として配置されます。

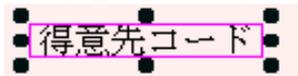
●固定項目オブジェクト

固定項目オブジェクトは、周囲が青色になっています。データファイルから固定項目用のデータを1つだけ受け取り、フォーム上で固定項目オブジェクトの配置されている場所に印刷を行います。



●明細項目オブジェクト

明細項目オブジェクトは、周囲がピンク色になっています。



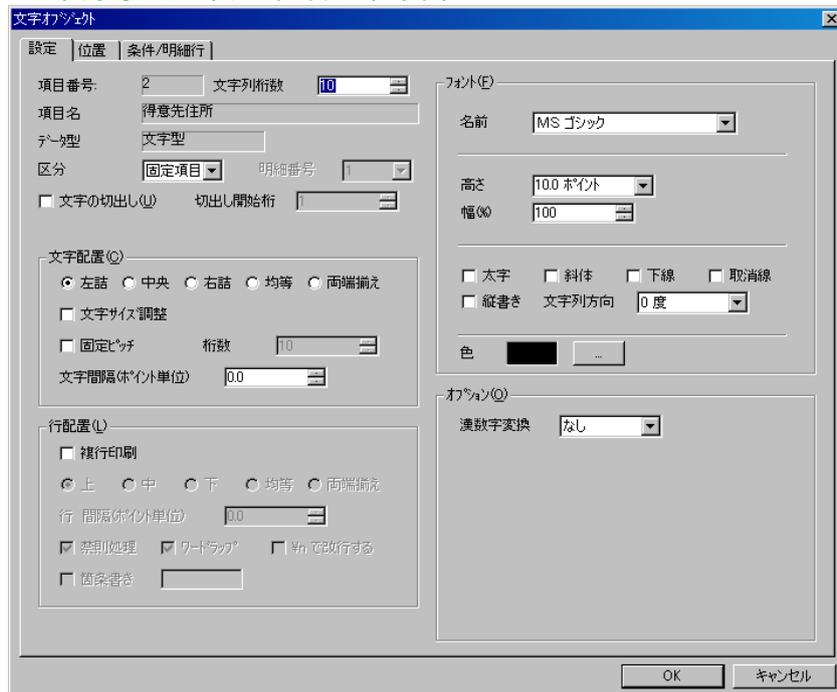
明細項目オブジェクトは、データファイルから明細項目用のデータを受け取り、フォーム上でその明細項目オブジェクトが所属している明細範囲の行数内で、明細項目用データの数だけ明細範囲内で繰り返し印刷されます。

例) 明細項目用データは3個、明細範囲は5行の場合



項目オブジェクトをダブルクリックすると、「文字オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

「文字オブジェクト」ダイアログボックス



※ 次に説明する固定文字オブジェクトの「文字オブジェクト」ダイアログボックスとは、設定できる項目が少し異なります。

【固定文字オブジェクト】



ツールバーの固定文字オブジェクト作成ボタンをクリックします。次に、固定文字オブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に固定文字オブジェクトが作成されます。

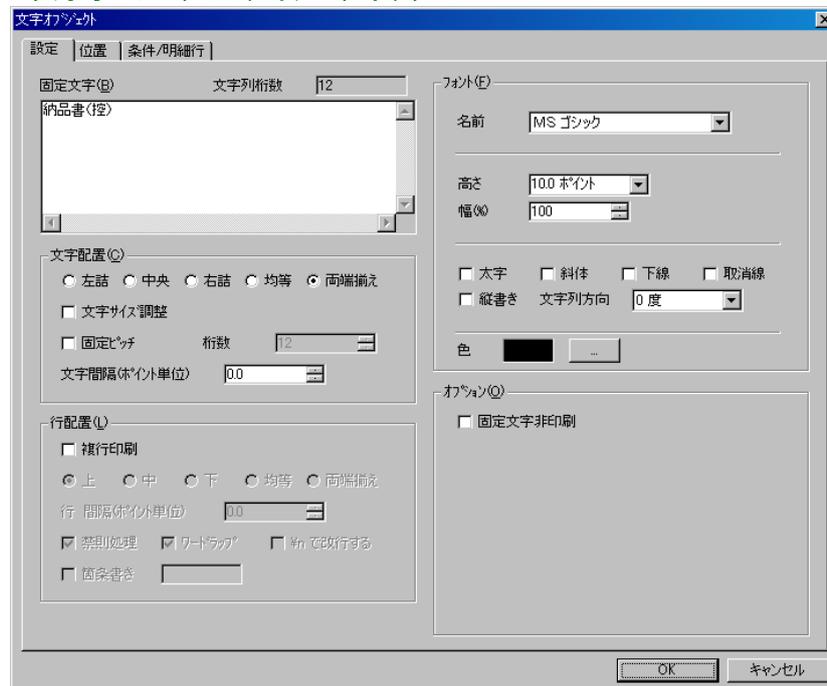
●固定文字オブジェクト

固定文字オブジェクトは、周囲が緑色になっています。



固定文字オブジェクトをダブルクリックすると、「文字オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

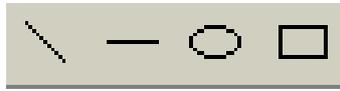
「文字オブジェクト」ダイアログボックス



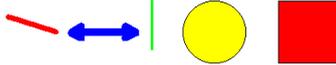
【固定文字(B)】に表示したい文字列を入力して【OK】をクリックすると、入力された文字列が表示されます。

【図形オブジェクト】

図形オブジェクトには、線オブジェクト、水平線/垂直線オブジェクト、楕円オブジェクト、矩形オブジェクトの4種類あります。



ツールバーの上図のボタン(左から線、水平線/垂直線、楕円、矩形オブジェクト作成ボタン)をクリックします。次に、図形オブジェクトを配置したい場所で、図形の大きさが目的の大きさになるまでドラッグし、マウスのボタンを放します。フォーム上に図形オブジェクトが作成されます。



図形オブジェクトをダブルクリックすると、「図形オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

「図形オブジェクト」ダイアログボックス(矩形)



必要な条件を設定し、【OK】をクリックすると、条件を設定した図形が表示されます。

【表オブジェクト】



ツールバーの表オブジェクト作成ボタンをクリックします。次に、表を配置したい場所で、表の大きさが目的の大きさになるまでドラッグし、マウスのボタンを放します。フォーム上に表オブジェクトが作成されます。表オブジェクトをダブルクリックすると、「表オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

「表オブジェクト」ダイアログボックス

A screenshot of the 'Table Object' dialog box. The dialog has a title bar with '表オブジェクト' and a close button. It contains several sections: '設定' (Settings) with tabs for '位置' (Position) and '条件/明細行' (Conditions/Detail Rows); '列数(L)' (Number of columns) and '行数(R)' (Number of rows) spinners, both set to 1; a '罫線' (Grid lines) section with '種類(S)' (Type) set to '実線' (Solid line), '色(C)' (Color) set to black, and '太さ(W)' (Thickness) set to 0.5 points; a '罫線の角を丸める大きさ' (Rounding size of grid line corners) section with four checkboxes for '左上' (Top-left), '右上' (Top-right), '左下' (Bottom-left), and '右下' (Bottom-right), all unchecked, and '楕円の幅(mm)' (Ellipse width) and '高さ(mm)' (Height) spinners both set to 0; and a '罫線' (Grid lines) section with '種類(T)' (Type) set to '実線' (Solid line) and '太さ(D)' (Thickness) set to 0 points. At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

表の列数、行数を入力して【OK】をクリックすると、指定された列数、行数の表が表示されます。

【バーコードオブジェクト】



ツールバーのバーコードオブジェクト作成ボタンをクリックします。次に、バーコードオブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上にバーコードオブジェクトが作成されます。



バーコードオブジェクトをダブルクリックすると、「バーコードオブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

「バーコードオブジェクト」ダイアログボックス

バーコードオブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

固定バーコード(B) 文字列桁数 12

012345678901

オプション(O)

JIS表示

共通(C)

種類(T) JAN13/EAN13

倍率(M) 1.027 (ドット)

バー幅補正(A) -1 (ドット単位)

回転(R) 0度

文字表示(P)

OK キャンセル

バーコードの種類、倍率、バーコードデータなどを指定し、【OK】をクリックすると、指定されたバーコードが表示されます。

【イメージオブジェクト】

ビットマップと、JPEG、TIF、PNG、GIFのファイルがイメージオブジェクトとして使用できます。イメージオブジェクトを作成する方法は2つあります。配置後の操作は、両方とも同じです。

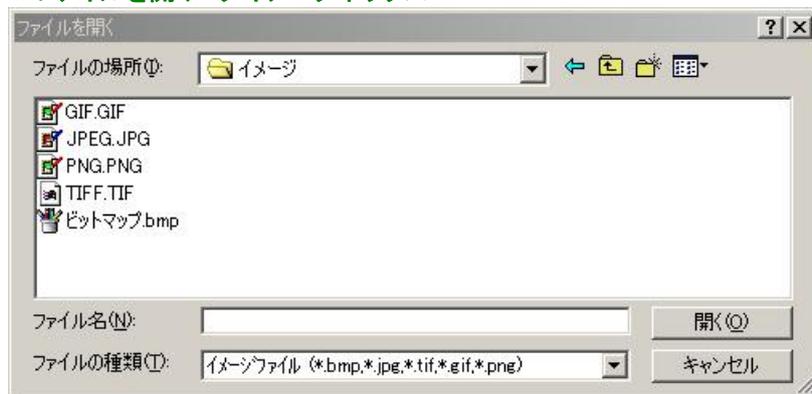
イメージオブジェクトの作成方法

1. イメージオブジェクト作成ボタンによる作成



ツールバーのイメージオブジェクト作成ボタンをクリックします。《ファイルを開く》ダイアログボックスが表示されますので、フォームに貼り付けたいファイルを選択し、【開く(O)】をクリックします。

《ファイルを開く》ダイアログボックス



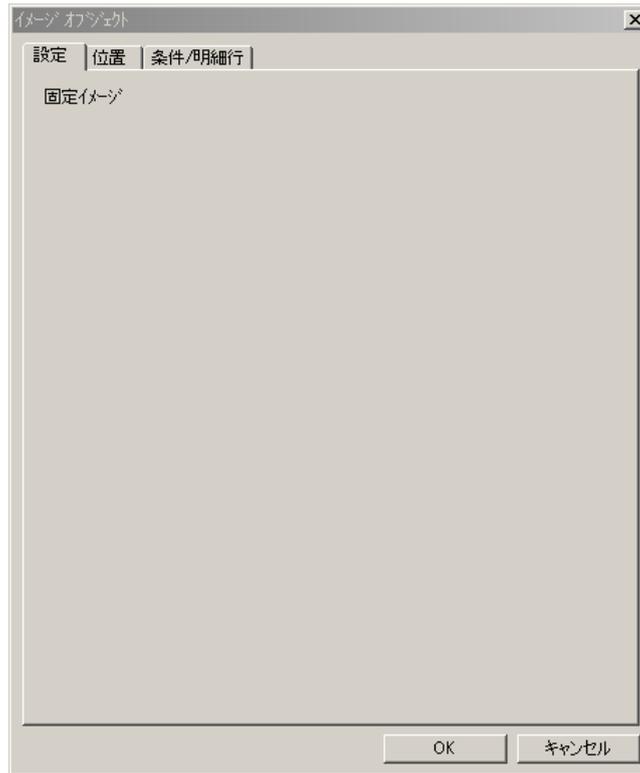
フォーム上にイメージオブジェクトが表示されますので、イメージオブジェクトを配置したい場所まで移動し、目的の大きさになるようにサイズ変更します。(移動とサイズ変更については、「2. 3. 5 オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック」を参照してください。)

2. 貼り付け機能による配置

フォームに配置したいイメージを、クリップボードにコピーします。次に、PrintPro for Designer の【編集(E)】メニューの【貼り付け(P)】を選択します。フォーム上にイメージオブジェクトが表示されますので、イメージオブジェクトを配置したい場所まで移動し、目的の大きさになるようにサイズを変更します。(移動とサイズ変更については「2. 3. 5 オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック」を参照してください。)

イメージオブジェクトをダブルクリックすると、《イメージオブジェクト》ダイアログボックスが表示されます。イメージオブジェクトでは、《設定》タブで設定できる項目はありません。《条件/明細行》タブで、印刷条件についての設定をすることができるだけです。(《条件/明細行》タブについては、「2. 3. 8 印刷条件を指定する」を参照してください。)

《イメージオブジェクト》ダイアログボックス

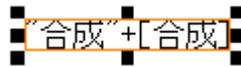


【合成オブジェクト】

合成オブジェクトは、項目データ、文字列、16進数、合成オブジェクトに用意されている予約語を合成し、1つのオブジェクトとして配置することができます。(合成の方法については、「2. 3. 17 合成指定」を参照してください。)



ツールバーの合成オブジェクト作成ボタンをクリックします。次に、合成オブジェクトを配置したい場所をクリックすると、フォーム上に合成オブジェクトが作成されます。合成オブジェクトは、周囲が橙色になっています。



合成オブジェクトをダブルクリックすると、「合成オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

「合成オブジェクト」ダイアログボックス

2.3.4 オブジェクトの選択

作成したオブジェクトの位置、サイズ、設定内容などを変更するには、まず、そのオブジェクトを選択しなければなりません。選択されたオブジェクトの周りには、サイズ変更マークが表示されます。

●1つのオブジェクトを選択する場合



ツールバーのオブジェクト選択ボタンをクリックします。(通常、このボタンは選択状態になっています。)次に、選択したいオブジェクトをクリックします。



●複数のオブジェクトを選択する場合

文字の種類、を同じ設定にしたり、位置を揃えたり、一度に削除したり、ロックする場合など、複数のオブジェクトに変更や修正を行いたい場合に複数のオブジェクトを選択します

複数のオブジェクトの選択方法は2つあります。

オブジェクトの複数選択方法

1. ツールバーのオブジェクト選択ボタンをクリックします。フォーム上のオブジェクトのない場所でドラッグを行うと、ボタンを離すまで四角が表示されます。その四角の範囲内にあるオブジェクトは、すべて選択されたこととなりますので、複数選択したいオブジェクトが四角の範囲内に入るようにドラッグします。
2. Shiftキーを押しながら、複数選択したいオブジェクトをクリックしていくと、複数選択することができます。

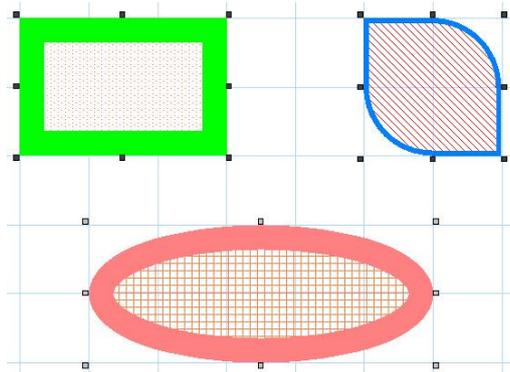


●複数選択されたオブジェクトの基準オブジェクトの指定

複数選択されたオブジェクトの中でも、後記述のオブジェクトの位置を揃えたりする際の、基準となるオブジェクトを指定することができます。

オブジェクトを複数選択し、基準としたいオブジェクトを再度クリックすると、基準オブジェクトとなります。基準オブジェクトとなったオブジェクトは、同時に複数選択されたオブジェクトとは異なる選択マークが、オブジェクトの周りに表示されます。

例)楕円オブジェクトが基準オブジェクトの場合



- ※ ロックされているオブジェクトを、1. の方法では、複数選択することはできません。2. の方法のように、Shiftキーを押しながら複数選択したいオブジェクトをクリックしていくと、ロックされていても複数選択することができます。(ロックについては、「2. 3. 5 オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック」を参照してください。)
- ※ 明細範囲や表内のオブジェクトのように、他のオブジェクトに囲まれた複数のオブジェクトを選択する場合には、選択したくないオブジェクトをロックして選択できないようにするか、2. の方法のように選択したいオブジェクトをShiftキーを押しながら、クリックして選択していきます。また、オブジェクトを選択する時に、選択したくないオブジェクトの種類を、【オブジェクト(B)】メニューの【選択可能オブジェクト(O)】で指定することもできます。

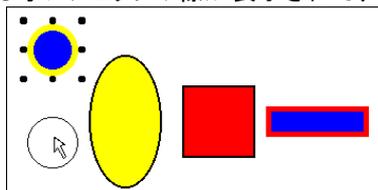
2. 3. 5 オブジェクトの移動、サイズ変更、ロック

●オブジェクトの移動

オブジェクトの移動方法は2つあります。

オブジェクトの移動方法

1. 移動したいオブジェクトの内側、あるいは線上をドラッグすることにより、オブジェクトを移動することができます。ドラッグしている間はオブジェクトの線が表示されて、移動した位置を示します。

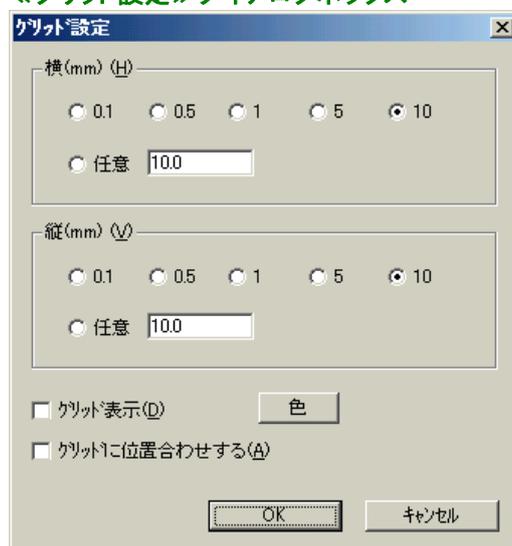


2. 移動したいオブジェクトを選択します。その後、矢印キー(→ ← ↑ ↓)を押して、オブジェクトを適切な場所まで移動します。

オブジェクトの移動は、通常ではグリッドで設定されている間隔で移動します。【表示(D)】メニューの【グリッドに位置合わせをする(J)】がチェックされている場合、オブジェクトを移動するたびに、オブジェクトの左上の原点が、グリッドに一致します。グリッドに一致させたくない場合、または自分で微調整を行いたい場合は、チェックを外してください。

グリッドの設定は、【表示(D)】メニューの【グリッド設定(S)】により「グリッド設定」ダイアログボックスを開いて行います。

「グリッド設定」ダイアログボックス



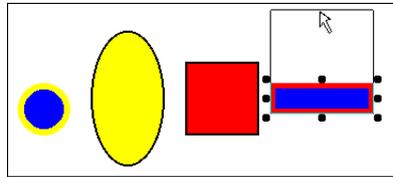
●オブジェクトのサイズ変更

オブジェクトのサイズは、水平方向、あるいは垂直方向だけに変更することや、両方向同時に変更することができます。

オブジェクトのサイズ変更の方法は2つあります。

オブジェクトのサイズ変更方法

1. サイズ変更したいオブジェクトのサイズ変更マークをドラッグすることにより、サイズを変更することができます。水平、または垂直だけにサイズ変更する場合は、各辺の中心にあるサイズ変更マークをドラッグします。また、両方向同時にサイズを変更する場合には、角のサイズ変更マークをドラッグします。



2. Shiftキーを押しながら、→キーを押すと選択されているオブジェクトの横幅が広がります。↓キーを押すと高さが高くなります。←キーを押すと横幅が狭くなり、↑キーを押すと高さが低くなります。

※ **【表示(D)】メニューの【グリッドに位置合わせをする(J)】をチェックしてある場合、サイズ変更はグリッド幅に合わせて行われます。**

◎正円、四角形のオブジェクトの作り方

Shiftキーを押しながら円と四角形の作成や、ドラッグによるサイズ変更を行うと、それぞれ正円、正四角形になります。

◎縦/横比を変えないオブジェクトの拡大、縮小

Shiftキーを押しながら、図形オブジェクトやイメージオブジェクトのサイズ変更を行うと、縦/横比を変えずに拡大、縮小をすることができます。

※ **ロックされているオブジェクトの移動、サイズ変更はできません。**

※ **<複行印刷>のチェックが外れている文字オブジェクトの高さは、常に文字の高さとなり、変更することはできません。**

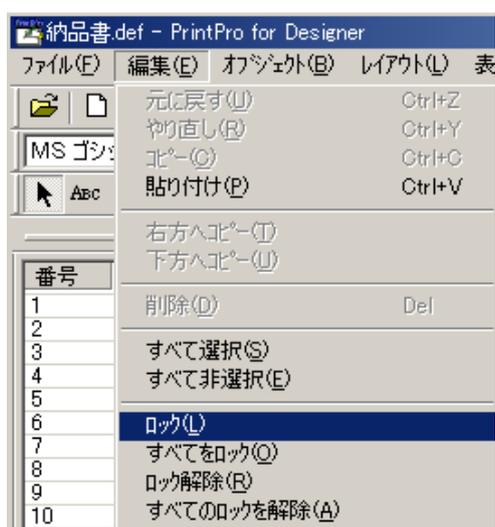
※ **バーコードの幅や高さは、バーコード指定、またはデータにより決定されます。**

●オブジェクトのロック

オブジェクトをロックすると、選択してもオブジェクトの移動と、サイズ変更、削除ができなくなります。矢印キーで移動か、サイズ変更、削除を行おうとしても、『ロックされています』というメッセージが表示され、移動とサイズ変更、削除を行うことはできません。



ロックしたいオブジェクトを選択し、【編集(E)】メニューの【ロック(L)】を選択すると、選択しているオブジェクトをロックすることができます。複数のオブジェクトを同時にロックする場合は、ロックしたいオブジェクトを複数選択して行います。【すべてをロック(O)】を選択すると、フォーム上のすべてのオブジェクトをロックします。



ロックを解除する場合は、ロックを解除したいオブジェクトを選択し、【編集(E)】メニューの【ロック解除(R)】を選択してください。【すべてのロックを解除(A)】を選択すると、フォーム上でロックされているオブジェクトのロックをすべて解除します。

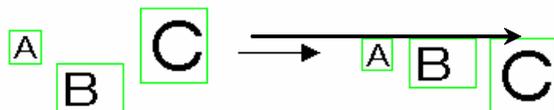
※ オブジェクトを複数選択し、ロックを解除する場合は、オブジェクトの複数選択方法の2.の方法を使って行ってください。1.の方法では、ロックされているオブジェクトを複数選択し、ロックを解除することはできません。

2.3.6 オブジェクトの位置を揃える

複数のオブジェクトの位置を、水平方向、または垂直方向に整列させます。まず、整列させたい複数のオブジェクトを選択し、基準としたいオブジェクトを再度クリックします。次に、【レイアウト(L)]メニューの【上端を揃える(T)]、または【下端を揃える(O)]、【左端を揃える(L)]、【右端を揃える(R)]を選択します。

【上端を揃える(T)]

選択している複数のオブジェクトの上端を、基準オブジェクトの上端に揃えます。



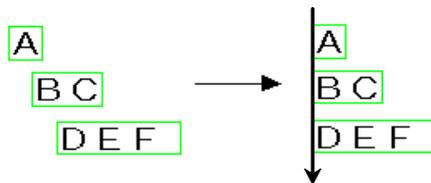
【下端を揃える(O)]

選択している複数のオブジェクトの下端を、基準オブジェクトの下端に揃えます。



【左端を揃える(L)]

選択している複数のオブジェクトの左端を、基準オブジェクトの左端に揃えます。



【右端を揃える(R)]

選択している複数のオブジェクトの右端を、基準オブジェクトの右端に揃えます。



2.3.7 オブジェクトの重なり順の変更

オブジェクトが重なり合っている場合に、選択されているオブジェクトを手前に表示/印刷するか、他のオブジェクトの下に表示/印刷するかを指定することができます。まず、重なっている順番を変更したいオブジェクトを選択します。次に、【レイアウト(L)】メニューの【前面へ(F)】、または【背面へ(B)】を選択します。



※ 項目オブジェクトの重なり順の変更はできません。項目オブジェクト(固定項目は明細項目よりも前)は、常に一番手前になります。

2.3.8 印刷条件を指定する

オブジェクトの印刷条件を指定することができます。印刷条件を指定する場合は、各オブジェクトのダイアログボックスの「条件/明細行」タブで指定します。



【条件】

<条件>

判定条件を指定します。

◎無条件印刷

無条件に印刷します。

◎対象項目が空/空でない

対象項目が空/空でない時に印刷します。

※ 使用する項目のデータ型は、必ず文字型にしてください。文字型でない場合、正常に動作しません。

◎対象項目の数値と判定値が同じ/判定値より小さい/判定値より大きい/判定値以下/判定値以上
対象項目の数値と判定値が同じ/判定値より小さい/判定値より大きい/判定値以下/判定値以上の時に印刷します。

※ 使用する項目のデータ型は、必ず数値を扱う型にしてください。具体的には、数値型、演算型、集計型、連番型です。数値を扱う型でない場合、正常に動作しません。

◎対象項目の文字列の桁数が判定値と同じ/判定値より小さい/判定値より大きい/判定値以下/判定値以上

対象項目の文字列の桁数が判定値と同じ/判定値より小さい/判定値より大きい/判定値以下/判定値以上の時に印刷します。

※ 使用する項目のデータ型は、必ず文字型にしてください。文字型でない場合、正常に動作しません。

◎先頭ページ/最終ページ

先頭ページ/最終ページに印刷します。

◎明細最終行

明細印刷で明細行がページの最終行となる場合に印刷されます。高さが0mmでない集計行、総計行となる場合には印刷されません。

※ 固定文字オブジェクト、図形(線、矩形、楕円)オブジェクトのみに有効です。

※ 明細項目がないと、使用することはできません。

※ 明細最終行を指定したオブジェクトは、明細項目の上に印刷されます。

◎対象項目の文字列が前レコードと異なる

指定された項目の内容を、現在のレコードと1つ前のレコードで比較し、異なる時に印刷します。

※ 項目には明細項目を選択します。

※ 明細項目がないと、使用することはできません。

◎明細余白先頭行

明細行印刷で、ページ内に明細範囲のうち印刷に使用されない明細行がある時に、その使用されない明細行の先頭行に印刷を行います。

※ 明細項目がないと、使用することはできません。

使用例)

1. 『----以下余白----』と表示する固定文字オブジェクトを作成し、明細行の2行目に配置します。

※ <集計機能を使用する>がチェックされている場合は、『明細余白先頭行』を指定するオブジェクトは、明細範囲内に配置してください。

品名	納入数	納品数量	引当	納入単価	納入金額	仕代	登録番号	備考
品名	納入数	納品数量	引当	納入単価	納入金額	仕代	登録番号	備考
以下余白								

2. 印刷条件に『明細余白先頭行』を指定します。

印刷結果)

〒 099-0012 神奈川県川崎市66-999-77 TEL: 111-555-1178 Y S 川崎 次郎		納品書 (控) 2002年 1月 12日		コード帳: 印刷帳: 1 2						
印刷区分	売上区分	他社コード	PrintPro for Web 株式会社							
S	ZZ	0								
品番	品名	納入数量	原価	納品数量	引当	納入原価	納入金額	上代	支払番号	備考
12	PrintPro ToolKit	5	5	5		200,000	¥8,000,000			S
-----以下余白-----										
						合計	¥8,000,000			
						総合計	¥8,300,000			

<項目>

判定を行う項目を指定します。判定は、印刷を行うオブジェクトと同一レコードの指定された項目のデータの内容により行われます。

<判定値>

判定値を指定します。

【条件式】

選択しているオブジェクトを印刷するための条件を設定します。

式の長さ	半角60文字以内で記述してください。																
使用可能な比較演算子	<p>使用可能な比較演算子は、下記の演算子のみです。</p> <table border="0"> <tr> <td>&</td> <td>AND条件</td> <td> </td> <td>OR条件</td> </tr> <tr> <td>=</td> <td>等しい</td> <td><></td> <td>等しくない</td> </tr> <tr> <td>>=</td> <td>以上</td> <td><=</td> <td>以下</td> </tr> <tr> <td><, ></td> <td>大小比較</td> <td>(,)</td> <td>カッコ</td> </tr> </table> <p>※ 演算子は全て半角で入力してください。 ※ 文字列や、文字型の項目を対象とした条件式の指定には、『=』と『<>』の2種類の比較演算子しか使用できません。 ※ 演算子の区切り文字としてカッコ『(』、『)』を設定してください。 例) ([1]<> "")([2]<> "")([3]<> "") また、演算に優先順位が必要となる場合、『(』、『)』を使用して演算の優先順位を明確にする必要があります。</p>	&	AND条件		OR条件	=	等しい	<>	等しくない	>=	以上	<=	以下	<, >	大小比較	(,)	カッコ
&	AND条件		OR条件														
=	等しい	<>	等しくない														
>=	以上	<=	以下														
<, >	大小比較	(,)	カッコ														
項目	<p>項目のデータを条件式で使用することができます。 [n] nには項目番号1~500を指定してください。 ※ 全て半角で入力してください。 ※ 使用できる項目のデータ型は、文字型、数値型、演算型、集計型、連番型です。それ以外のデータ型は、指定しても正常に動作しません。</p> <p>◆指定できる項目のデータ型 オブジェクトによって、使用することができる項目のデータ型が異なります。</p> <p>●固定文字オブジェクト、図形オブジェクト、表オブジェクト、バーコードオブジェクト、イメージオブジェクト ⇒ 演算型、集計型、連番型以外を使用することができます。</p> <p>●項目オブジェクト ・明細項目オブジェクト ⇒ 集計型は使用することができません。それ以外の型は使用することができます。</p>																

	<ul style="list-style-type: none"> ・固定項目オブジェクト ⇒ 対象となる上記の全ての型を使用することができますが、明細を使用すると、最後の行を判定に使用します。 ●合成オブジェクト ・明細連動ではない場合 ⇒ 対象となる上記の全ての型を使用することができますが、明細を使用すると、最後の行を判定に使用します。 ・明細連動の場合 ⇒ 集計型は使用することができません。それ以外の型は使用することができます。
数値	123、123.45などの数値を条件式で使用することができます。
文字列	<p>“ABC”、“ ”など、文字列の前後を『』で囲むことで、条件式で文字列を使用することができます。</p> <p>※ 文字列内に『』を使用することはできません。</p> <p>※ 文字列や、文字型の項目を対象とした条件式の指定には、『=』と『<』の2種類の比較演算子しか使用できません。</p> <p>※ 文字型の項目を対象とした条件式でNULL(“”)判断する場合、文字型データは空にしてください。</p>
文字列の切出し指定	<p>L[[n],m] 項目[n]の値の左からm桁を判定に使用します。</p> <p>R[[n],m] 項目[n]の値の右からm桁を判定に使用します。</p> <p>M[[n],s,m] 項目[n]の値のs桁目からm桁を判定に使用します。</p> <p>例) 項目20の5桁目(全角3文字目)から6桁(全角3文字)が『得意先』の時に印刷する ⇒ M[[20],5,6]=“得意先”</p> <p>※ 全角1文字が2桁、半角文字1文字が1桁としてカウントされます。</p>

例1) 項目2の値が0以外の時に印刷する

⇒ [5]<>0

例2) 項目6の値が項目7よりも大きい時に印刷する

⇒ [6]>[7]

例3) 項目1の値が10よりも大きく、かつ、項目3の値が10以上か、項目17の値が20未満の時に印刷する

⇒ [1]>10 & ([3]>=10 | [17]<20)

例4) 項目20の値が『得意先』の時に印刷する

⇒ [20]=“得意先”

【明細行】

<明細行(I)>、<集計行1>、<集計行2>、<集計行3>、<集計行4>、<集計行5>、<総計行(T)>、<ヘッダー(H)>、<フッター(F)>

明細行がある場合、オブジェクトをどの明細行に印刷するか指定することができます。

※ 集計指定機能を使用しない場合は、表示されません。

※ 集計指定で【ページ計】をチェックしている時は、<集計行5>の代わりに<ページ計5>が表示されます。

<明細連動(固定文字/図形/固定バーコード/合成オブジェクト)>

固定文字オブジェクト、図形オブジェクト、固定バーコードオブジェクト、合成オブジェクトの場合、上記のチェックボックスのチェックを有効にする時にチェックします。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

2.3.9 文字種類、サイズ、属性の変更

項目オブジェクト、固定文字オブジェクト、合成オブジェクトの文字列配置、フォントなどを変更することができます。変更したいオブジェクトをダブルクリックすると、「文字オブジェクト」/「合成オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

※ 合成オブジェクトは、【データ型(D)】が『文字』か『数値』の場合のみに変更することができます。

「文字オブジェクト」ダイアログボックス

項目オブジェクト(文字型、数値型)

【項目番号】

何番目のデータを表示/印刷するかを表示します。

【項目名】

データ定義に定義されている項目番号に対応する項目名称を表示します。

【データ型】

項目オブジェクトのデータ型を表示します。

【区分】

固定項目か、明細項目を選択します。

【明細番号】

項目オブジェクトが明細項目の場合、どの明細範囲に所属するのか選択します。

【文字列桁数】

表示/印刷するデータの桁数を指定します。数値型で、数値表現にマーク付加、3桁区切りを指定する場合には、必要な桁数を加えて指定しなければいけません。(1文字を1桁とします。)最大桁数は、文字型8192文字、数値型20文字です。

- ※ 指定した文字列桁数を超えるデータは、『#』が表示されます。
- ※ 合成オブジェクトには、【文字列桁数】はありません。合成オブジェクトの桁数を設定する場合は、【文字配置(C)】の〈桁数〉を使用します。〈固定ピッチ〉がチェックされている場合は、〈桁数〉は、固定ピッチ用の設定になります。チェックされていない場合は、表示/印刷するデータの桁数を指定するのに使用できます。この方法は、合成オブジェクトでのみ有効です。

【文字の切出し(U)】

与えられたデータを指定した〈切出し開始桁〉から切り出すことが可能になります。何桁切り出すかは、【文字列桁数】によって決まります。切出し開始桁と文字列桁数により、実際に印刷するデータを指定することになります。

例) データは全部で7桁あるが、そのうちの数字部分の4桁を切り出す。

データ : 金額 1000円
 文字列桁数 : 4
 切出し開始桁 : 6

印刷文字列は『1000』になります。

- ※ 『額』と『1』の間に5桁目になる半角のスペースがあります。
- ※ 全角1文字が2桁、半角文字1文字が1桁としてカウントされます。

ハカク	→	4桁
全角	→	4桁

【文字列配置(C)】

〈左詰〉/〈中央〉/〈右詰〉/〈均等〉/〈両端揃え〉

選択したオブジェクトの枠内に、どのように文字列を配置するかを指定します。

左詰	ABC
中央	ABC
右詰	ABC
均等	A B C
両端揃え	A B C

〈文字サイズ調整〉

設定した文字オブジェクトの幅に全てのデータが表示されるように、フォントサイズを調整します。文字オブジェクト幅を超える文字データが与えられた場合、全てのデータが表示されるようフォントサイズが縮小されて、表示されます。

使用できる文字配置

左詰配置、中央配置、右詰配置、均等配置、両端配置で使用できます。各種固定ピッチ配置では使用できません。

使用できるデータ型

文字型、日付型、郵便番号型、電話番号型、固定文字型で使用できます。数値型、演算型、部数型、連番型、集計型、バーコード型、イメージ型では使用できません。合成オブジェクトでは文字型のみ使用できます。

※ 『複行印刷』を指定している場合は動作しません。

<固定ピッチ>

オブジェクトの枠内に枠の幅を、<桁数>で指定されている文字列桁数で分割した位置に、文字列を1文字ずつ配置します。固定ピッチ指定は、<均等>と同機能に思えますが、<均等>が受け取った文字列の文字数で枠の幅を分割するのに対し、<固定ピッチ>では、項目に指定されている文字桁数で枠の幅を分割します。また、<均等>よりも、<固定ピッチ>の方が優先されます。各桁を分割する枠線の引いてある伝票の、合計欄などに印刷する場合に便利です。

<文字間隔(ポイント単位)>

複行印刷の時の文字間隔を、ポイント単位で指定します。

【行配置(L)】(オブジェクトが文字型の時だけ指定できます。)

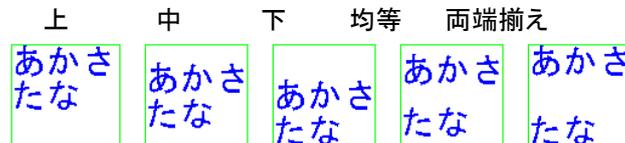
<複行印刷>

データを複数の行として表示できます。また、オブジェクトのサイズを、横方向だけでなく縦方向にも他のオブジェクト同様に変更することが可能になります。データを1行に印刷できる場合には、項目オブジェクトの中心にします。データを1行に印刷できない場合には、文字列を複行で表示/印刷します。文字列内に改行がある場合には、文字列を改行します。分割可能な最初のスペースで、文字列を2行に分割します。

※ チェックすると、以下の項目も指定可能になります。

<上>/<中>/<下>/<均等>/<両端揃え>

選択したオブジェクトの枠内に、どのように文字列を配置するかを指定します。



<行 間隔(ポイント単位)>

複行印刷の時の行間隔を、ポイント単位で指定します。

<禁則処理>

句読点やカギカッコといった、行頭や行末に来ると見栄えが悪くなる記号を、行末や行頭に強制的に移動する処理をします。

禁則処理の対象となる文字は以下の通りです。

・行頭禁則文字

、。、。)}]]°
、。、。)}]]>》」』】

・行末禁則文字

([{「
([[{<《「『【

<ワードラップ>

文字列を折り返す時に、行末にかかっている単語を次の行へ送ります。

<%nで改行する>

通常、文字列内の改行コードは16進数で(0DH、0AH)となりますが、CSV、TAB区切り形式データに改行を含めたい場合にチェックします。『¥n』が改行コードとなります。この場合、『¥n』は印刷されません。『¥』を印刷したい場合は、文字列に『¥¥』と記述します。

<簡条書き>

オブジェクトの文字列は簡条書きで印刷されます。また、右にあるテキストボックスに文字列が入力できるようになり、テキストボックスに入力された文字をオブジェクトの文字列の各行の先頭に付けて印刷できるようになります。テキストボックスに入力できる文字列は、半角8文字以内です。

【フォント(F)】

<名前>

この項目に指定されているフォントの種類で表示します。

<高さ>

この項目に指定されているフォントのサイズで表示します。

<幅(%)>

フォントの幅を10~1000%で指定します。

<太字>、<斜体>、<下線>、<取消線>

文字の修飾を指定します。それぞれをチェックすることにより指定を行います。

<縦書き>

文字の表示/印刷方向が縦書きになります。

<文字列方向>

文字列方向のコンボボックスで、『0度、90度、180度、270度』の中から選択して、オブジェクトを回転することができます。

<色>

フォントの色を指定します。

【オプション(O)】

<普通漢字>

データ中の数字1、2、3…を漢数字一、二、三…に変化し、印刷を行います。

<手形漢字>

数値データを手形金額表現に変換し、印刷を行います。

例) 2570 ⇒ 金貳千五百七拾円也

※ データは、金額を表す文字列でなければいけません。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

項目オブジェクト(日付型)

日付型の項目オブジェクトを作成すると、年、月、日の3つのオブジェクトが作成されます。データを年、月、日に分割し、それぞれのオブジェクトに表示/印刷します。《項目オブジェクト》ダイアログボックスには、【印刷項目】が追加されます。

年月日



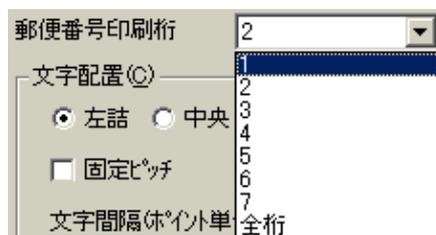
【印刷項目】

右にあるコンボボックスから、そのオブジェクトが、日付けデータの年、月、日のいずれを印刷するか、それぞれで選択することができます。『全項目』を選択すると、選択したそのオブジェクト1つだけで、年、月、日が表示/印刷されます。

項目オブジェクト(郵便番号型)

郵便番号型の項目オブジェクトを作成すると郵便番号の各桁を分割した7つのオブジェクトが作成されます。データを郵便番号の1桁目から7桁目までに分割し、それぞれのオブジェクトに表示/印刷します。《項目オブジェクト》ダイアログボックスには、【郵便番号印刷桁】が追加されます。

1 2 3 4 5 6 7



【郵便番号印刷桁】

右にあるコンボボックスから、そのオブジェクトが郵便番号データのどの桁を印刷するか、それぞれで選択することができます。『全項目』を選択すると、選択したそのオブジェクト1つだけで、郵便番号がすべて表示/印刷されます。

項目オブジェクト(電話番号型)

電話番号型の項目オブジェクトを作成すると、市外局番、局番、番号の3つのオブジェクトが作成されます。データを市外局番、局番、番号に分割し、それぞれのオブジェクトに表示/印刷します。《項目オブジェクト》ダイアログボックスには、【電話番号印刷】が追加されます。

市外局番番号



【電話番号印刷項目】

右にあるコンボボックスから、そのオブジェクトが電話番号データの市外局番、局番、番号のどれを印刷するか、それぞれで選択することができます。『全項目』を選択すると、選択したそのオブジェクト1つだけで、電話番号がすべて表示/印刷されます。

項目オブジェクト(イメージ型)

データにより、該当するイメージデータを表示/印刷します。イメージ型の項目オブジェクトをダブルクリックすると、《イメージオブジェクト》ダイアログボックス(項目イメージ用)が表示されます。

《イメージオブジェクト》ダイアログボックス

イメージ オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号 36

項目名 項目イメージ

区分 固定項目 明細番号 1

最背面に印刷する

OK キャンセル

<最背面に印刷する>

印刷実行時、イメージ型の項目オブジェクトを、最背面に印刷します。

項目オブジェクト(バーコード型)

データを、フォーム作成時に指定したバーコードで表示/印刷します。バーコードオブジェクトをダブルクリックすると、《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス(項目バーコード用)が表示されます。

項目オブジェクト(部数型)

データを、そのページの印刷部数として使用します。ラベル帳票の場合は、ラベルの印刷部数として使用します。

- ※ 明細項目としては使用できません。
- ※ データ定義に部数型の項目がある場合、部数指定は無効です。
- ※ 複写紙モードとの併用できません。併用されないようご注意ください。
- ※ 部数型は、1つのフォームに対し、1つのみ作成してください。

項目オブジェクト(連番型)

連番の印刷を行います。また、データを連番印刷の開始番号とします。連番は、次の場合に自動的にカウントされます。また、改ページ条件が成立した場合の最初のページでは、そのページの先頭レコードの連番型データが、連番印刷の開始番号となります。

- 1) 部数指定がある場合は、1部毎に1カウント増加。
- 2) 明細行のあるフォームで、明細行の印刷が明細行数を超えて、自動的に改ページが行われた場合は、1ページ毎に1カウント増加。

項目オブジェクト(固定型)

データファイルからのデータを無視して、【テキスト固定文字・演算式(T)】で、指定された文字を印刷します。

固定文字オブジェクト

固定文字オブジェクトには、項目番号、項目名、データ型はありません。《文字オブジェクト》ダイアログボックスには、【固定文字(B)】と、【オプション(F)】に<固定文字非印刷>が表示されます。

【固定文字(B)】

表示/印刷する文字列を入力します。入力できる文字数は、半角文字で8192文字までです。

【オプション(O)】

<固定文字非印刷>

指定された固定文字は、フォーム上と、プレビューには表示されますが、印刷はされません。

2. 3. 10 数値表現の変更

項目オブジェクトの【データ型】が数値型、集計型、演算型、または合成オブジェクトの【データ型(D)】が『数値』になっている場合は、オブジェクトのダイアログボックスの【オプション(O)】で、数値表現(数値データの表示/印刷方法や、丸め処理方法)を指定することができます。

The screenshot shows the 'オプション(O)' dialog box with the following settings:

- 小数部桁数: 3
- マーク: マーク (dropdown menu)
- 0詰 3桁区切り
- 小数点印刷なし 小数部0のとき印刷しない
- 0のとき印刷しない 有効桁を印刷する
- 符号区分: なし (dropdown menu) 種類: - (dropdown menu)
- 最終桁処理: 四捨五入 切り捨て 切り上げ

<小数部桁数>

数値を表示/印刷する時の、小数点以下の桁数を指定します。

- ※ 整数値のみを扱う場合、有効桁は15桁です。
- ※ 小数値を扱う場合、有効桁は整数部、小数部の両方を合わせて10桁です。
有効桁を超える数値は保障できません。ご注意ください。
- 例) 小数第三位まである値を扱うと、整数部には7桁まで使用することができます。

<マーク>

チェックすると、右にコンボボックスが表示されます。コンボボックスから選択したマークを数値の前にマークを付けられるようになります。コンボボックスの中のないマークを付けたい場合は、コンボボックスで選択されているマークの上に上書きすることにより、指定できるようになります。

<0詰>

文字桁数内に右詰で印刷された数値の左側にスペースが生じる場合、そのスペースに『0』を印刷します。

例) 文字列桁数が6桁だが、データが3桁の『123』である場合

000123

<3桁区切り>

3桁毎に『,』が挿入されます。

例) 3桁区切り

12,345

<小数点印刷なし>

小数部がある場合でも、小数点の表示/印刷は行われません。

<小数部0のとき印刷しない>

小数部以下が0の場合、小数部は表示/印刷されません。

<0のとき印刷しない>

数値が0の場合、表示/印刷されません。

<有効桁を印刷する>

有効桁を表示/印刷します。

<符号区分>

数値が負になる場合、マイナス記号(-)を<種類>で選択されているマークに変換して、文字列の前と後のどちらに付けて表示/印刷するかを選択します。

例) -123,567 △123,567
 123,567- 123,567▼

<種類>

数値が負になる場合、マイナス記号(-)を変換するマークを選択します。

選択可能なマーク: 『-』、『△』、『▲』、『▽』、『▼』

<最終桁処理>

四捨五入 / 切り捨て / 切り上げ

指定された小数部の桁数で数値を表示/印刷する時に、表示/印刷できない桁が生じた場合、表示/印刷できない桁を、どのように処理するか指定します。

※ <マーク付加>、<3桁区切り>、<符号区分>を指定する場合には、必要な桁数を加えて指定しなければいけません。(1文字を1桁とします。)

2. 3. 11 図形パターンの変更

図形オブジェクトの、線、塗りつぶし、矢印の有無などを指定します。変更したい図形オブジェクトをダブルクリックすると、「図形オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

◀図形オブジェクト>ダイアログボックス



※ 直線、水平線、垂直線オブジェクトの場合は、塗りつぶし、矩形の角を丸める大きさの指定はできません。

※ 円、矩形オブジェクトの場合は、矢印の指定はできません。

※ 円オブジェクトの場合は、矩形の角を丸める大きさの指定はできません。

【線】

<スタイル(S)>

線の種類、図形の輪郭線の種類を指定します。

<色(C)>

線の色、図形の輪郭線の色を指定します。

<太さ(W)>

線の太さ、図形の輪郭線の太さを指定します。

【塗りつぶし】

図形オブジェクトが、楕円、矩形の場合に表示される設定項目です。

<スタイル(T)>

図形オブジェクトの内部を、どのパターンで塗りつぶすかを指定します。

<色(O)>

図形オブジェクトの内部を、どの色で塗りつぶすかを指定します。

【矢印】

図形オブジェクトが、線、水平線、垂直線の場合に表示される設定項目です。

<左(L)>、<右(R)>

線の左右に矢印を付けるかどうかを指定します。

<種類>

『普通』/『塗りつぶし』

矢印の種類を指定します。

<矢印角度>

矢印の角度を、右にあるコンボボックスから選択します。

<長さ (mm)>

矢印の長さを、0.1mm単位で指定します。

【矩形の角を丸める大きさ】

図形オブジェクトが、四角形(矩形)の場合に表示される設定項目です。矩形の線の角を丸くする場合に、角の丸の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。また、丸める角(左上、左下、右上、右下)を指定します。

<左上>、<右上>、<左下>、<右下>

丸める角(左上、右上、左下、右下)を指定します

<楕円の幅 (mm)>、<高さ (mm)>

丸める角の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。

【明細連動オプション】

水平線、垂直線オブジェクトか、矩形オブジェクトで「条件/明細行」の【明細行】で「明細連動」がチェックされているときにのみ、表示されます。

水平線、垂直線オブジェクトの場合

<線を明細行の枠線として使用する>

線を明細行の枠線として使用します。

<線を明細行の幅/高さに合わせる>

線の長さを明細行の幅/高さに合わせます。

矩形オブジェクトの場合

<矩形を明細行の幅に合わせる>

明細行の幅に、矩形の幅を合わせます。

<矩形を明細行の高さに合わせる>

明細行の高さに、矩形の高さを合わせます。

※ 水平線、垂直線オブジェクト、矩形オブジェクト以外では使用することはできません。

※ 必ず、合わせたい明細範囲の1行目の中に、対象となるオブジェクトを配置してください。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

2.3.12 表設定の変更

表オブジェクトの列数、行数、枠線の種類、色、太さ、枠線の角を丸める大きさ、罫線の種類、太さ、色を指定します。変更したい表オブジェクトをダブルクリックすると、「表オブジェクト」ダイアログボックスが表示されます。

「表オブジェクト」ダイアログボックス



【列数(L)】

表の列数を指定します。

【行数(R)】

表の行数を指定します。

【枠線】

<種類(S)>

表の外枠線の種類を指定します。

<色(C)>

表の外枠線の色を指定します。

<太さ(W)>

表の外枠線の太さを指定します。

<枠線の角を丸める大きさ>

表の外枠線の角を丸くする場合に、角の丸の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。また、丸める角(左上、左下、右上、右下)を指定します。

<左上>、<右上>、<左下>、<右下>

丸める角(左上、右上、左下、右下)を指定します

<楕円の幅 (mm)>、<高さ (mm)>

丸める角の大きさを楕円の幅と、楕円の高さで指定します。

【罫線】

<種類(T)>

表内の罫線の種類を指定します。

<色(O)>

表内の罫線の色を指定します。

<太さ(I)>

表内の罫線の太さを指定します。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

2. 3. 13 明細範囲の作成

フォームに明細項目を配置する前に、明細範囲の作成を行います。



ツールバーの明細範囲作成ボタンをクリックします。次に、フォーム上に明細範囲をドラッグして作成します。明細範囲オブジェクトは、1つのフォームに対して20個まで作成することができます。

作成した明細範囲をダブルクリックすると、《明細範囲》ダイアログボックスが表示されます。

《明細範囲 プロパティ》ダイアログボックス

【明細番号】

明細範囲の番号を表示します。明細範囲は1つのフォームに対して、20個まで作成することができます。

【明細行数】

明細範囲の行数を指定します。明細範囲が指定された行数に、均等に分割されます。

※ 1つの明細範囲に対し、指定できる明細行数は、100行までです。

納品書(控) 年 月 日 No. 伝票番号

得意先名 様 〒222 東京都港区太尾町××△番地
日本ビジネスコンピュータ株式会社

下記のとおり納品いたしました

品名	数量	単価	金額(税別・税込)	備考
1				
2	以下余白			
3				
4				
5				
6				
7				
合計				

税率 消費税額 税込合計金額 消費税

224 9-1131

※ 明細項目は、所属する明細範囲の1行目に配置します。

下記のとおり納品いたしました

品名	数量	単価	金額(税別・税込)	備考
1 商品名	数量	単価	金額	
2	以下余白			

【明細方向】

明細範囲を指定された方向で、縦と横のどちらに分割するかを指定します。

明細方向 縦

1 行目
2 行目
.
.
n 行目

明細方向 横

1 行目	2 行目	.	.	.	n 行目
------	------	---	---	---	------

※ 集計機能を使用する場合、明細範囲の明細方向の「横」は使用できません。

【明細個数】

【明細行数】で設定した行数内で、使用する行数を指定します。

例) 明細行数の設定は6行だが、使用したいのは4行目まで

1 行目
2 行目
3 行目

4 行目
5 行目
6 行目

} 未使用

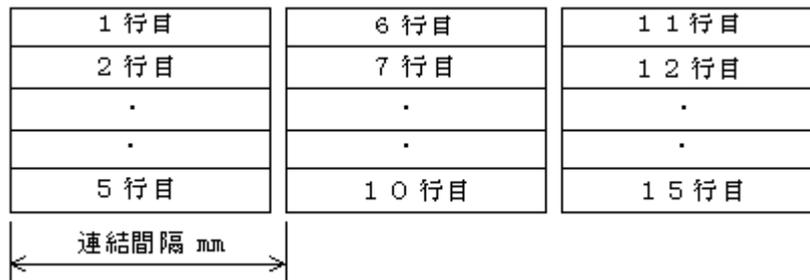
※ 明細個数 ≤ 明細行数 × (連結+1)

【連結】

チェックすると、<連結数>(1~10)、<連結方向>(縦、横)、<連結間隔(mm)>を指定できるようになります。

※ 明細範囲を連結した場合、使用できる明細行数は、連結元の明細範囲と連結する明細範囲を含め、合計で255行までです。これ以上の明細行数が存在する場合、正常に動作しません。

例) 明細方向 縦、連結数 2、連結方向 横



例) 明細方向 横、連結数 1、連結方向 縦



【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

2.3.14 レポート設定

PrintPro for Designer の【ファイル(F)】メニューの【データ定義 集計指定(T)】を選択すると、《データ定義 集計指定》ダイアログボックスが表示されます。

《データ定義 集計指定》ダイアログボックス

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
集計1 [1] 発行年	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
集計2 [2] 発行月	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
集計3 [3] 発行日	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
集計4 [4] 支店名	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
集計5 [5] 〒	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
ページ計				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
総合計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する
 集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [1] 発行年
 集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル

【集計機能を使用する】

『レポート設定』が有効になります。チェックされていない時は、『レポート設定』は無効となります。

※ 集計機能を使用する場合、明細範囲の明細方向の「横」は使用できません。

※ 集計機能とフォームの自動切り替えをあわせてご利用の場合、切り替えに使用されるフォームには明細項目が少なくとも1つは必要です。

【集計1】～【集計5】(【ページ計】)、【総合計】

チェックした集計で集計機能が使えるようになります。

【項目】

キーブレイクさせる項目を選択します。選択した項目の内容が前のレコードと異なると、集計(数値型、時間型の明細項目)を行い、集計行の挿入をします。

【切出し】、【開始桁】、【桁数】

キーブレイクさせる項目から、更にデータの切出しをして、キーブレイク判定を行う場合、【切出し】をチェックし、【開始桁】、【桁数】を指定します。【切出し】がチェックされていない場合は、全桁がキーブレイクの判定に使用されます。

【ヘッダー】、【フッター】

キーブレイク判定により、まとめられるグループの前に挿入される行を【ヘッダー】と呼びます。キーブレイク判定により挿入される行を【フッター】と呼びます。また、ヘッダー、フッターを印刷する時はそれぞれをチェックします。

●ヘッダー、フッターには次のように印刷が行われます。

・数値、時間型の明細項目

ヘッダーには印刷できません。フッターには集計値が印刷されます。

・文字、日付、郵便番号、電話番号、イメージ、バーコード型の明細項目

ヘッダーには、ヘッダーの次に印刷される明細と同一のレコードのデータが印刷されます。フッターには、フッターを印刷する直前に印刷された明細と同一のレコードのデータが印刷されます。

・固定文字、図形、表、固定イメージ、固定バーコード

各オブジェクトの明細連動(印刷明細行指定)により印刷を指定することができます。

※ 固定項目をヘッダー、フッターに印刷することはできません。

【前改ページ】、【後改ページ】

ヘッダー、フッターが挿入される前に改ページを行う時は、【前改ページ】をチェックします。また、ヘッダー、フッターを挿入したあとに改ページを行う時は、【後改ページ】をチェックします。

【高さ(mm)】

ヘッダー、フッターの高さを指定します。【ヘッダー】、【フッター】がチェックされていて、【高さ(mm)】が0.00mmの時は、明細行と同じ高さで印刷されます。また、【ヘッダー】、【フッター】のどちらもチェックされていない時は、集計処理を行い、高さは0mmで印刷が行われます。

※ 明細行の高さは、明細範囲作成時に指定する行数により決定されます。

【ページ計】

【集計5】を【ページ計】として動作させます。【ヘッダー】の指定はできません。同一ページに総合計のフッターが印刷される場合、その前に印刷されます。

	ページ計
	総合計

※ 【集計1】～【集計4】の【ヘッダー】、【フッター】に指定された【前改ページ】、【後改ページ】により改ページが行われた時(集計4・フッターの、後改ページ指定を除く)は、ページ計は印刷されません。

※ 集計4・フッターに、後改ページが指定されている場合、集計4・フッターの前にページ計が印刷されます。ただし、そのページに1レコードしかデータがない場合、ページ計は出力されません。

※ 明細行が1行もないページでは、ページ計は印刷されません。

【明細行非印刷】

明細行は印刷されません。集計行、総合計のみが印刷されます。

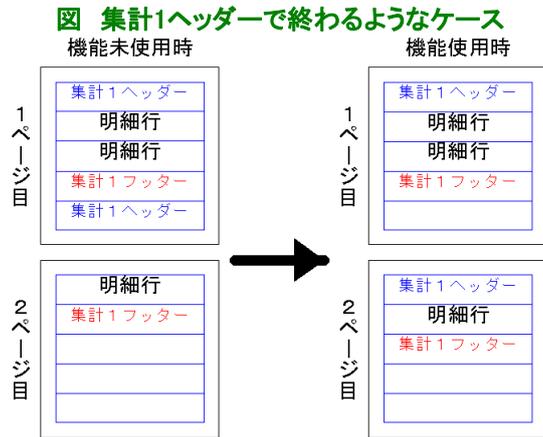
【集計行が続く場合改ページしない】

集計行(ヘッダー、フッター)に【後改ページ】指定がある時でも、明細行をはさみず集計行(ヘッダー、フッター)が続く場合には改ページを行いません。

※ ヘッダー、フッターの【前改ページ】は、集計行が続く場合でも無視されません。

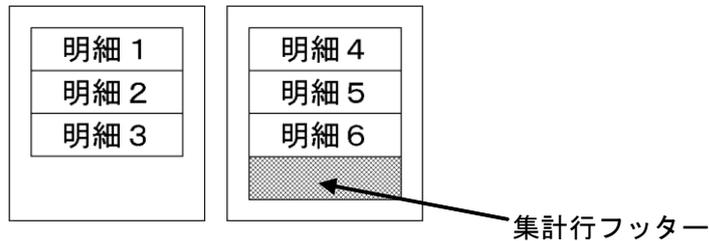
【集計1ヘッダーを先頭行に印刷する】

集計1のヘッダーを明細先頭行に必ず印刷します。集計1ヘッダーがページの最後に来る場合は印刷を行わず、改ページして先頭行に集計1ヘッダーを印刷します。



【フッターを明細と同一ページに印刷する】

あらかじめ、集計行フッターを全て印刷できる領域を明細範囲内に確保し、集計行のみが新しいページに印刷されないようにします。



【明細行の行数を項目で指定する】

集計指定機能を使用している場合、右のコンボボックスで指定された項目のデータの値により、そのレコードが何行使用するか、指定することができます。

例)『行数』で、それぞれのレコードが明細範囲の何行分使用するかを指定する。(明細範囲は7行)

エクセルデータ	A	B
1	行数	データ
2	1	AAA
3	2	PPPPP
4	1	TTTTTTT
5	3	EEEEEEEE

データ定義 集計指定の設定(集計指定機能を使用する)

<input type="checkbox"/> フッターを明細と同一ページに印刷する
<input checked="" type="checkbox"/> 明細行の行数を項目で指定する [1] 行数

印刷結果

AAA	1行分
PPPPP	2行分
TTTTTT	1行分
EEEEEEEE	3行分

【保存】

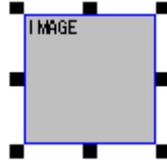
設定の変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

2. 3. 15 イメージ指定

データ型がイメージ型に指定されている項目を、フォームに配置すると、イメージ枠が表示されます。イメージ枠のサイズ、位置を変更して、イメージの表示/印刷を行う大きさ、位置を指定します。

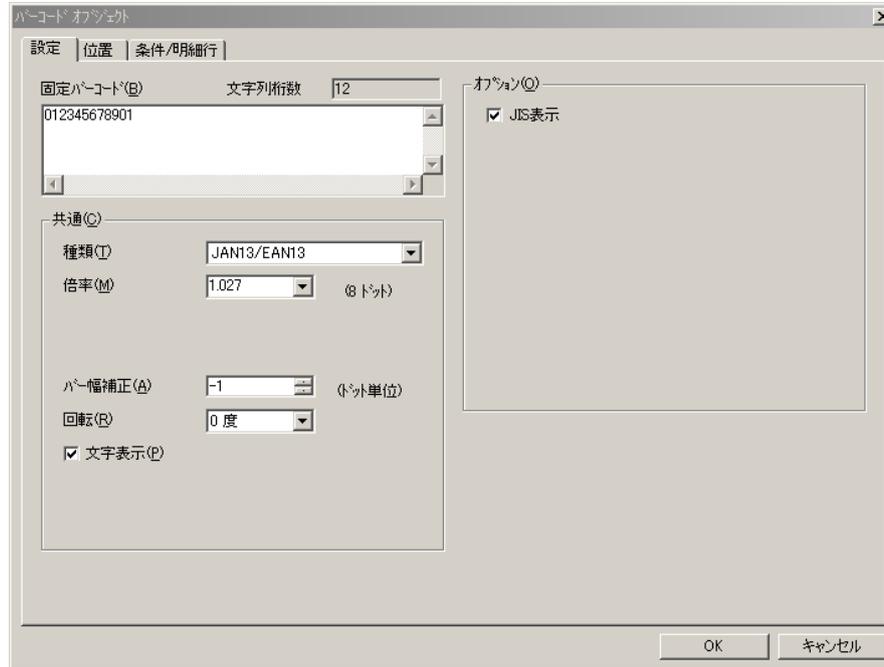


表示/印刷されるイメージ(ビットマップ、TIFF CCITT G3、TIFF CCITT G4、JPEG、PNG、GIF)は、縦横比を変えないで、イメージ枠の中心に最大のサイズとなるように、拡大/縮小が行われます。

2. 3. 16 バーコード指定

バーコードオブジェクトは、バーコードの種類によってダイアログボックスの設定内容が異なります。

《バーコード オブジェクト》ダイアログボックス



各バーコードに共通な設定

【項目番号】

データ定義の何番目のデータを表示/印刷するかを表示します。項目名、項目番号とデータの対応は、データ定義に定義されています。

【項目名】

表示/印刷する項目の名称を表示します。項目名、項目番号とデータの対応は、データ定義に定義されています。

※ 【項目番号】、【項目名】は、固定バーコードオブジェクトの場合、固定バーコードデータ入力のテキストボックスになります。



【文字列桁数】

次に示すバーコードのデータは固定長です。データを指定する場合、桁数に注意してください。

・JAN 13/EAN 13	12桁
・JAN 8/EAN 8	7桁
・ITF物流コード(標準)	13桁
・ITF物流コード(拡張)	15桁
・ITF物流コード(アドオン)	5桁
・UPC A	11桁
・UPC E	6桁

【共通(C)】

<種類(T)>

表示/印刷するバーコードの種類を指定します。

- ・JAN 13/EAN 13
- ・JAN 8/EAN 8
- ・NW 7
- ・CODE 39
- ・ITF物流コード(標準)
- ・ITF物流コード(拡張)
- ・ITF物流コード(アドオン)
- ・INTERLEAVED 2 OF 5
- ・INDUSTRIAL 2 OF 5
- ・郵便カスタマバーコード
- ・CODE 128(EAN 128)
- ・QR CODE
- ・PDF 417
- ・UPC A
- ・UPC E

<バー幅補正(A)>

バーの幅をピクセル単位で増減します。使用するプリンタで印刷したバーコードの読み取り精度が、最良となるように調整します。

<回転(R)>

バーコードの回転角度を指定します。時計方向に、指定された角度にバーコードを回転します。

<文字表示(P)>

バーコードと一緒に、バーコードの文字を表示/印刷します。

※ 郵便カスタマバーコード、QR CODE、PDF 417の場合表示されません。

【オプション(O)】

バーコードの種類によって異なります。

JAN 13/EAN 13、JAN 8/EAN 8の設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコード オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号: 7 文字列桁数: 13

項目名: バーコード

区分: 固定項目 明細番号: 1

文字の切出し 切出し開始桁: 1

共通(C)

種類(T): JAN13/EAN13

倍率(M): 1.027 (8 トット)

バー幅補正(A): -1 (トット単位)

回転(R): 0 度

文字表示(P)

オプション(O)

JIS表示

OK キャンセル

【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

【オプション(O)】

<JIS表示>

チェックするとJIS表示で、チェックを外すと併記表示で表示/印刷されます。

CODE 39/INTERLEAVED 2 OF 5/INDUSTRIAL 2 OF 5の設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコード オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/詳細行

項目番号 7 文字列桁数 13

項目名 バーコード

区分 固定項目 明細番号 1

文字の切出し 切出し開始桁

共通(C)

種類(T) CODE39

細エレメント幅(X) 0.509 mm (12 ドット)

太細エレメント比(N) 3.0

文字間ギャップ比(G) 1.0

バー幅補正(A) -1 (ドット単位)

回転(R) 0 度

文字表示(E) 文字サイズ調整(D)

チェック文字有(K) 2段表示(M)

チェック文字非表示(D)

OK キャンセル

【共通(C)】

＜細エレメント幅(X)＞

細エレメントの幅を指定します。

＜太細エレメント比(N)＞

細エレメント幅と太エレメント幅の比率を指定します。(太エレメント幅 = 細エレメント × 太細エレメント比)

＜文字間ギャップ比(G)＞

細エレメント幅と文字間ギャップ幅の比率を指定します。(文字間ギャップ = 細エレメント × 文字間ギャップ比)

※ INTERLEAVED 2 OF 5 の場合は表示されません。

＜チェック文字有(K)＞

バーコードにチェック文字を付加します。

＜チェック文字非表示(D)＞

バーコード文字にチェック文字を含めないで、表示/印刷します。

※ INTERLEAVED 2 OF 5 の桁数は、必ずチェック文字を含めて、偶数で指定してください。

＜文字サイズ調整＞

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、フォントサイズを縮小して全ての文字列を表示します。

※ <文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

<2段表示機能>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、幅を超える分の文字列を折り返し、2段目に表示します。

※ <文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

NW 7の設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコード オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号 7 文字列桁数 13

項目名 バーコード左

区分 固定項目 明細番号 1

文字の切出し 切出し開始桁

共通(C)

種類(I) NW7

細エレメント幅(X) 0.509 mm (12 ドット)

太細エレメント比(N) 3.0

文字間ギャップ比(G) 1.0

バー幅補正(A) -1 (ドット単位)

回転(B) 0 度

文字表示(E) 文字サイズ調整(D)

チェック文字有(K) 2段表示(M)

チェック文字非表示(O)

オプション(O)

チェック文字計算方法 セブチェック

スタート文字 a

ストップ文字 a

OK キャンセル

【共通(C)】

<細エレメント幅(X)>

細エレメントの幅を指定します。

<太細エレメント比(N)>

細エレメント幅と太エレメント幅の比率を指定します。(太エレメント幅 = 細エレメント × 太細エレメント比)

<文字間ギャップ比(G)>

細エレメント幅と文字間ギャップ幅の比率を指定します。(文字間ギャップ幅 = 細エレメント × 文字間ギャップ比)

<チェック文字有(K)>

バーコードにチェック文字を付加します。

<チェック文字非表示(D)>

バーコード文字にチェック文字を含めないで、表示/印刷します。

<文字サイズ調整>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、フォントサイズを縮小して全ての文字列を表示します。

※ <文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

<2段表示機能>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるよう、幅を超える分の文字列を折り返し、2段目に表示します。

※ <文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

【オプション(O)】

<チェック文字計算方法>

チェック文字計算方法を指定します。

<スタート文字>

スタート文字を指定します。(a、b、c、d、A、B、C、D、t、n、*、e、T、N、E)

<ストップ文字>

ストップ文字を指定します。(a、b、c、d、A、B、C、D、t、n、*、e、T、N、E)

ITF物流コードの設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコード オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号 7 文字列桁数 13

項目名 バーコード

区分 固定項目 明細番号 1

文字の切出し 切出し開始桁 1

共通(C)

種類(T) ITF物流コード(標準)

倍率(M) 1.042 (25 ドット)

ハーフ補正(A) -1 (ドット単位)

回転(R) 0 度

文字表示(E)

オプション(O)

ベアラバー表示

OK キャンセル

【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

【オプション(O)】

<ベアラバー表示(S)>

ベアラバーの表示/印刷を指定します。

郵便カスタマバーコードの設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコードオブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号 7 文字列桁数 13

項目名 バーコード

区分 固定項目 明細番号 1

文字の切出し 切出し開始桁 1

共通(C)

種類(D) 郵便カスタマバーコード

大きさ(M) 10.6 (15ドット)

バー幅補正(A) -1 (ドット単位)

回転(R) 0度

オプション(O)

OK キャンセル

【共通(C)】

<大きさ(M)>

バーコードの大きさを指定します。

CODE 128の設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

【共通(C)】

<細エレメント幅(X)>

細エレメントの幅を指定します。

<文字表示(P)>

バーコードと一緒に、バーコードの文字を表示/印刷します。

<文字サイズ調整>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列がバーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるように、フォントサイズを縮小して全ての文字列を表示します。

※ <文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

<2段表示機能>

バーコードオブジェクトの幅を超えるような長さの文字列が、バーコードデータとして与えられた場合、バーコードオブジェクトの幅に収まるように、幅を超える分の文字列を折り返して、2段目に表示します。

※ EAN128形式の2段表示機能

バーコードオブジェクトの幅を超える分の文字列を折り返し、2段目に表示する点は他のバーコードの場合と同様ですが、文字列データの間に半角スペースがあると、文字列を半角スペースの前で折り返して、半角スペース以降を2段目に表示します。この際、文字サイズ調整も同時に機能し、1段目の半角スペースまでの文字列が、バーコードオブジェクトの幅に収まるように、フォントサイズを調整します。

※ <文字サイズ調整>機能と<2段表示機能>を同時に使用することはできません。

【オプション(O)】

<EAN128>

EAN128形式を指定します。データは『(』、『)』、『(』、『)』(スペース)、『-』を含めて指定します。

- ・スタートコードの次にFNC1を自動挿入します。
- ・データとして数字、英字が使用可能です。
- ・データに含まれる『(』、『)』、『(』、『)』(スペース)、『-』は、文字表示にのみ使用します。『(』、『)』、『(』、『)』(スペース)、『-』はシンボル化しません。
- ・データに含まれるFNC1はシンボルにのみ使用します。文字表示には使用しません。
- ・特別なキャラクタはFNC1のみ使用可能です。

<記号を使用する>

EAN128形式で指定できます。

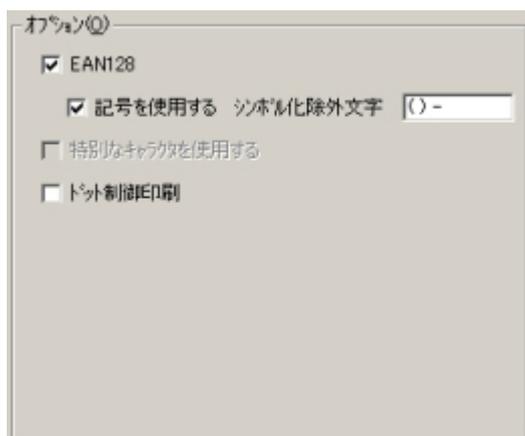
- ・データとして空白、記号文字、数字、英字が使用可能です。
- ・特殊文字入力開始文字はシンボル化できません。また、シンボル化除外文字指定よりも特殊文字入力開始文字指定が優先されます。
- ・シンボル化除外文字で指定した文字はシンボル化しません。

<シンボル化除外文字>

EAN128形式で<記号を使用する>を指定した場合に指定できます。

- ・文字表示にのみ使用するシンボル化除外文字を最大8文字指定できます。

※ <記号を使用する>を指定した場合、『(』、『)』、『(』、『)』(スペース)、『-』はシンボル化除外されません。



オプション(O)

EAN128

記号を使用する シンボル化除外文字 () -

特別なキャラクタを使用する

外製印刷

<特別なキャラクタを使用する>

●チェックがされていない場合

コードセットを自動で変更してシンボル化します。

●チェックがされている場合

特殊文字入力方法に従って、特別なキャラクタを指定します。フォームのページ設定の<特殊文字入力開始文字(S)>で指定した文字(初期値は『\$』)を使用します。スタートコード、コードセットが指定されるまでは、コードセットを自動で変更してシンボル化します。指定以降のコードセットの変更は、自動では行われません。

・スタートコード、コードセット指定されるまでのデータのシンボル化

指定データが存在するコードセットに自動変更します。4桁以上の数字データの場合、コードセットCに変更します。奇数桁の数字データの場合、必要に応じてコードセットAあるいはBに変更します。

・スタートコード、コードセット指定以降のデータのシンボル化

-
- ①スタートコード、コードセットが指定された場合、それ以降のデータに対してコードセットの変更は自動では行われません。コードセットを変更するにはコードセットを指定します。
 - ②コードセットがBあるいはCで、指定データが制御文字(NUL~US)の場合、そのバーコードデータは無効となります。
 - ③コードセットがAでコードセットBの『』、『a』~『z』、『{』、『|』、『}』、『~』、『\$d』(値64~95)が指定された場合、その値に対応する制御文字をシンボル化します。コードセットがCでコードセットBのデータ(値0~99)が指定された場合、その値に対応する2桁数字をシンボル化します。
 - ④コードセットがAあるいはBで数字キャラクタのデータが指定された場合、1桁毎にシンボル化します。コードセットがCで連続する偶数桁の数字キャラクタのデータが指定された場合、2桁毎にシンボル化します。連続する奇数桁の数字キャラクタのデータが指定された場合、バーコードデータは無効となります。
 - ⑤コードセットがAあるいはBで同一のコードセットが指定された場合、シンボル化されません。ただし、以降のデータに対してコードセットの自動変更は行われなくなります。コードセットがCでデータFNC4が指定された場合、バーコードデータは無効となります。

特別なキャラクタの入力方法

特殊文字入力開始文字が『\$』の場合

スタートA	\$a
スタートB	\$b
スタートC	\$c
コードセットA	\$a
コードセットB	\$b
コードセットC	\$c
DELETECODE	\$d
SHIFT	\$s
FNC1	\$1
FNC2	\$2
FNC3	\$3
FNC4	\$4
\$	\$\$

※ 『\$a』、『\$b』、『\$c』を最初から指定した場合はスタートキャラクタ、途中で指定した場合はコードキャラクタになります。

<ドット制御印刷>

バー構成をmm単位から、ドット単位に変更します。

従来のmm単位構成よりも精度が上がりますが、mm単位構成のバーコードよりもサイズが小さくなります。

※ 印刷時に動作する機能であり、PrintPro for Designer の設計画面上のバーコードの大きさは異なります。

QR CODEの設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコード オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号 7 文字列桁数 13

項目名 バーコード

区分 固定項目 明細番号 1

文字の切出し 切出し開始桁 1

共通(C)

種類(C) QR CODE

セルサイズ(X) 0.509 mm (12ドット)

バー幅補正(A) -1 (ドット単位)

回転(R) 0度

オプション(O)

モデル1 モデル2

エラー訂正レベル L 高密度

16進コードを使用する

OK キャンセル

【共通(C)】

<セルサイズ(X)>

セルサイズを指定します。

【オプション(O)】

<モデル1>/<モデル2>

QR CODEの種類を指定します。

<エラー訂正レベル>

エラー訂正レベルを指定します。

<16進コードを使用する>

特殊文字入力方法によりバイナリーデータの入力できます。

ページ設定の指定で特殊文字入力開始文字が'\$'の場合

\$0D(あるいは、\$0d)の時 CR(復帰)

\$0A(あるいは、\$0c)の時 LF(改行)

\$\$ の時 '\$'

PDF 417の設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

バーコード オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/詳細行

項目番号 18 文字列桁数 50

項目名 カスタムバーコード

区分 固定項目 明細番号 1

文字の切出し 切出し開始行 1

共通(C)

種類(T) PDF417

細エレメント幅(X) 0.509 mm (12 ドット)

バー幅補正(A) -1 (ドット単位)

回転(B) 0 度

オプション(O)

アスペクト比 0.50

モジュールアスペクト比 3

列数 自動

行数 自動

エラー訂正レベル パーセンテージ

エラー訂正パーセンテージ 10

簡易

バイナリー

16進コードを使用する

OK キャンセル

【共通(C)】

＜細エレメント幅(X)＞

細エレメント幅を指定します。

【オプション(O)】

＜アスペクト比＞

高さとの比を指定します。

＜モジュールアスペクト比＞

モジュールの縦横の比を指定します。

＜列数＞、＜行数＞

PDF 417の列と行を指定します。

＜エラー訂正レベル＞

エラー訂正をパーセンテージ、またはレベル(0～8)で指定します。

＜エラー訂正パーセンテージ＞

エラー訂正がパーセンテージの場合、パーセンテージ(0～400)を指定します。

＜簡易＞

簡易PDF 417バーコードを生成します。

＜バイナリー＞

バイナリーモードを指定します。

<16進コードを使用する>

特殊文字入力方法によりバイナリーデータの入力できます。

ページ設定の指定で特殊文字入力開始文字が'\$'の場合

\$0D(あるいは、\$0d)の時 CR(復帰)

\$0A(あるいは、\$0a)の時 LF(改行)

\$\$ の時 '\$'

UPC Aの設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

The screenshot shows a dialog box titled 'バーコードオブジェクト' (Barcode Object) with a close button in the top right corner. The dialog is divided into several sections:

- 設定 (Settings):** Includes fields for '項目番号' (Item Number) set to 1, '文字列桁数' (Character Length) set to 11, '項目名' (Item Name) set to 'UPC A', '区分' (Category) set to '固定項目' (Fixed Item), and '明細番号' (Detail Number) set to 1. There is an unchecked checkbox for '文字の切出し' (Text Truncation) and a '切出し開始桁' (Truncation Start Position) field set to 1.
- 共通(C) (Common):** Includes a '種類(T)' (Type) dropdown set to 'UPC A', a '倍率(M)' (Scale) dropdown set to 1.116 with '(8ドット)' (8 dots) next to it, a 'バー幅補正(A)' (Barcode Width Correction) field set to -1 with '(ドット単位)' (Dotted Unit) next to it, a '回転(R)' (Rotation) dropdown set to 0度 (0 degrees), and a checked checkbox for '文字表示(P)' (Text Display).
- オプション(O) (Options):** A large empty rectangular area on the right side of the dialog.
- Buttons:** 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons are located at the bottom right of the dialog.

【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

UPC Eの設定

《バーコードオブジェクト》ダイアログボックス

The screenshot shows a dialog box titled 'バーコードオブジェクト' (Barcode Object) with a close button in the top right corner. The dialog has three tabs: '設定' (Settings), '位置' (Position), and '条件/明細行' (Conditions/Detail Lines). The '設定' tab is active. The settings are as follows:

- 項目番号 (Item Number): 2
- 文字列桁数 (Character Length): 6
- 項目名 (Item Name): UPC E
- 区分 (Category): 固定項目 (Fixed Item)
- 明細番号 (Detail Number): 1
- 文字の切出し (Text Truncation): unchecked
- 切出し開始桁 (Truncation Start Position): 1
- 共通(C) (Common):
 - 種類(T) (Type): UPC E
 - 倍率(M) (Scale): 1.027 (8ドット)
 - バー幅補正(A) (Barcode Width Correction): -1 (ドット単位)
 - 回転(R) (Rotation): 0度
 - 文字表示(P) (Text Display): checked

At the bottom right, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

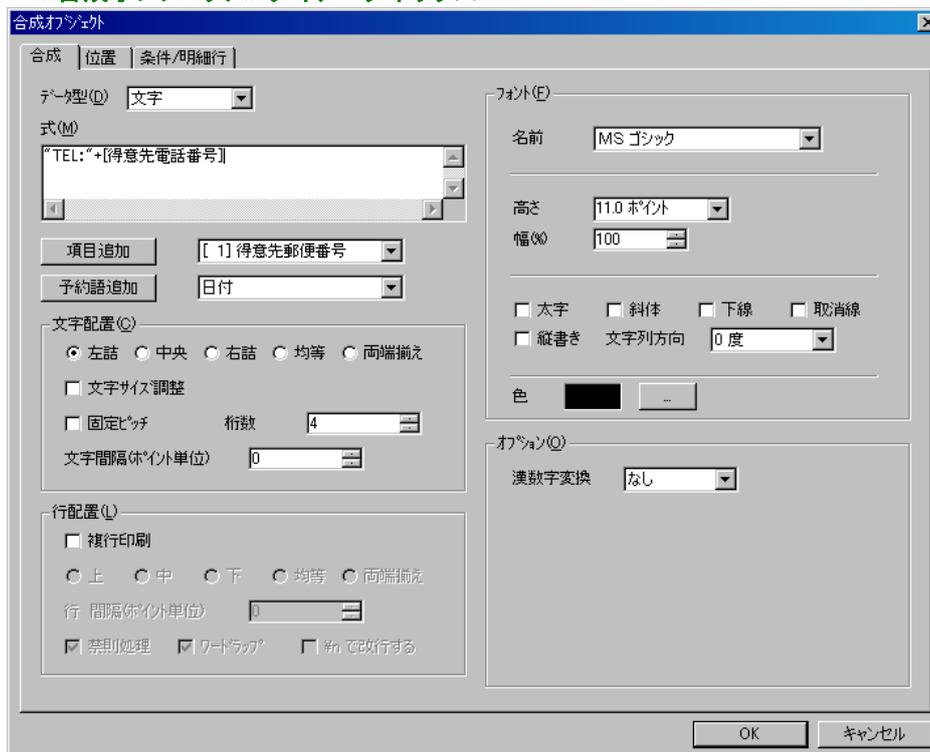
【共通(C)】

<倍率(M)>

バーコードの倍率を指定します。

2. 3. 17 合成指定

《合成オブジェクト》ダイアログボックス



合成の指定は、【式(M)】に文字列(数値)、16進数、予約語を組み合わせ、記述して行います。文字列を【式(M)】に記述する時は、『』で文字列を囲んで記述してください。記述を追加していく時は、それぞれの間に『+』を記述してください。16進数を記述する時は、合成したい16進数の先頭に『\$』を記述してください。

- ※ ¥nで改行させる場合は、【式(M)】に『"¥n"』を追加してください。
- ※ 整数値のみを扱う場合、有効桁は15桁です。
- ※ 小数値を扱う場合、有効桁は整数部、小数部の両方を合わせて10桁です。
有効桁を超える数値は保障できません。ご注意ください。
例) 小数第三位まである値を扱うと、整数部には7桁まで使用することができます。

例) 文字列と16進数の合成

文字列『2001年』と16進数の『1D』の合成は、『"2001年"+\$1D』と記述する。



● 予約語

予約語を合成したい場合は、コンボボックスの中から合成したい予約語を選択し、【予約語追加】をクリックしてください。予約語は、以下のものから必要に応じて選択してください。

・日付 印刷時の日付を表示/印刷します。

{日付}	年(西暦)/月/日の形で表示/印刷します。
{日付(y)}	年(西暦)だけを表示/印刷します。
{日付(y-1988)}	年だけを平成表記で表示/印刷します。
{日付(yy)}	年(西暦)だけを2桁で表示/印刷します。
{日付(m)}	月だけを表示/印刷します。
{日付(d)}	日だけを表示/印刷します。

※ すべて0詰なしで表示/印刷します。

・時間 印刷時の時間を表示/印刷します。

{時間}	時:分の形で、表示/印刷します。(分だけを0詰します。)
{時間(h)}	時だけを表示/印刷します。
{時間(m)}	分だけを表示/印刷します。
{時間(s)}	秒だけを表示/印刷します。

※ {時間}以外は0詰なしで表示/印刷されます。

・ページ {総ページ}、{総ページ4}、{ページ}、{ページ0}～{ページ5}

{総ページ}	指定データをすべて印刷した場合の総ページ数をカウントして印刷します。
{総ページ4}	<集計機能を使用する>時に使用します。集計4で改ページが行われるまでの総ページ数を印刷します。
{ページ}	印刷開始ページから1ページ毎に1カウント増えます。
{ページ0}	<集計機能を使用しない>時に使用します。1ページ毎に1カウント増えます。改ページ指定(KeyBreak)により、改ページが行われると、カウントが1に戻ります。
{ページn}	<集計機能を使用する>時に使用します。1ページ毎に1カウント増えます。集計nのフッターによる後改ページが行われると、ページnのカウントが1に戻ります。

※ 集計4フッターに「後改ページ」が指定されていない場合、総ページ4が正しく計算されない場合があります。

※ 集計5フッターを使用する場合、集計4フッターと集計5フッターが同一ページに印刷されない、総ページ4が正しく計算されません。「フッターを明細と同一ページに印刷する」を指定してください。

※ 集計4以上のヘッダー(集計5ヘッダー、総計ヘッダー)の指定がある場合で、これらが同一ページに印刷されない場合、総ページ4が正しく計算されません。

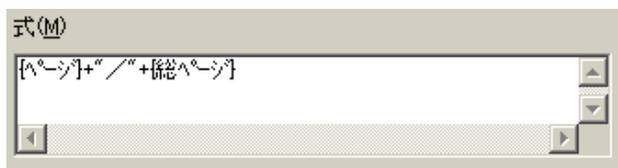
・レコード {総レコード}、{レコード}、{レコード0}～{レコード5}

{総レコード}	指定データをすべて印刷した場合の総レコード数をカウントして印刷します。
{総レコード4}	<集計機能を使用する>時に使用します。集計4でキーブレークが行われるまでの総レコード数を印刷します。
{レコード}	印刷開始ページから1レコード毎に1カウント増えます。
{レコード0}	<集計機能を使用しない>時に使用します。1レコード毎に1カウント増えます。改ページ指定(KeyBreak)により、改ページが行われると、カウントが1に戻ります。
{レコードn}	<集計機能を使用する>時に使用します。1レコード毎に1カウント増えます。集計nによるキーブレークが行われると、レコードnのカウントが1に戻ります。

※ 集計4フッターに「後改ページ」が指定されていない場合、総レコードが正しく計算されない場合があります。

例) 予約語の使用例(ページ)

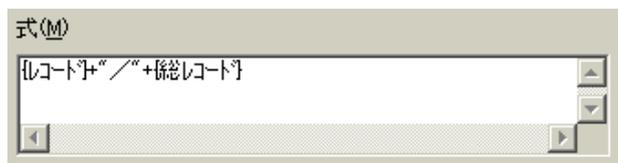
『{ページ}+"/"+{総ページ}』と記述すると、現在のページと総ページ数が、『ページ／総ページ』の型で印刷されます。



※ 連番型(総ページ指定あり)のデータ定義項目が定義されていない場合は、総ページは印刷されません。

例) 予約語の使用例(レコード)

『{レコード}+"/"+{総レコード}』と記述すると、現在のレコードと総レコード数が、『レコード／総レコード』の型で印刷されます。



※ 連番型(総レコード指定あり)のデータ定義項目が定義されていない場合は、総レコードは印刷されません。

項目を合成したい場合は、【項目追加】の横にあるコンボボックスから合成したい項目を選択し、【項目追加】をクリックします。クリックすると、自動的に【式(M)】に項目名が追加され、合成されます。項目は、『[項目名]』の型で【式(M)】に記述されます。

例) 項目の追加



必要に応じて、編集(0詰、トリム)も行います。

●編集

・日付(時間)編集

『FI』に続く半角1文字をデータの区切り記号として使用します。

例) 日付と時間のデータを『@』で区切る

『FI@[日付型項目]』、『FI@[時間型項目]』と記述する。

印刷結果)

日付型項目データ → 2003@10@31
時間型項目データ → 16@35

※ データの文字列の長さは、8桁、6桁、4桁のいずれかでなくてはなりません。

・0詰め 0詰を行いたい桁数を、『Z』に続いて記述します。

例) 数値型の項目データを、0詰5桁のデータにする。
『Z5[項目名]』と記述する。



・トリム トリムは、項目のデータからスペースを取り除きます。[項目名]の前に、『T』、『TL』、『TR』を記述することによってトリムを行う箇所を指定します。

T[項目名]	項目データの両端のスペースを取り除きます。
TL[項目名]	項目データの左端のスペースを取り除きます。
TR[項目名]	項目データの右端のスペースを取り除きます。

例)トリム

項目データ『 PrintPro for Designer 』を上から順番に、トリムなしの通常、両端トリム、左トリム、右トリムを実行した結果です。左側が、合成オブジェクトを貼り付けたフォームです。右側が、印刷結果です。(この例では、トリムの違いをわかりやすく示すために、それぞれの《合成オブジェクト》ダイアログボックスの【文字配置(C)】を、両端揃えにしていますので、スペースをトリムによって取り除かれた側に、データが寄っています。通常のは、トリムが行われていないので、両端にスペースが存在しています。)

フォーム	印刷結果
[通 常]	PrintPro for Designer
T [両 端 ト リ ム]	PrintPro for Designer
TL [左 ト リ ム]	PrintPro for Designer
TR [右 ト リ ム]	PrintPro for Designer

合成オブジェクトは、【データ(D)】を使ってデータ型を文字型、数値型、バーコードの中から選択することができます。

- ※ 数値型を選択した場合、数値以外のデータは印刷されません。
- ※ 整数値のみを扱う場合、有効桁は15桁です。
- ※ 小数値を扱う場合、有効桁は整数部、小数部の両方を合わせて10桁です。
有効桁を超える数値は保障できません。ご注意ください。
例) 小数第三位まである値を扱うと、整数部には7桁まで使用することができます。

例) 2次元のバーコード型の合成

【データ型(D)】で『バーコード』を選択し、【式(M)】にバーコードのデータにしたい文字列などを記述します。

The screenshot shows a dialog box with two main sections. The top section is labeled 'データ型(D)' (Data Type) and has a dropdown menu with 'バーコード' (Barcode) selected. The bottom section is labeled '式(M)' (Formula) and contains a text input field with the following text: "D>" + \$1E + "港北太尾町1368" + \$1E + "APT" + \$1E \$04. The text is enclosed in double quotes. There are scroll bars on the right and bottom of the text input field.

例) 項目、文字列、6桁0詰の項目、文字列の合成

項目の[機種名]、文字列の『SN-』、6桁の0詰を行う項目のZ6[ナンバリング]、文字列の『S』を合成するためには、『[機種名]+“SN-”+Z6[ナンバリング]+“S”』と記述します。

The screenshot shows a dialog box with a section labeled '式(M)' (Formula). It contains a text input field with the following text: [機種名] + "SN-" + Z6[ナンバリング] + "S". The text is enclosed in double quotes. There are scroll bars on the right and bottom of the text input field.

印刷結果は、『Q兵衛 SN-000123S』のようになります。

2.3.18 罫線抽出

既存の伝票などをスキャナで取り込み、フォームイメージとしてフォームに表示させ、罫線を抽出し、水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

《罫線抽出設定》ダイアログボックス

項目	値	ボタン
長さの最小値 (mm)	2	OK
線幅の最小値 (ポイント)	0.5	キャンセル
線幅の最大値 (ポイント)	5	規定値
穴の長さの最大値 (mm)	0.5	規定値
傾きの許容範囲 (度)	3	規定値

[OK]ボタンをクリックしてから、マウスポインタで罫線抽出範囲を指定して下さい

【長さの最小値(mm)】

指定した長さ以下の罫線からは、罫線抽出を行いません。

【線幅の最小値(ポイント)】

指定した幅以下の罫線からは、罫線抽出を行いません。

【線幅の最大値(ポイント)】

指定した幅以上の罫線からは、罫線抽出を行いません。

【穴の長さの最大値(mm)】

罫線に指定した長さ以上の欠落部分がある場合は、その部分は罫線抽出を行いません。

【傾きの許容範囲(度)】

指定した角度以上に傾いている罫線からは、罫線抽出を行いません。

【OK】

それぞれの指定した値で罫線抽出を行います。

【キャンセル】

罫線抽出を中止し、ダイアログボックスを閉じます。

【規定値】

それぞれの値を、デフォルトの値に戻します。

罫線抽出例)

1. ≪ページ設定≫ダイアログボックスの<フォームイメージ(K)>に、罫線抽出を行いたいイメージファイル(ビットマップ、JPEG、TIF、PNG、GIF)を指定します。
2. 【オブジェクト(B)】メニューの【罫線抽出(K)】を選択します。≪罫線抽出設定≫ダイアログボックスが表示されます。

≪罫線抽出設定≫ダイアログボックス

罫線抽出設定

長さの最小値 (mm) 2 OK

線幅の最小値 (ポイント) 0.5 キャンセル

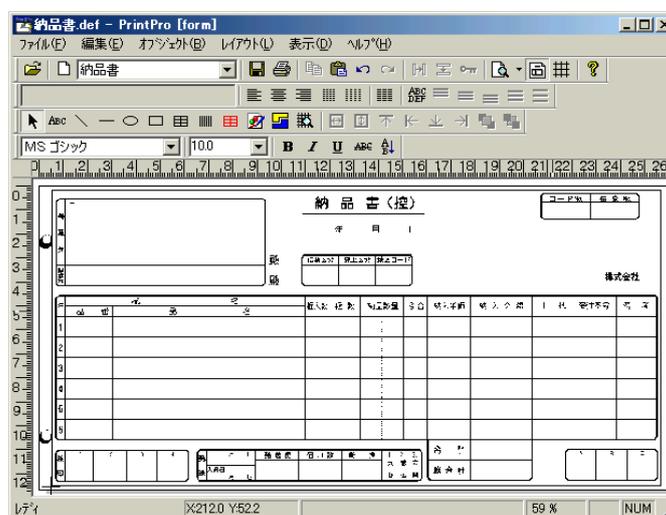
線幅の最大値 (ポイント) 5

穴の長さの最大値 (mm) 0.5

傾きの許容範囲 (度) 3 規定値

[OK]ボタンをクリックしてから、マウスポインタで
罫線抽出範囲を指定して下さい

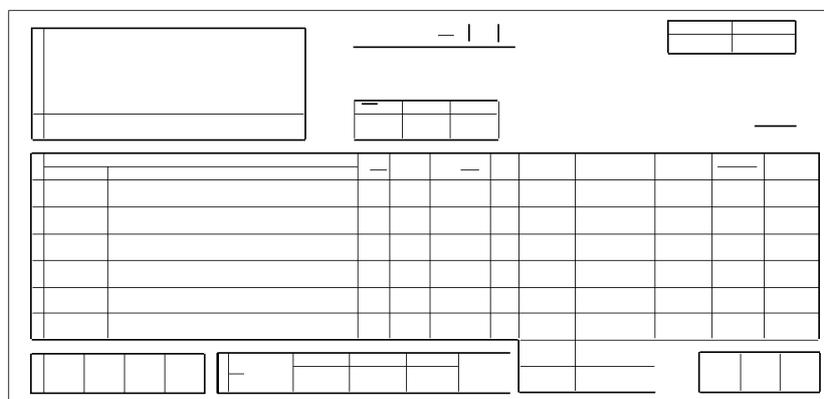
3. それぞれの値を適切な値に変更し、【OK】をクリックすると、マウスポインタが十字になり、罫線の抽出を行う範囲の選択状態になります。



※ ご使用のスキナナや、取り込む元の伝票などによって、きれいに罫線の抽出を行える値は異なります。

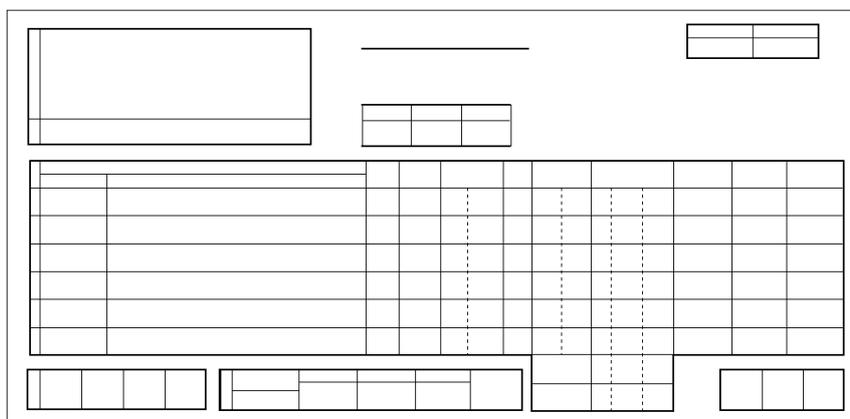
-
4. 範囲を決めて、マウスのボタンを離すと、罫線の抽出が行われ、フォーム上に水平線/垂直線オブジェクトが作成されます。

※ このままではわかりづらい場合は、【表示(D)】メニューの【フォームイメージ(I)】を選択し、フォームイメージを非表示にして、作業を続けてください。フォーム上には、オブジェクトだけが残されます。



5. 元の伝票などを見比べながら、足りない箇所や、欠けている部分などを修正します。その後、オブジェクトの配置などを行ってください。

※ 抽出後に修正を行うより、再度抽出を行った方が効率が良い場合は、抽出により作成されたオブジェクトを削除し、値を変更して再度罫線抽出を繰り返してください。



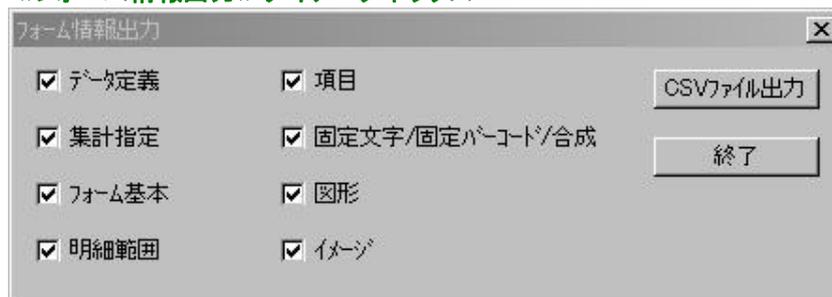
2. 3. 19 フォーム情報出力

データ定義ファイルのデータ定義や、指定したフォームのオブジェクトの情報をCSVファイルで保存します。

●使用方法

1. PrintPro for Designer を起動し、【ファイル(F)】の【フォーム情報出力(R)】を選択して、《フォーム情報出力》ダイアログボックスを表示します。

《フォーム情報出力》ダイアログボックス



※ デフォルトで全て選択されています。

2. 【CSVファイル出力】をクリックすると、CSVファイルの出力先を確認するダイアログボックスが表示されます。(データ定義ファイルと同じ場所にフォーム情報がCSV形式で保存されます。)ファイル名は『データ定義ファイル名』+『フォーム名』になります。



3. CSVファイルの作成が完了すると、完了を伝えるダイアログボックスが表示されます。



●出力オプション

表示したい情報を選択することが可能です。

◎データ定義

データ定義ファイルの情報(項目数/登録フォーム数/データ範囲/全フォーム印刷位置微調整縦・横)と、データ定義を表示します。

◎集計指定

データ定義ファイルの集計指定の設定を表示します。

◎**フォーム基本**

指定したフォームのページ設定を表示します。

◎**明細範囲**

フォームに配置された明細範囲オブジェクトの情報を表示します。

◎**項目**

フォームに配置された項目オブジェクト(固定項目/明細項目)の情報を表示します。

◎**固定文字/固定バーコード/合成**

フォームに配置された固定文字オブジェクト/固定バーコードオブジェクト/合成オブジェクトの情報を表示します。

◎**図形**

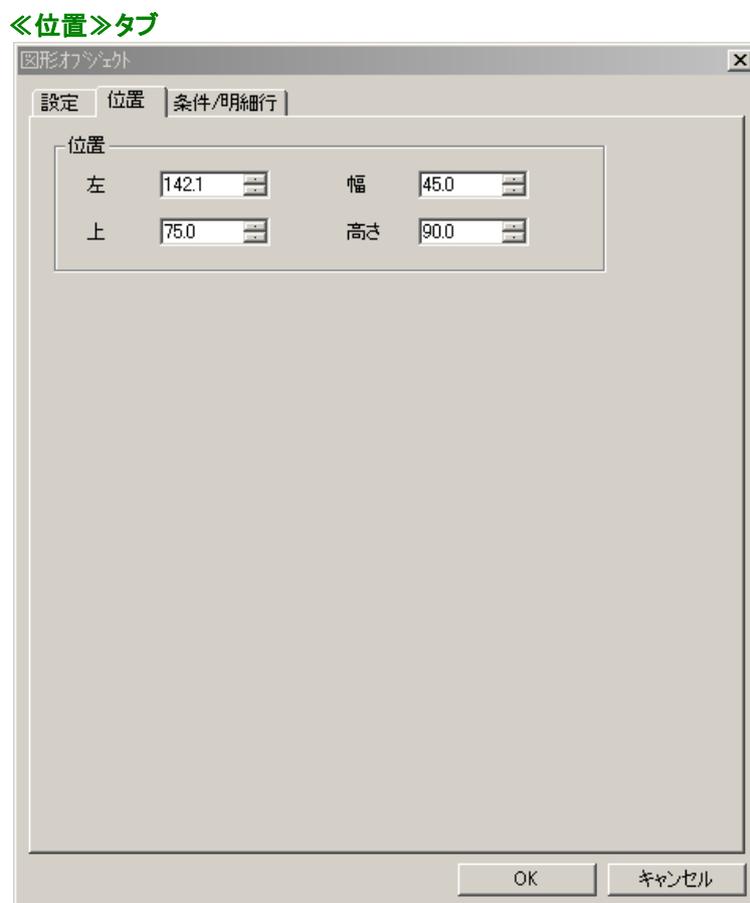
フォームに配置された図形オブジェクト(線/円/矩形)の情報を表示します。

◎**イメージ**

フォームに配置されたイメージオブジェクトの情報を表示します。

2. 3. 20 位置指定

それぞれのオブジェクトの位置や、幅、高さを変更することができます。対象となるオブジェクトのダイアログボックスを開き、《位置》タブをクリックしてください。



※ オブジェクトによっては、操作することのできない項目があります。

2. 3. 21 フォームインポート

ワードやエクセルで作成した既存の帳票や申請書のファイルを、PrintProで利用できる帳票や申請書フォームに変換してインポート、もしくは、別のデータ定義ファイルのフォームを、インポート先にインポートします。

使用上の注意

- ・対応OSは、Windows 2000 / XP / Vista 32ビット版です。その他のOSでは使用できません。
- ・PPIファイルにできるファイルの総文字数は、2048文字までです。これ以上の文字が存在する場合、PPIファイルを作成することができません。
- ・角丸は、再現できません。
- ・網掛け、塗潰しは、再現できません。
- ・矩形は、4つの線オブジェクトとして扱います。
- ・楕円は、再現できません。
- ・イメージは、再現できません。
- ・色は、再現できません。

使用手順)

PrintPro for Designer のメニューから専用のダイアログボックスを起動し、インポートを行う方法(PPIファイル、データ定義ファイル)と、新規作成のコンソールプログラムでインポートを行う方法の2つの方法があります。

PrintPro for Designer のメニューからPPIファイルのフォームをインポートする場合

1. PPIファイル(PrintProImportファイル)の作成

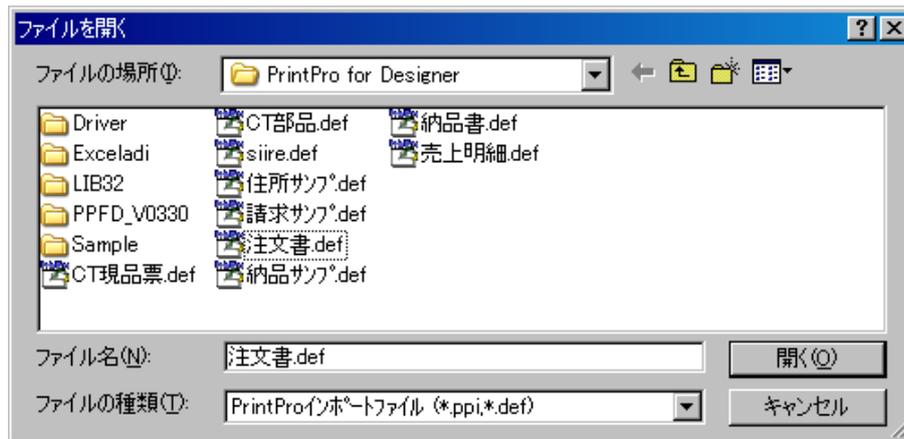
ワードやエクセルで作成した既存の帳票や申請書のファイルを、プリンタにPrintPro Form Creatorを指定して、印刷を実行します。《ファイルに名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されますので、PPIファイルに名前を付けて保存します。

※ Windows 2000、XP環境では、PrintPro Form Creatorは、PrintPro for Designer をインストールする際、一緒にインストールされます。

※ Windows Vista環境では、PrintPro Form Creatorは、PrintPro for Designer をインストールする際、一緒にインストールされません。PrintPro Form Creatorをインストールするには、『コントロールパネル』の『プリンタ』(Windows 2000の場合)から、PrintPro Form Creatorを追加する必要があります。詳細は「2. 6. 1 PPIファイルの作成」をご覧ください。

2. フォームインポート

PrintPro for Designer を起動し、フォームを追加したい既存のデータ定義ファイルを開きます。【ファイル(F)】メニューの【フォームインポート(B)】を選択します。《ファイルを開く》ダイアログボックスが表示されますので、フォームとして追加したいPPIファイルを指定し、【開く】ボタンをクリックします。

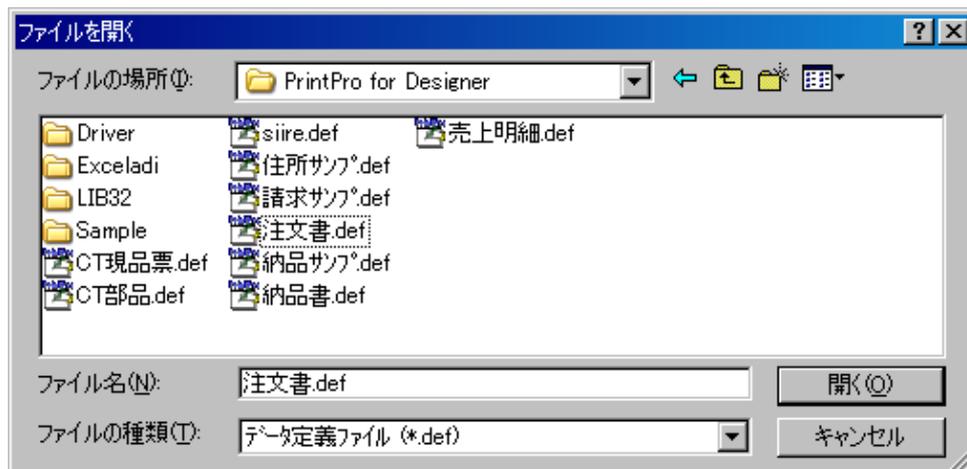


以上で、開いているデータ定義ファイルに、新しいフォームが追加されます。追加されたフォームのフォーム名は、PPIファイルを追加した場合、PPIファイルのファイル名と同じになっていますので、必要があれば変更してください。

PrintPro for Designer のメニューから別のデータ定義ファイルのフォームをインポートする場合

1. フォームインポート データ定義ファイル指定

PrintPro for Designer を起動し、フォームを追加したい既存のデータ定義ファイルを開きます。【ファイル(F)】メニューの【フォームインポート(B)】を選択します。《ファイルを開く》ダイアログボックスが表示されますので、フォームを追加したいデータ定義ファイルを指定し、【開く】ボタンをクリックします。



2. フォームインポート ダイアログボックス

フォームインポート用のダイアログボックスが表示されますので、必要な情報を入力し、【OK】ボタンをクリックすると、新しいフォームが指定した内容で追加されます。

フォーム	項目	割り当て項目
<input checked="" type="checkbox"/> 印賃	[1] 名前	[1] 支店名
<input checked="" type="checkbox"/> ラベル	[2] 郵便番号	[2] 〒
<input checked="" type="checkbox"/> ヤマト航空便	[3] 住所1	[3] 住所1
<input checked="" type="checkbox"/> 特急アロー便	[4] 住所2	[4] 住所2
<input checked="" type="checkbox"/> 丸全昭和運輸(株)	[5] 住所3	[5] 住所3
	[6] バーコード	[6] TEL
	[7] 電話番号	[7] FAX

【インポート データ定義ファイル名】

インポートするフォームを持ったデータ定義ファイルのファイル名が表示されます。

【フォーム(F)】

選択したデータ定義ファイルが持っているフォームの名前を表示します。チェックがついているものが、インポートの対象になります。

【項目(I)】

インポートを行うデータ定義ファイルの持っている項目の項目番号と、項目名称表示されます。原則として、同じ項目を持ったデータ定義ファイル間でのフォームのインポートを行います。お互いのデータ定義ファイルの持っている項目が異なる場合、フォームをインポートするだけでなく、項目も追加することができます。

【割り当て項目(A)】

インポート後に割り当てられるインポートを受けるデータ定義ファイルが持っている項目の項目番号と、項目名称が表示されます。選択した項目の割り当てを、このコンボボックスから選択します。「後ろへ追加」を選択すると、インポートを受ける側の項目の後に追加されます。

<同一フォームを上書きする(O)>

インポートを受けるフォーム名が、インポートを行うデータ定義ファイルの持つフォームと同一名称であれば、既存の同一名称のフォームを上書きしてコピーします。

【番号割り当て】

インポートを受ける項目に、インポートを行う項目を、項目番号順で割り当てます。

【名称割り当て】

インポートを受ける項目と同じ項目名称がインポートを行う項目にあれば、その項目に割り当てます。

【OK】

指定した内容で、フォームのインポートが実行されます。

【キャンセル】

フォームのインポートをキャンセルし、ダイアログボックスを閉じます。

コンソールプログラムを使用してデータ定義ファイルからフォームをインポートする場合**コンソールプログラム説明:**

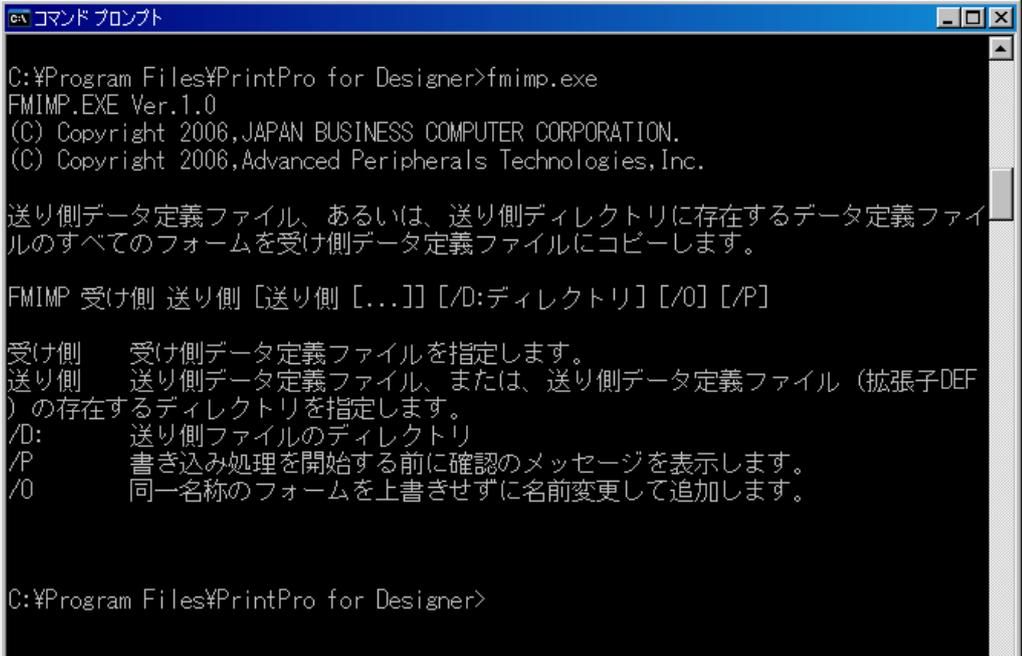
送り側データ定義ファイル、あるいは、送り側ディレクトリに存在するデータ定義ファイル(拡張子DEF)のすべてのフォームを、受け側データ定義ファイルにインポートします。

- ・受け側データ定義項目の変更/追加は行いません。
- ・すべてのフォームをコピーします。
- ・同一名称のフォームは上書きします。ただし、同一名称フォームが複数存在する場合、処理を終了します。
- ・送り側フォームの項目オブジェクトのデータ定義項目番号の変更は行いません。
- ・送り側のデータ定義項目数が受け側のデータ定義項目数よりも大きい場合、処理を終了します。
- ・データ定義項目の名称、データ型等の確認は行いません。
- ・受け側と一致する送り側データ定義ファイルは送り側から除外します。
- ・送り側にファイルを指定した場合のインポート順は指定した順(受け側の次のパラメータが1番目)となります。
- ・送り側にディレクトリを指定した場合のインポート順はNTFS環境ではファイル名順、FAT環境では作成日順となります。

構文

FMIMP 受け側 送り側 [送り側 [...]] [/D:ディレクトリ] [/P] [/O]

※コンソールプログラム“fmimp.exe”を実行すると、コンソール内に、使用方法が表示されます。



```
コマンド プロンプト
C:\Program Files\PrintPro for Designer>fmimp.exe
FMIMP.EXE Ver.1.0
(C) Copyright 2006,JAPAN BUSINESS COMPUTER CORPORATION.
(C) Copyright 2006,Advanced Peripherals Technologies, Inc.

送り側データ定義ファイル、あるいは、送り側ディレクトリに存在するデータ定義ファイルのすべてのフォームを受け側データ定義ファイルにコピーします。

FMIMP 受け側 送り側 [送り側 [...]] [/D:ディレクトリ] [/O] [/P]

受け側 受け側データ定義ファイルを指定します。
送り側 送り側データ定義ファイル、または、送り側データ定義ファイル (拡張子 DEF) の存在するディレクトリを指定します。
/D: 送り側ファイルのディレクトリ
/P 書き込み処理を開始する前に確認のメッセージを表示します。
/O 同一名称のフォームを上書きせずに名前変更して追加します。

C:\Program Files\PrintPro for Designer>
```

パラメータ

- 受け側** 受け側データ定義ファイルを指定します。パスを記述しない場合、現在のディレクトリのファイルを使用します。
- 送り側** 送り側データ定義ファイル、または、送り側データ定義ファイル (拡張子 DEF) の存在するディレクトリを指定します。送り側データ定義ファイルの場合は**複数**、ディレクトリの場合は**単数**指定となります。
- /D:** 送り側データ定義ファイルのディレクトリを指定します。“ディレクトリ”の既定値は現在のディレクトリです。送り側にディレクトリが指定されている場合、ここで指定されたディレクトリは使用されません。
- /P** 書き込み処理を開始する前に確認のメッセージを表示します。
- /O** 同一名称のフォームを上書きせずにコピーします。**同一名称のフォームにはポイント”.”と0 詰めの連番 4 桁が付加して名前変更します (桁数不足の場合フォーム名を短く切り詰めます)。**

戻り値

0	処理は終了しました。
-101	メモリが取得できません。
-102	メモリが取得できません。
-103	メモリが取得できません。
-201	ファイルが存在しません。
-202	パスが存在しません。
-203	送り側データ定義ファイルが存在しません。
-204	ファイルのオープンに失敗しました。
-205	中間ファイル作成に失敗しました。

-206	ファイルが列挙に失敗しました。
-207	ファイルは使用中です。
-301	ファイルの読み込みに失敗しました。
-302	ファイルの書き込みに失敗しました。
-303	ファイルのシークに失敗しました。
-304	ファイルの名前変更に失敗しました。
-305	ディスク容量が不足しています。
-401	データ定義ファイルでないファイルが指定されました。
-402	データ定義ファイルのバージョンが異なります。
-403	[%s] のデータ定義項目数が受け側の項目数を超過しています。
-404	[%s]と[%s] に同名フォーム [%-20s] が存在します。
-405	9999を超えるフォームは追加できません。
-501	既に起動されています。
-502	パラメータの形式が誤っています。
-503	処理を中断しました。

例

FMIMP 顧客.def 請求サンプ.def 住所サンプ.def 宛名.def /D:c:¥temp /P /O
と指定した場合

c:¥temp のデータ定義ファイル“請求サンプ.def”、“住所サンプ.def”、“宛名.def”のフォームを現在のディレクトリ内のデータ定義ファイル“顧客.def”にインポートします。インポートは請求サンプ.def から行われます。

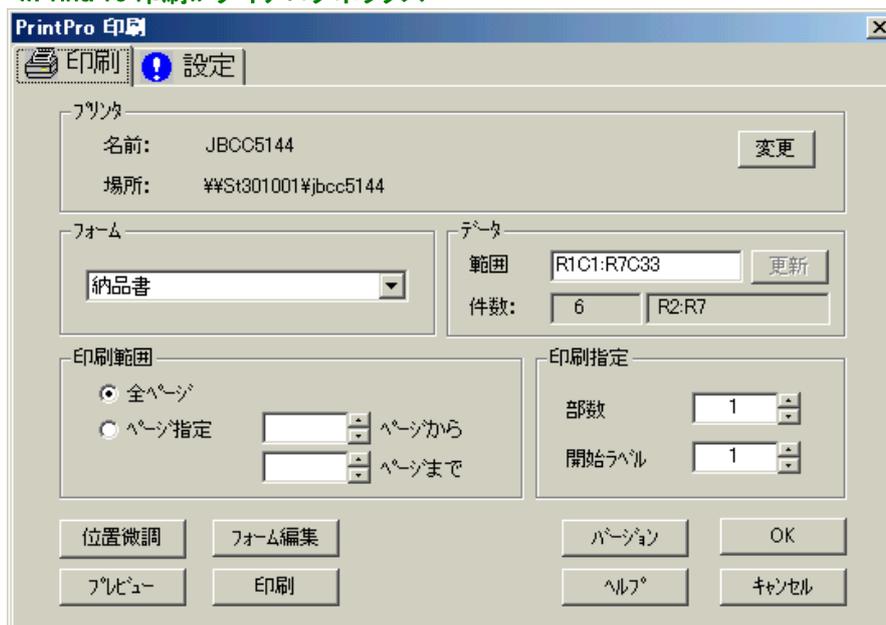
書き込み処理前に確認が行われ、同一名称のフォームがあった場合は上書きせずに名前を変更し、コピーします。

2.4 Excelアドインツールの操作

PrintPro Excel アドインツールを、Microsoft Excel に登録することにより、Excel のワークシート上のデータを、Excel に追加されるメニューにより、PrintPro for Designer で登録したフォームを使用して印刷することができます。



《PrintPro 印刷》ダイアログボックス



PrintPro 印刷

印刷 | 設定

プリンタ

名前: JBCC05144 変更

場所: ¥¥St301001¥jbcc5144

フォーム

納品書

データ

範囲: R1C1:R7C33 更新

件数: 6 R2:R7

印刷範囲

全ページ

ページ指定

ページから

ページまで

印刷指定

部数: 1

開始ラベル: 1

位置微調 フォーム編集 バージョン OK

プレビュー 印刷 ヘルプ キャンセル

2. 4. 1 Excelアドインツールの登録

PrintPro Excel アドインツールを Excel に登録します。

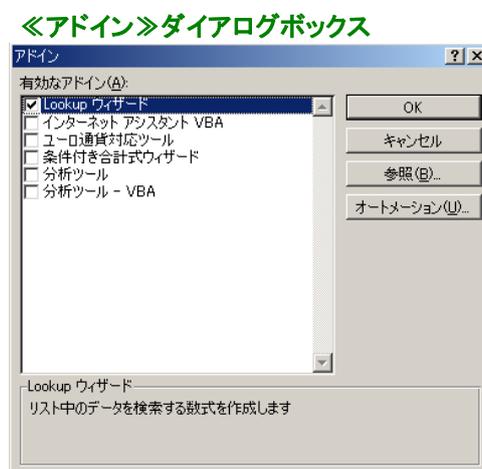
PrintPro のインストール時に、「Microsoft Excel に PrintPro アドインの登録を行いますか。」で<はい>を選択し、アドイン登録を行った場合、ここでの登録を行う必要はありません。登録方法は、以下の例を参照してください。

●登録するファイル

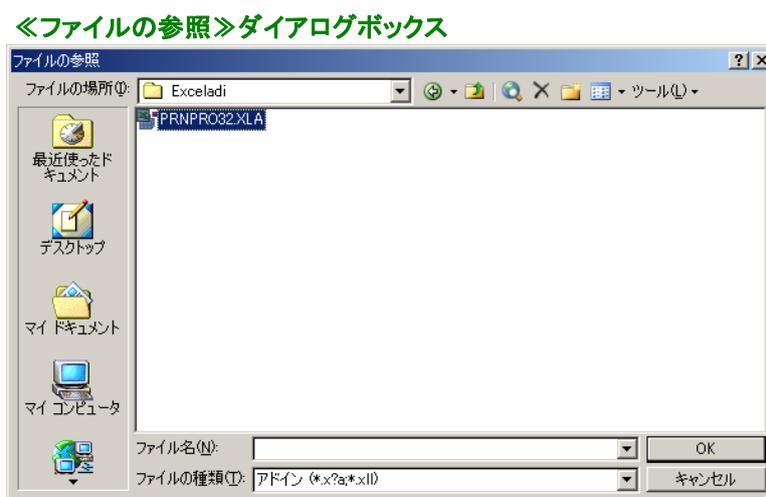
『PrintPro をインストールしたフォルダ』→『Exceladi』の順番でフォルダを開き、その中にある『Prnpro32.xla』を登録します。

例)Excel 2003

- ①Excel を起動し、【ツール(T)】メニューの【アドイン(I)】を選択して、《アドイン》ダイアログボックスを表示します。



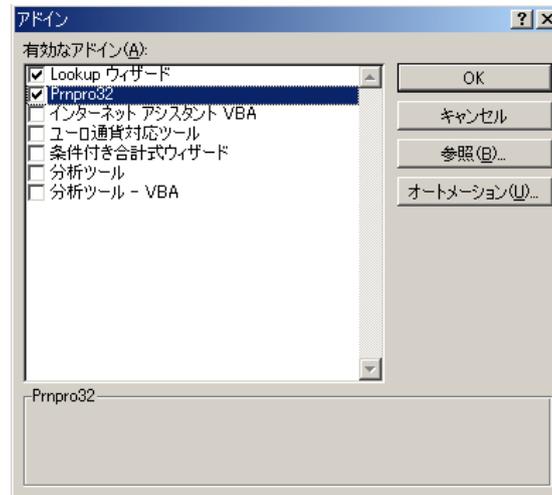
- ②【参照(B)】をクリックし、《ファイルの参照》ダイアログボックスを開きます。



- ③『マイコンピュータ』→『C:』→『PrintPro for Designer』→『Exceladi』の順番に開き、『Prnpro32.xla』を選択して【OK】をクリックします。

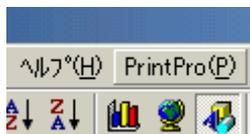
-
- ④「アドイン」ダイアログボックスの『Prnpro32』をチェックし、【OK】をクリックしてアドインの登録は完了です。

「アドイン」ダイアログボックス



2. 4. 2 PrintProメニュー(アドイン)の操作

PrintPro Excel アドインツールが登録されると、Excel のメニューバーに【PrintPro(P)】メニューが追加されます。



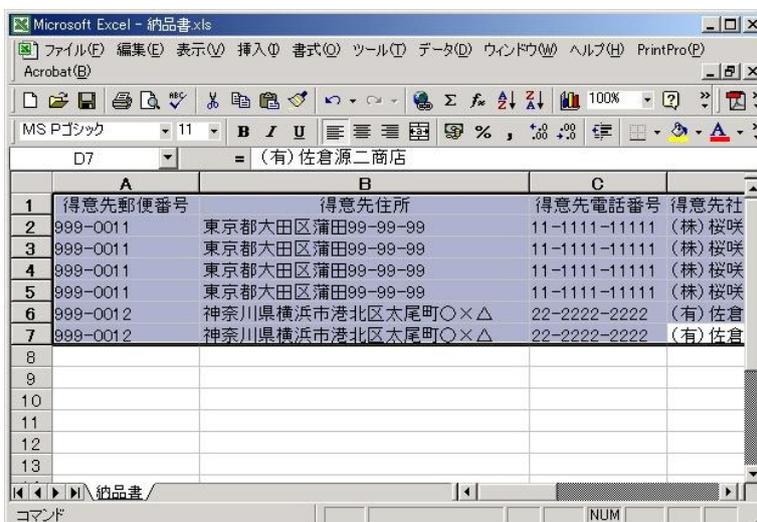
PrintPro(P)/新規作成(D)

新しいデータ定義ファイルを作成します。

ワークシートのデータを印刷するフォームを初めて作成する場合、まず始めにデータ定義ファイルを作成します。

①Excel のワークシート上に、PrintPro で印刷に使用するデータの範囲を選択し、反転表示にします。

- ※ データ範囲を指定する場合1行目は必ず項目のタイトルでなければいけません。
- ※ レコードの行は32000行までです。
- ※ レコードの総文字数は32000文字までです。
- ※ Excelアドインをご利用の場合は、255項目、32000行まで使用できます。



②Excel の【編集(E)】メニューの【コピー(C)】を選択して、データ範囲をクリップボードにコピーします。

③【PrintPro(P)】メニューの【新規作成(D)】を選択すると、PrintPro for Designer が起動し、《データ定義作成/変更》ダイアログボックスが表示されます。

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

データ定義 作成/変更

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(T)

項目一覧

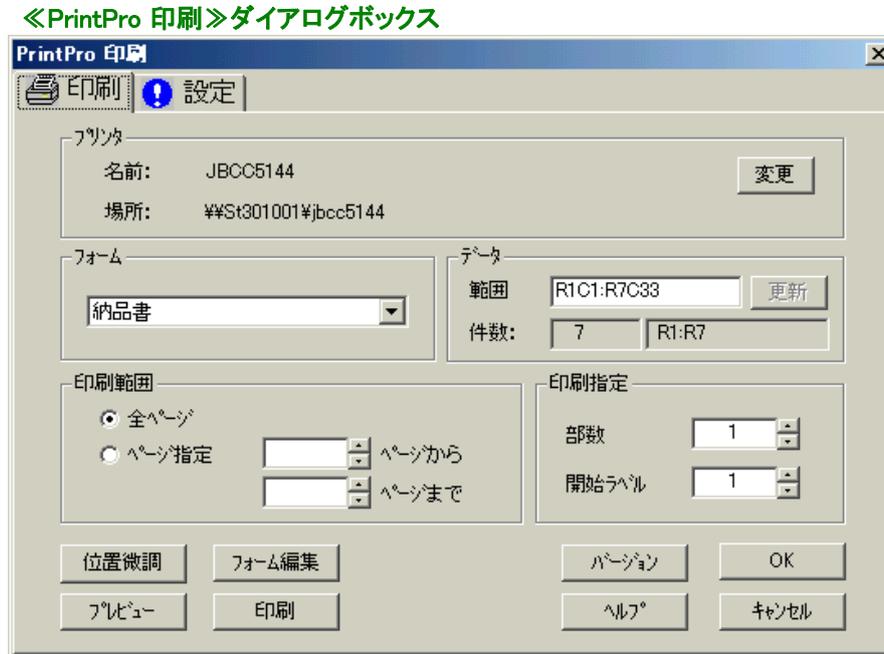
番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	発行年	数値	2	
2	発行月	数値	2	
3	発行日	数値	2	
4	支店名	文字	30	
5	〒	郵便番号	10	
6	住所1	文字	30	
7	住所2	文字	30	
8	住所3	文字	30	
9	TEL	電話番号	15	
10	FAX	電話番号	15	
11	バーコード左	バーコード	10	
12	バーコード右	バーコード	5	
13	お客様〒	郵便番号	10	
14	お客様住所1	文字	30	
15	お客様住所2	文字	30	
16	お客様住所3	文字	30	
17	お客様名	文字	30	
18	カスタムバーコード	バーコード	50	
19	ご請求年	文字	2	
20	ご請求月	文字	2	
21	お支払年	文字	2	
22	お支払月	文字	2	
23	お支払日	文字	2	
24	ご請求の内訳	文字	20	
25	数量	数値	10	
26	単価	数値	10	
27	金額	数値	10	
28	お支払	文字	30	

データ定義の新規作成が終わると、《PrintPro印刷》ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、フォームの追加や編集、印刷条件の設定、プレビュー表示、印刷などを行います。

PrintPro(P)/フォーム設定(S)

フォーム設定/印刷を行います。

選択すると、「PrintPro 印刷」ダイアログボックスが表示されます。



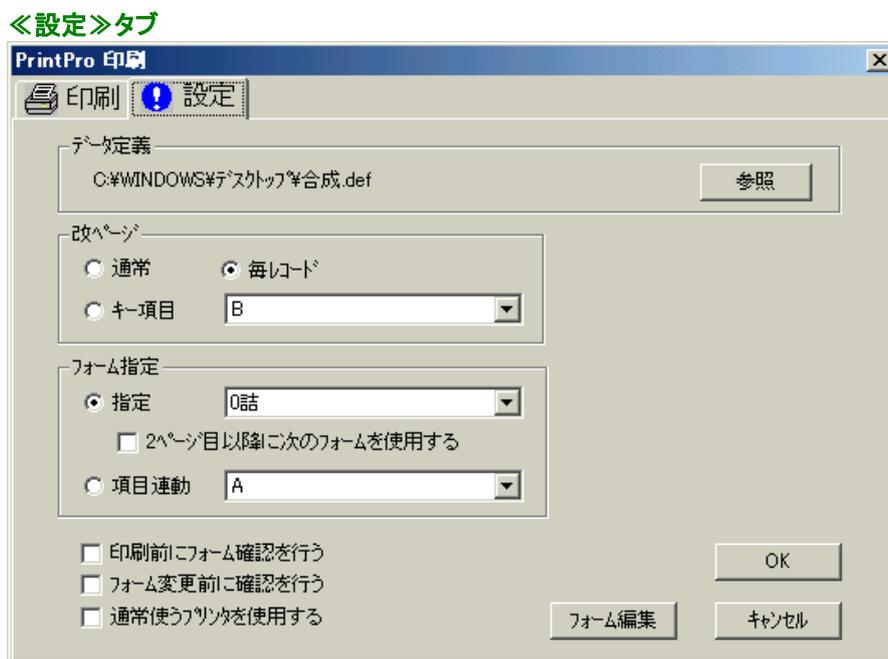
印刷、印刷位置の微調整、プレビュー、印刷フォームの設定などを行うことができます。

PrintPro(P)/フォーム印刷(P)

「印刷指定範囲」のデータが印刷されます。印刷には「PrintPro 印刷」ダイアログボックスで設定されている条件が使用されます。

※ Excelアドインをご利用の場合は、255項目、32000行まで使用できます。

◎ <<設定>>タブ



【データ定義】

ワークシートのデータを印刷するデータ定義ファイル名が、表示されます。【PrintPro(P)】メニューの【新規作成(D)】選択時には、新規に作成されたデータ定義ファイル名が表示されます。

<参照>

ワークシートを印刷するデータ定義ファイルを選択します。クリックすると、<<データ定義選択>>ダイアログボックスが表示されます。

【改ページ】

<通常>

明細行数を超えた場合に改ページが行われます。(明細行がない場合には、1レコードを1ページに印刷します。)

<毎レコード>

毎レコード、改ページを行います。ハガキやラベルのように、1レコードを1ページに印刷する時に使用します。

<キー項目>

コンボボックスで指定した項目の内容が、前のレコードの内容と異なる場合に改ページを行います。伝票のように、複数の明細行を1ページに印刷する時に使用します。

【フォーム指定】

<指定>

コンボボックスで指定されているフォームに印刷します。

<2ページ目以降に次のフォームを使用する>

1ページ目はコンボボックスで指定されたフォームで印刷し、2ページ目以降は指定のフォームの次のフォームで印刷されます。改ページにより改ページが行われると、再び1ページ目から印刷を行います。連番は、改ページ指定による改ページ後、1に戻ります。

例)請求書のように1ページ目と2ページ目でフォームを変える。

○1 ページ目(ヘッダー&明細) ○2 ページ目(明細のみ)

JBCC	2001/5/5		
横浜事業	横浜市港北区		
日付け	品名	数量	金額
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF

日付け	品名	数量	金額
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF
ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF	ABCDEF

<項目連動>

データ範囲のうち、コンボボックスで指定された項目の Excel から受け取ったデータの内容により、印刷するフォームを自動的に選択します。PrintPro for Designer でフォーム保存時、または<<フォーム名変更>>ダイアログボックス(【ファイル(F)】メニューの【フォーム名変更(F)】を選択すると表示される)で指定するコードの内容と一致するフォームが選択されます。

※ 客先指定の納品書などのように、データの形式が同じでフォームの種類が多い場合に、例えば、得意先コードをPrintPro for Designer のフォーム保存時の<<コード>>に指定し、項目で得意先コードを指定することにより、印刷データに従ってフォームを自動的に切り替えながら印刷することができます。

【印刷前にフォーム確認を行う】

各ページの印刷前に、フォームの確認を要求します。

【フォーム変更前に確認を行う】

フォームが変更される前に、確認を要求します。

【通常使うプリンタを使用する】

フォームを印刷する時に、Windows の『通常使うプリンタ』に指定されているプリンタと、その設定を使用して印刷します。チェックをオフにすると、フォーム作成時の、<<ページ設定>>ダイアログボックスの、プリンタ指定の内容に従って、プリンタと、その設定が選択されます。

【フォーム編集】

【フォーム指定】のコンボボックスで選択されているフォームを、編集状態にします。

【OK】

開いているワークシートのファイル名と、選択されているデータ定義ファイルのファイル名を JBCCPPRO.ini ファイル(Windows フォルダ内に保存されている)に保存して、ダイアログボックスを閉じます。同一のワークシートで、【PrintPro(P)】メニューの【フォーム設定(S)】、【PrintPro(P)】メニューの【フォーム印刷(P)】を選択した場合には、前回使用したデータ定義ファイルが選択されます。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

◎<<印刷>>タブ

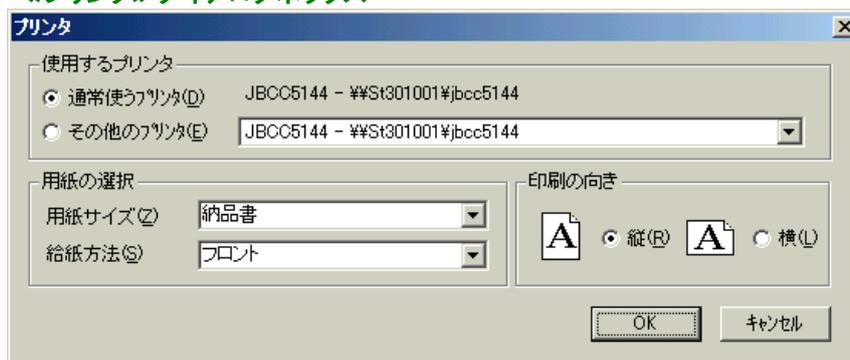
<<印刷>>タブ



【プリンタ】

- 「設定」タブの【通常使うプリンタを使用する】がチェックされている時、Windows の『通常使うプリンタ』に設定されているプリンタの名前、場所(接続先)が表示されます。【変更】は使用できません。
- 「設定」タブの【通常使うプリンタを使用する】がチェックされていない時、指定されたフォームに設定されているプリンタの名前、場所(接続先)が表示されます。【変更】をクリックすると「プリンタ」ダイアログボックスが表示され、フォームに設定されているプリンタ、用紙サイズ、給紙方法、印刷の向きが指定できます。

「プリンタ」ダイアログボックス



【フォーム】

コンボボックスで指定されているフォームが、印刷に使用されます。

【データ】

<範囲>

PrintPro で印刷するワークシートのデータ範囲を入力します。タイトル行を除いた範囲を Rn1Cn2:Rn3Cn4 の形式で指定します。n1:タイトル行の次の行番号、n2:データ範囲の最初の列番号(列の表示が A、B、C... となっている場合でも、それぞれ 1、2、3... と数字で指定します。)、n3:データ範囲の最後の行番号、n4:データ範囲の最後の列番号を指定します。データ範囲の最後の行番号は、現在データが入力されている最後の行でなくても構いません。将来データを追加する予定がある場合は、より大きい行番号を指定しておきます。

<更新>

Excel 上でデータ範囲が選択(反転表示)され、クリップボードにコピーされている時、<更新>をクリックすると、PrintPro のデータの<範囲(R)>が更新されます。Excel 上でデータ範囲を指定する場合、タイトル行の次の行から、必要な行、列までを選択(反転表示)し、Excel の【編集(E)】メニューの【コピー(C)】を選択して、データ範囲をクリップボードにコピーします。

<件数:>

印刷に使用されるデータの行数と、その横に印刷に使用されるデータの行が表示されます。

例)R2、R5、R7:R10

2 行目、5 行目、7 行目から 10 行目までの合計 6 行が指定されています。



【印刷範囲】

<全ページ>

データ範囲で選択されている範囲にあるデータを、すべて印刷します。

<ページ指定>

印刷したいページの先頭ページ番号と、最終ページ番号をそれぞれ選択します。

【印刷指定】

<部数>

印刷部数を指定します。

<開始ラベル>

ラベルのフォームの場合に、1 ページ内のどのラベルから印刷を開始するかを指定します。左上のラベルを 1 として、左から右、上から下に数えます。

【位置微調】

《位置微調整》ダイアログボックスが表示されます。<横方向(H)>、<縦方向(V)>に値を入力して、印刷位置を微調整します。正の値を入力すると、印刷位置を右(横方向)、または下(縦方向)へ移動します。負の値を入力すると、印刷位置を左(横方向)、または上(縦方向)に移動します。

《位置微調整》ダイアログボックス



【フォーム編集】

《設定》タブの【フォーム指定】のコンボボックスで選択されているフォームを、編集状態にします。

【プレビュー】

印刷指定範囲のデータをプレビュー表示します。クリックすると《PrintPro プレビュー》ダイアログボックスが表示されます。プレビューダイアログボックスでは、右クリックで表示されるポップアップメニューから表示倍率を選択することで、拡大表示/全体表示の切り替えができます。

【印刷】

印刷を開始します。

【バージョン】

《PrintPro バージョン情報》ダイアログボックスが表示されます。バージョンを確認し、【OK】をクリックするとダイアログボックスを閉じます。

《PrintPro バージョン情報》ダイアログボックス



【OK】

選択されているデータ定義ファイルと、ワークシート名をJBCCPPRO.iniファイル(『Windows』フォルダ)に保存して、ダイアログボックスを閉じます。同一のExcelのワークシートで、【PrintPro(P)】メニューの【フォーム設定(S)】、【PrintPro(P)】メニューの【フォーム印刷(P)】を選択した場合には、前回使用したデータ定義ファイルが選択されます。

【ヘルプ】

PrintPro for Designerのユーザーズマニュアルをブラウザ上に表示します。

※ ユーザーズマニュアルの表示にはインターネット接続可能環境が必要となります。

【キャンセル】

設定を変更せずに、ダイアログボックスを閉じます。

◎ ≪PrintPro プレビュー≫ダイアログボックス

≪PrintPro プレビュー≫ダイアログボックス



≪PrintPro プレビュー≫ダイアログボックス ツールバー



 (ページ表示ウィンドウ)
表示中のページ番号を表示します。

 (先頭ページボタン)
先頭のページを表示します。

 (前ページボタン)
前のページを表示します。

 (ページ指定ボタン)
≪ページ指定≫ダイアログボックスを開き、表示したいページをスピンボタンで選択して表示します。

≪ページ指定≫ダイアログボックス



 (次ページボタン)
次のページを表示します。



(最終ページボタン)

最終ページを表示します。

表示

全体



(表示倍率指定コンボボックス)

プレビュー表示をする倍率を、全体/横固定/縦固定/50%/75%/100%/125%/150%/200%/400%の中から選択します。表示倍率指定コンボボックスに任意のプレビュー倍率を入力することも可能です。プレビュー倍率を入力する場合は、50～400 の間の整数値を入力してエンターキーを押して下さい。単位は%です。《PrintPro プレビュー》ダイアログボックスの上で右クリックをしてポップアップメニューを表示し、その中から選択して変更することもできます。



(印刷ボタン)

現在表示中のページを印刷します。

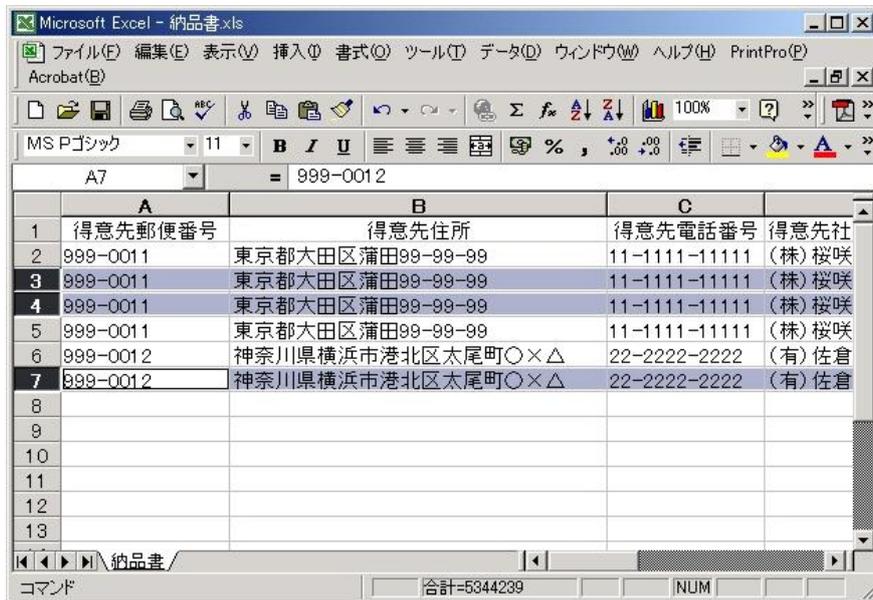
【閉じる】

《PrintPro プレビュー》ダイアログボックスを閉じます。

印刷指定範囲

●指定データの印刷

Excel のワークシート上で、範囲選択(反転表示)されているレコードのデータだけを印刷します。



	A	B	C	
1	得意先郵便番号	得意先住所	得意先電話番号	得意先社
2	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲
3	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲
4	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲
5	999-0011	東京都大田区蒲田99-99-99	11-1111-11111	(株)桜咲
6	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町○×△	22-2222-2222	(有)佐倉
7	999-0012	神奈川県横浜市港北区太尾町○×△	22-2222-2222	(有)佐倉
8				
9				
10				
11				
12				
13				

印刷範囲の指定は、印刷したい行を選択し、反転表示にします。印刷範囲指定は、行のみの情報が有効であるため、列はどこでもかまいません。1つの列でも、全部の列でも同じ指定となります。

●全データの印刷

範囲選択(反転表示)されていない場合、《印刷》タブの【データ範囲】の<範囲(R)>で指定されているデータすべてを印刷します。

第3章 使ってみましょう

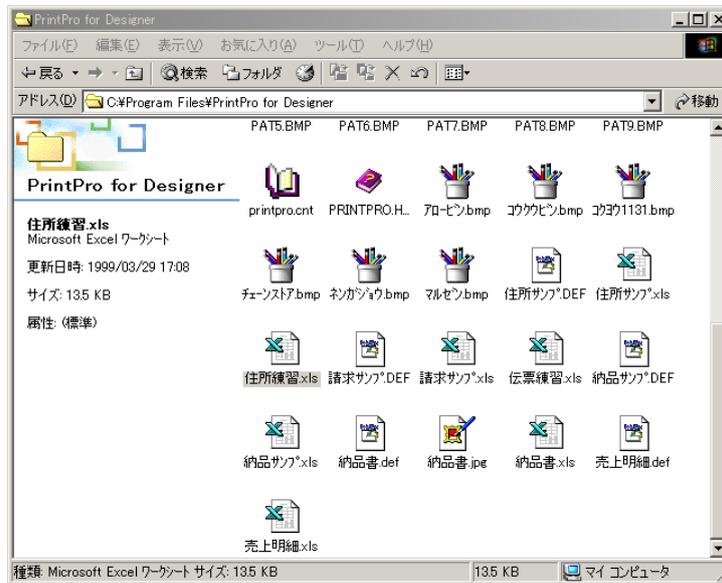
3.1 年賀状に印刷する

年賀状の印刷サンプルを使用して、PrintPro で印刷を行う操作について説明します。

3.1.1 ワークシートの読込

Microsoft Excel を起動し、PrintPro をインストールしたフォルダから『住所サンプ.xls』を開きます。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:\ユーザー*(ユーザー名)*ドキュメント*PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。

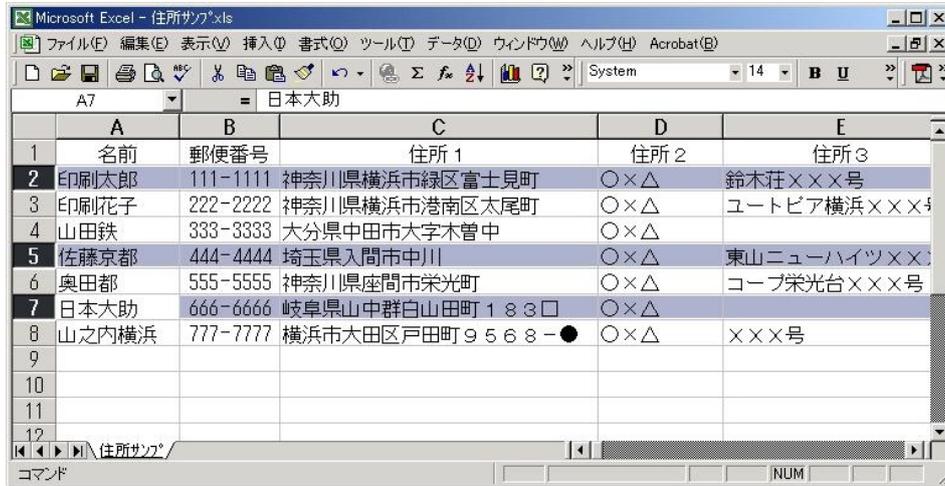


The screenshot shows Microsoft Excel with the '住所サンプ.xls' spreadsheet open. The spreadsheet contains a table with columns for '名前' (Name), '郵便番号' (Postal Code), '住所1' (Address 1), '住所2' (Address 2), and '住所3' (Address 3). The data is as follows:

	A	B	C	D	E
1	名前	郵便番号	住所1	住所2	住所3
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木管中	○×△	
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××号
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中群白山田町 1 8 3 □	○×△	
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号
9					
10					
11					
12					

3. 1. 2 印刷、プレビュー

Excel のワークシートで印刷する行を選択(反転表示)します。この例では、2、5、7 行目を選択します。



	A	B	C	D	E
1	名前	郵便番号	住所 1	住所 2	住所 3
2	印刷太郎	111-1111	神奈川県横浜市緑区富士見町	○×△	鈴木荘×××号
3	印刷花子	222-2222	神奈川県横浜市港南区太尾町	○×△	ユートピア横浜×××号
4	山田鉄	333-3333	大分県中田市大字木曾中	○×△	
5	佐藤京都	444-4444	埼玉県入間市中川	○×△	東山ニューハイツ×××号
6	奥田都	555-5555	神奈川県座間市栄光町	○×△	コープ栄光台×××号
7	日本大助	666-6666	岐阜県山中郡白山山田町 1 8 3 □	○×△	
8	山之内横浜	777-7777	横浜市大田区戸田町 9 5 6 8 - ●	○×△	×××号
9					
10					
11					
12					

【PrintPro(P)】メニューの【フォーム設定(S)】を選択し、《PrintPro 印刷》ダイアログボックスを表示します。

《PrintPro 印刷》ダイアログボックス



PrintPro 印刷

印刷 | 設定

プリンタ
名前: JBCC5144 [変更]
場所: ¥¥St301001¥jbcc5144

フォーム
年賀 [▼]

データ
範囲: R2C1:R31C6 [更新]
件数: 3 R2, R5, R7

印刷範囲
 全ページ
 ページ指定 [] ページから [] ページまで

印刷指定
部数: 1 [▼]
開始ラベル: 1 [▼]

位置微調 | フォーム編集 | バージョン | OK
プレビュー | 印刷 | ヘルプ | キャンセル

【印刷】をクリックすると、データが印刷されます。このサンプルでは、選択している 2、5、7 行目のデータが印刷されます。

【プレビュー】をクリックすると、《PrintPro プレビュー》ダイアログボックスが開きます。

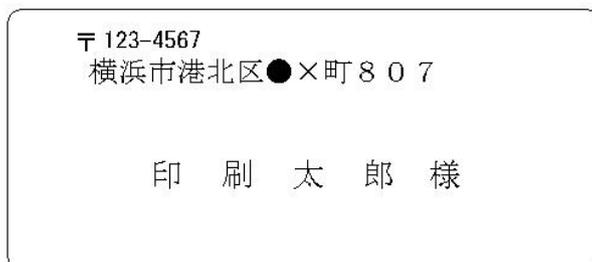
≪PrintPro プレビュー≫ダイアログボックス



3.2 ラベルに印刷しましょう

ラベル印刷を例として、PrintPro による、データ定義作成、PrintPro for Designer による、フォーム作成、印刷など一連の基本操作を説明します。ラベルには、スタンダードラベルを使用します。

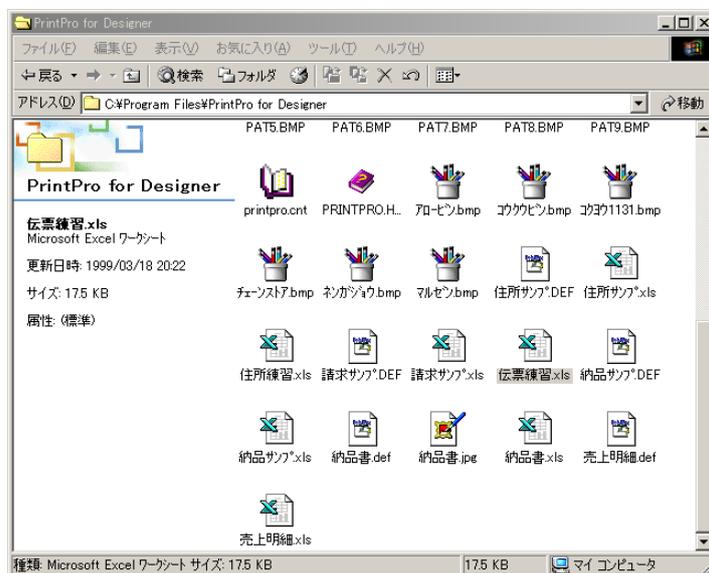
この例題では次のようなラベルを作成します。



3.2.1 印刷データを準備する

Excel を起動し、ワークシートにラベルに印刷するデータを作成します。ワークシート名は、あとで作成するデータ定義名にも使用しますので、指定しておきます。ここでは、PrintPro をインストールしたフォルダから『住所練習.xls』を開いて使用します。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:\ユーザー*(ユーザー名)*ドキュメント*PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。

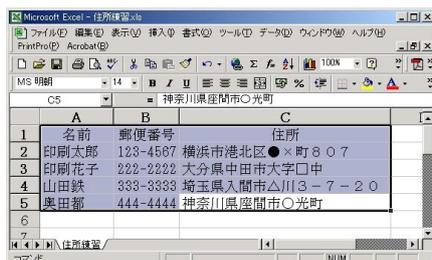


3. 2. 2 データ定義を作成する

ワークシートのデータを印刷するフォームを初めて作成する場合、まず始めにデータ定義ファイルを作成します。

- PrintPro で印刷に使用するデータの範囲(『データ範囲』)を、Excel のワークシート上で反転表示にし、【編集(E)】メニューの【コピー(C)】を選択します。

※ データ範囲を指定する場合、1行目は必ず項目のタイトルでなければいけません。



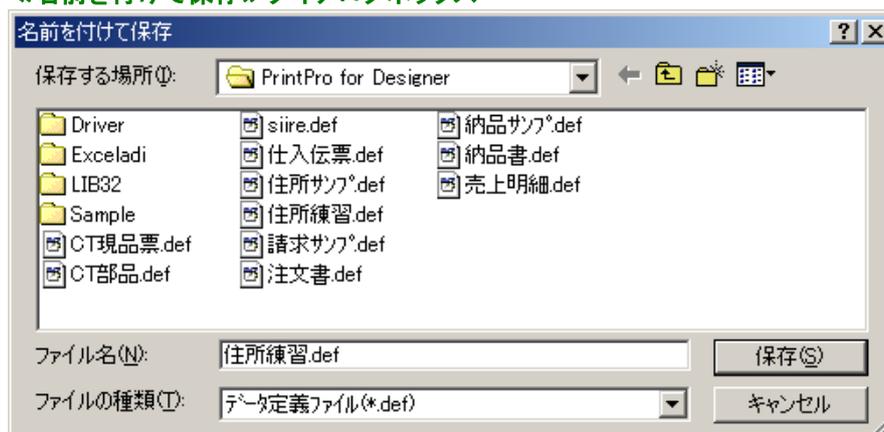
【PrintPro(P)】メニューの【新規作成(D)】を選択します。画面には、《データ定義 作成/変更》ダイアログボックスが表示されます。

《データ定義作成/変更》ダイアログボックス

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字/演算式
1	名前	文字	8	
2	郵便番号	文字	6	
3	住所	文字	28	

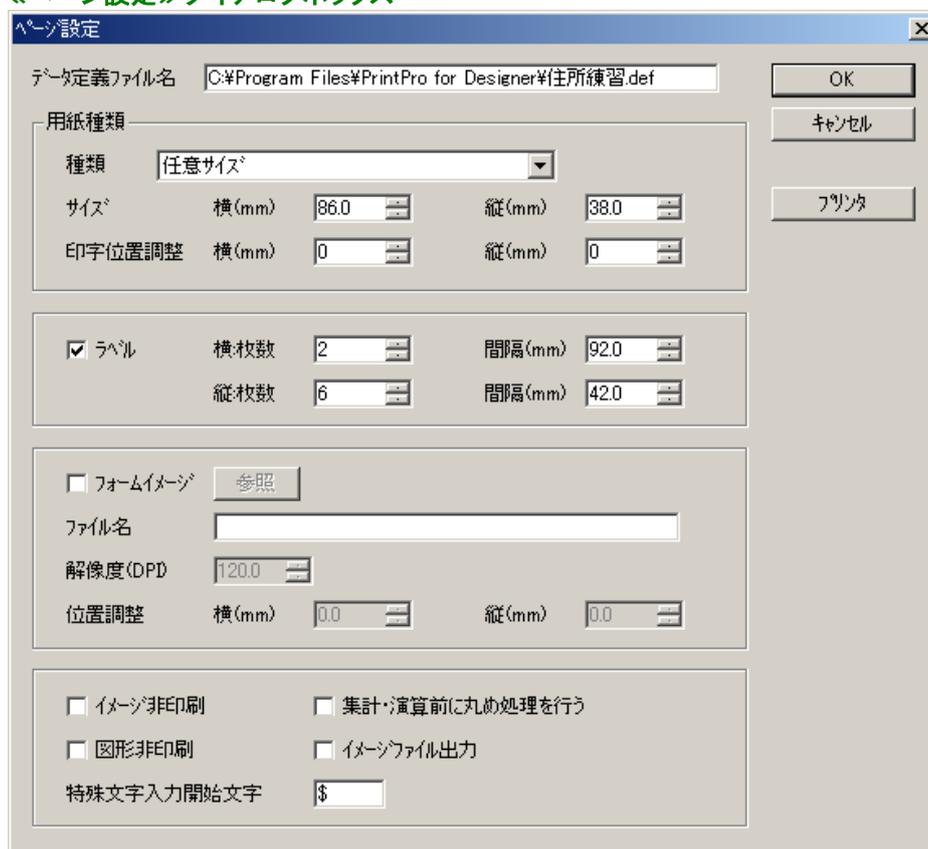
データ範囲 1 行目の各項目の内容が、<項目名称(N)>として登録されます。また、データ範囲の 2 行目から最後の行までのデータのうち、1 番桁数の大きいものが、その項目の<桁数(C)>として登録されます。しかし、この桁数は、あくまでも現在入力されているデータの最大桁数なので、この桁数よりも長いデータが入力される可能性がある場合には、桁数を大きくしておいた方が良いでしょう。この例では、現在の設定で良いものとして、保存を行います。【OK】をクリックすると、《名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されます。

《名前を付けて保存》ダイアログボックス



ファイル名(ここでは住所練習)を指定して【保存(S)】をクリックすると、新しく作成したデータ定義が保存されます。続けて、《ページ設定》ダイアログボックスが表示されます。

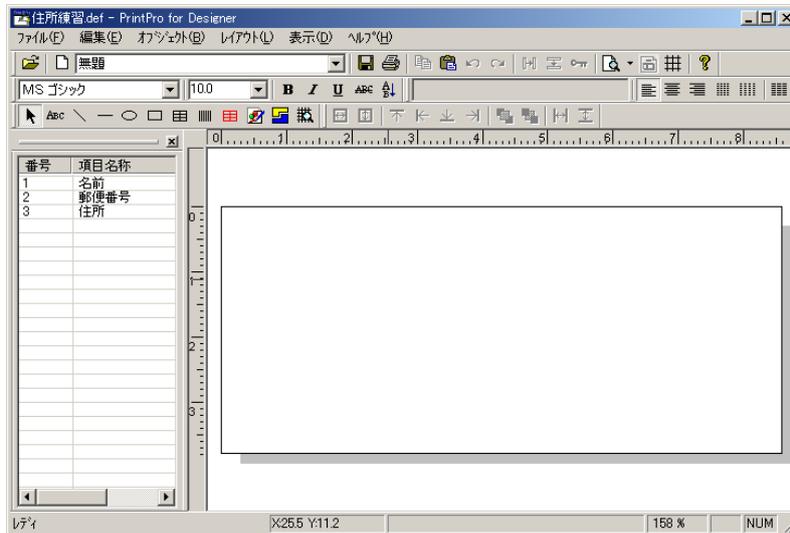
《ページ設定》ダイアログボックス



【用紙種類】を指定します。＜サイズ＞の＜横(mm)＞に『86』、＜縦(mm)＞に『38』を入力します。用紙種類の表示は、『任意サイズ』にかわります。ラベルの場合、用紙種類はラベル1枚のサイズを指定します。次に、＜ラベル＞をチェックし、＜横:枚数＞に『2』、＜縦:枚数＞に『6』、横の＜間隔(mm)＞に『92』、縦の＜間隔(mm)＞に『42』を入力します。ラベル左端から次のラベルの左端までの寸法を横間隔に、ラベルの上部から次のラベルの上部までの寸法を縦間隔に入力します。【OK】をクリックすると、ラベル1枚分の用紙イメージが表示され、フォーム作成状態になります。

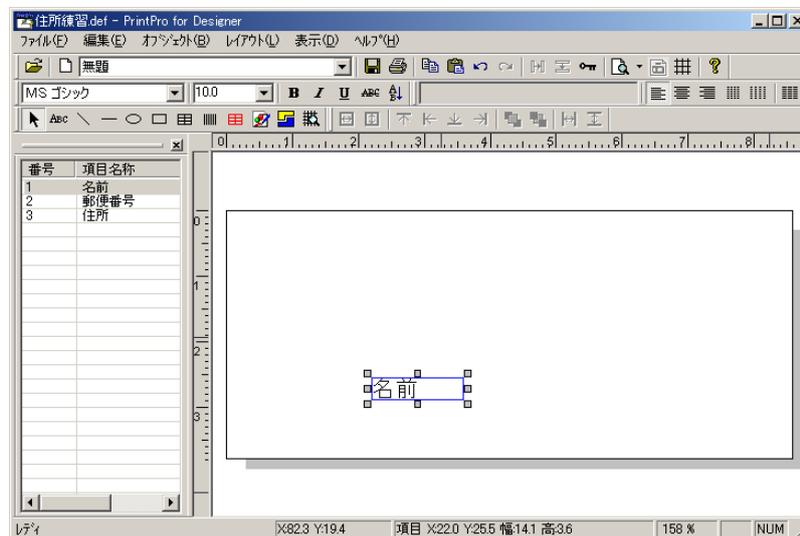
3. 2. 3 フォーム作成

ページ設定を行うと、PrintPro for Designer のフォーム作成状態になります。



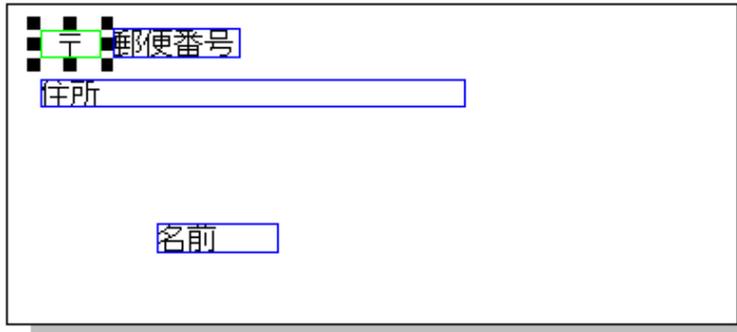
データをラベルに配置する

まず、画面に表示されている「データ定義」ウィンドウの『名前』の行をクリックします。次に、フォーム上の適当な位置で再度クリックします。フォーム上にワークシートの『名前』のデータが印刷される場所が配置されました。『郵便番号』、『住所』も同様にフォーム上に配置します。



郵便番号マーク、『様』を配置する

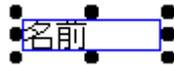
郵便番号の前に『〒』を固定文字オブジェクトとして配置します。固定文字オブジェクトは、Excel のデータとは無関係に、フォーム上に配置され表示/印刷されます。まず、ツールバーの固定文字オブジェクト作成ボタンをクリックします。次に、フォーム上の『郵便番号』を配置した前でクリックすると、固定文字オブジェクトがフォーム上に配置されます。固定文字オブジェクトをダブルクリックすると、「文字オブジェクト」ダイアログボックスが開きます。固定文字の『テキスト』を削除してから『〒』を入力して、【OK】をクリックしてください。



同様に『名前』の後ろに『様』を配置しましょう。

文字種類、サイズを変更する

文字の種類、サイズを変更する場合、まず、変更する項目、固定文字オブジェクトをクリックし、選択状態にします。選択状態になるとオブジェクトの周りに、サイズ変更マークが次のように表示されます。



この状態で、《フォント》バーにあるフォント名指定コンボボックスから、フォントを選択します。また、フォントサイズ指定コンボボックスから、サイズを選択します。

《フォント》バー



文字属性の変更

フォームに配置した項目、固定文字オブジェクトのフォント、サイズを変更してみましょう。

まず、変更する項目、文字オブジェクトをクリックします。ここでは、名前の固定項目オブジェクトを変更してみましょう。

《フォント》バーのフォントボールドボタン、フォントイタリックボタンをオンにし、《文字オブジェクト》バーの、均等ボタン(文字列方向)をオンにします。文字の属性が変更されます。

《フォント》バー



《文字オブジェクト》バー



〒 郵便番号

住所

名前 様

項目、固定文字オブジェクトのサイズ変更

全体的にバランスを良くするために、名前を印刷する固定項目オブジェクトの幅を、少し広げます。まず、固定項目オブジェクトをクリックし、選択状態にします。サイズ変更マークをクリックしたままドラッグしてマウスボタンを放すと、オブジェクトのサイズが変更されます。オブジェクトの幅を広げてみましょう。

〒 郵便番号

住所

名前 様

配置の変更

最後に各固定項目オブジェクト、固定文字オブジェクトが、フォーム上にバランス良く配置されるように、位置を調整します。まず、固定項目オブジェクト、固定文字オブジェクトをクリックし、選択状態にします。選択状態になった固定項目オブジェクト、固定文字オブジェクトの内側をクリックしたままドラッグしてマウスボタンを放すと、オブジェクトの位置を変更することができます。各項目、固定文字オブジェクトをバランス良く配置しましょう。

〒 郵便番号

住所

名前 様

3. 2. 4 保存

フォームが完成しましたので、保存しましょう。【ファイル(F)】メニューの【フォームを上書き保存(S)】をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

「名前を付けて保存」ダイアログボックス

名前を付けて保存

データ定義ファイル名 住所練習.def

フォーム名(N) ラベル

コード(C)

フォーム一覧(L)

OK

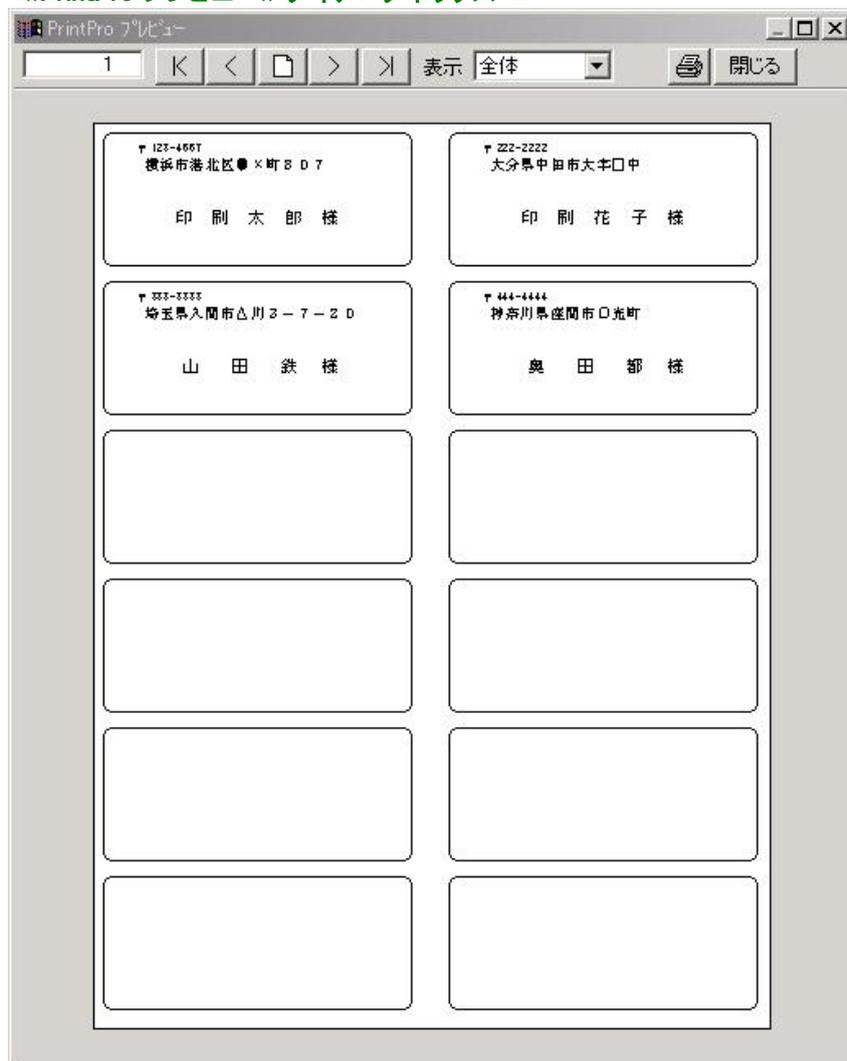
キャンセル

<フォーム名(N)>に『ラベル』と入力して、【OK】をクリックすると、『住所練習.def』にフォーム『ラベル』が追加されます。同時に、Excel アドイン設定画面にもフォームが追加(変更)されたことが伝わり、フォームが印刷できるようになります。

3.2.5 プレビュー表示

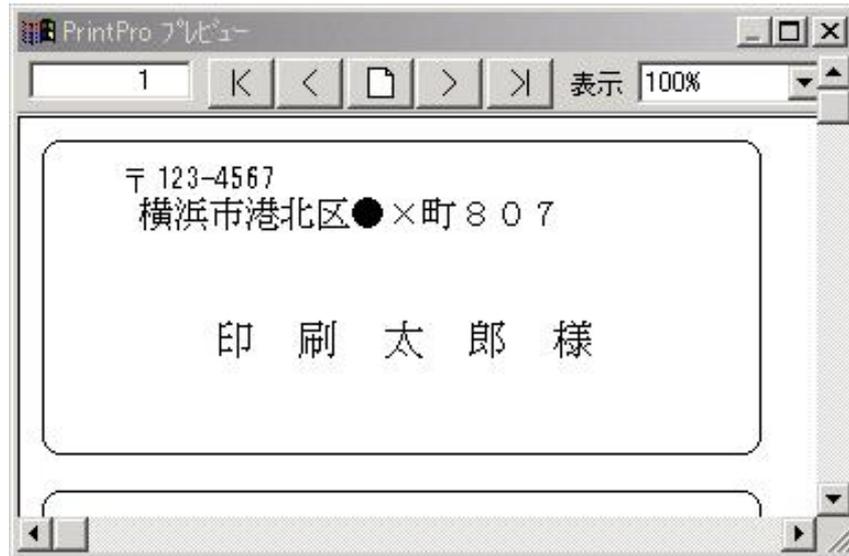
Excelアドイン設定画面のフォーム名表示コンボボックスには、PrintPro for Designer で作成したフォーム『ラベル』が追加されています。【プレビュー】をクリックしてプレビュー表示にします。

《PrintPro プレビュー》ダイアログボックス

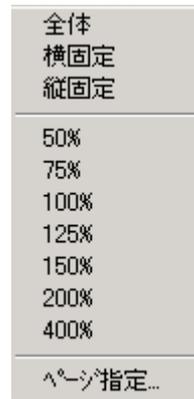


各ラベルの内容が良く見えないので拡大してみましょう。表示倍率指定コンボボックスから表示したい倍率を選択するか、見たいラベルの中心で右クリックし、ポップアップメニューの中から表示したい倍率を選択します。

《PrintPro プレビュー》ダイアログボックス



ポップアップメニュー



※ 表示を元に戻す時は、100%を選択してください。

3. 2. 6 印刷位置の調整

ラベルに印刷する前に、印刷位置の確認を行います。印刷位置は、ご使用のプリンタの用紙セット位置やマージンなどにより変化します。なるべく、用紙セット位置はいつも同じ位置にし、できるだけ広く印刷できるようにプリンタのマージンを設定しておくくと便利です。【ファイル(F)】メニューの【印刷位置微調整(M)】をクリックすると、《印刷位置調整》ダイアログボックスが表示されます。

《印刷位置調整》ダイアログボックス

【編集中のフォーム】

＜横方向(mm) (H)＞、＜縦方向(mm) (V)＞

編集中のフォームの印刷位置を調整します。正の値を入力すると、印刷位置を右、または下へ移動します。負の値を入力すると印刷位置を左、または上に移動します。

【すべてのフォーム】

＜横方向(mm) (O)＞、＜縦方向(mm) (E)＞

編集中のフォームと、同じデータ定義ファイルに保存されているすべてのフォームの印刷位置を調整します。正の値を入力すると、印刷位置を右、または下へ移動します。負の値を入力すると印刷位置を左、または上に移動します。

【OK】

設定の変更を保存して、ダイアログボックスを閉じます。

【キャンセル】

設定を変更せず、ダイアログボックスを閉じます。

【テスト印刷】

フォームのテスト印刷を行います。

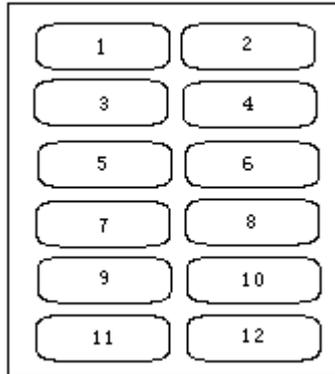
3. 2. 7 印刷

ラベル印刷をする準備は終わりましたので、実際のラベルに印刷してみましょう。

部数、開始ラベルを指定し、【印刷】をクリックすると印刷が開始されます。

開始ラベル位置には、1ページ内のどのラベルから印刷を開始するかを指定します。次のように指定します。

ラベル指定は、横2枚、縦6枚になっています。



ラベル内の数字は、スタート位置として指定する数値です。

3. 2. 8 フォーム修正

一度作成したフォームを修正します。【フォーム編集】をクリックすると、フォーム名で指定されているフォームが編集状態になります。フォームの編集を行い、【フォームを上書き保存(S)】を行うと編集したフォームが使用できるようになります。

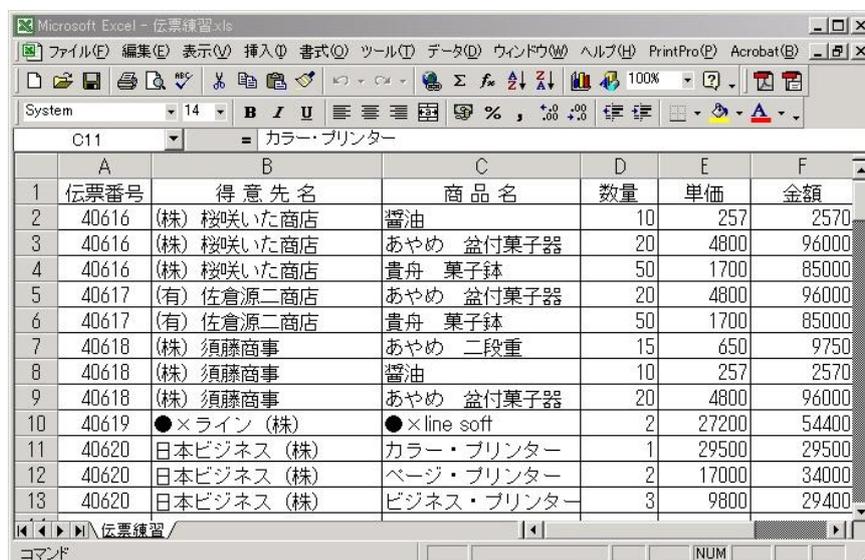
3.3 伝票を印刷しましょう

納品書(コクヨウ-1131)印刷を例として、伝票にExcelのデータを印刷する方法を説明します。この例では、伝票のイメージ(ビットマップ)を台紙として使用し、項目の配置を効率良く行います。

3.3.1 Excelのワークシートの準備

Excelを起動し、ワークシートへ伝票に印刷するデータを作成します。ワークシート名は、あとで作成するデータ定義名にも使用しますので、指定しておきます。ここでは、PrintProをインストールしたフォルダから『伝票練習.xls』を開いて使用しましょう。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:\ユーザー*(ユーザー名)*\ドキュメント*PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。



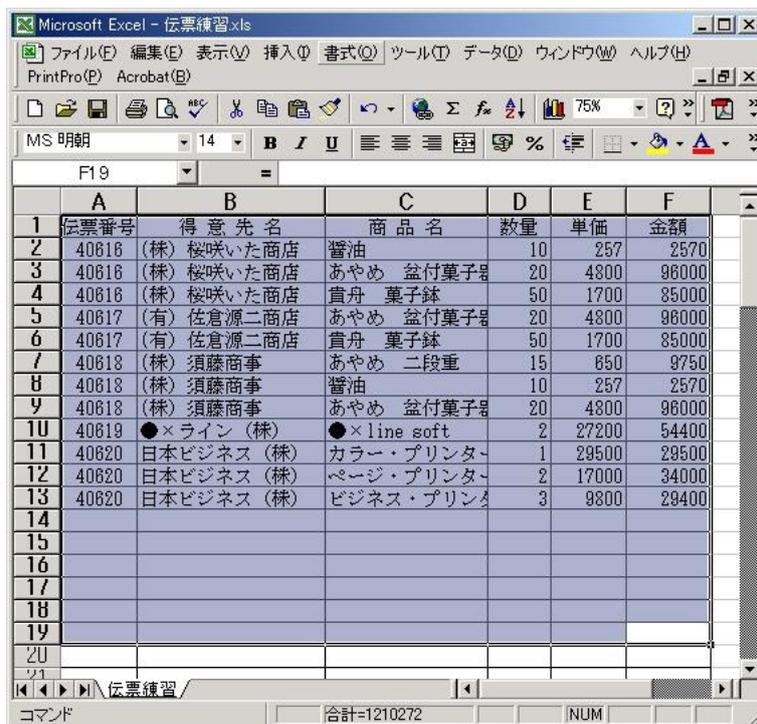
The screenshot shows a Microsoft Excel window titled 'Microsoft Excel - 伝票練習.xls'. The spreadsheet contains the following data:

	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	得意先名	商品名	数量	単価	金額
2	40616	(株) 桜咲いた商店	醤油	10	257	2570
3	40616	(株) 桜咲いた商店	あやめ 盆付菓子器	20	4800	96000
4	40616	(株) 桜咲いた商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000
5	40617	(有) 佐倉源二商店	あやめ 盆付菓子器	20	4800	96000
6	40617	(有) 佐倉源二商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000
7	40618	(株) 須藤商事	あやめ 二段重	15	650	9750
8	40618	(株) 須藤商事	醤油	10	257	2570
9	40618	(株) 須藤商事	あやめ 盆付菓子器	20	4800	96000
10	40619	●×ライン (株)	●×line soft	2	27200	54400
11	40620	日本ビジネス (株)	カラー・プリンター	1	29500	29500
12	40620	日本ビジネス (株)	ページ・プリンター	2	17000	34000
13	40620	日本ビジネス (株)	ビジネス・プリンター	3	9800	29400

3.3.2 データ定義ファイルの新規作成

ワークシートのデータを印刷するフォームを初めて作成する場合、まず始めにデータ定義ファイルを作成します。

印刷に使用するデータの範囲(『データ範囲』)を選択し、反転表示にします。データ範囲を指定する場合、1行目は必ず項目のタイトルでなければいけません。



	A	B	C	D	E	F
1	伝票番号	得意先名	商品名	数量	単価	金額
2	40616	(株) 桜咲いた商店	醤油	10	257	2570
3	40616	(株) 桜咲いた商店	あやめ 盆付菓子鉢	20	4800	96000
4	40616	(株) 桜咲いた商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000
5	40617	(有) 佐倉源二商店	あやめ 盆付菓子鉢	20	4800	96000
6	40617	(有) 佐倉源二商店	貴舟 菓子鉢	50	1700	85000
7	40618	(株) 須藤商事	あやめ 二段重	15	650	9750
8	40618	(株) 須藤商事	醤油	10	257	2570
9	40618	(株) 須藤商事	あやめ 盆付菓子鉢	20	4800	96000
10	40619	●×ライン(株)	●×line soft	2	27200	54400
11	40620	日本ビジネス(株)	カラー・プリンター	1	29500	29500
12	40620	日本ビジネス(株)	ページ・プリンター	2	17000	34000
13	40620	日本ビジネス(株)	ビジネス・プリンター	3	9800	29400
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						

PrintProで使用する『データ範囲』を選択します。マウスを[A1]にあわせ、左ボタンを押して、[F50]までドラッグしボタンを放すと、[A1]:[F50]の範囲が反転表示になります。この例では、データは13行目までしか入力されていませんが、あとでデータを追加することを考えて50行目までを『データ範囲』とします。

【編集(E)]メニューの【コピー(C)]を選択します。

【PrintPro(P)]メニューの【新規作成(D)]を選択します。PrintPro for Designer が起動し、画面には「データ定義 作成/変更」ダイアログボックスが表示されます。

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

データ定義 作成/変更

項目名称(N) OK

データ型(D) キャンセル

桁数(C) 挿入

テキスト固定文字・演算式(T) クリア

削除

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	伝票番号	文字	5	
2	得意先名	文字	20	
3	商品名	文字	20	
4	数量	数値	7	
5	単価	数値	7	
6	金額	数値	7	
7	合計金額	集計	10	[6]

消費税を含めた金額を表示/印刷する項目を作成します。【項目一覧】の番号が8の行をクリックします。【項目名称(N)】に『消費税込金額』、【データ型(D)】を『演算型』、【桁数(C)】を『7』に指定します。また、【テキスト固定文字・演算式(T)】に『[7]*1.05』を入力します。以上の操作で、項目が追加されました。集計型、演算型のように直接Excelのデータを使用しない項目は、Excelのデータを使用する項目(この例題では『金額』)のあとに作成します。

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

データ定義 作成/変更

項目名称(N) OK

データ型(D) キャンセル

桁数(C) 挿入

テキスト固定文字・演算式(T) クリア

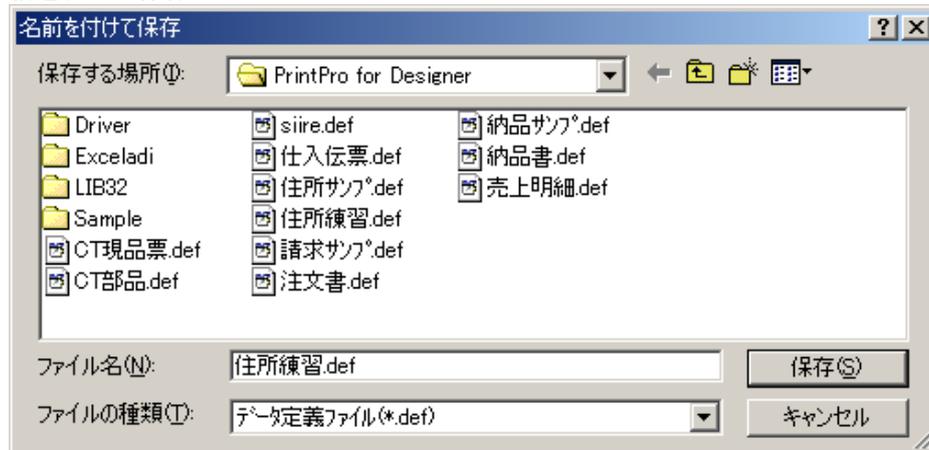
削除

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	伝票番号	文字	5	
2	得意先名	文字	20	
3	商品名	文字	20	
4	数量	数値	7	
5	単価	数値	7	
6	金額	数値	7	
7	合計金額	集計	10	[6]
8	消費税込金額	演算	10	[7]*1.05

データ定義の作成と変更が終わったので、データ定義を保存します。【OK】をクリックし、《名前を付けて保存》ダイアログボックスを表示します。ファイル名(ここでは伝票練習)を入力し、【保存(S)】をクリックします。

《名前を付けて保存》ダイアログボックス

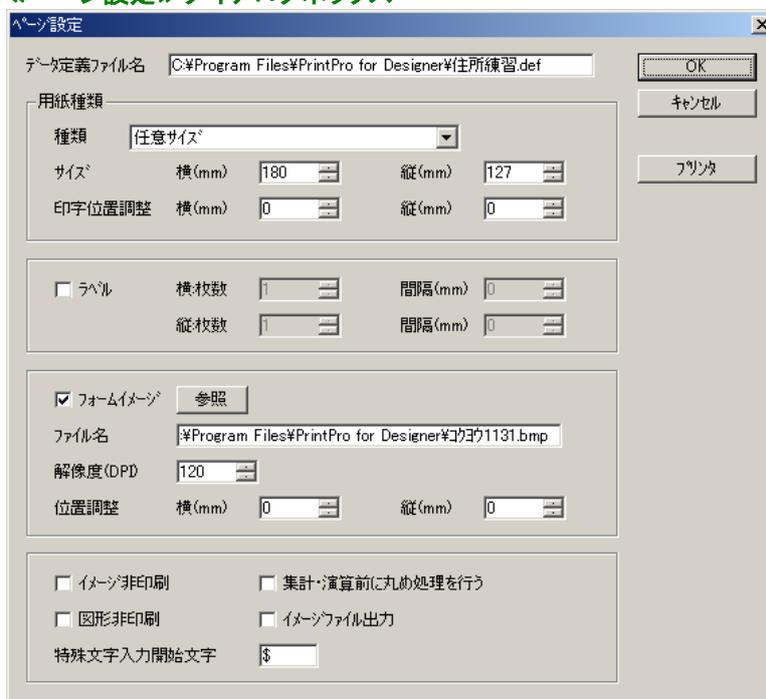


続けて、《ページ設定》ダイアログボックスが表示されます。

3.3.3 フォーム作成

データ定義を保存すると、フォームの「ページ設定」ダイアログボックスが表示されます。

「ページ設定」ダイアログボックス



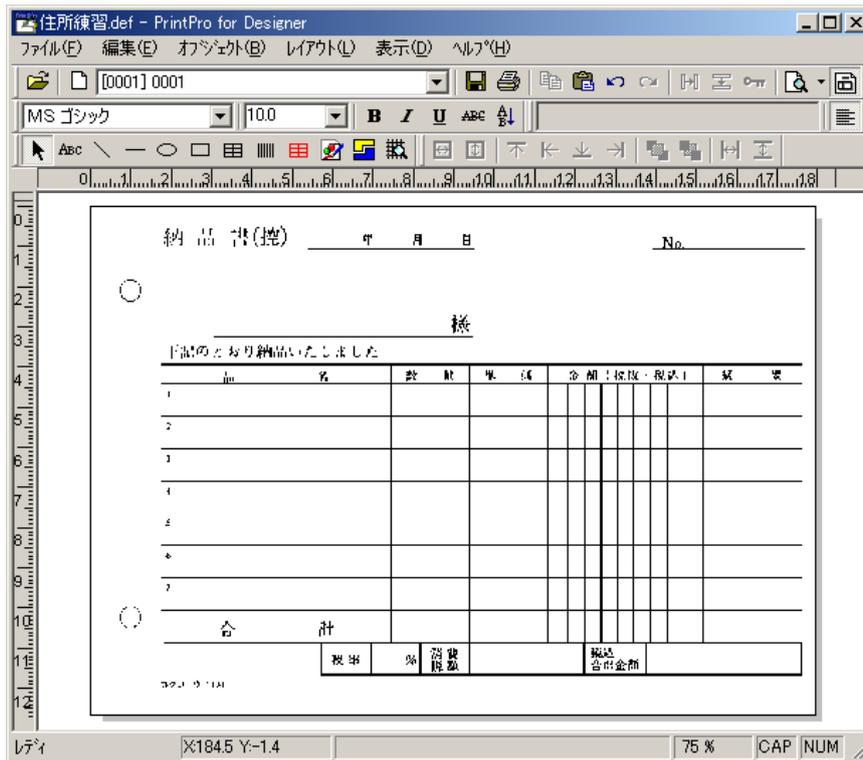
【用紙種類】の「横(mm)」に『180』、「縦(mm)」に『127』を入力します。用紙の種類は、『任意サイズ』に変わります。

この例では、項目の配置を効率良く行うために納品書(ココウー1131)のビットマップイメージを台紙として表示しています。【フォームイメージ(K)]をチェックし、【参照】をクリックすると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

「ファイルを開く」ダイアログボックス

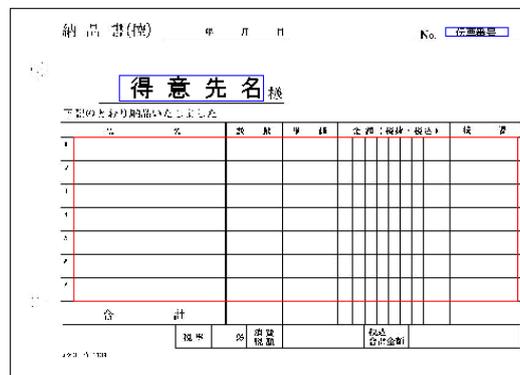


リストボックスから『ココウ1131.bmp』を選択します。【開く(O)]をクリックすると、「ページ設定」ダイアログボックスに戻ります。ビットマップファイルは、スキャナでイメージを読み取る時に、解像度を120DPIに指定して、読み取りが行われていますので、解像度(DPI)に『120』を入力します。【OK】をクリックするとフォーム作成状態になります。



まず、固定項目オブジェクトの、『伝票番号』、『得意先名』を配置しましょう。文字の種類、サイズ、属性などの設定も行いましょう。

次に、明細項目オブジェクトの配置を行います。明細項目オブジェクトの配置を行う前に、明細範囲の作成を行わなければいけません。ツールバーの明細範囲作成ボタンをクリックし、明細範囲を次のように作成します。



作成した明細範囲をダブルクリックすると、「明細範囲」ダイアログボックスが表示されます。

《明細範囲》ダイアログボックス

明細範囲 フォルダ
明細範囲 | 位置
明細番号 1
明細行数 1
明細方向
 縦 横
明細個数 1
 連結
OK キャンセル

【明細行数】に『7』を入力して、【OK】をクリックします。明細範囲が、指定された行数に分割されます。それでは、項目オブジェクトを配置し、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを開き、区分を明細にしましょう。

※ 明細項目オブジェクトは、必ず所属する明細範囲の1行目に配置してください。

下記のとおり納品いたしました

品名	数量	単価	金額(税別・税込)	税率
商品名	数量	単価	金額	税率

伝票の枠に納まるように、文字サイズを選択します。

金額欄のように、文字ピッチが枠線により決められている場合には、属性に固定ピッチを指定します。まず、次のように7桁を印刷する『金額』の明細項目オブジェクトの配置をします。

金額(税別・税込)
金額

明細項目オブジェクトをダブルクリックすると、《文字オブジェクト》ダイアログボックスが表示されます。

《文字オブジェクト》ダイアログボックス

文字オブジェクト

設定 | 位置 | 条件/明細行

項目番号: 6 文字列桁数: 7
項目名: 金額
データ型: 数値型
区分: 固定項目 明細番号: 1
 文字の切出し(L) 切出し開始桁: 1

文字配置(O)
 左詰 中央 右詰 均等 両端揃え
 文字サイズ調整
 固定ピッチ 桁数: 15
文字間隔(体*10単位): 0.0

行配置(L)
 複行印刷
 上 中 下 均等 両端揃え
行間隔(体*10単位): 0.0
 罫線処理 ワードラップ 折りで改行する
 箇条書き

フォント(F)
名前: MS ゴシック
高さ: 10.0
幅(%): 100
 太字 斜体 下線 取消線
 縦書き 文字列方向: 0度
色: [黒色]

オプション(O)
小数部桁数: 0
 マーク
 0詰 3桁区切り
 小数点印刷なし 小数部0のとき印刷しない
 0のとき印刷しない 有効桁を印刷する
符号区分: なし 種類: -
最終桁処理: 四捨五入 切り捨て 切り上げ

OK キャンセル

〈固定ピッチ〉をチェックし、【OK】をクリックします。この指定で印刷文字は1文字ずつ、伝票の枠の中に印刷されるようになります。

続けて『合計金額』、『消費税込金額』を配置しましょう。『合計金額』には、『金額』と同様に固定ピッチを指定します。また、『合計金額』の前に『¥』を印刷しましょう。『合計金額』の固定項目オブジェクトをダブルクリックして、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを表示させ、【オプション(O)】の設定を変更します。

オプション(O)

小数部桁数: 0
 マーク ¥
 0詰 3桁区切り
 小数点印刷なし 小数部0のとき印刷しない
 0のとき印刷しない 有効桁を印刷する
符号区分: なし 種類: -
最終桁処理: 四捨五入 切り捨て 切り上げ

〈マーク〉をチェックすると、マーク指定コンボボックスが表示されます。リストの中から『¥』を選択して、【OK】をクリックします。

『消費税込金額』には、『¥』と、3桁ごとに『.』(カンマ)を印刷させるように、〈3桁区切り〉もチェックします。(ここでは変える必要はありませんが、『¥』と『.』を印刷するために桁数が増えますので、必要に応じて〈文字桁数〉を増やします。)

※ 数値型の項目オブジェクトに、Excelから受け取ったデータを表示/印刷する時に、全桁(先頭のマークを除く)印刷できない場合には、項目オブジェクトに、その項目オブジェクトに指定されている桁数の『#』が表示/印刷されます。また、演算エラーが発生した場合には『*』が表示/印刷されます。

オプション(O)

小数部桁数

マーク

0詰 3桁区切り

小数点印刷なし 小数部0のとき印刷しない

0のとき印刷しない 有効桁を印刷する

符号区分 種類

最終桁処理 四捨五入 切り捨て 切り上げ

設定の変更が終わったら、フォームを保存します。【ファイル(F)]メニューの【フォームに名前を付けて保存(A)]を選択します。《名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されます。【フォーム名(N)]に『伝票練習』と入力し、【OK]をクリックすると、フォームが保存されます。

《名前を付けて保存》ダイアログボックス

名前を付けて保存

データ定義ファイル名 伝票練習.def

フォーム名(N)

コード(C)

フォーム一覧(L)

OK

キャンセル

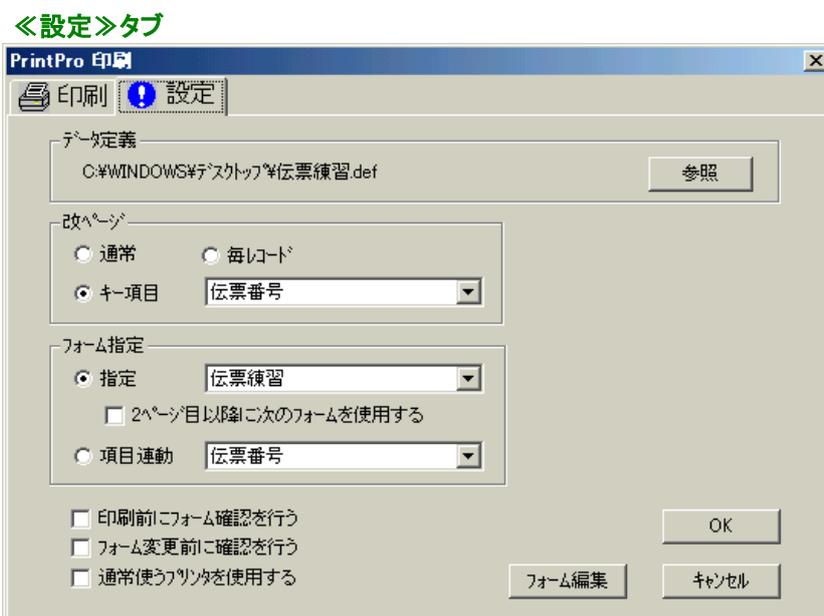
フォームの保存が終わったら、PrintPro for Designer からExcelに切り替えて、印刷の設定を行います。

3.3.4 印刷設定

印刷を行う前に、印刷の設定を変更します。Excelの【PrintPro(P)】メニューの【フォーム設定(S)】を選択します。《PrintPro 印刷》ダイアログボックスが表示されます。



《設定》タブをクリックします。



伝票に印刷する場合、Excelの複数の行を1枚の伝票に印刷する必要があります。この例題では、同一の伝票に印刷させたい行の伝票番号は同じになっています。【改ページ指定】で、＜キー項目＞と、コンボボックスから『伝票番号』を選択します。

《印刷》タブをクリックします。【プレビュー】をクリックして、プレビュー表示にしましょう。

<<PrintPro プレビュー>>ダイアログボックス

PrintPro プレビュー

1 | < | < | > | > | 表示 全体 | 閉じる

納品書(控) _____ No. 40616

(株) 桜咲いた商店様

下記のとおり納品いたしました。

品名	数量	単価	金額(税別・税込)				備考	
1 醤油	10	257	2	5	7	0		
2 あやめ 益付菓子器	20	4800	9	6	0	0		
3 貴舟 菓子鉢	50	1700	8	5	0	0		
4								
5								
6								
7								
合計			¥1	8	3	5	7	0
			税率	8%	消費税	税込金額	¥192,749	

3.3.5 印刷

印刷ボタンをクリックして印刷してみましょう。Excelのデータの同じ伝票番号で連続した行は、同じ伝票の明細行に印刷されます。また、合計金額には、明細行の金額欄の合計が印刷されます。さらに、消費税込金額には、合計金額に1.05を乗じた金額が印刷されます。

3. 4 レポートを印刷しましょう

レポートの作成手順を、売上明細書の作成を通して説明します。

はじめに比較的簡単なレポートを作成し、次に少し複雑なレポートの作成を行います。

3. 4. 1 簡単なレポートの作成 データの準備

レポートに印刷するデータは、以下の通りです。

タイトル、得意先コード、売上日、商品名、数量、金額、ページ、総ページ

<完成図>

売上明細書					1 / 2
部門 第一営業部					
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額	
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500	
	2001/3/3	鉛筆	10	1,000	
	2001/3/3	ボールペン	10	1,000	
	2001/3/4	ボールペン	20	2,000	
	2001/3/4	消しゴム	5	250	
		得意先合計	50	4,750	

売上明細書					2 / 2
部門 第一営業部					
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額	
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1,000	
	2001/3/4	筆箱	5	5,000	
	2001/3/5	筆箱	6	6,000	
	2001/3/5	筆箱	10	10,000	
		得意先合計	41	22,000	
		総合計	91	26,750	

3.4.2 データ定義の作成

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックスを開いて、データ定義を次のように作成します。

項目番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	タイトル	文字	20	
2	得意先コード	文字	5	
3	売上日	文字	10	
4	商品名	文字	20	
5	数量	数値	7	
6	金額	数値	10	
7	ページ	連番	5	ページ
8	総ページ	連番	5	総ページ

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	タイトル	文字	20	
2	得意先コード	文字	5	
3	売上日	文字	10	
4	商品名	文字	20	
5	数量	数値	7	
6	金額	数値	10	
7	ページ	連番	5	ページ
8	総ページ	連番	5	総ページ

データ定義の作成が完了したら、【OK】をクリックします。《名前を付けて保存(S)》ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名に『売上』と付けて保存します。《ページ設定》ダイアログボックスが表示されたら、ここではそのまま【OK】をクリックします。

3. 4. 3 レポート設定

PrintPro for Designer の【ファイル(F)]メニューの【データ定義 集計指定(T)]を選択し、《データ定義 集計指定》ダイアログボックスを開きます。

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計1	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input checked="" type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計2	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計3	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/> フッター	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 総合計				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/> ヘッダー	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する
 集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [1] タイトル
 集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル

集計指定を次のように設定します。

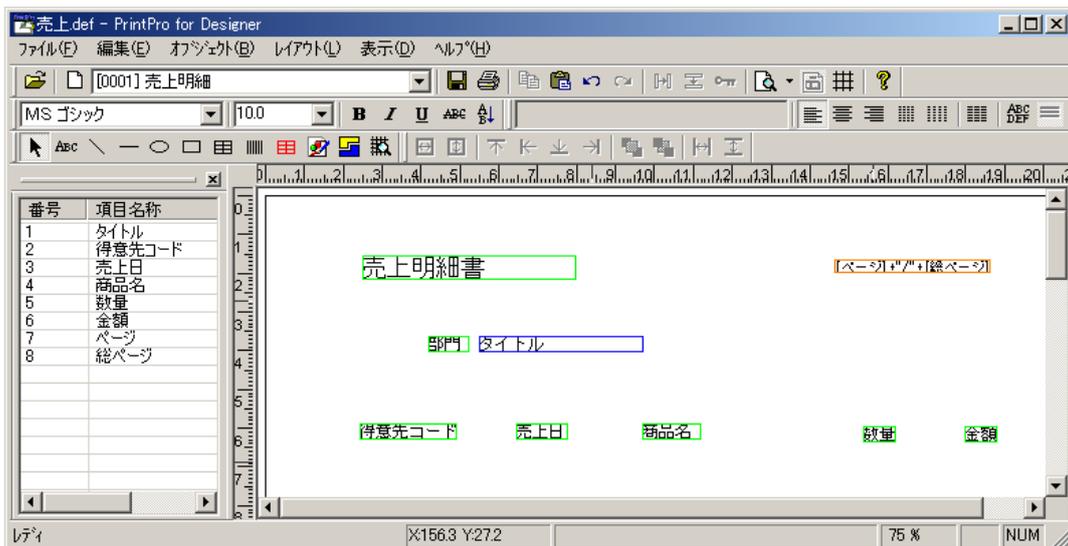
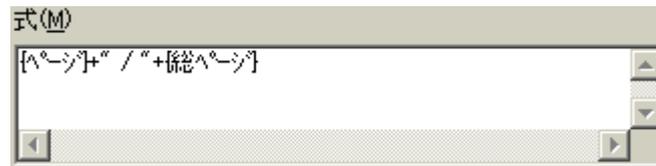
【集計機能を使用する】をチェックします。【集計1】と集計1の【フッター】、【後改ページ】をチェックします。【総合計】と総合計の【フッター】をチェックします。【集計1】の【項目】は、『得意先コード』に変更します。【集計行が続く場合改ページしない】をチェックします。

3. 4. 4 レポートのタイトルの作成

固定文字オブジェクトと固定項目オブジェクト、図形オブジェクトの罫線を使用して、下図のようにレポートのタイトルを作成します。

固定文字オブジェクト	
	売上明細書
	部門
	得意先コード
	売上日
	商品名
	数量
	金額
	ページ
固定項目オブジェクト	
	タイトル
	得意先コード
合成オブジェクト	
	ページ表示

【合成オブジェクト】の『ページ表示』は、現在のページと総ページを印刷するために使用します。【式(M)】に『{ページ}+” / ”+{総ページ}』と記述してください。

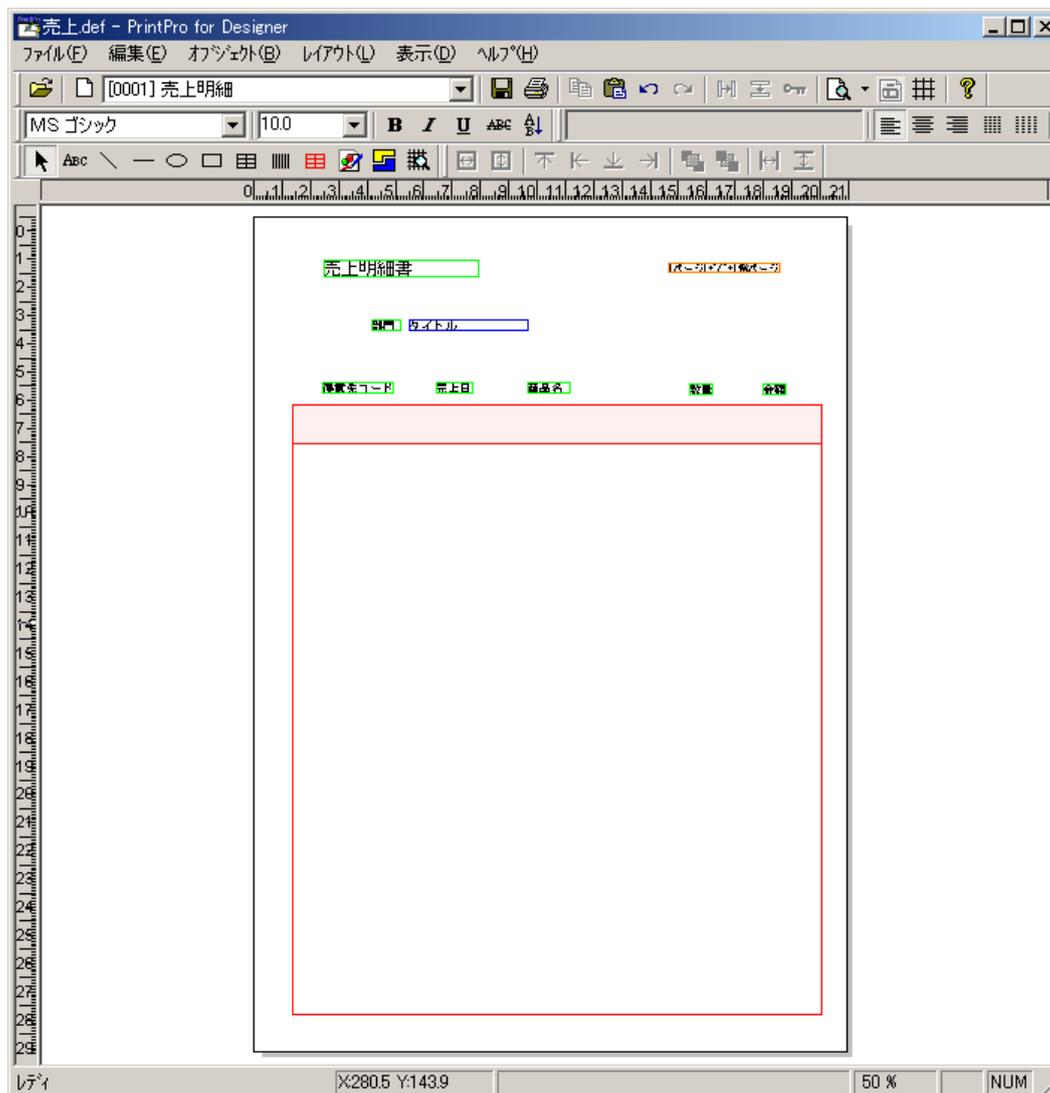


3. 4. 5 明細範囲の作成

下図のように、先ほど作成したタイトルの下に明細範囲を作成し、明細行数を20行に指定します。

※ 明細範囲の1行目だけ塗りつぶされています。実際には見ることはできませんが、明細範囲には、塗りつぶされている1行目と同じ幅の行が、指定した明細行数分存在します。

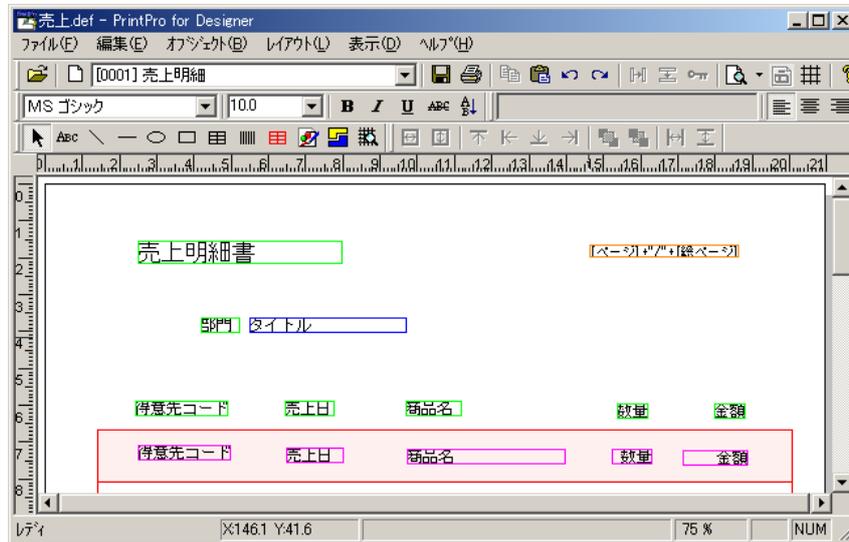
※ 明細行は、ここで表示された高さで印刷されます。



3. 4. 6 明細項目オブジェクトの配置

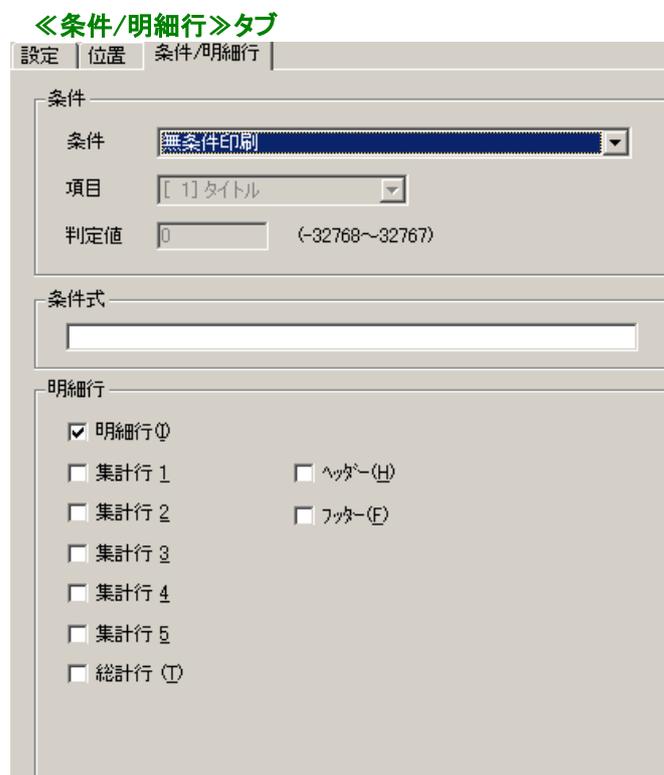
明細項目オブジェクトを配置し、印刷条件を指定します。

1. 明細項目オブジェクトを明細範囲の1行目に配置します。



2. 印刷する条件も指定しておきます。

- ① 配置した明細項目をダブルクリックして、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを開き、《条件/明細行》のタブをクリックします。



②『得意先コード』は、<条件>で『対象項目の文字列が前レコードと異なる』、<項目>で『得意先コード』を選択し、<明細行(I)>をチェックします。

設定 | 位置 | 条件/明細行

条件

条件 対象項目の文字列が前レコードと異なる

項目 [2] 得意先コード

判定値 0 (-32768~32767)

条件式

明細行

明細行(I)

集計行 1 ヘッダー(H)

集計行 2 フッター(F)

集計行 3

集計行 4

集計行 5

総計行 (T)

③『売上日』、『商品名』は、明細行のみに印刷するので、【明細行】の<明細行(I)>をチェックします。

④『数量』、『金額』は<明細行(I)>、および<集計行1>と<総計行(T)>の<フッター(F)>に印刷しますので、それぞれをチェックします。

明細行

明細行(I)

集計行 1 ヘッダー(H)

集計行 2 フッター(F)

集計行 3

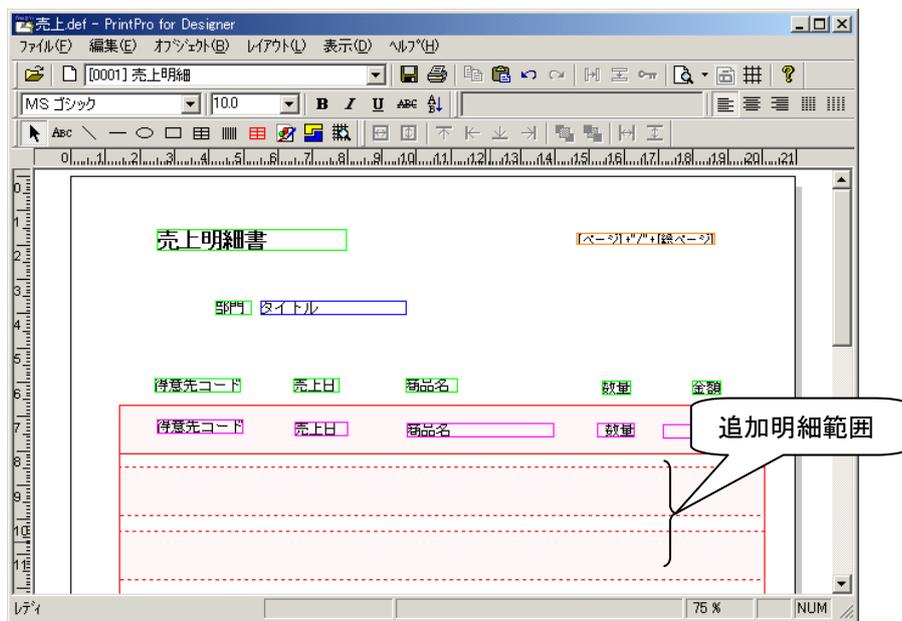
集計行 4

集計行 5

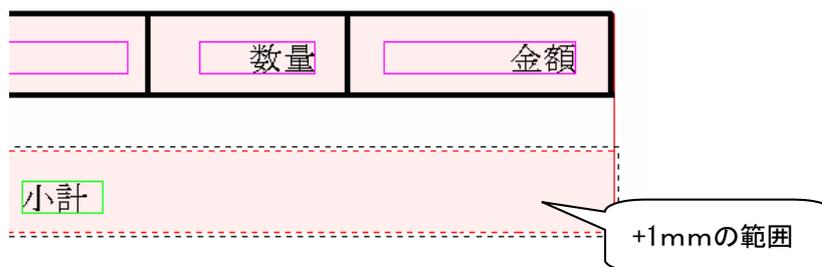
総計行 (T)

3. 4. 7 明細範囲の追加

同じ位置にオブジェクトを重ねて配置すると見えにくいため、位置をずらした部分に明細範囲を追加します。追加された明細範囲は赤の点線で囲まれており、塗りつぶしもされています。追加の方法は、明細範囲作成ボタンをクリックし、フォーム上の適切な場所で再度クリックすると追加されます。ここでは、追加明細範囲を2つ追加します。

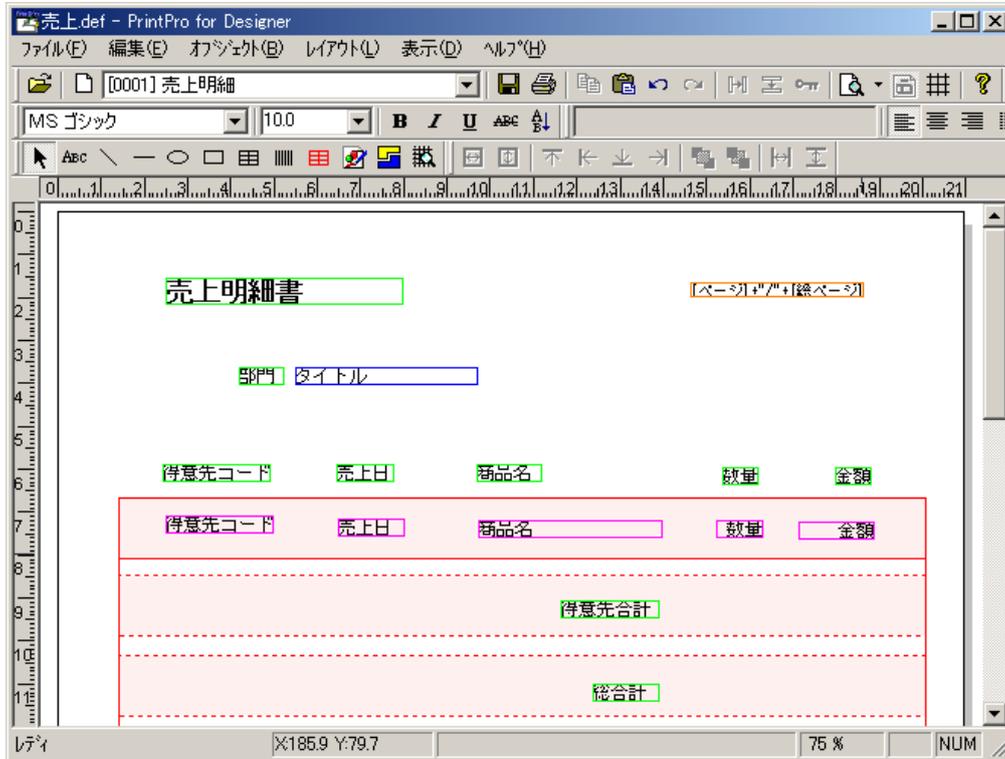


追加明細範囲に+1mmした範囲内に配置されたオブジェクトは、印刷時に1行目の明細範囲に上から書き足したように印刷されます。(1行目の明細範囲と追加明細範囲の左端、上端を合わせた位置に配置されたものとして扱われます。)

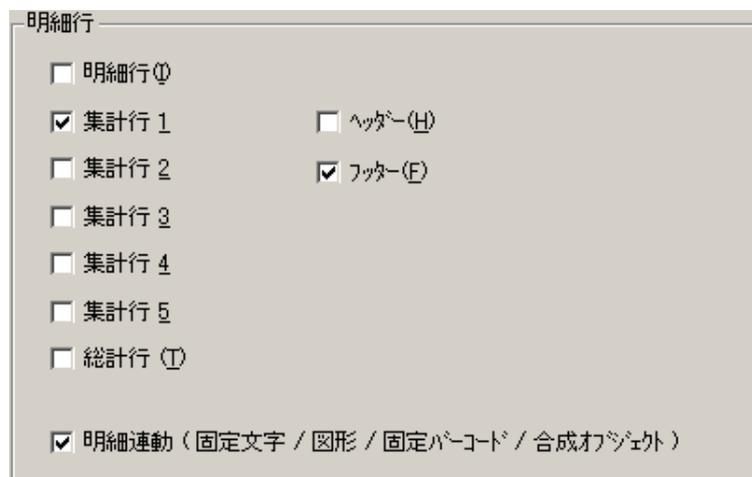


3. 4. 8 『得意先合計』『総合計』文字の配置

【集計1】により挿入される行に印刷する『得意先合計』、【総合計】の行に印刷する『総合計』を、それぞれ固定文字オブジェクトで作成します。



1. この例では、わかりやすいように追加明細範囲を合計で2つ追加し、上図のようにそれぞれに『得意先合計』、『総合計』を配置します。
2. 『得意先合計』の固定文字オブジェクトをダブルクリックし、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを開き、《条件/明細行》のタブをクリックします。
3. 【明細行】の《明細連動》と、《集計行1》、《フッター(F)》をチェックします。



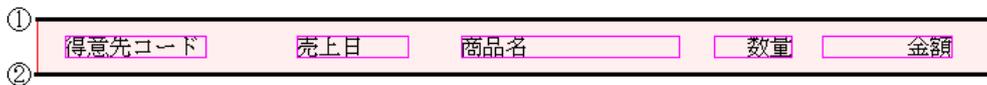
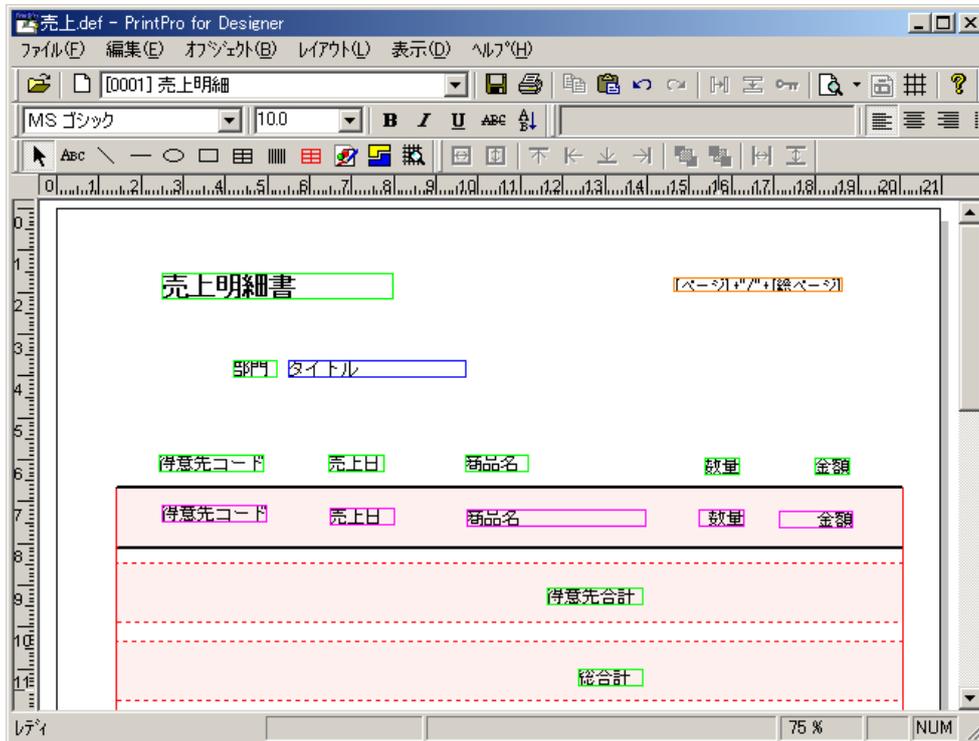
4. 同様に『総合計』の印刷明細行指定を<総計行(T)>、<フッター(F)>をチェックします。

明細行

<input type="checkbox"/> 明細行①	
<input type="checkbox"/> 集計行 1	<input type="checkbox"/> ヘッダー(H)
<input type="checkbox"/> 集計行 2	<input checked="" type="checkbox"/> フッター(F)
<input type="checkbox"/> 集計行 3	
<input type="checkbox"/> 集計行 4	
<input type="checkbox"/> 集計行 5	
<input checked="" type="checkbox"/> 総計行 (T)	
<input checked="" type="checkbox"/> 明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)	

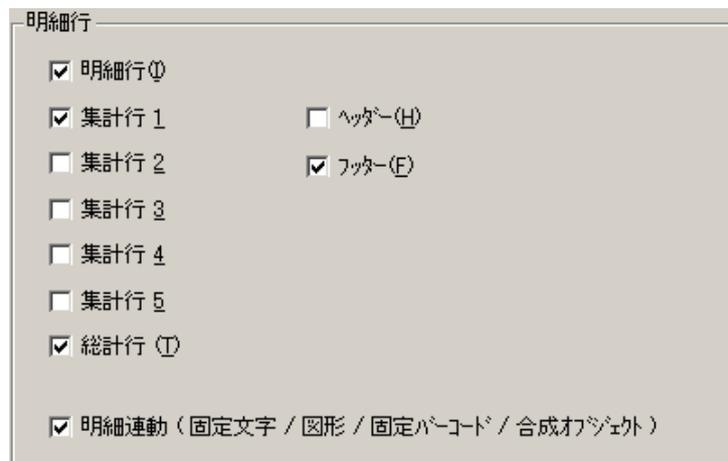
3.4.9 罫線を引く

明細行と集計行に罫線を引いて、表を見やすくします。それぞれの罫線に印刷条件も指定します。



①: 表の一番上に1本だけ引かれる線です。

②: 明細行、集計行の下に引かれる線です。《図形オブジェクト》ダイアログボックスを開き、《条件/明細行》タブで、【明細行】の《明細連動》、《明細行(I)》《集計行1》、《集計行(I)》、《総計行(I)》、《フッター(F)》をチェックします。



これまでのデータや罫線の指定などで、レポートは次のように印刷されます。

<印刷結果>

売上明細書				
1 / 2				
部門 第一営業部				
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
	2001/3/3	鉛筆	10	1,000
	2001/3/3	ボールペン	10	1,000
	2001/3/4	ボールペン	20	2,000
	2001/3/4	消しゴム	5	250
		得意先合計	50	4,750

売上明細書				
2 / 2				
部門 第一営業部				
得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1,000
	2001/3/4	筆箱	5	5,000
	2001/3/5	筆箱	6	6,000
	2001/3/5	筆箱	10	10,000
		得意先合計	41	22,000
		総合計	91	26,750

3. 4. 10 少し複雑なレポートの作成 データの準備

レポートに印刷するデータは、以下の通りです。

タイトル、得意先コード、売上日、商品名、数量、金額、ページ、総ページ

<完成図>

売上明細書

1 / 1

部門 第一営業部

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
A0001	2001/3/3	鉛筆	10	1,000
A0001	2001/3/3	ボールペン	10	1,000
A0001	2001/3/4	ボールペン	20	2,000
A0001	2001/3/4	消しゴム	5	250
小計			50	4,750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1,000
A0002	2001/3/4	筆箱	5	5,000
A0002	2001/3/5	筆箱	6	6,000
A0002	2001/3/5	筆箱	10	10,000
小計			41	22,000
合計			91	26,750

3. 4. 11 データ定義の作成

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックスを開いて、データ定義を次のように作成します。

項目番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	タイトル	文字	20	
2	得意先コード	文字	5	
3	売上日	文字	10	
4	商品名	文字	20	
5	数量	数値	7	
6	金額	数値	10	
7	ページ	連番	5	ページ
8	総ページ	連番	5	総ページ

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

データ定義 作成/変更

項目名称(N)

データ型(D)

桁数(C)

テキスト固定文字・演算式(I)

項目一覧

番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	タイトル	文字	20	
2	得意先コード	文字	5	
3	売上日	文字	10	
4	商品名	文字	20	
5	数量	数値	7	
6	金額	数値	10	
7	ページ	連番	5	ページ
8	総ページ	連番	5	総ページ

データ定義の作成が完了したら、【OK】をクリックします。《名前を付けて保存(S)》ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名に『売上明細』と付けて保存します。《ページ設定》ダイアログボックスが表示されたら、ここではそのまま【OK】をクリックします。

3. 4. 12 レポート設定

PrintPro for Designer の【ファイル(F)】メニューの【データ定義 集計指定(T)】を選択し、《データ定義 集計指定》ダイアログボックスを開きます。

《データ定義 作成/変更》ダイアログボックス

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input type="checkbox"/> 集計1 [2] 得意先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計2 [1] 日付け	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 集計3 [2] 得意先コード	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計4 [1] 日付け	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> 集計5 [1] 日付け	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
<input type="checkbox"/> ページ計				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 総合計				<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input checked="" type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

明細行非印刷 フッターを明細と同一ページに印刷する
 集計行が続く場合改ページしない 明細行の行数を項目で指定する [1] 日付け
 集計1ヘッダーを先頭行に印刷する

保存 キャンセル

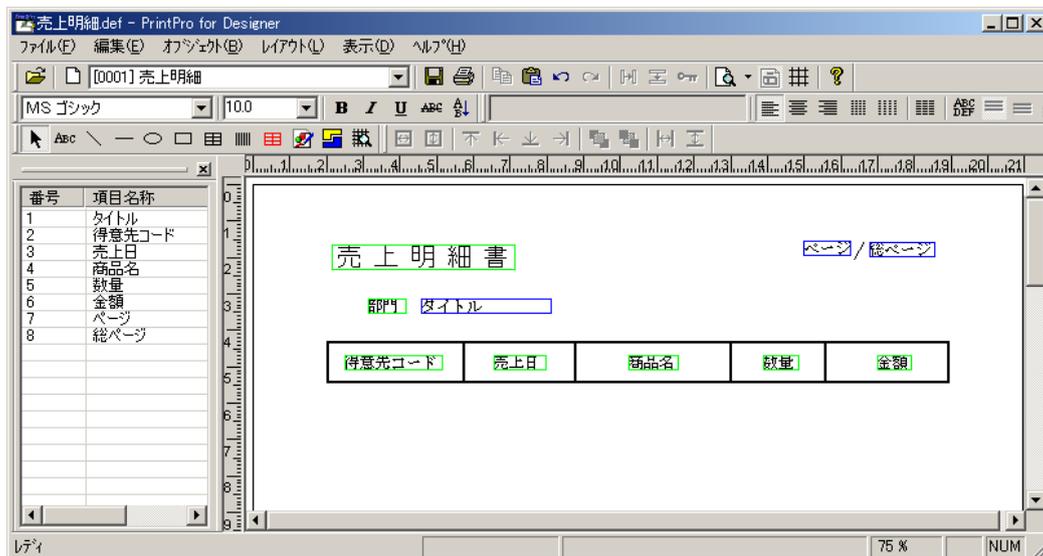
集計指定を次のように設定します。

【集計機能を使用する】をチェックし、【集計3】と集計3の【フッター】、【総合計】と総合計の【フッター】をチェックします。【集計3】の【項目】は、得意先コード』に変更します。

3. 4. 13 レポートのタイトルの作成

固定文字オブジェクトと固定項目オブジェクト、図形オブジェクトの罫線を使用して、下図のようにレポートのタイトルを作成します。

固定文字オブジェクト	
	売上明細書
	部門
	得意先コード
	売上日
	商品名
	数量
	金額
固定項目オブジェクト	
	ページ
	総ページ
	タイトル

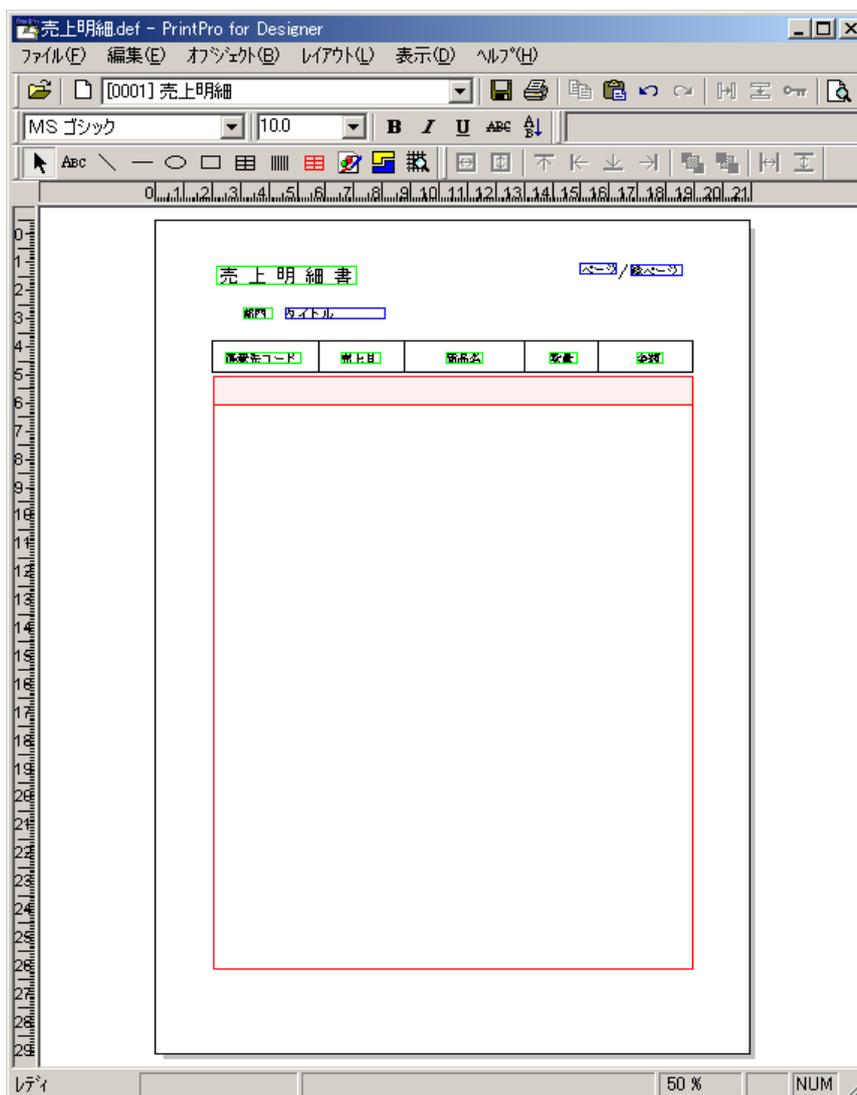


3. 4. 14 明細範囲の作成

下図のように、先ほど作成したタイトルの下に明細範囲を作成し、明細行数を20行に指定します。

※ 明細範囲の1行目だけ塗りつぶされています。実際には見ることはできませんが、明細範囲には、塗りつぶされている1行目と同じ幅の行が、指定した明細行数分存在します。

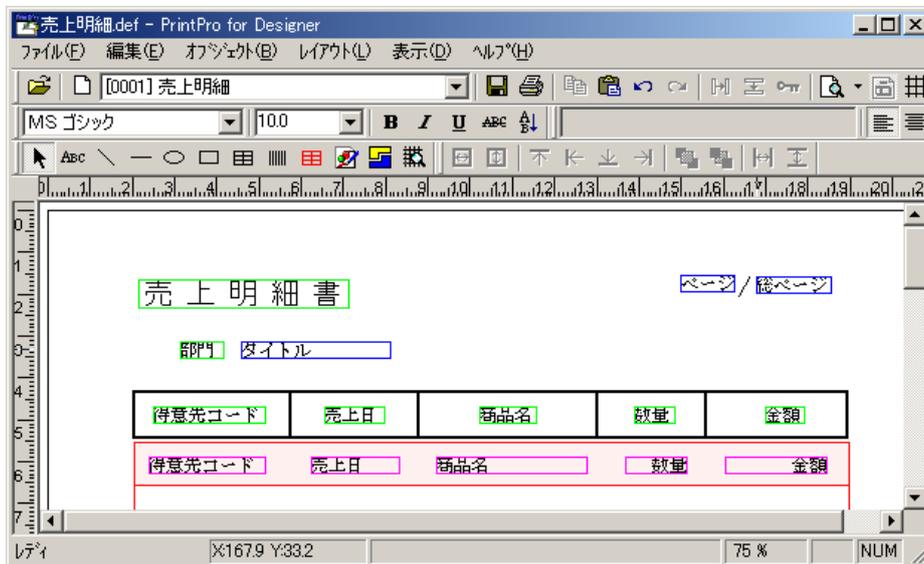
※ 明細行は、ここで表示された高さで印刷されます。



3. 4. 15 明細項目オブジェクトの配置

明細項目オブジェクトを配置し、印刷条件を指定します。

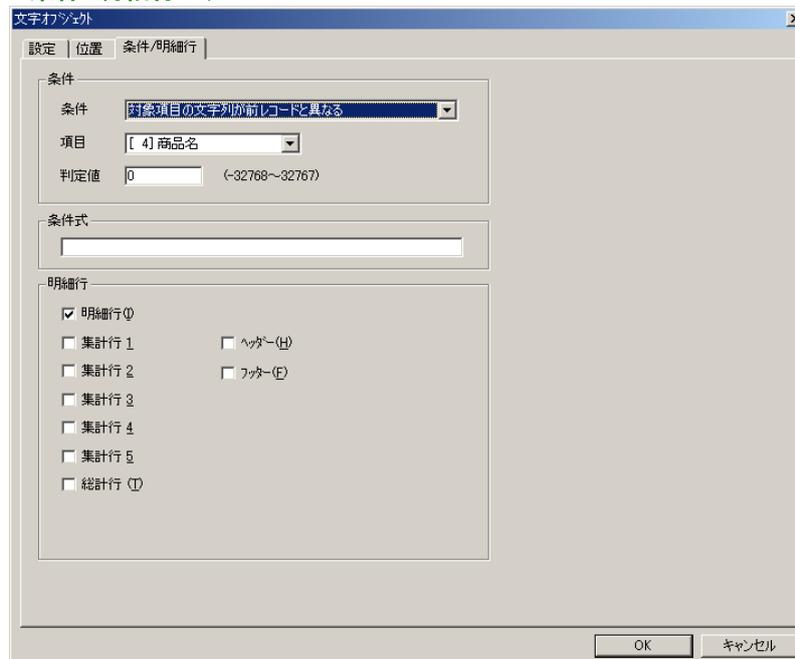
1. 明細項目オブジェクトを明細範囲の1行目に配置します。



2. 印刷する条件も指定しておきます。

- ① 配置した明細項目をダブルクリックして、《文字オブジェクト》ダイアログボックスを開き、《条件/明細行》のタブをクリックします。

《条件/明細行》タブ



- ② 『得意先コード』、『売上日』、『商品名』は、明細行のみに印刷するので、【明細行】の<明細行(I)>をチェックします。

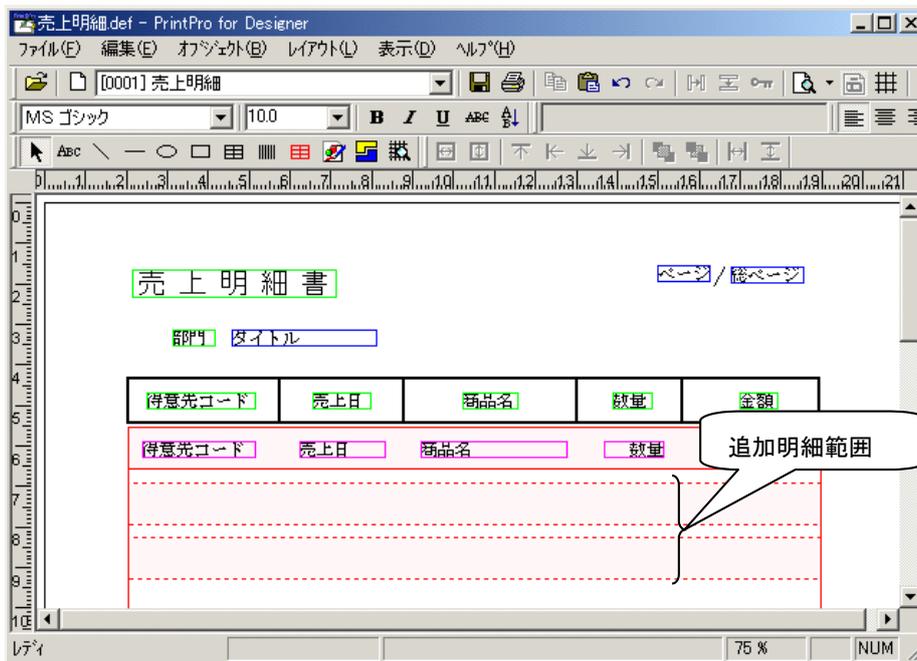
③『数量』、『金額』は<明細行(I)>、および<集計行3>と<総計(T)>の<フッター(F)>に印刷しますので、それぞれをチェックします。

明細行

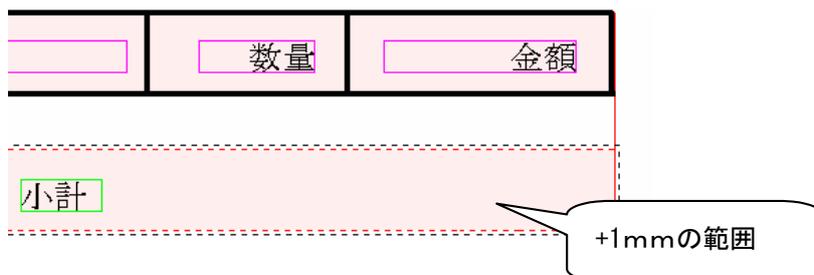
<input checked="" type="checkbox"/> 明細行(I)	
<input type="checkbox"/> 集計行 1	<input type="checkbox"/> ヘッダー(H)
<input type="checkbox"/> 集計行 2	<input checked="" type="checkbox"/> フッター(F)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計行 3	
<input type="checkbox"/> 集計行 4	
<input type="checkbox"/> 集計行 5	
<input checked="" type="checkbox"/> 総計行 (T)	

3. 4. 16 明細範囲の追加

同じ位置にオブジェクトを重ねて配置すると見えにくいため、位置をずらした部分に明細範囲を追加します。追加された明細範囲は赤の点線で囲まれており、塗りつぶしもされています。追加の方法は、明細範囲作成ボタンをクリックし、フォーム上の適切な場所で再度クリックすると追加されます。ここでは、追加明細範囲を2つ追加します。

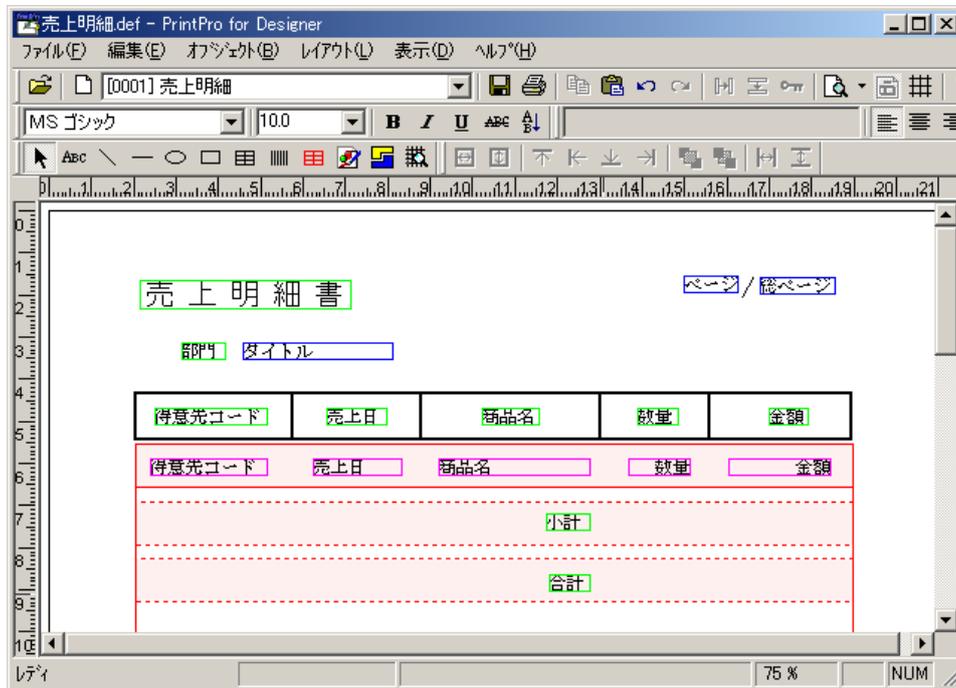


追加明細範囲に+1mmした範囲内に配置されたオブジェクトは、印刷時に1行目の明細範囲に上から書き足したように印刷されます。(1行目の明細範囲と追加明細範囲の左端、上端を合わせた位置に配置されたものとして扱われます。)

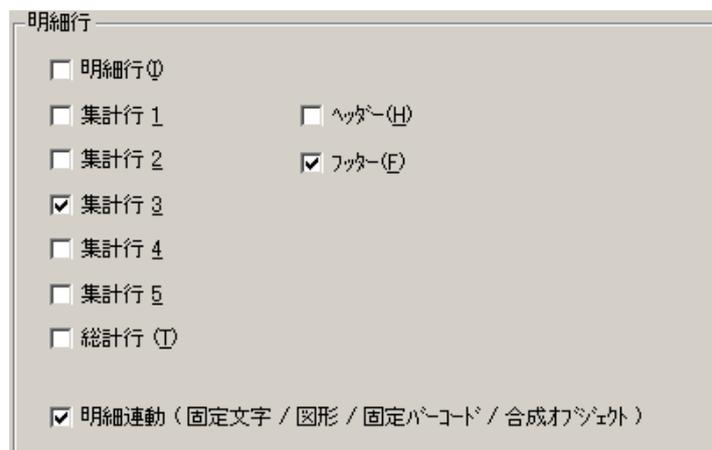


3. 4. 17 『小計』『合計』文字の配置

【集計3】により挿入される行に印刷する『小計』、【総合計】の行に印刷する『合計』を、それぞれ固定文字オブジェクトで作成します。



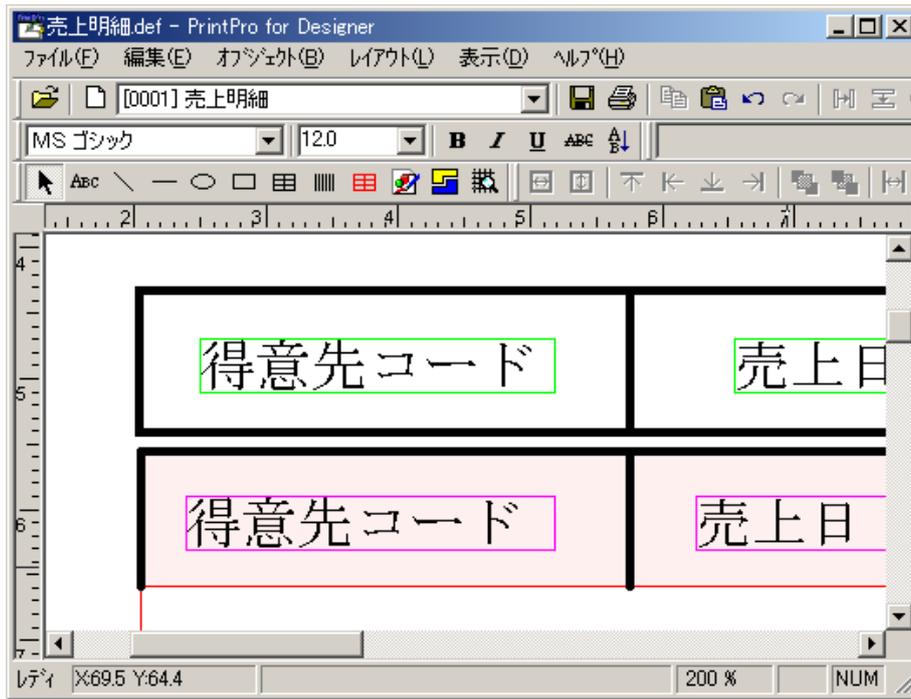
1. この例では、わかりやすいように追加明細範囲を合計で2つ追加し、上図のようにそれぞれに『小計』、『合計』を配置します。
2. 『小計』の固定文字オブジェクトをダブルクリックし、「文字オブジェクト」ダイアログボックスを開き、「条件/明細行」のタブをクリックします。
3. 【明細行】の「明細連動」と、「集計行3」、「フッター(F)」をチェックします。



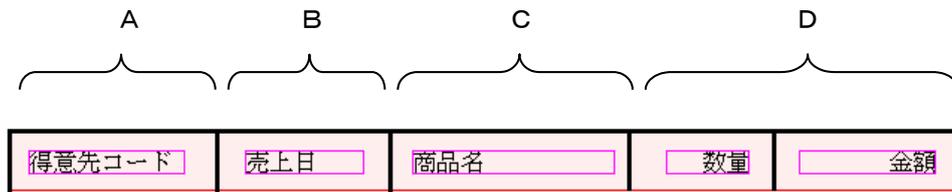
4. 同様に『合計』の印刷明細行指定を<総計行(T)>、<フッター(F)>をチェックします。

明細行	
<input type="checkbox"/> 明細行①	
<input type="checkbox"/> 集計行 1	<input type="checkbox"/> ヘッダー(H)
<input type="checkbox"/> 集計行 2	<input checked="" type="checkbox"/> フッター(F)
<input type="checkbox"/> 集計行 3	
<input type="checkbox"/> 集計行 4	
<input type="checkbox"/> 集計行 5	
<input checked="" type="checkbox"/> 総計行 (T)	
<input checked="" type="checkbox"/> 明細連動 (固定文字 / 図形 / 固定バーコード / 合成オブジェクト)	

2. 明細行の区切り線を、線オブジェクトを使って引きます。



罫線は、次のように合計で4本引きます。



それぞれの《図形オブジェクト》ダイアログボックスの《条件/明細行》タブで、【明細行】の《明細連動》をチェックし、その他も次に示すようにチェックします。

A、B、C、D: <明細行(I)>

3. 明細行の下の線Aと、集計行の区切り線B、Cを引きます。

線A: 明細行がページの最後になった時に、明細行の下に線を引きます。

線B: 集計行の上に線を引きます。

線C: 集計行の下に線を引きます。

The diagram shows a table with the following structure:

得意先コード	売上日	品名	数量	金額
小計				
合計				

Callouts indicate the following lines:

- 線A: Located below the first data row.
- 線B <集計行3> <フッター(F)>: Located above the '小計' row.
- 線C <集計行3> <総計行(T)> <フッター(F)>: Located below the '合計' row.

4. 線Aに印刷条件を指定します。線Aの《図形オブジェクト》ダイアログボックスを開き、《条件/明細行》のタブをクリックします。【条件】の<条件>に『明細最終行』を選択します。

The screenshot shows the '条件' (Condition) dialog box with the following settings:

- 条件: 明細最終行
- 項目: タイトル
- 判定値: 0 (-32768~32767)

※ 明細の印刷がページの最後の時のみ罫線を印刷します。集計n、総合計の印刷が最後となる時は印刷されません。

5. 線B、Cの【明細行】の<明細連動>をチェックし、その他も次に示すようにチェックします。

B : <集計行3>、<フッター(F)>

C : <集計行3>、<総計行(T)>、<フッター(F)>

これまでのデータや罫線の指定などで、レポートは次のように印刷されます。

<途中印刷結果>

売上明細書

1 / 1

部門 第一営業部

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
A0001	2001/3/3	鉛筆	10	1,000
A0001	2001/3/3	ボールペン	10	1,000
A0001	2001/3/4	ボールペン	20	2,000
A0001	2001/3/4	消しゴム	5	250
小計			50	4,750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1,000
A0002	2001/3/4	筆箱	5	5,000
A0002	2001/3/5	筆箱	6	6,000
A0002	2001/3/5	筆箱	10	10,000
小計			41	22,000
合計			91	26,750

3. 4. 19 同一項目の省略、罫線の非印刷

明細の項目に同じ内容が続く時は、最初の行のみに印刷し、続く行に印刷しないようにします。

この例では、『得意先コード』、『売上日』、『商品名』で同じ内容が続く時に、最初の行のみに印刷し、続く行に印刷しないようにします。

<印刷結果>

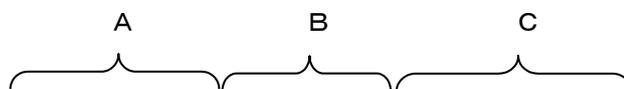
売上明細書

1 / 1

部門 第一営業部

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
			10	1,000
		ボールペン	10	1,000
	2001/3/4	消しゴム	20	2,000
			5	250
小計			50	4,750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1,000
		筆箱	5	5,000
	2001/3/5		6	6,000
			10	10,000
	小計			41
合計			91	26,750

1. 明細項目と罫線の印刷条件を、次のように設定します。



得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
--------	-----	-----	----	----

印刷条件

オブジェクト	項目	条件	判定値
得意先コード、A	得意先コード	対象項目の文字列が前レコードと異なる	0
売上日、B	売上日	対象項目の文字列が前レコードと異なる	0
商品名、C	商品名	対象項目の文字列が前レコードと異なる	0

条件	対象項目の文字列が前レコードと異なる	
項目	得意先コード	
判定値	0	(-32768~32767)

【条件】の<条件>で指定した「対象項目の文字列が前のレコードと異なる」は、集計指定によりキーブレイクが発生すると解除されます。解除はキーブレイクが発生した集計や、より番号の小さい集計で指定されている項目を条件判断に使用している「印刷条件」指定において解除されます。

2. <<データ定義 集計指定>>ダイアログボックスで、【集計1】、【集計2】をチェックし、それぞれの【項目】も『商品名』と『売上日』に変更します。

<<データ定義 集計指定>>ダイアログボックス

項目	切出し	開始桁	桁数	前改ページ	後改ページ	高さ(mm)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計1 [4] 商品名	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00
<input checked="" type="checkbox"/> 集計2 [3] 売上日	<input type="checkbox"/>	0	0	<input type="checkbox"/> ヘッダー	<input type="checkbox"/>	0.00
				<input type="checkbox"/> フッター	<input type="checkbox"/>	0.00

※ 【ヘッダー】、【フッター】いずれもチェックしない時は、集計行の挿入は行わずに、条件解除のみを行います。

3. フォームに『売上明細書』と名前を付けて保存します。

3. 4. 20 印刷

【印刷】をクリックして印刷してみましょう。

1. PrintProをインストールしたフォルダから、『売上明細.xls』を開きます。

※ Windows Vista をご使用の場合、C:\ユーザー¥(ユーザー名)¥ドキュメント¥PrintPro for Designerの下にサンプルファイルが存在します。

2. 1行目の項目名を含めて、データ範囲を選択し、【編集(E)]メニューの【コピー(C)]を選択します。

3. 【PrintPro(P)]メニューの【フォーム設定(S)]を選択します。

4. <<PrintPro 印刷>>ダイアログボックスが表示されるので、【データ】の<<更新>>をクリックします。

5. 【OK】をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

6. 1行目の項目名を除いたデータとして使用するレコードを選択します。

	A	B	C	D	E	F	G
1	タイトル	得意先コード	売上日	商品名	数量	金額	
2	第一営業部	A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500	
3	第一営業部	A0001	2001/3/3	鉛筆	10	1000	
4	第一営業部	A0001	2001/3/3	ボールペン	10	1000	
5	第一営業部	A0001	2001/3/4	ボールペン	20	2000	
6	第一営業部	A0001	2001/3/4	消しゴム	5	250	
7	第一営業部	A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1000	
8	第一営業部	A0002	2001/3/4	筆箱	5	5000	
9	第一営業部	A0002	2001/3/5	筆箱	6	6000	
10	第一営業部	A0002	2001/3/5	筆箱	10	10000	
11							

※ 上図のように、使用するレコードのうちの1列が選択されているだけでもレコード全体のデータが、PrintProに送られ、印刷されます。

7. 再度、【PrintPro(P)]メニューの【フォーム設定(S)]を選択します。

8. <<PrintPro 印刷>>ダイアログボックスが表示されるので、<<設定>>タブをクリックします。

9. 【参照】をクリックして、作成したデータ定義ファイルを指定します。

10. <<印刷>>タブをクリックし、【プレビュー】をクリックします。

11. プレビューを見て、問題がないようであれば印刷ボタンをクリックして、印刷してください。

実際に売上明細書を印刷すると、結果は次のようになります。

<印刷結果>

売上明細書

1/1

部門 第一営業部

得意先コード	売上日	商品名	数量	金額
A0001	2001/3/3	鉛筆	5	500
			10	1,000
		ボールペン	10	1,000
	2001/3/4	ボールペン	20	2,000
		消しゴム	5	250
小計			50	4,750
A0002	2001/3/4	消しゴム	20	1,000
		筆箱	5	5,000
	2001/3/5	筆箱	6	6,000
			10	10,000
小計			41	22,000
合計			91	26,750

3. 5 既存の帳票をPrintPro形式に変換する

既存の帳票をスキャナで取り込んで、PrintProで利用できる帳票に作り直します。

3. 5. 1 帳票の取り込み

作り直したい帳票を、スキャナで取り込みます。ここではPrintProをインストールしたフォルダから、スキャナで取り込んだ画像ファイルの『納品書.jpg』を使用します。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:¥ユーザー¥(ユーザー名)¥ドキュメント¥PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。

3. 5. 2 フォームイメージに指定

スキャナで取り込んだ画像を、フォームイメージ(フォームの台紙)に指定します。

1. PrintProをインストールしたフォルダから、『納品書.xls』を開きます。
2. 1行目の項目名から、データのあるセル全部を選択し、コピーします。
3. 【PrintPro(P)】メニューの【新規作成(D)】を選択します。
4. PrintPro for Designer が起動し、《データ定義 作成/変更》ダイアログボックスが表示されますが、ここではそのまま【OK】をクリックします。
5. 《名前を付けて保存》ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名に『納品書』と付けて保存します。
6. 《ページ設定》ダイアログボックスが表示されますので、【用紙種類】の<横(mm)>に『260』、<縦(mm)>に『127』を入力します。
7. 続いて、<フォームイメージ(K)>をチェックし、【参照】をクリックします。《ファイルを開く》ダイアログボックスが開くので、インストールしたフォルダの中の『納品書.jpg』を指定します。<解像度(DPI)>が120になっていることを確認して、【OK】をクリックし、《ページ設定》ダイアログボックスを閉じます。

※ 解像度は、画像をスキャナで取り込んだ時の解像度を指定します。『納品書.jpg』は、120DPIで取り込んでいます。

3.5.3 罫線抽出

イメージファイルから、罫線の抽出を行い、水平線/垂直線オブジェクトを作成します。

1. 【オブジェクト(B)】メニューの【罫線抽出(K)】を選択します。《罫線抽出設定》ダイアログボックスが表示されます。今回は、設定値はすべてデフォルトのまま【OK】をクリックします。

《罫線抽出設定》ダイアログボックス

長さの最小値 (mm)	2	OK
線幅の最小値 (ポイント)	0.5	キャンセル
線幅の最大値 (ポイント)	5	
穴の長さの最大値 (mm)	0.5	
傾きの許容範囲 (度)	3	規定値

[OK]ボタンをクリックしてから、マウスポインタで罫線抽出範囲を指定して下さい

2. マウスポインタで罫線抽出を行う部分を囲みます。今回は、用紙全体を囲みます。
3. 罫線の抽出が行われ、フォーム上に水平線/垂直線オブジェクトが作成されます。このままではわかりづらいので、【表示(D)】メニューの【フォームイメージ(I)】を選択し、フォームイメージを非表示にします。用紙には、オブジェクトだけが残されます。



4. 元の帳票と見比べながら、足りない箇所や、欠けている部分などを修正します。

5. 修正が終わったら、明細範囲、明細項目オブジェクト、固定項目オブジェクト、固定文字オブジェクトなどを、元の帳票と見比べながら作成していきます。ここでは、固定文字オブジェクトの『——以下余白——』も作成します。(≪文字オブジェクト>ダイアログボックスの【条件/明細行】タブの【条件】で、『明細余白先頭行』を選択)

3. 5. 5 フォームに名前を付けて保存

フォームが完成したので、フォームに名前を付けて保存します。

1. 【ファイル(F)]メニューの【フォームに名前を付けて保存(A)]を選択します。
2. ≪名前を付けて保存≫ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名に『納品書』と付けて、【OK】をクリックすると、データ定義ファイルに作成したフォームが保存されます。

3. 5. 6 印刷

1. Excelに戻り、1行目の項目名を除いたデータの部分だけを選択し直して、【PrintPro(P)]メニューの【フォーム設定(S)]を選択し、≪PrintPro印刷≫ダイアログボックスを表示します。

※ 選択するだけで、コピーは必要ありません。

2. ≪設定≫タブで、【改ページ】の<キー項目>と、コンボボックスから『得意先郵便番号』を選択します。
3. ≪印刷≫タブで、【プレビュー】をクリックし、印刷前の確認を行います。
4. 印刷ボタンをクリックして、印刷を行います。印刷位置の微調整が必要な場合は、【位置調整】をクリックして行ってください。

<印刷結果>

〒 999-0011		納品書 (控)		コードNo. 1		伝票No. 1					
東京都大田区蒲田99-99-99		2002年 1月 11日									
TEL: 111-555-7777											
J B		販別区分 売上区分 地区コード									
蒲田 太郎		N Z1 0				PrintPro for Web 株式会社					
行	品番	品名	納入数	冊数	納品数量	引合	納入単価	納入金額	上代	発注番号	備考
1	9022SA	セキュリティ専用システム	5	5	5		¥900,000	¥4,500,000			1 25ユーザ
2	5026	シリアルプリンタ	5	5	5		¥500,000	¥2,500,000			2
3	5144	レーザープリンタ	5	5	5		¥800,000	¥4,000,000			3
4	7150A1	液晶ディスプレイ	5	5	5		¥70,000	¥350,000			4 15インチ
5	-----以下余白-----										
6											
検印		1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
送		2月 08	発送表	冊口数	時換	① 元立	② 立替	③ 社替	合計	¥11,350,000	A B C
送		2月 08	黒猫	5					総合計	¥11,917,500	○

3. 6 既存の帳票をPrintProにインポートする

ワードやエクセルで作成した既存の帳票や申請書のファイルを、PrintProで使用できる帳票や申請書フォームに変換してインポート、もしくは、別のデータ定義ファイルのフォームを、インポート先にインポートします。

※ Windows 2000、Windows XP、Windows Vista 32ビット版でのみ使用できる機能です。その他のOSでは使用できません。

3. 6. 1 PPIファイルの作成

対象の帳票や、申請書のファイルから、PrintPro Form Creatorを使用して、PPIファイルを作成します。

※ PPIファイルにできるファイルの総文字数は、2048文字までです。これ以上の文字が存在する場合、PPIファイルを作成することができません。

※ Windows 2000、XP環境では、PrintPro Form Creatorは、PrintPro for Designer をインストールする際、一緒にインストールされます。ただし、ご利用の環境に、LPT1に相当するパラレルポートが実際にはない場合、一緒にインストールされないことがあります。その場合は、下記“PrintPro Form Creator追加方法”に従い、手動でPrintPro Form Creatorをインストールしてください。

※ Windows Vista環境では、PrintPro Form Creatorは、PrintPro for Designer をインストールする際、一緒にインストールされません。PrintPro Form Creatorをインストールするには、『コントロールパネル』の『プリンタ』(Windows 2000の場合)から、PrintPro Form Creatorを追加する必要があります。詳細は下記“PrintPro Form Creator追加方法”をご覧ください。

PrintPro Form Creator追加手順

例)Windows 2000 Professional

『コントロールパネル』の『プリンタ』からForm Creatorを追加する前に、Form Creatorが使用するポートを追加する必要があります。

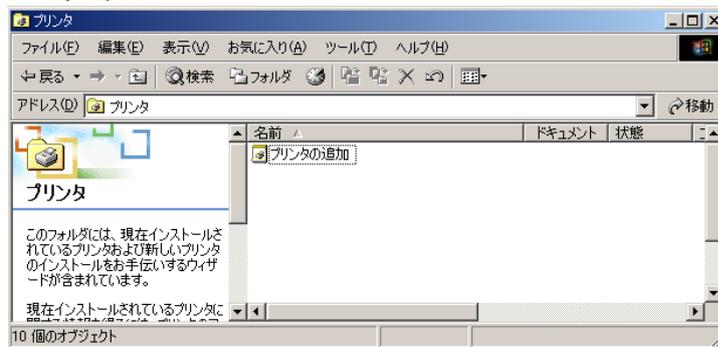
ポートの追加方法

1. 『マイコンピュータ』→『コントロールパネル』の順番で開き、『プリンタ』をダブルクリックし、<<プリンタ>>ダイアログボックスを表示します。

【コントロールパネル】



<<プリンタ>>



2. <<プリンタ>>ダイアログボックスの『ファイル』メニューから『サーバーのプロパティ』を選択すると、<<サーバーのプロパティ>>ダイアログボックスが表示されます。
3. 『ポート』タブを選び、『ポートの追加(T)…』ボタンをクリックします。

<<プリント サーバーのプロパティ>> ダイアログボックス 追加前



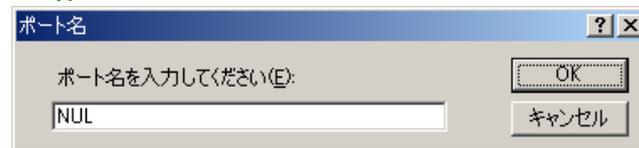
4. <<プリンタポート>>ダイアログボックスが表示されますので、“Local Port”を選択し、『新しいポート(P) …』ボタンをクリックします。

<<プリンタポート>> 追加前



5. <<ポート名>>ダイアログボックスが表示されますので、ポート名に“NUL”と入れ、『OK』ボタンをクリックします。

<<ポート名>>

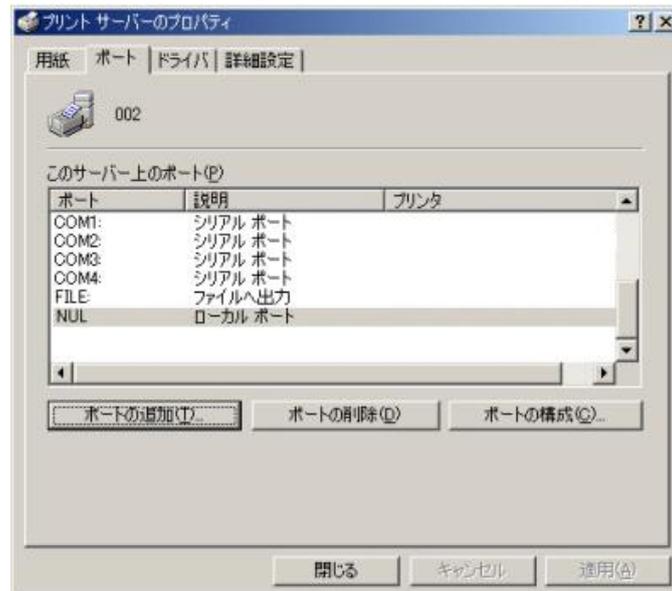


6. <<プリンタポート>>ダイアログボックスに戻りますので、『閉じる』ボタンをクリックすると、<<プリンタサーバーのプロパティ>>ダイアログボックスの『ポート』に“NUL”ポートが追加されます。

<<プリンタポート>> 追加後



<<プリント サーバーの追加>>ダイアログボックス 追加後



次に『コントロールパネル』の『プリンタ』からPrinPro Form Creatorを追加します。

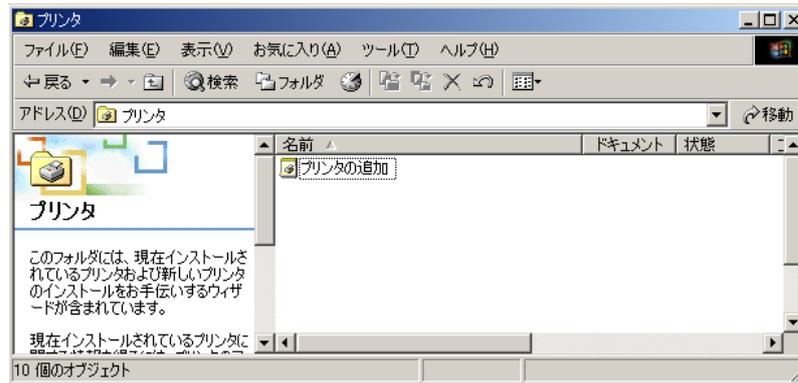
PrintPro Form Creator追加方法

1. 『マイコンピュータ』→『コントロールパネル』の順番で開き、『プリンタ』をダブルクリックし、<<プリンタ>>ダイアログボックスを表示します。

【コントロールパネル】

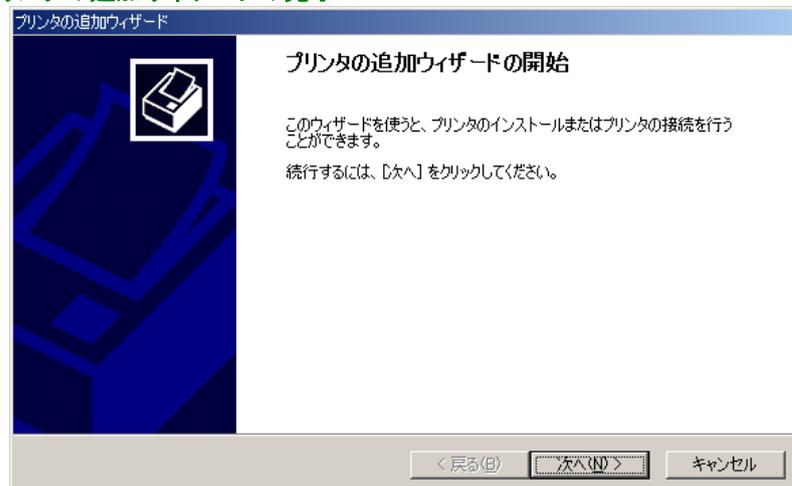


<<プリンタ>>ダイアログボックス



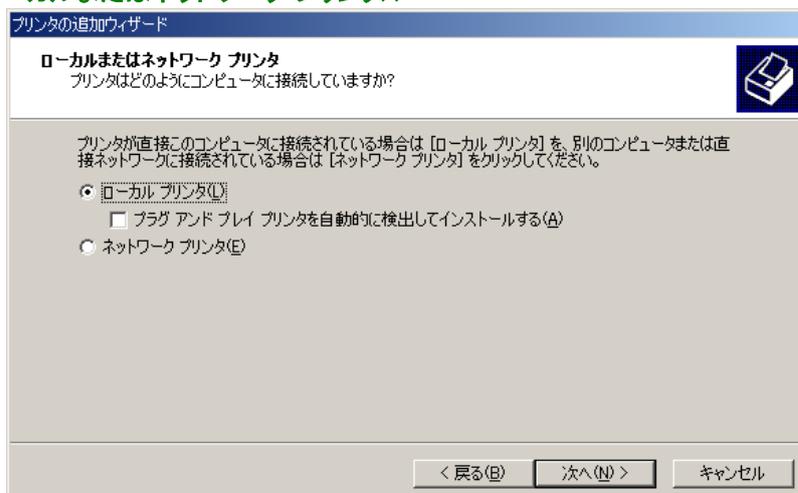
- 『プリンタの追加』をダブルクリックすると、<<プリンタの追加ウィザード>>ダイアログボックスが表示されますので、『次へ』ボタンをクリックします。

<<プリンタの追加ウィザードの完了>>



- ローカルまたはネットワーク プリンタでは、ローカルプリンタを選択し、『次へ』ボタンをクリックします。

<<ローカルまたはネットワーク プリンタ>>

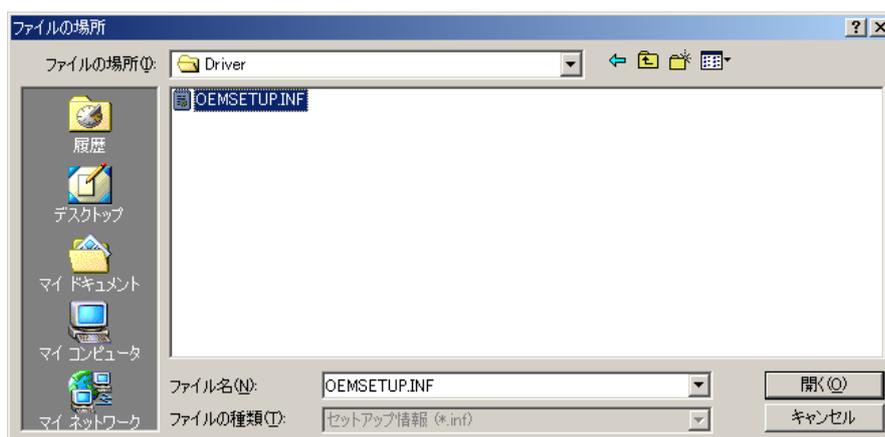


4. プリンタポートの選択で、先ほど作成した“NUL”ポートを選択し、『次へ』ボタンをクリックします。

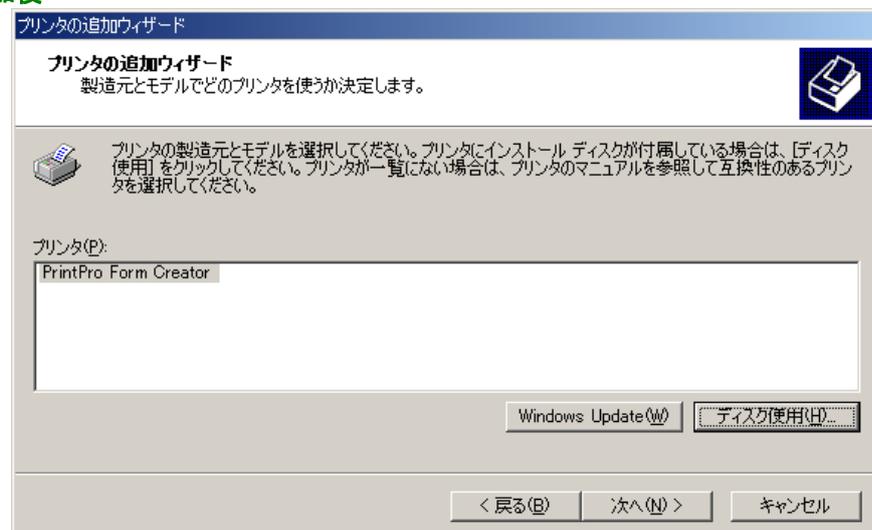
<<プリンタポートの選択>>



5. プリンタの追加ウィザードで、『ディスク使用』ボタンをクリックし、PrintPro for DesignerがインストールされたフォルダのDriverフォルダから、“OEMSETUP.INF”を選択し、『開く』ボタンをクリックします。

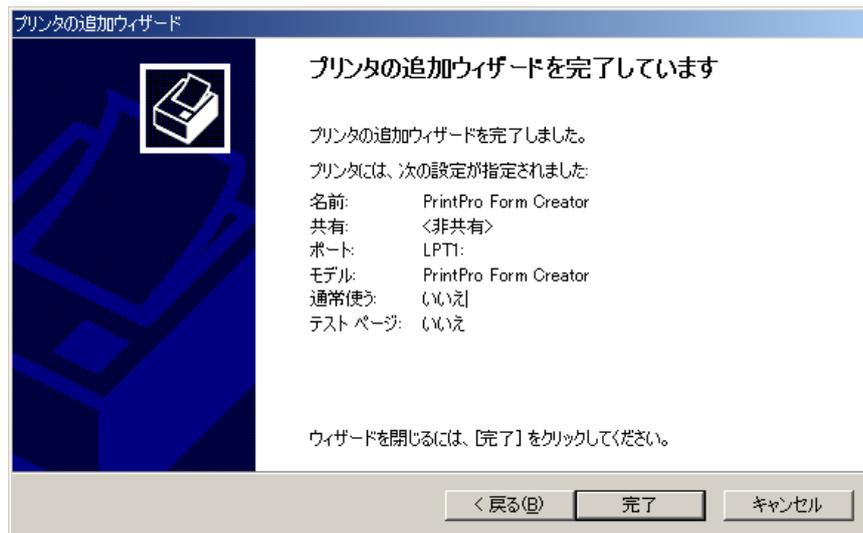


追加後

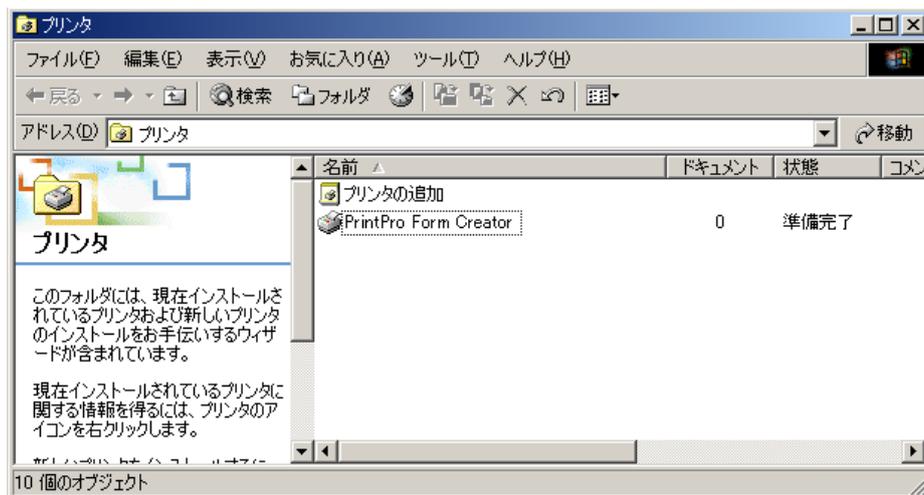


6. 既存のドライバを使う、プリンタ名、プリンタ共有、テストページの印刷 で、それぞれ設定していき、

『次へ』ボタンをクリックすると、“プリンタの追加ウィザードを完了しています”と表示されますので、『完了』ボタンをクリックします。



7. 『プリンタ』ダイアログボックス上に、PrintPro Form Creatorが追加されています。



PPIファイル作成手順

1. PrintProをインストールしたフォルダから『注文書.doc』を開き、プリンタにPrintPro Form Creatorを選択して、印刷を実行します。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:¥ユーザー¥(ユーザー名)¥ドキュメント¥PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。

《印刷》ダイアログボックス



2. 《名前をつけて保存》ダイアログボックスが表示されますので、作成するPPIファイルの名前を入力します。【OK】ボタンをクリックすると、PPIファイルが作成されます。ここでは、『注文書.ppi』としてください。Windows Vista環境の場合、《名前をつけて保存》ダイアログボックスは表示されず、C:¥ユーザー¥(ユーザー名)¥ドキュメント¥PrintPro for Designer フォルダにフォーム名”フォーム変換.ppi”として保存されます。

《名前を付けて保存》ダイアログボックス



※ Windows Vista / 7をご使用の場合、上記ダイアログボックスが立ち上がりませんが、下記フォルダ <OS導入ドライブ>¥ユーザー¥(ユーザー名)¥ドキュメント¥PrintPro for Designer¥ に フォーム変換.ppi という名称で作成されます。

3. 6. 2 PPIファイルのインポート

作成したPPIファイルを、データ定義ファイルにフォームとしてインポートします。

1. PrintPro for Designer を起動します。PrintProをインストールしたフォルダから『注文書.def』を開き、【ファイル(F)】メニューの【フォームインポート(B)】を選択します。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:\ユーザー¥(ユーザー名)\ドキュメント¥PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。

2. ≪ファイルを開く≫ダイアログボックスで、先ほど作成した『注文書.ppi』を選択し、【開く】ボタンを押すと、『注文書.def』に新しく『注文書』というフォームが追加されます。

3. 6. 3 フォームの完成

フォームをインポートしたら、データ項目を作成します。

1. 【ファイル(F)】メニューの【データ定義を編集】を選択します。≪データ定義作成/変更≫ダイアログボックスが表示されますので、下記の通りに作成してください。

項目番号	項目名称	データ型	桁数	テキスト固定文字・演算式
1	買主:社名	文字	20	
2	買主:郵便番号	郵便番号	7	
3	買主:住所	文字	20	
4	買主:電話番号	電話番号	12	
5	買主:代表社名	文字	12	
6	お申込日	日付	8	
7	納品場所:担当者名	文字	12	
8	納品場所:電話番号	電話番号	12	
9	納品場所:郵便番号	郵便番号	7	
10	納品場所:住所	文字	20	
11	納品予定日	日付	8	
12	商品名・型式	文字	10	
13	商品番号	数値	10	
14	数量	数値	3	
15	単価	数値	13	
16	支払日	日付	8	
17	金額	演算	15	[14]*[15]
18	小計	集計	15	[17]
19	消費税	演算	7	[18]*0.05
20	合計金額	演算	15	[18]+[19]

2. インポートの原稿となった帳票を参考にしながら、作成したデータ項目を項目オブジェクトとして、フォーム上に配置していきます。『商品名・型式』、『商品番号』、『数量』、『単価』、『金額』は、明細項目オブジェクトとなるように、明細範囲を作成し、その上に配置してください。また、細かな修正を行い、完成させます。

3. 6. 4 データ定義ファイルのインポート(メニュー)

ここでは、別のデータ定義ファイルのフォームを、PrintPro for Designer のメニューを使用して、インポート先のデータ定義ファイルにインポートします。

1. PrintPro for Designer を起動します。
2. PrintProをインストールしたフォルダにある『注文書.def』をコピーし、コピーしたファイル名を『order1.def』とします。同様に『売上明細.def』もコピーし、コピーしたファイル名を『sales1.def』とします。

PrintProをインストールしたフォルダから『order1.def』を開き、【ファイル(F)]メニューの【フォームインポート(B)]を選択します。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:\ユーザー*(ユーザー名)*ドキュメント*PrintPro for Designer の下にサンプルファイルが存在します。

3. <<ファイルを開く>>ダイアログボックスで、『sales1.def』を選択し、【開く】ボタンを押すと、フォームインポート ダイアログボックスが表示されます。

<<フォームインポート>>ダイアログボックス

フォーム インポート

インポートデータ定義ファイル名 C:\Program Files\PrintPro for Designer\sales1.def

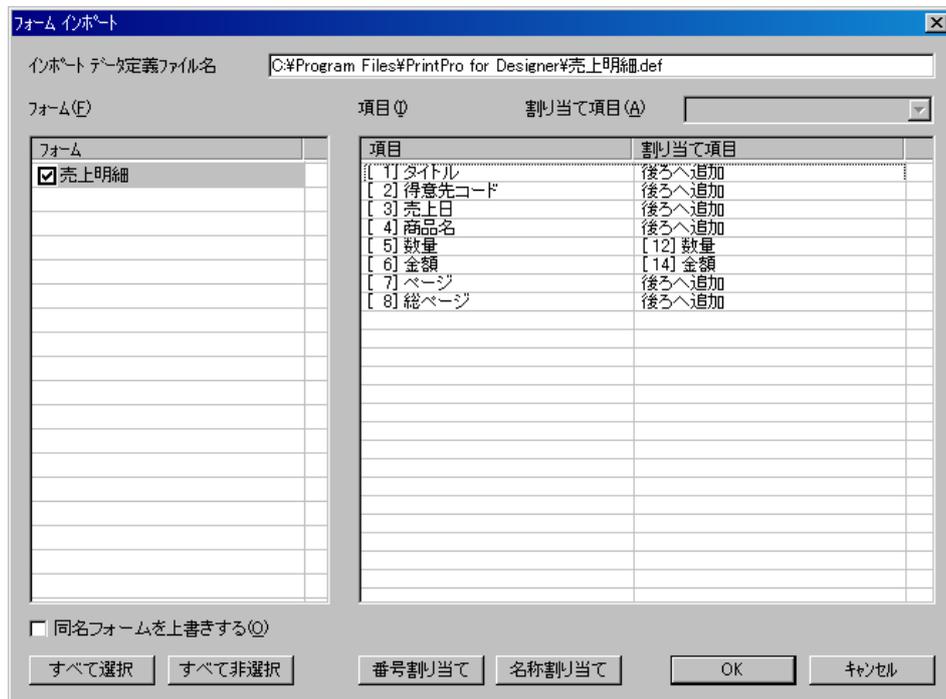
フォーム(F) 項目(I) 割り当て項目(A)

フォーム	項目	割り当て項目
<input checked="" type="checkbox"/> 売上明細	[1] タイトル	[1] 買主:社名
	[2] 得意先コード	[2] 買主:郵便番号
	[3] 売上日	[3] 買主:住所
	[4] 商品名	[4] 買主:電話番号
	[5] 数量	[5] 買主:代表者名
	[6] 金額	[6] 納品場所:担当者名
	[7] ページ	[7] 納品場所:電話番号
	[8] 総ページ	[8] 納品場所:郵便番号

同名フォームを上書きする(O)

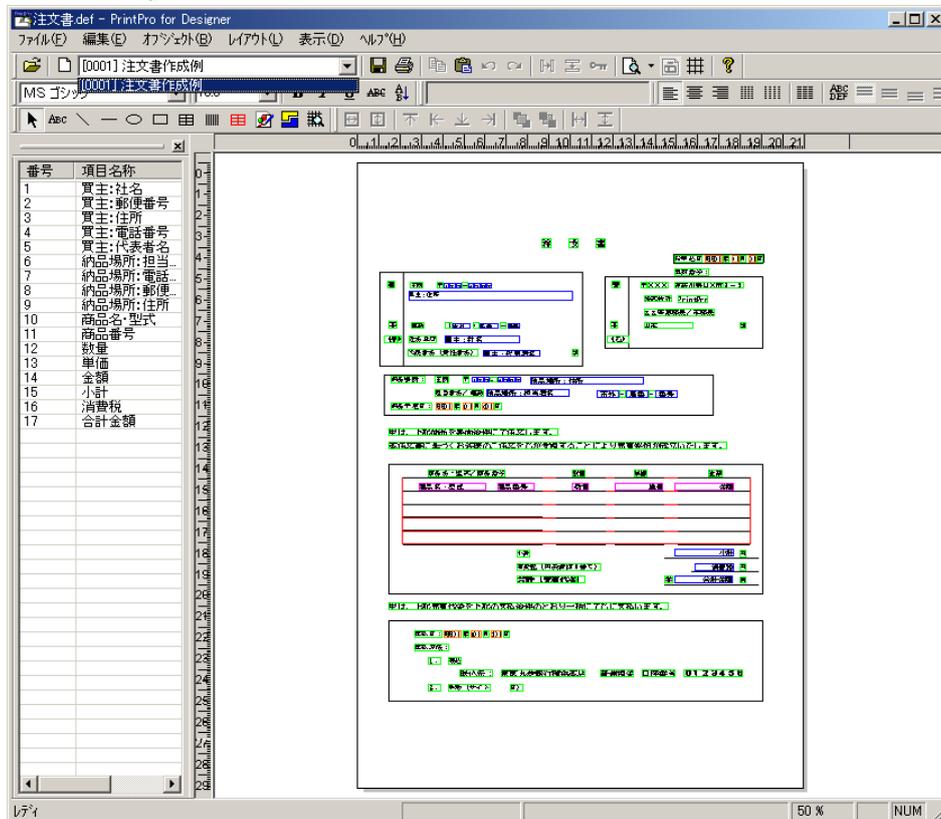
すべて選択 すべて非選択 番号割り当て 名称割り当て OK キャンセル

4. インポートの際に、インポートを行う側(order1.def)とインポートされる側(sales1.def)の項目名が同じでない場合、それらの項目を追加するように、【名称割り当て】ボタンをクリックします。項目名「数量」と「金額」以外は既存の項目の後ろに追加されます。

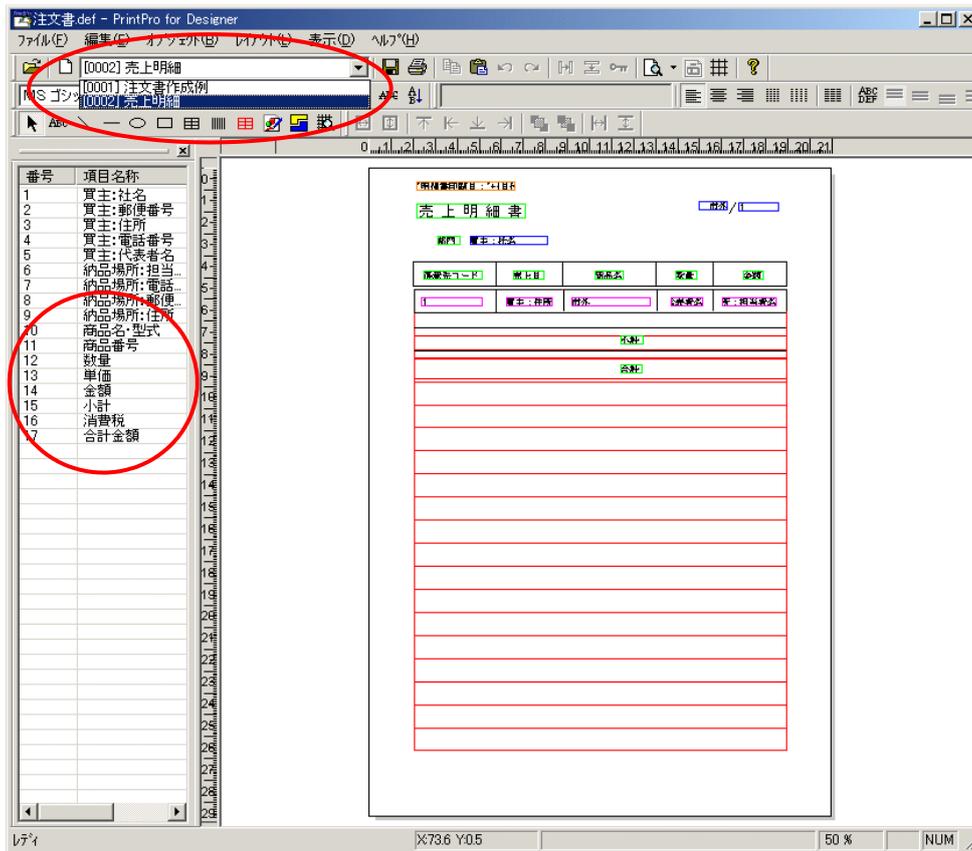


5. 【OK】ボタンを押すと、フォームがインポートされます。データ定義項目も同時に追加されます。

<インポート前>



<インポート後>

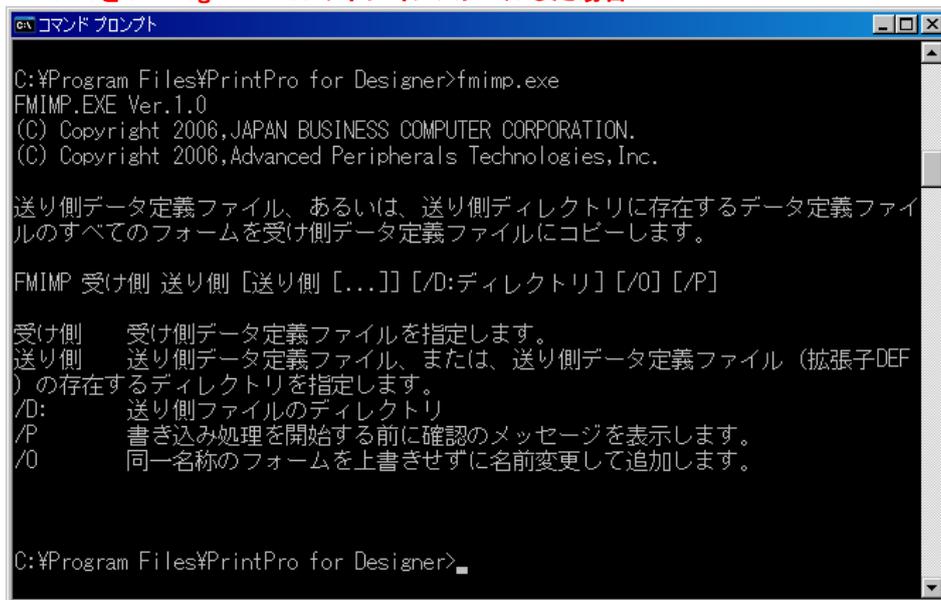


3. 6. 5 データ定義ファイルのインポート(コンソールプログラム)

3. 6. 4と似ていますが、別のデータ定義ファイルのフォームを、PrintPro for Designer のメニューからではなく、フォームインポート用のコンソールプログラムを使用して、インポート先のデータ定義ファイルにインポートします。

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. PrintProをインストールしたフォルダに移動し、“fmimp.exe”を実行します。
コンソールプログラムの使用方法が表示されます。

※ PrintProをC:\Program Filesの下にインストールした場合



```
コマンド プロンプト
C:\Program Files\PrintPro for Designer>fmimp.exe
FMIMP.EXE Ver.1.0
(C) Copyright 2006,JAPAN BUSINESS COMPUTER CORPORATION.
(C) Copyright 2006,Advanced Peripherals Technologies,Inc.

送り側データ定義ファイル、あるいは、送り側ディレクトリに存在するデータ定義ファイルのすべてのフォームを受け側データ定義ファイルにコピーします。

FMIMP 受け側 送り側 [送り側 [...]] [/D:ディレクトリ] [/O] [/P]

受け側 受け側データ定義ファイルを指定します。
送り側 送り側データ定義ファイル、または、送り側データ定義ファイル(拡張子DEF)の存在するディレクトリを指定します。
/D: 送り側ファイルのディレクトリ
/P 書き込み処理を開始する前に確認のメッセージを表示します。
/O 同一名称のフォームを上書きせず名前変更して追加します。

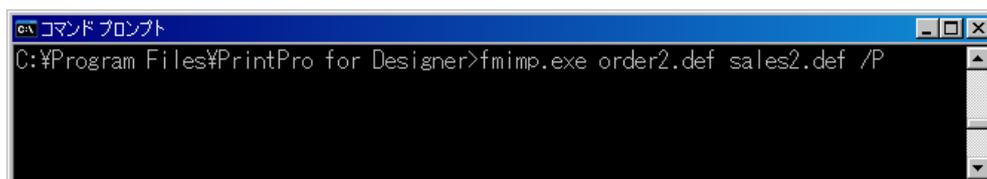
C:\Program Files\PrintPro for Designer>
```

3. 次は実際にパラメータ値を設定します。

PrintProをインストールしたフォルダにある“注文書.def”をコピーし、コピーしたファイル名を“order2.def”とします。同様に”売上明細.def”もコピーし、コピーしたファイル名を“sales2.def”とします。

※ Windows Vistaをご使用の場合、C:\ユーザー\ユーザー名\ドキュメント\PrintPro for Designerの下にサンプルファイルが存在します。

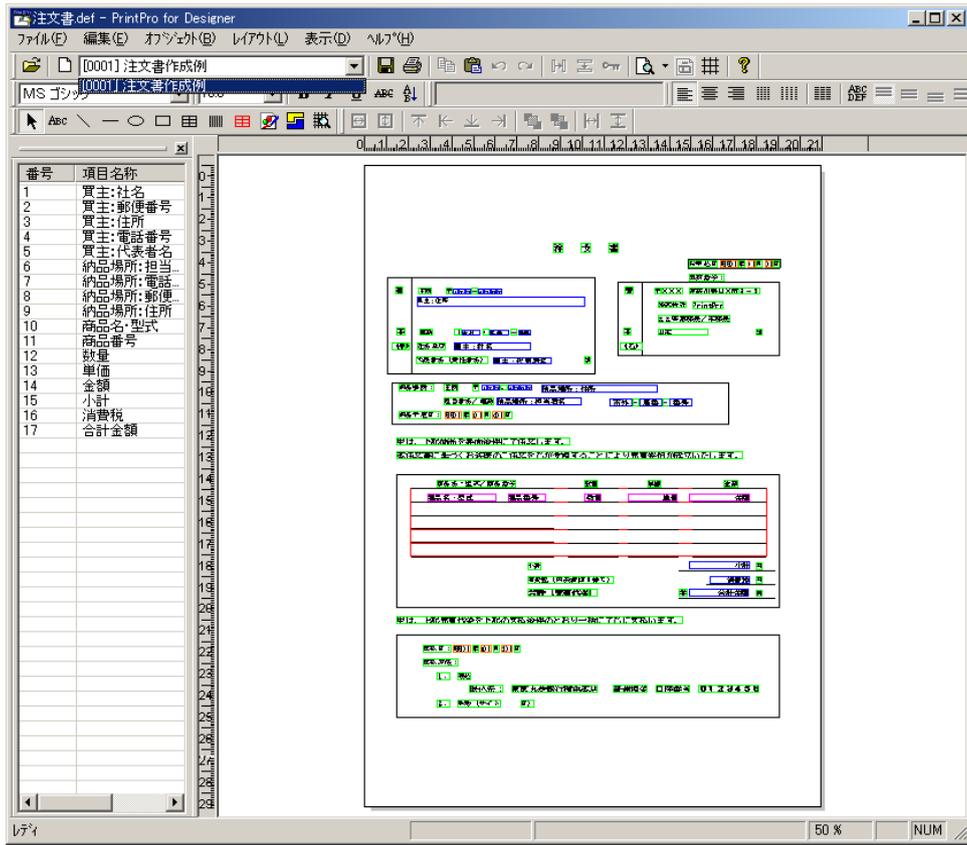
2と同じ方法で、“fmimp.exe”を実行しますが、“fmimp.exe”の後に受け側ファイルとして先ほど作成した“order2.def”、送り側ファイルとして“sales2.def”、書き込み前に確認するためにオプションとして“/P”を指定します。



```
コマンド プロンプト
C:\Program Files\PrintPro for Designer>fmimp.exe order2.def sales2.def /P
```

4. 実行すると、インポート内容が表示された後にインポートを実行するかを確認してきますので、“Y”(=YES)と入れると、実際にインポートが行われます。

<インポート前>



<インポート後> フォームがインポートされています。

